ヴァンダレイ激白!!「ショーグンの仇は俺が討つ!!」

enterbrain MOOK

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

9/17 HERO'S 横浜アリーナ
9/22 UFC76 アナハイム
徹底詳報号

2007 AUTUMN 780yen



父・郁榮が激白!“神の子”苦闘の舞台ウラ!!
山本KID徳郁

カルバンの挑発を受けて立つ!
ついに動くか、バカサバイバー!?
青木真也

誰がコイツを倒すのか?『HERO'S』の絶対王者!!
J.Z.カルバン

独占! 狼魂伝承対談
所英男×ヴォルク・ハン

燃える拳はどこを向く!?
五味隆典

渦中の男が年内大勝負出陣へ――!!
UFCか、HERO'Sか
俺の祭りはこれからだ!!

ショーグン、中村カズが金網の罠にハマる!!
PRIDEがまた負けた!!

レッドデビルの首領が語る皇帝の行方!!
エメリヤーエンコ・ヒョードル

名門チームに何が起こったか!?
ブラジリアン・トップチーム分裂の真相

宇宙最激戦区のUFCチャンピオンが吠える!
クイントン・R・ジャクソン

kamipro Special 2007 AUTUMN 俺の祭りはこれからだ!!

印刷・製本/大日本印刷株式会社

24時間、闘うチャンネル！「FIGHTING TV サムライ」

サムライ FIGHTING TV MONTHLY PROGRAM

10
OCT 2007



高田モンスター軍総統が牛耳る「ハッスル」と
神出鬼没の"炎忍"グレート・ムタを特集！
そして、伝説の高田VS武藤戦も公開！

絶対中継宣言！

HG×天龍源一郎！ RG&グレート・ムタ×インリン様&TAJIRI！
「ハッスル・エイド 2007」
●ON AIR…10/21（日）19:00～21:00、他
その他、「ハッスル・ハウス vol.26」（7.11後楽園）「ハッスル24」（7.14浜松）、
更には「ハッスル・マニア 2005」「ハッスル・マニア 2006」の計5大会を放送！

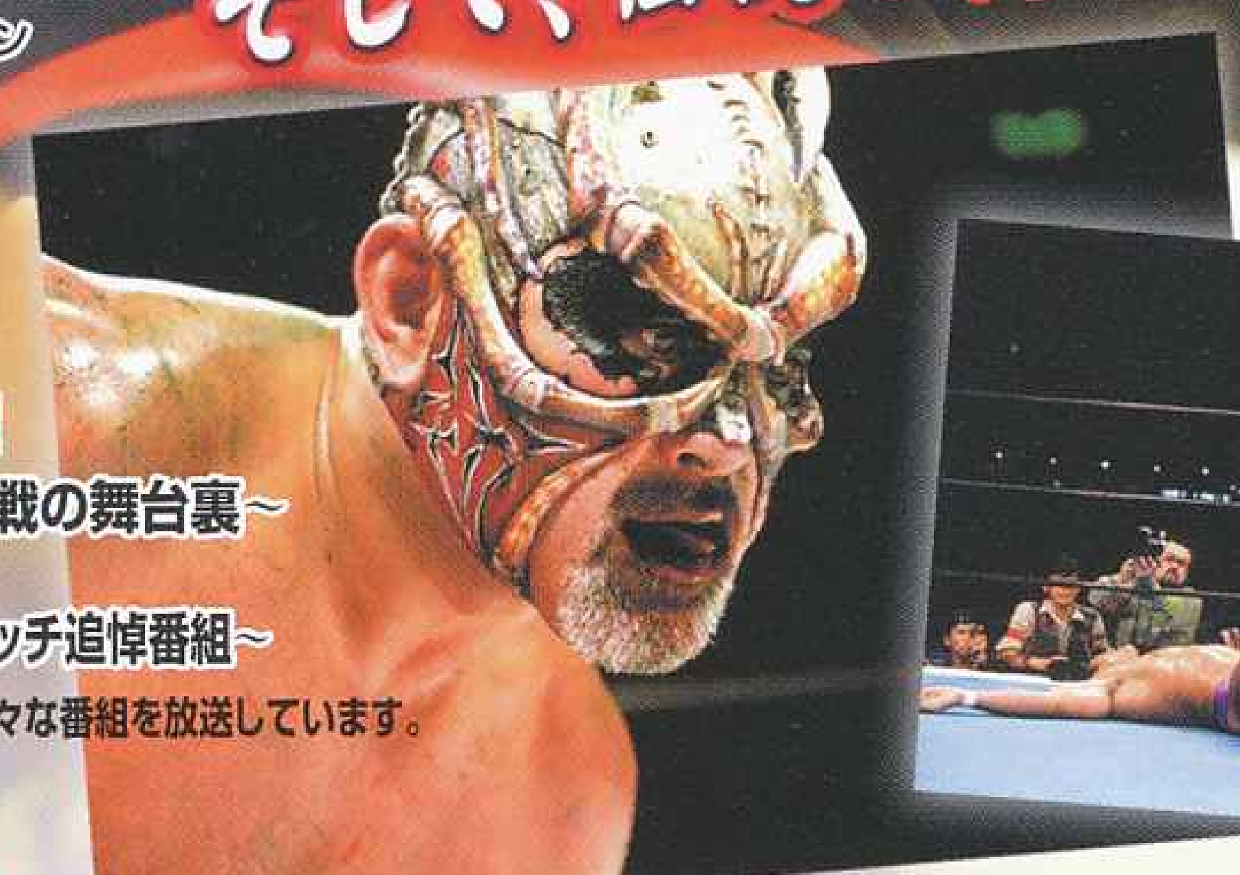
ムタ、原点回帰の旅！ そして、義足レスラーのザックと出会った！
「グレート・ムタ、カリブ海に見参！」 8.4プエルトリコ～8.12アメリカ
●ON AIR…10/12（金）22:00～24:00、他

鈴木みのる×佐々木健介！ グレート・ムタ&TAJIRI×諏訪魔&S・スタイナー
全日本プロレス「プロレス LOVE in 両国 vol.3」 8.26両国（前・後編）
●ON AIR…10/14（日）18:00～20:00／20:00～22:00、他

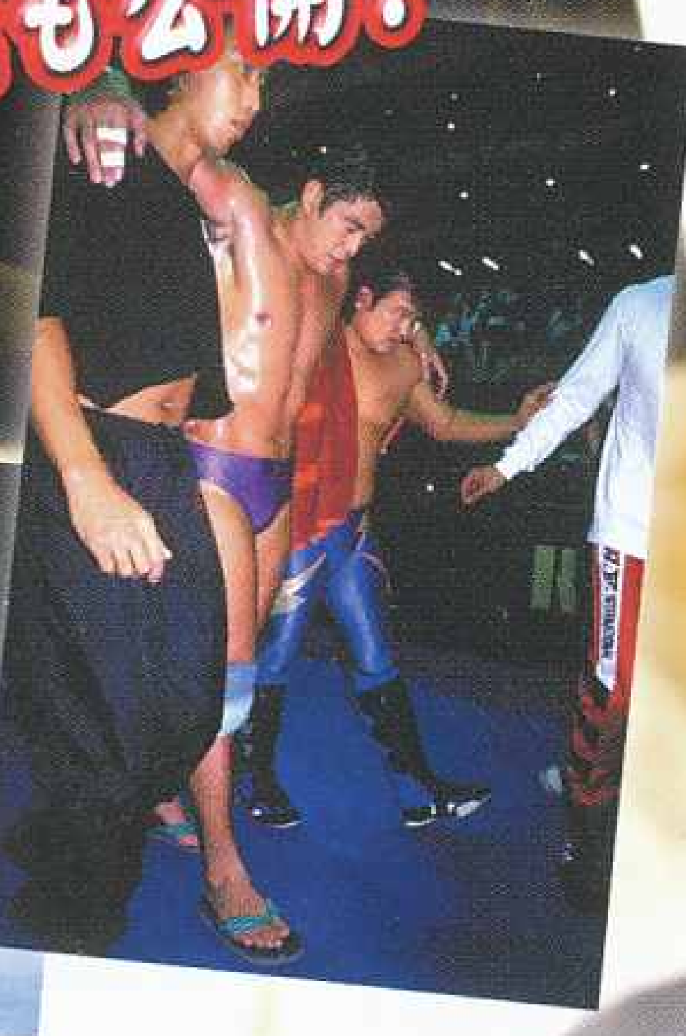
西村修×TAJIRIの異色対決！ 吉江豊は川田利明と再戦！
無我ワールド・プロレスリング 9.23 大阪府立第2
●ON AIR…10/8（月）22:00～24:00、他

火曜の夜10時は、大日本プロレス中継！
火曜の夜11時は、レトロアワー！
10/ 2 全日本プロレス・セレクション（#2）
ジャイアント馬場×スタン・ハンセン、G馬場×V・ガニア
10/ 9 パンクラス・ヒストリー（#3）※特番のため夜8時放送
船木誠勝×W・シャムロック、船木×鈴木みのる、他
10/16 全女CLASSICS（#4）
長与千種&ライオネス飛鳥×ダンプ松本&クレーン・ユウ
10/23 新日本プロレス黄金史1975
アントニオ猪木×ルー・テーズ、A猪木×ビル・ロビンソン
10/30 新日本プロレス黄金史 高田延彦SP
高田延彦×武藤敬司（'95.10.9東京ドーム）、他

木曜の夜10時は、DDT中継！
土曜の夜8時は、新日本プロレス中継！
日曜の夜10時は、サムライスペシャル！
10/14 マッスルメイキング～「マッスル15」3連戦の舞台裏～
10/21 武藤敬司☆SHOW（#3）
10/28 ジャーマンスープレックスよ、永遠に～カール・ゴッチ追悼番組～
※放送内容は予告無く変更する場合がございます。※この他にも、様々な番組を放送しています。







FIGHTING TV サムライの視聴方法

A.アンテナを付け、スカパー！で見る。

1. スカイパーフェクTV！ カスタマーセンター
サムライ視聴料：1,890円／月（税込）
TEL.0570-039-888 受付時間／10:00～20:00（年中無休）
TEL.045-287-7777（PHS・IP電話 専用）

2. e2 by スカパー！ カスタマーセンター
サムライ視聴料：1,890円／月（税込）
TEL.0570-012-110 受付時間／10:00～20:00（年中無休）
TEL.045-276-7777（PHS・IP電話 専用）

☆110度CS対応のデジタルBSアンテナ&テレビをお持ちの方は、B-CASカードを挿入の上、e2 by スカパー！ ホームページから簡単にお申し込み頂けます。

B.ブロードバンドで見る。

3. スカパー！光 カスタマーセンター
サムライ視聴料：1,890円／月（税込）
TEL.0570-013-999 受付時間／10:00～20:00（年中無休）
TEL.045-279-7777（携帯・PHS・IP電話 専用）

4. BBTVカスタマーサービスセンター
サムライ視聴料：1,890円／月（税込）
TEL.0120-936-582（一般電話／無料）受付時間／10:00～18:00
TEL.03-6688-4895（携帯・PHS・IP電話 専用）

※著作権の都合により一部特別編成でお送りしています。

C.ケーブルテレビで見る。

5. サービス局についてはサムライオフィシャルホームページをご覧頂くか、またはお近くのCATV局までお問い合わせ下さい。
※視聴料金はCATV局によって異なります。

モニターキャンペーン実施中！

サムライ FIGHTING TV

www.samurai-tv.co.jp

CONTENTS

こんなの柔道じゃねぇ!!（斉藤仁調）。中村カズ、UFCに謎の土俵入り!!

VIVA! SUMO!?



MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2007 AUTUMN

表紙写真／タイコウクニヨシ♂

――おひさしぶりです。五味選手の取材はじつに今年の1月末以来なんですよね。

五味　あ、そんなに。ここんとこ、『kamipro』も読んでなかったなぁ。

――たった半年でもあるんですけど、あれからいろんなことが起こりすぎるくらい起こったので、春以降、どんな心境の変化があったか聞いていきたいと思うんですけど。

五味　どんな心境もなにも、まあ、日々変わらないですよ。こうやって俺のもとに集まってくれる若いヤツらと練習して。彼らがいるから自分も頑張っていられるという状況ですけどね。

――試合から遠ざかっているにも関わらず身体もグッドシェイプで、いい練習ができているようですね。

五味　そうですね。まあ、それが仕事ですからね。

――でも、以前の五味選手って試合前に取材するとバッチリ身体が仕上がってる反面、試合がないときに行くと、身体が膨張してたりしたじゃないですか（笑）。

五味　追い込んだ反動で遊んじゃうし、飲んじゃってたから（笑）。そしてまた追い込んで、3カ月に1回試合やって、また飲んじゃって。そういった生活を3年間続けてましたからね。

――いまは、はからずもそういう生活からは縁遠くなってしまいましたけど、そのきっかけになった、3月の『PRIDE』の経営権委譲というのは、どう捉えていますか？

五味　それはね……、よくわからないとしか言えないですね。

――いまだに状況がわからない、と。

五味　それよりも、いま俺は自分のジムにエンジンかけなきゃいけませんからね。

“祭り”の舞台は『HERO'S』かUFCか!?
人事を尽くして天命を待つ!!

年末にはきっといいことあるでしょう

「タカノリ・ゴミと試合がしたい」。7.16『HERO'S』ミドル級トーナメントで、ビトー・“シャオリン”・ヒベイロ、アンドレ・ジダを破り二連覇を達成したJ.Z.カルバンが、試合後、ついにこの男の名前を口にした。『PRIDE』活動休止以降、『HERO'S』参戦の噂が絶えない五味隆典。はたしてPRIDE王者vsHERO'S王者の頂上対決は実現するのか？ その一方で、ダナ・ホワイトUFC代表も五味にはラブコールを送り続けている。PRIDEヘビー級王者ヒョードルと並び、MMA世界再編の鍵を握る男は、いま何を考えているのか？　9.17『HERO'S』横浜大会の3日後、自ら主宰する久我山ラスカルジムでの練習後、独占インタビューに答えてくれた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／タイコウクニヨシ♂

隆典


五 味

『PRIDE』がどうとかUFCがどうとかじゃない。この世界、一寸先はどうなるかわからないもんだから。

——それは以前から思ってました？

五味　うん、芸能でもなんでもプロの世界はそうですよ。だから俺はね、アマチュアの子には言わないけど、いままで一緒にプロでやってきたヤツにはね、「一試合一試合、とにかくできる限りやれ」って、口を酸っぱくして言ってきたんですよ。そう思ってやってきたからよかったと思うんですよね、俺。悔いがないから。

——『PRIDE』での3年間に悔いなし、と。

五味　うん。「あのときもっと頑張ってればよかった」とかね、そういうのがないから。どっかで気持ちが折れてたら凄い後悔してるかもしれないけどね。俺は『PRIDE』でやりたいことは、全力でやってきたから。だからね、俺は『PRIDE』だけじゃなく、プロとしてデビューして、たった10年ですけど、とにかく悔いのないようにやろう、と。まあ、何度かね、ちょっと調整不足もありましたけど（笑）。

——何試合かは、「もうちょっと頑張ってれば」という試合もある（笑）。

五味　ちょっとね、ビッグマッチのあとは弱いんでね（笑）。

——では、『PRIDE』の活動休止も、へんな話、一度リセットするいいタイミングだった部分もありますか？

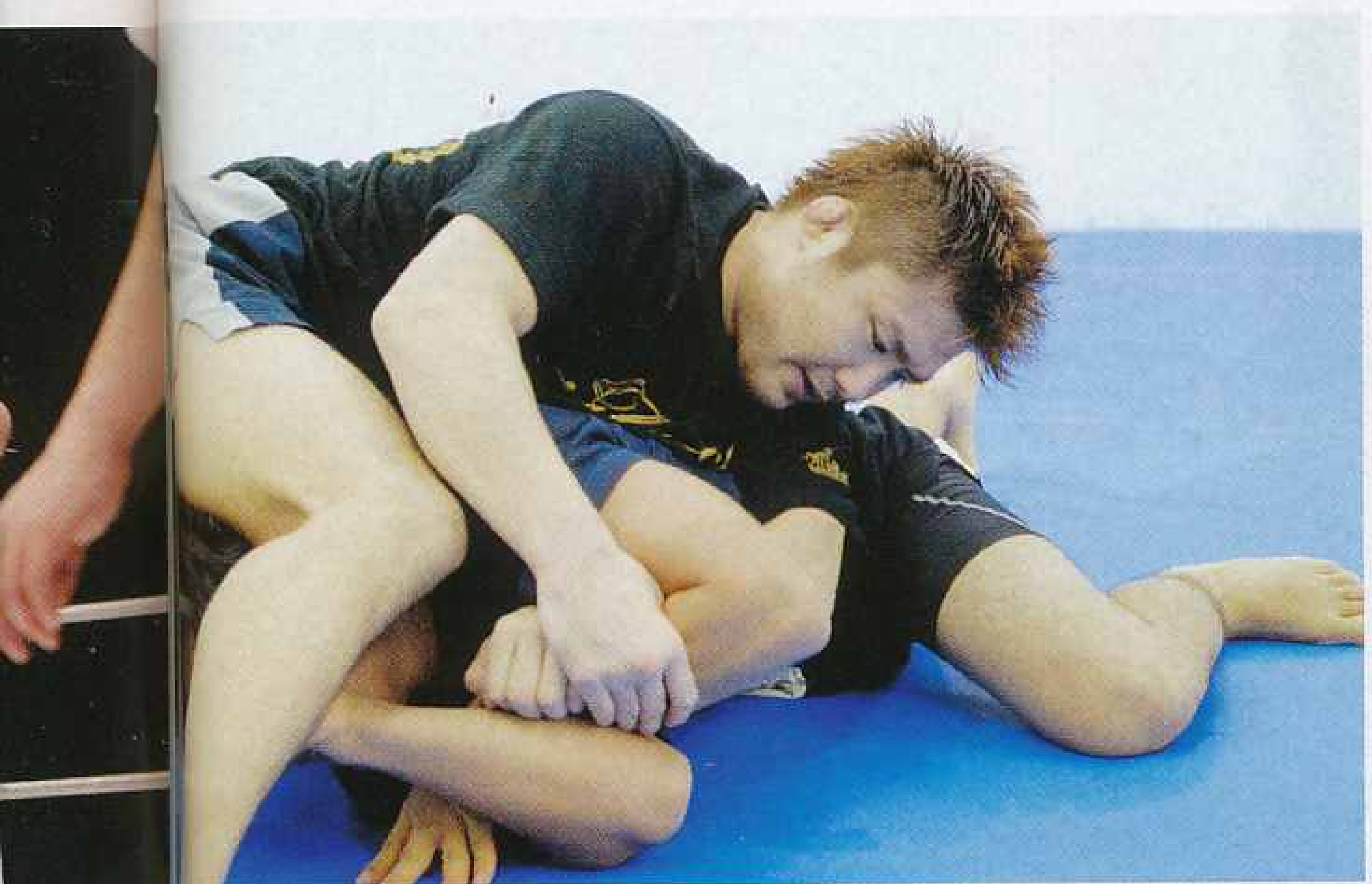
五味　そうかもしれないですね。

——正直言って、もし『PRIDE』が続いてても、五味選手にとってホントに燃える目標というものが、今年の頭の時点では見えてなかったような気がするんですよ。

五味　そうね……結果的にはそう言えるかもしれない。ブームっていうのは長く続くもんじゃないから。格闘技界にあれだけの素晴しいものを作り上げて、それが一夜にして消えるっていうのも『PRIDE』らしいんじゃないかな。

——今年の春から試合する機会がなくなって、いま自分がやるべきことや、本当にやりたいことを見つめ直すきっかけになったりはしましたか？

五味　そうですね。やっぱり最初は焦りもあったし、アスリートの陥りやすい病気で、「試合しなきゃ」って切羽詰まった気持ちになるんですよ。たぶん陸上やってる人でも、マラソンランナーでもみんなそうだと思いますけど。次々セットアップを求められる世界にいましたからね。でもね、「あ、よく考えたら俺、試合してないのってまだ半年なんだな。焦ることないな」って考え方を変えたらスッキリして。いまはノイズがなくなって、充実感



半年以上、試合から遠ざかっている五味だが、連日ラスカルジムのジム生たちと、みっちり練習を積んでおり、コンディションは良さそう。年末あたりに試合が組まれれば、非常にいい仕上がりで挑めそうだが、はたしてどうなるか。

JZカルバン？　いい流れになれば自然にそういうこともあるでしょう

すら出てきてますよ。

——では、『PRIDE』が開催されないいま、どこに行くべきか、とか焦っているいるわけじゃない、と。

五味　焦ってないです。だからね、俺、7月の『HERO'S』を観に行ったら「視察だ」とか言われたけど、全然そうじゃないから（笑）。俺は普段から普通に格闘技は観に行くんです、悪いけど。

——以前から、ホントよくいろいろな格闘技会場に行ってますよね。

五味　うん、それはなんでかっていうと、ジムの子も連れてくし、俺がアマチュアの頃にしてたように、やっぱりいいものを観て、「俺もここでやってみたいな」とか、「俺、絶対あいつには負けねえ」とか、そういう気持ちになってほしいからね。あとはほかに行くとこないもん、格闘技会場以外に。ただ、行ってもだいたい試合は観てないですね、女の子のチェックばっかでね（笑）。

——ガハハハ！　そういう目を養っちゃってる（笑）。

五味　でも、素晴らしい空間じゃないですかね、格闘技の会場っていうのは。思い入れのある選手を応援したりね、ひさしぶりに会う友だちと待ち合わせして行ったりね、帰りにおいしいものでも食べて帰るんでしょう。それだけなんだよね。だから「出たい」って一言も言ってないんだけど、変な話に転がっちゃって。

——いまや五味選手が『HERO'S』に参戦するのは、既成事実みたいになってますよね。一部の媒体でもそれを匂わせるようなタイトルをつけたりして。でも、全然そんなわけでもないんですか？

五味　それは全然別の話。だって俺も頑張ってる人を観たいし、「明日からまた頑張ろう」って元気をもらいに行くわけですからね。10年間やってきたことをいまから変えられない。「ああ、やっぱ行きづらいからいいかな」って、飲みに行くだけにすると、どうしてもソワソワするし、具合悪いですよね。格闘技会場に観に行って、「ああ、みんな頑張ってるな」って、それだけですよ。

——いまは会場に行っても、自分もリングの上にいたいっていうような欲求は出てきてはいないですか？

五味　場所はどこであれ、いずれいいマッチメイクをいただけるんじゃないかな。まあまあ、慌てなくても自然とそうなりますよ。不思議なもんでね、神様はちゃんと見ていてくれてるのか、努力してるヤツには必ずいいことがあるんですよ。

——このあいだの『HERO'S』では、あそこに五味選手がいないからこそ、逆に五味隆典の〝不在の存在感〟っていうのを感じたんですよ。JZカルバンやアンドレ・ジダの試合を観ながら、「こいつらと五味がやったらどうなるんだろう」っていう。

五味　逆にこっちも俺がやった（PRIDEライト級）グランプリと見比べてみたいっていうのもありましたけどね。

——ご覧になって、どうでしたか？

五味　いや、みんな頑張ってるな、と思いましたよ。比べるもんじゃないなって。

隆典

日本は若いヤツらに任せて、俺は〝海の向こう〟にチャレンジする時期なのかな、とも思いますね

だからね、へんなこと言う人いるでしょ、たまに。

──へんなこと？

五味　こっちの団体だからとか、あっちの団体はダメとか。そういうことじゃないって思う。リングの上にみんな立っててね、あんなしんどいことして、汗流して。素晴らしいことじゃないですか。やっぱり花道歩いてる人間が、もうサクセスなんですね。勝利者なんですよ。観ててそう思いますよ。これ以上、何があるんだっていうね、うん。

──あそこで優勝したJZカルバンが五味選手の名前を出してましたけど、彼との試合は考えてないですか？

五味　まあ、いい流れになれば、自然とそういうこともあるでしょう。

──アンドレ・ジダなんかはどうでしたか？

五味　ジダ、強いねえ！

──彼と五味選手がやったら、また殴り合いの凄い試合になるんじゃないかと思うんですけど。

五味　いやいや、ああいう選手はもういいでしょう。俺、シュートボクセは（ルイス・）アゼレードとか、さんざんやってきたから（笑）。

──宇野薫選手はどうでしたか？

五味　宇野選手は期待がありすぎて、気の毒でしたね。やっぱり日本人一人でみんなの期待を背負って闘うっていうのは大変ですよ。でも、クリーンないい勝負だったと思いますよ。

──今回、宇野選手が敗れて、KID選手も階級落としたことで、五味待望論というか、五味選手への期待が高まってきてると思うんですよ。

五味　それはありがたいですね。あの会場にいた『HERO'S』のファンの人たち、もともとPRIDEファンだったであろう人たち。なんかね、みんな「出てください」って言ってくれるんですよ。嬉しいことに。そうやってファンが期待してくれるっていうのは、やっぱり一日や二日で作ったものじゃないんだな、と思いますけどね。やっぱり何年かかけてね、修斗や『PRIDE武士道』で作り上げたものですから。

──タメが利いてるというか。

五味　だからね、俺自身のビッグファイトっていうのは、焦んなくても自然に出てくるって思ってますから。



2.24『PRIDE.33』ラスベガス大会では、ニック・ディアスとド突き合いの死闘を演じた五味。調整不足もあり星を取りこぼしているだけに、"アメリカへのリベンジ"ももちろん視界に入っているだろう。

五味

──そういう時期が来るのを待ってる。

五味　そうそう。

──五味選手自身、これまで修斗や『PRIDE』のベルトを巻いて、大きな実績を作ってきましたけど、まだまだ自分は、知名度やお金といった部分も含めてビッグになれるっていうふうに思ってるんじゃないですか？

五味　そうね。そういう向上心がなくなったらダメでしょ。だから、あきらめないね、何があっても。ここ1年ぐらい、どんなネガティブな話題があっても、辞めようとは思わなかったし。どんなことがあっても自分の拳で扉は開けなきゃいけないから。世の中にはね、頑張る人間っていうのはいるんですよ。俺はその一人かなとも思ったりもする、ハハハッ。まあ、暴れちゃえばスッキリするしね。「どっか痛えな」とか、「今日は疲れたな」ってときも、いざ練習始めちゃうと全部忘れちゃう。人間はね、生きがいがあって、仲間がいて、競争相手がいて、その中で生きていくんだなと思いますよ。あきらめた瞬間、全部が終わっちゃうっていうね。

──では、こんなところであきらめてられねぇ、と。

五味　うん。やっぱり（『PRIDE』に）地上波がなくなってからの1年半っていうのは、精神的にキツかったですよ。大会のたびに、またほかのネガティブな話題が出てきたりしてね。凄く苦しい状況だったね。

──やっぱり選手の精神状態にも影を落としましたか。

五味　苦しかったね、1年半。半ばノイローゼになったよね。その前の2年間があまりに素晴らしかっただけにね。『PRIDE』のMAXのブームの2年間でしたから。

──でも、大晦日の石田光洋戦は、凄く吹っ切れたような、バッグンの試合でしたね。

五味　苦しい年だったけど、1年の最後だから頑張ろうって思いがありましたよ。それは吉田選手やヒョードル選手にしても、皆さんそうでしたから。

──あの日は好勝負連発でしたけど、その中でも五味選手の爆発ぶりは凄かったですけどね。

五味　うん。俺、大晦日には強いんだよね（笑）。

──ガハハハハ！　確かに強いですね。

五味　地元の愛川町のほうでスポーツフェスティバルに参加させていただくんですけど、その公園でね、昔は冬になると雪の降る中でレスリングやってましたからね。雪の降る頃、神様が俺に何かをくれるんですよ。

──今年もありそうですかね？

五味　うん、あるでしょう。だから俺、もう大晦日を誕生日にしちゃおうかなと思って（笑）。

──なぜだ（笑）。

五味　俺、夏はダメだから。じつは俺、明日が誕生日なんですよ。

──あ、おめでとうございます！

五味　ひどい誕生日ですよ。前日にこんな練習して（笑）。

──では、いまは冬場の爆発に向けて、志が定まってきてる感じですか？

五味　そうですね。これからまた、あちこち練習に行って。だんだんヒクソンみたいになってきたよね、1年に1回しかやらない（笑）。ただ、年間4～5試合やる時期はもう終わりましたよ。ここ（ラ

五味隆典

こんな状況でも、あきらめずに努力するヤツに神様は微笑むって信じてますよ





ごみ・たかのり■1978年9月22日、神奈川県出身。98年11月に修斗でデビュー以来、約5年間無敗の快進撃を見せる。01年12月には佐藤ルミナに圧勝し修斗ウェルター級王座奪取。『PRIDE』では『武士道』のエースとして破竹の10連勝。05年には『PRIDEライト級GP』を制し、初代PRIDEライト級王者にも輝いた。〝ライト級世界最強の男〟として、その動向が注目されている。173cm、73kg。

スカルジム）の〝興行〟、毎晩大変ですからね。6時半から10時まで、ラスカル興行が。

――毎日がラスカル興行ですか（笑）。

五味 すげえ大変だよ。俺も好きだなと思いますよ、格闘技。ここでやる格闘技観て、まだ明日（9月22日）、修斗を観に行くからね。明日はね、（佐藤）ルミナさんが出るからっていうのもあるんですけど。わざわざ誕生日にね（笑）。まあ、好きこそものの上手なれ、と。

――ちょっと〝海の向こう〟を見に行ってこようって気持ちはないんですか？

五味 もちろんチャレンジしたいですよ。やりたいですよ！ 日本のことは若いヤツらに任せて、そういう時期なのかな、とも思いますしね。若い彼ら（ジム生）が日本のリングを盛り上げてくれれば。

――2月の『PRIDE』ラスベガス大会では、残念ながら心身のバランスが崩れてたというか、キレがなかった気がしますけど。

五味 あれ無理でしょ、（大晦日に試合して）1ヶ月半ですから。正直、大晦日が終わってすぐ練習しないでしょ？（笑）。

――しないでしょうね（笑）。

五味 俺にはクリスマスも何もなかったんだから。それでね、ちょっと1月はね、いろんな新年会なんかもあって。そんで、しまいには風邪ひいちゃってね。飲み疲れで（笑）。

――飲み疲れでしたか（笑）。

五味 で、2月に入ってすぐでしょ。まあ、正直、先も見えなかったしね。プロとして恥ずかしいんですけど、ベストにはほど遠い状態でやっちゃったから。ただ、いま思うとラスベガスで試合するっていうのは凄いことですよね。

――世界一のエンターテインメントの街ですからね。

五味 こないだね、『ショーガール』っていうラスベガスを舞台にした映画を観たんですけど、おもしろい街ですよね、素晴らしい街ですよ、あそこは。飛行機降りた瞬間、パーティという感じで。でも、2月はちょっと闘う気分じゃなかったけど（笑）。

――あのラスベガスで、今度は〝ホントの五味隆典〟を見せたいって気持ちはありますか？

五味 もちろんありますよ。将来的にはラスベガス限定でやりたいぐらいで（笑）。

――となると、年末にUFCもラスベガスでビッグイベントがあるみたいですけど、そこなんか五味選手にふさわしい舞台なんじゃないですか？

五味 いいですね。まあまあ、それも流れにまかせて。いい巡り合わせというのは、必ずやってくると思いますから。

――五味選手って、いま格闘技がこういう状態ですから、なんにしても盛り上げたいって気持ちはありますよね。

五味 うん、そうですね。ただ、自然とそうなりますよ。今度は『HERO'S』と『PRIDE』が合体してきてるわけですから。ファンも合体してきてるし。前向きに頑張っていれば、必ずいいことが起きますね。じゃなきゃおかしいでしょ、世の中。

――五味選手にも、今年中に何かでかいことが起こりそうですか？

五味 そうですね。努力する者にね、必ず神様は微笑むわけですよ。

――いまはそれに向かって日々ここで精進する、と。

五味 そうですね。彼らこそが俺の宝ですからね。あんまり甘やかすわけにはいかないけど。オープンして1年でね、やっと自分のジムで本当の意味で練習ができるようになったかな、と思いますから。1年かかりましたね。

――ジム生が育って、プロのレベルの練習ができるようになったわけですね。

五味 うん、1年かかりましたね。もちろん、練習だけでなく、リングで活躍できるプロを作るには2年、3年かかるだろうし。チャンピオンを作るには5年、10年かかるだろうし。これからが大変だとは思いますよ。そういった試練もまたおもしろいというか、ジムの会長としても、ちょっと頑張らないとね。

――じゃあ、このラスカルジムがあったからこそ、試合がなくても目標が途切れず、充実した日々が送れていたという感じですか？

五味 そうですよ、もちろん。今年の夏のクソ暑い中、毎日毎日、若いヤツらと練習やってましたから。ここは地下だからとくに暑いし、（空調の）ドライがついてないから、汗で水たまりになっちゃうんですよ。

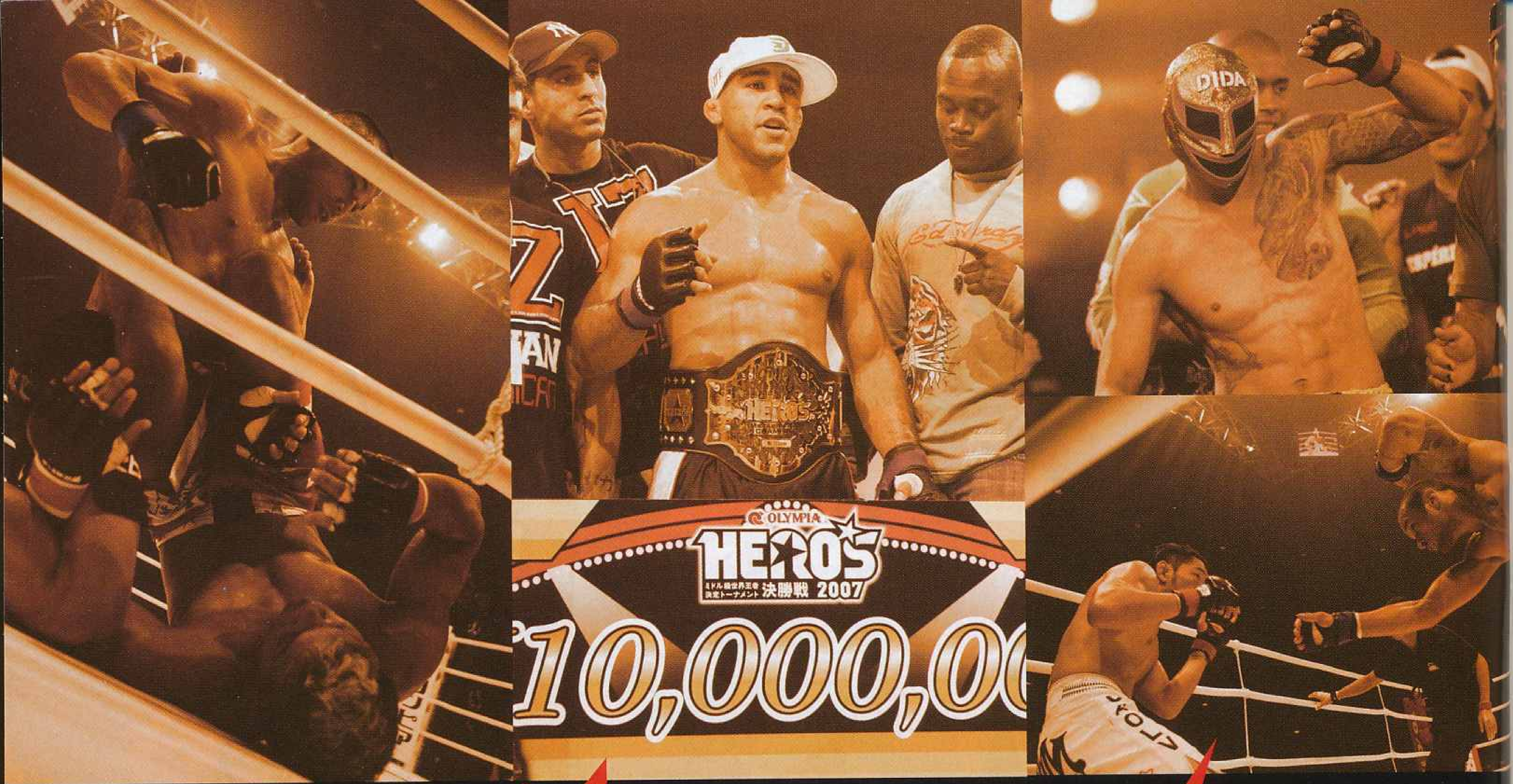
――じゃあ、ドロドロになりながら、日々練習していた、と。

五味 菅平にも合宿に行きましたしね。こんな状況でもあきらめずにやってますよ。

――夏場に苦しんだぶん、冬に花開くって感じですかね。

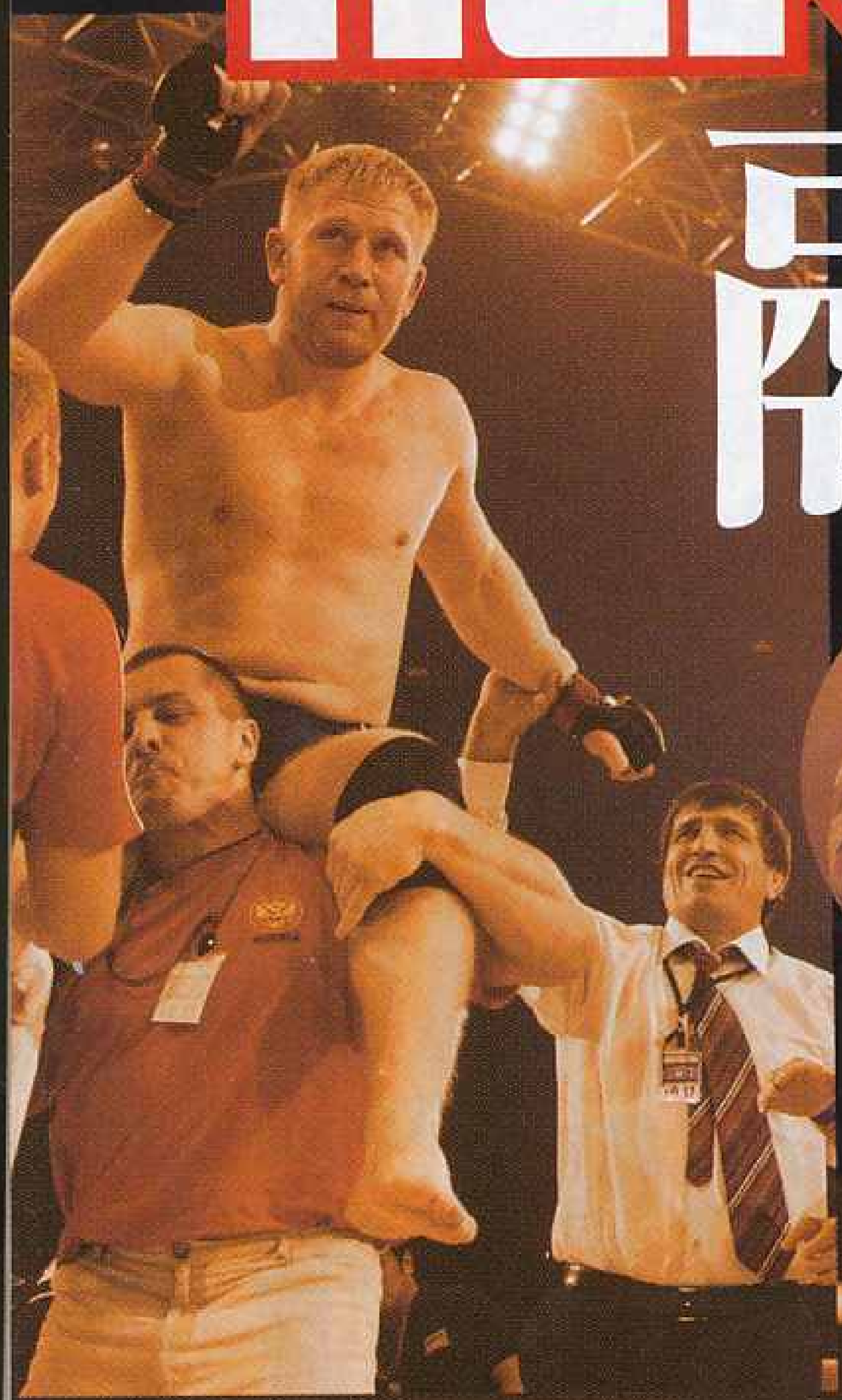
五味 いいですね、それだな！ 冬にはきっと、いいことあるでしょう！ そう信じてますよ。

【07年9月21日／都内・久我山ラスカルジムにて収録】

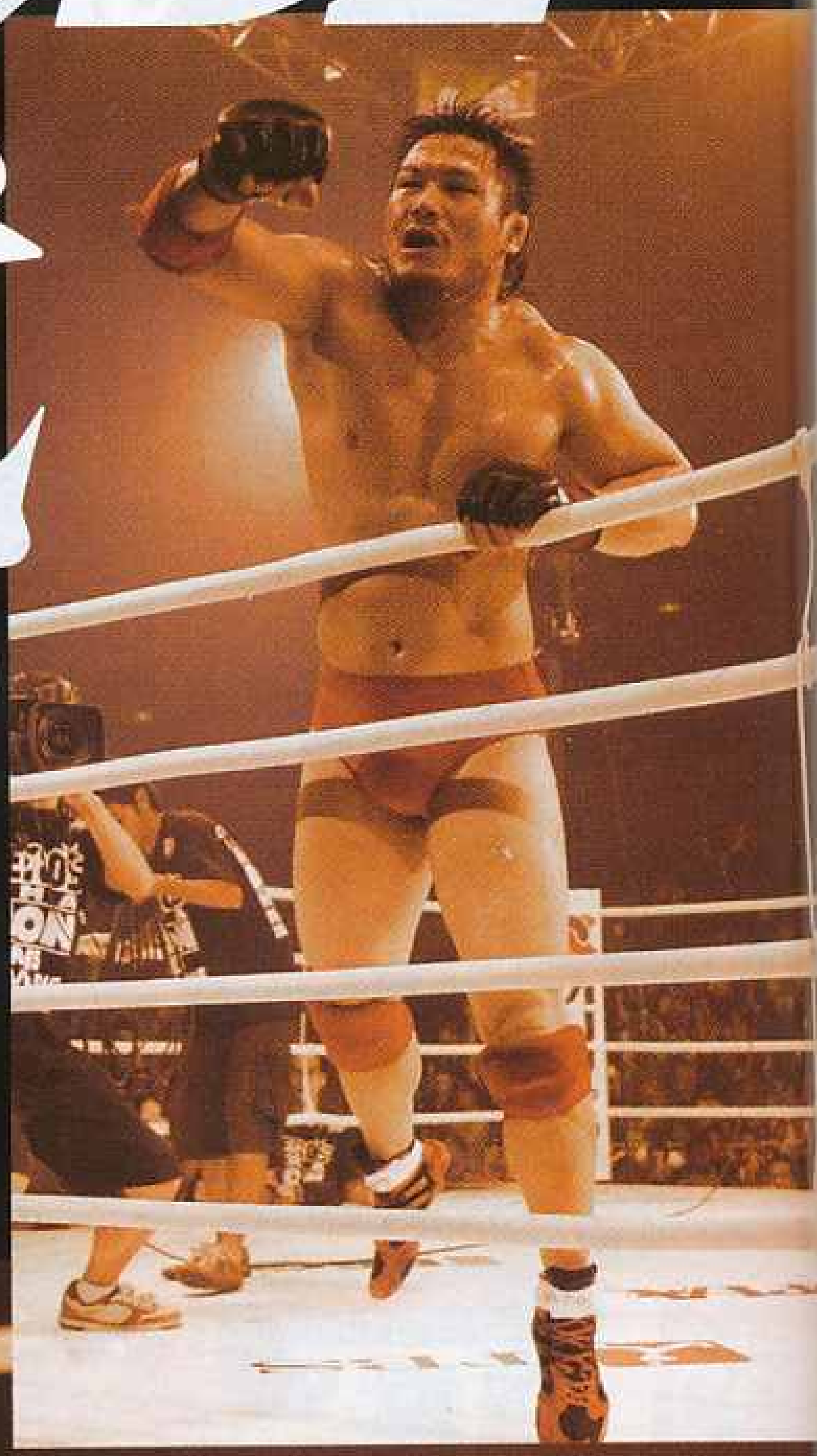


HERO'S × PRIDE

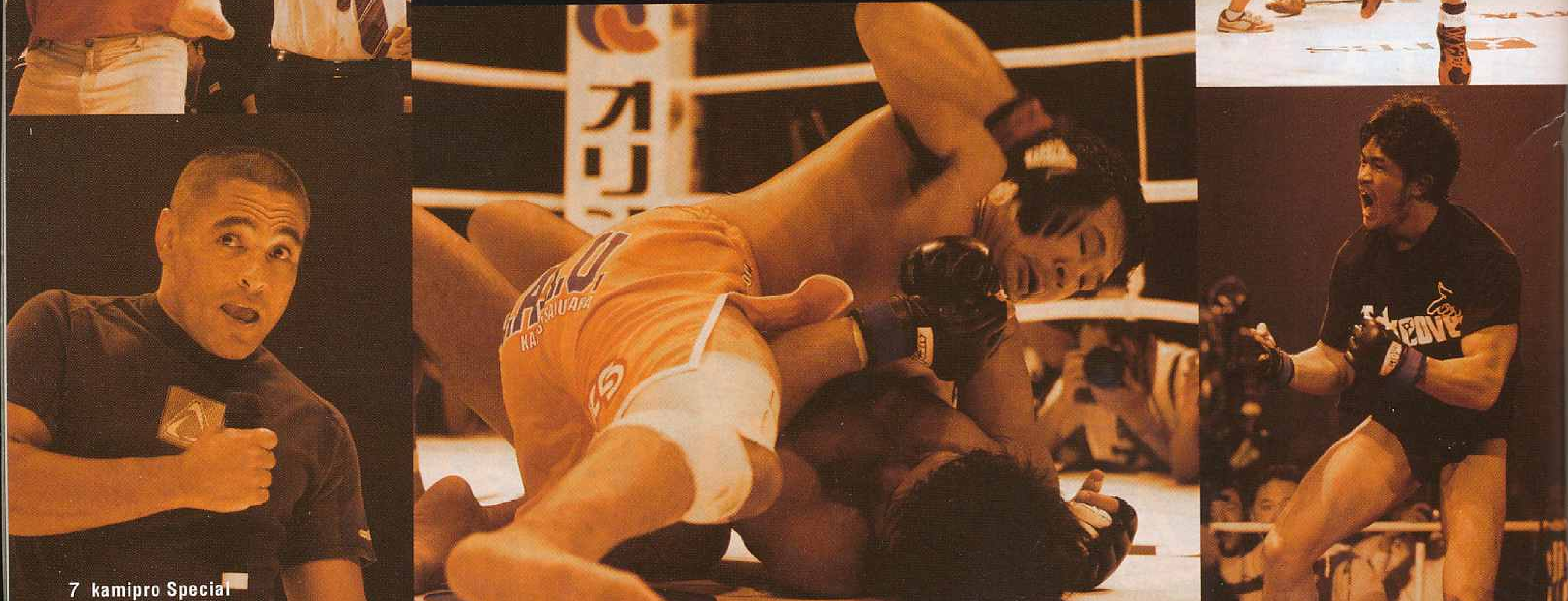
融合時代突入!!



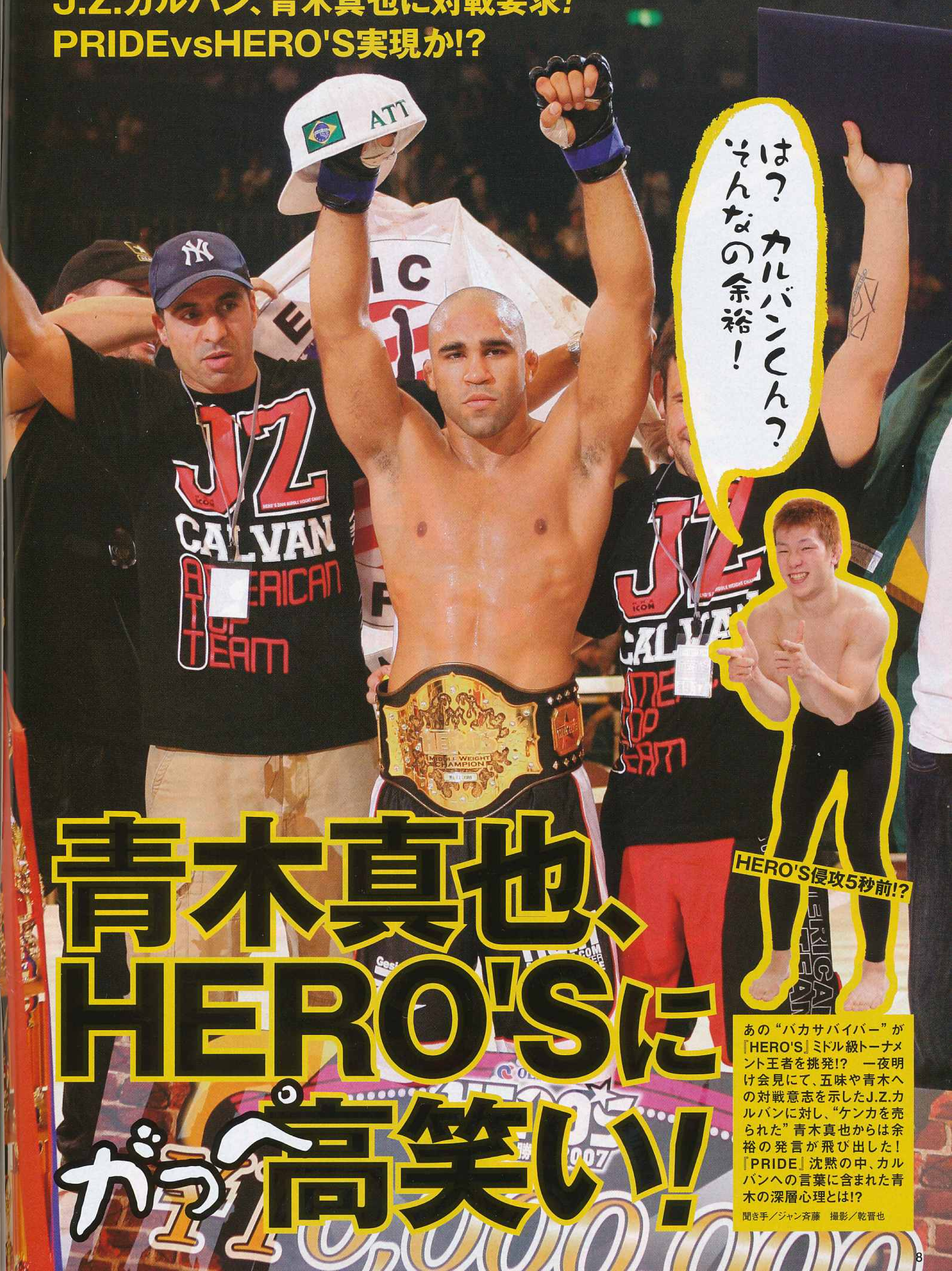




9.17 HERO'S 横浜アリーナ



J.Z.カルバン、青木真也に対戦要求!
PRIDEvsHERO'S実現か!?



青木真也、HERO'Sにがっぺ高笑い!

あの“バカサバイバー”が『HERO'S』ミドル級トーナメント王者を挑発!? 一夜明け会見にて、五味や青木への対戦意志を示したJ.Z.カルバンに対し、“ケンカを売られた”青木真也からは余裕の発言が飛び出した!『PRIDE』沈黙の中、カルバンへの言葉に含まれた青木の深層心理とは!?

聞き手/ジャン斉藤　撮影/乾晋也

―ずいぶんおひさしぶりですが、今年の夏はどう過ごされたんでしょうか？

青木　今年の夏はアレですねえ……、って、ずいぶん当たり障りのないところから聞いてきますね。

―いやあ、ひと夏のアバンチュールはされてないのかなって。

青木　そうねえ……。＼(^o^)／チエ選手との対談を『kamipro』がセッティングしてくれないから、今年の夏は童貞のままみたいな……（遠い目で）。

―はあ。今年の夏は「やる気！ ○起!!」するようなことはありませんでしたか？

青木　ないですねえ。なんか、ロレンゾ（・フェティータ）さんにも相当、待たされているし……。

―『PRIDE』再開に向けての話はまったくないんですか？

青木　まったくないですねえ。動かざること山のごとしですよ。

―でも、そういう中でも練習だけは毎日欠かしてないみたいですね。

青木　そうなんです。偉いよなあ、俺……（しみじみと）。

―同じ境遇の川尻（達也）さんや石田（光洋）さんと苦労を分かち合ったりしてないんですか？

青木　なんかね、あの二人たちはボクに何も話さないんですよね。

―ダハハハハハ！　それは青木さんに問題があるんじゃないですか（笑）。

青木　なんか、お互いに腹の探り合いをしちゃって。「最近どうですか？　オタクの会社？」「動きはないねぇ」みたいな。

―そういえば、マッハさん、今日発表ありますよね？

―シュートボクシングに出場されるんですよね。青木さんは動かないんですか？

青木　動こっかな！（さわやかに）。

―また、軽く言いますね（笑）。

青木　重い腰を上げてネ☆！　夜は軽い腰だけど。ククク！

―……。

青木　ちょっと、突っ込んでくださよ！

―マジメな話、『PRIDE』の年内再開はほぼ絶望的ですよね。

青木　いまの時点で何も発表がないんだったら、大晦日もないでしょう……。

HERO'Sの感想？「俺のほうが強いじゃん!!」って感じ。「やべえ!!　俺の優勝だ!!」って（笑）



他を寄せつけぬ勢いでミドル級トーナメントを制覇したJ.Z.カルバン。日本人がことごとく敗れているこの階級だが、　もし青木が参戦したら……!?　極め技で魅せる“異色な”タイプなだけに、青木の存在はこれまでの『HERO'S』では観られなかった闘いを予感させてくれる。

―そこでですねえ、JZカルバンという人が……。

青木　（さえぎって）ああ、カバウカンチくん。

―修斗時代のリングネーム（笑）。彼が『HERO'S』のミドル級GPを2連覇してですね、今度はPRIDEファイターと闘いたいと吠えてるんですよ。谷川さんも「青木vsカルバンは観たいなあ～！」って言ってましたよ。

青木　本当かなあ。ちょっと前まで「青木なんて知らない」って言っていたのに。

―あれはポーズですよ、ポーズ。やりたいんですよ、谷川さんも。

青木　こっちも試合をやりたいよっ!!『HERO'S』じゃなくてもいいからさ!!

―うわっ！　心からの叫びだ（笑）。

青木　ホント試合がしたいんですよ。このまま『PRIDE』が年内にないんだったら、ちょっとつらいですよねえ……。ボクは強い選手と闘うために練習しているし、カバウカンチくんがやりたいんなら、こっちは売られたケンカは買うだけですよね。

―試合はご覧になりました？

青木　観ましたよ。まあ強いですよね。けど……どうだろうなあ？　まあねぇ！

―もっとハッキリ言ってくださいよ！

青木　普通にチェスれるような気がするんですよね、チェスト!!　って。極めたあとにあの太い眉毛を剃るくらい余裕がありますよ！

―もっとマジメな感想をお願いします！

青木　『HERO'S』の感想？　正直「あ！　俺のほうが強いじゃん!!」って感じですね。

―いやあ、青木さんは気持ちがいいなあ（笑）。

青木　いや、本当に。テレビの前でオ○ニー寸前ですよ。「やべえ!!　俺の優勝だ!!」って。

―「勝った！　勝ったのは俺だ!!」（笑）。ターザン山本！の勝利宣言じゃないんですから。またマジメな格闘技ファンから言われますよ。「今度は『PRIDE』を裏切るのか!!」って。

青木　ええ～～!?　ここまで待っているのに裏切者扱い？　つらい……。

―そうですよ。「一生修斗」発言と同じく、インタビューのたびに「『PRIDE』を裏切った件ですが……」という感じでいじられるようになるんですよ（笑）。

青木　そ、それはないですよ～。こっちには海よりも深い事情があるのにぃ！　ボクには〝PRIDE愛〟はあるし、『PRIDE』が動くんならいつでも出る気満々なんですよ。だから、『PRIDE』再開までの肩慣らし！　もし〝PRIDE代表〟として周りが見てくれるんなら、ボクはその気持ちに応えたいですね。

―じゃあ、青木さんの試合だけ煽り映像を佐藤大輔さんに作ってもらいたいですよね。

青木　そうですね！

―それでテレビに出たらまた状況は一変するんじゃないですか？

青木　モテるでしょうねえ（ゴクリ）。

―ダハハハ！　あ、そうだ。『HERO'S』に出たら、もしかしたら井上和香が激励に来てくれるかもしれないですよ。

青木　……あぁ、『HERO'S』にはエッチな娘がいたねぇ～（声にならない声を上げて）。ヨシ!!　チョー興奮！

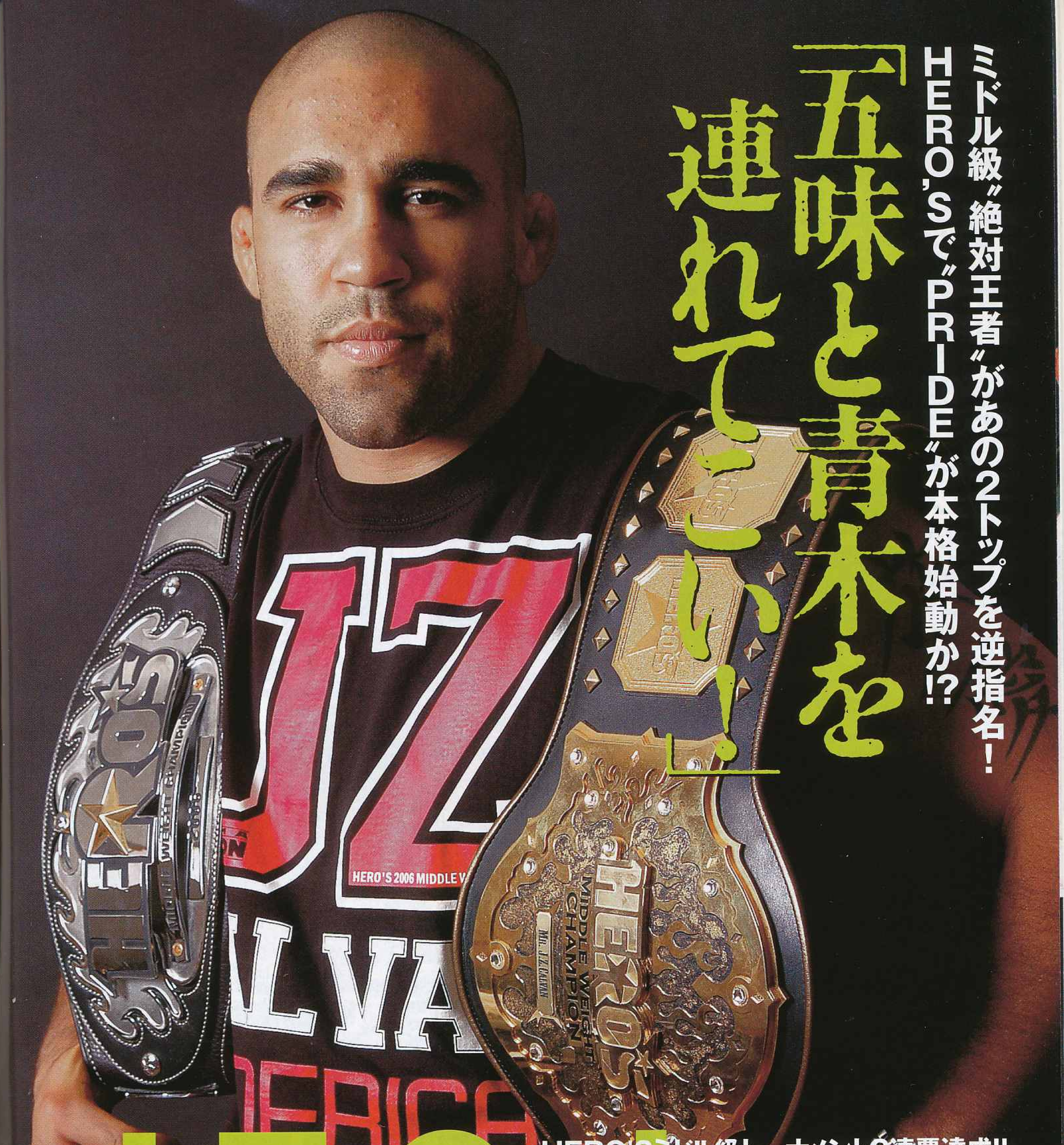
―『PRIDE』代表どころじゃないな、これは（笑）。次の試合をなんとなく期待しています！

【07年9月20日／電話取材にて収録】



ミドル級〝絶対王者〟があの2トップを逆指名！
HERO'Sで〝PRIDE〟が本格始動か!?

「五味と青木を連れてこい！」



HERO'Sミドル級トーナメント2連覇達成!!

J.Z.Calvan

J.Z.カルバン



7月に幕を開けた2007年ミドル級トーナメントだが、終わってみれば、06年チャンピオンのJ.Z.カルバンが圧倒的な強さでトーナメントを制し、見事2連覇を達成！ しかし、興奮も冷めやらぬ中、王者の視線は早くもその先の世界へと向かっていた。PRIDEライト級2トップともいえる五味や青木の名前を口にしたカルバン。その真意とはいったい!?

聞き手／松下ミワ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

確かにアメリカはいまMMAブームだけど
ただ有名になってチヤホヤされるのはイヤ

——カルバン選手！ 今日はよろしくお願いします！

JZ OH！ 今度はキミたちかい？ 今日はもう3つ目のインタビューだけど、よろしく頼むよ！（といって握手）。

——こちらこそ！ では、さっそく昨日のお話に移りましょう！ あらためまして、優勝おめでとうございます!!

JZ フフフフ。サンキュー！

——今回のトーナメントは準決勝のビトー・"シャオリン"・ヒベイロ戦にしても、決勝のアンドレ・ジダ戦にしても、かなりの強豪でしたが……。

JZ （さえぎって）ハッキリ言って、最初から勝つ自信はあったよ（キッパリ）。

——さすがチャンピオンですね（笑）。

JZ でも、それはシャオリンやジダ、それにカオル・ウノが弱いと言ってるわけじゃないんだよ。誤解しないでくれ。俺は常に自信を持って毅然としていることを心がけている。そういう姿勢が今回の結果にもつながったんだと思うな。

——でも、カルバン選手は試合前にたいへんな大ケガをされてたそうじゃないですか？

JZ そうなんだ。じつは試合の1週間前に肩とヒジを痛めて、おまけにスネのできものを摘出する手術までしたんだよ。

——ああ、スネのできものまで（笑）。

JZ だから、肉体的な部分でいえば、体調はまったく万全じゃない。だけど、俺は『HERO'S』のベルトを獲ることだけを目標にしてトレーニングしているわけじゃないからな。つまり、今回に限らず、俺は常にその先のゴールを見据えて闘っているんだ。当然、その途中、途中でいわば"障害物"に出会うと思うんだけど、その障害物を一つ一つ気にしていたら、その先のゴールは霞んでしまうだろ？

——では、カルバン選手にとって"その先のゴール"とはどんなものでしょう？

JZ そうだね。俺の目標は、常に全力を尽くして、いい試合をして、みんなに喜んでもらえる試合をすること、それが一番大事なことだ。だから、『HERO'S』のベルトを獲ることはもちろん大切なんだけど、俺の中では結果だけが目標じゃない。



[9.17 HERO'S] 横浜アリーナ
ミドル級世界王者決定トーナメント準決勝
○J.Z.カルバン vs ビトー・"シャオリン"・ヒベイロ×
（1R 0分35秒 TKO）

優勝候補の筆頭との呼び声が高かった柔術のスペシャリスト、シャオリンだったが、前年チャンピオンであるカルバンを前に、まさかの秒殺負け。シャオリンはカルバンに足払いを許しマットに倒れると、上からはカルバンのパウンドの嵐！ 早い段階で勝利を飾ったカルバンは、体力を残したまま決勝へとコマを進めた。

常にいいパフォーマンスをすること、それを続けていくことが目標なんだ。

——なるほど！ 非常にぼんやりした目標のように感じますけど、つまり具体的なゴールっていうよりは、日々の自分のあり方を突き詰めてるってことですね。

JZ そういうことさ！

——では、これもカルバン選手にとっては通過点の一つになるかもしれませんが、空前のMMAブームに見舞われているアメリカ、とくにUFCに上がることには興味はないんですか？ ATT（アメリカン・トップチーム）で練習されてるカルバン選手にとって、アメリカはまさに本拠地だと思うんですけど。

JZ （首を横に振りながら）ノー！ ノー！ もし、『HERO'S』がアメリカで行なわれるなら話は別だけど。もちろん、いまのアメリカはMMAブームだけど、俺が目指している世界は、ただ有名になってみんなに「JZだ！」って言われてチヤホヤされるような世界じゃないからな。それより、むしろ日本のファンの前でずっと試合をしていたいよ。



[9.17 HERO'S] 横浜アリーナ
ミドル級世界王者決定トーナメント決勝戦
○J.Z.カルバン vs アンドレ・ジダ×
（1R 4分48秒 腕ひしぎ十字固め）

準決勝の宇野戦同様、ジダは鋭い打撃を次々とカルバンに的中させる。しかし、カルバンはジダからテイクダウンを奪うと、ここから反撃開始！ 肩固めの態勢からマウントへ移行すると、一瞬の隙をついて腕十字へ!! 見事、2連覇を達成したカルバン。このチャンピオンに名乗りを挙げるのは、はたして……!?

——いま日本では、むしろアメリカに意識が向かっているような状況もあるんですけど、アメリカにいるカルバン選手が「日本がいい」って言い切るのは、日本にどういう魅力を感じているからなんですか？

JZ だって、考えてみろよ。日本のファンよりクオリティが高いファンって世界中でもなかなかいない。UFCなんかは残虐性があったり、血が出たり、カットしたり、そういう部分で大喜びするファンが多いけど、日本のファンは細かいテクニックにも興味津々だろ？ ファイターに対しても、強くて有名な人にも、初参戦の選手にも、日本のファンは同じように声援を送ってくれる。素晴らしいじゃないか！

——でも、カルバン選手の入場シーンへのリアクションは薄かったような……。花道の端から端までダイナミックに動き回ってましたけど。

JZ アッハッハッハ！ ドント・ウォーリー!! 『HERO'S』のファンは俺のダンスに充分に応えてくれてたよ！

——あ、そうでしたか（笑）。

JZ やっぱり、俺みたいな入場の仕方をする選手が珍しいのか、1試合目は確かに戸惑ってたような雰囲気は感じたけ



[9.17 HERO'S] 横浜アリーナ
ミドル級世界王者決定トーナメント準決勝
○アンドレ・ジダ vs 宇野薫×
（2R 判定3-0）

当初、ブラックマンバとの対戦が予定されていた宇野だが、ケガのため急きょジダとの対戦に。そのジダのカミソリのように鋭い打撃に宇野は終始苦戦。なんとか判定に持ち込んだが、なんと、宇野は顎を2カ所も骨折していたことが判明！



[9.17 HERO'S] 横浜アリーナ
ミドル級トーナメント リザーブマッチ
○宮田和幸 vs ハービー・ハラ×
（1R 1分13秒 腕ひしぎ十字固め）

トーナメント1回戦でシャオリンに一本負けを喫した宮田が、リザーブマッチに登場。イギリスのキックボクサー、ハービー・ハラを相手に、あっさりテイクダウンを奪った宮田は、サイドに回るとそのまま腕十字！ 圧倒的勝利で復活を遂げたのだった。

大晦日のビッグイベントでは、ゴミ、アオキ、サクライ、いずれかと拳を交えるだろう

J.Z.Calvan

ど、決勝の入場では俺と一緒に踊ってくれた人もいたみたいだったしね。

——本当ですか!? でも、日本人はやっぱりシャイなので、アメリカ人ほどノリノリじゃないと思うんですよ。

JZ フフフフ。確かに日本人はシャイだよね。でも、彼らだって、できる限りのことはやってくれたんじゃないかな！

——わかりました（笑）。ところで、今日の一夜明け会見では、しきりに〝世界のトップ10〟と闘いたいというお話をされてましたよね？

JZ そうだね。ブラジルのトップ10、アメリカのトップ10、それから日本のトップ10……、とにかく俺は本当の意味でのナンバーワンになりたいんだよ。そのためには、トップ10の強豪たちを闘いたいと思うのは当然だよね。

——次に闘ってみたい〝トップ10〟は誰になりますか？

JZ やっぱりゴミ（五味隆典）、アオキ（青木真也）、サクライ（桜井マッハ速人）……、彼らは世界のトップ10には入ってくるだろうね。

——それはズバリ、『PRIDE』に出ていたファイターですね。

JZ まあ、PRIDEファイターに関していえば、今回の『HERO'S』だってミノワマンやセルゲイ・ハリトーノフ、アリスター・オーフレイムなんかが出ていたし、これをきっかけに彼らがもっともっと『HERO'S』に参戦するようになれば、こんなにワクワクすることはないよ！

——近い将来、対戦が実現する可能性は高いですか？

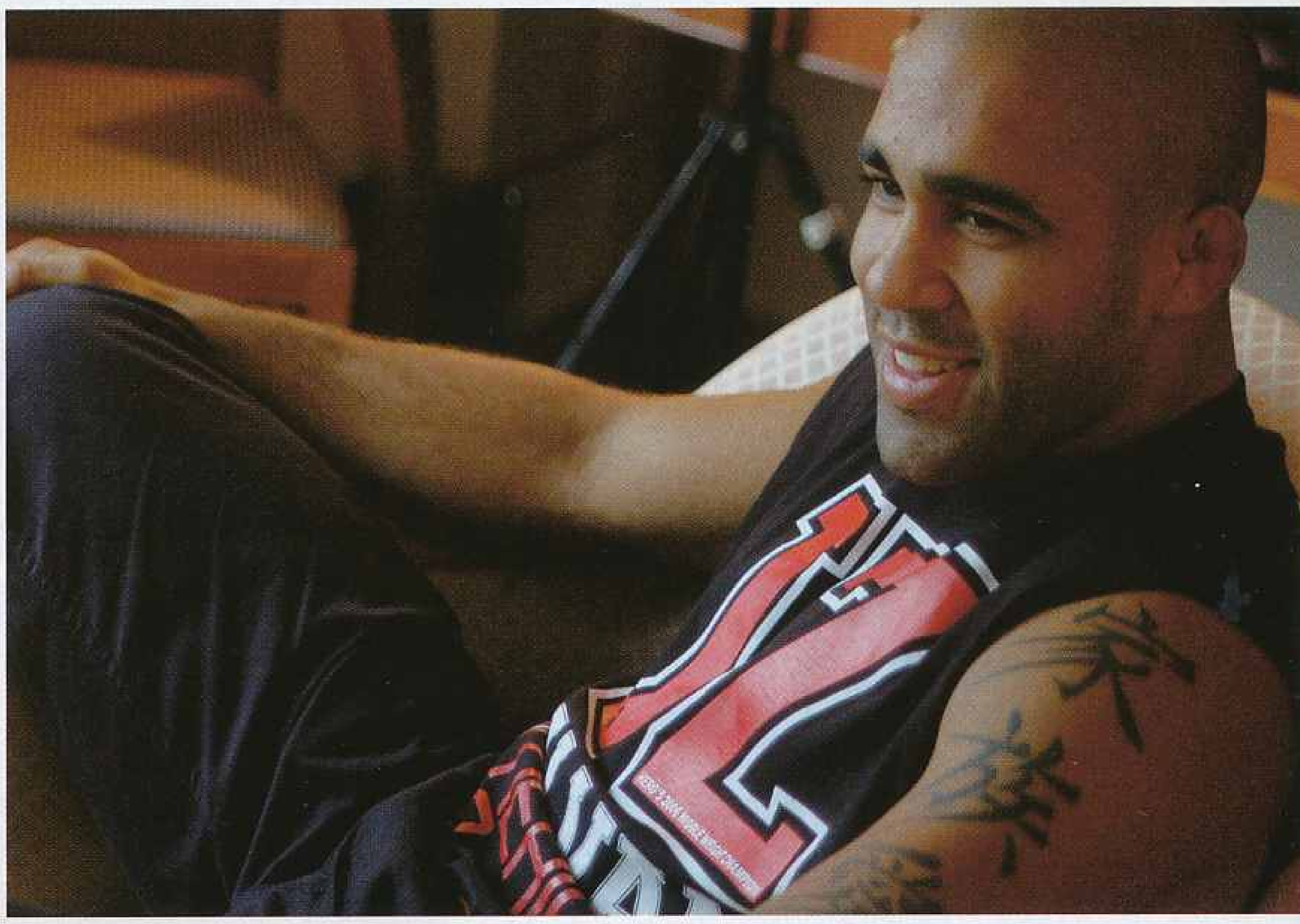
JZ ああ、大晦日のビッグイベントでは、ゴミ、アオキ、サクライのいずれかと拳を交えているだろうね。

——『Dynamite!!』で！

JZ そりゃそうさ。そう考えたら、ゴミだってアオキだって、『HERO'S』から近い場所にいるって思えるだろ？

——まあ、『PRIDE』は再開のメドが立っていないですし。

JZ ゴミはATTで一緒に練習している（マーカス・）アウレリオと闘ったファイターだ。もちろん対戦したことはないから、彼がどんなファイターなのかは具体的にはわからないけど、とにかく試合は抜群におもしろいし、ファイターとして興味を抱くのは当然だと思うよ。それはアオキにだって同じことが言える。俺はもう、彼らをどんどん『HERO'S』に連れてきてほしいと思ってるんだ！ きっとファンもそう願っているはずさ。



J.Z.CALVAN■1983年7月6日、ブラジル出身。柔道とルタ・リーブリのバックボーンを持ち、現在はATTに所属。06年『HERO'S』ミドル級トーナメントでは宇野薫やハニ・ヤヒーラを破り、チャンピオンに君臨。今大会の優勝で見事ミドル級トーナメント2連覇を達成した。173cm、70kg。

——ビッグカードですからね。ところで、今日の会見で前田（日明）スーパーバイザーはカルバン選手のことを「頭のいい闘い方をする」って絶賛してたんですよ。

JZ 本当かい!? それは嬉しいなあ。でも、自分ではそんなにクレバーなファイターだとは思ってないんだけどなあ。

——あまり自覚はないですか（笑）。

JZ どちらかといえば、本能的に闘うほうだと思うんだけど……。今回のシャオリン戦も、まさかあんな展開になるとは思ってなかったし。でも、自信と経験があると、瞬間的に何をすればいいかがわかるからね。判断力とクレバーさっていうのは密接な関係があるから、ハタから見たら、それがクレバーに見えるのかもしれない。

——やっぱりそれは日々のトレーニングで培われるものなんですか？

JZ もちろん！ それに、そういう意味ではATTは本当に最高なチームなんだ。いろんなバックグラウンドを持った選手、スタンド、グラウンド、すべてにおいてトップクラスのファイターが揃っているから、トレーニングをするにも日々限界まで持っていけるし、いろんなシチュエーションを実践できるから、練習するにはあんなに素晴らしい環境はほかにないよ。俺にとっては、もう家族も同然だ！

——ATTは家族！ そういえば、〝家族愛〟にあふれるカルバン選手は、昨日の勝利をブラジルにいるママに報告されたんでしょうか？

JZ ええっと、まだ直接電話では話せてないんだ。でも、昨日友だちと話したかぎりだと、「キミのママから聞いたよ。優勝したんだって？」って言ってたから、たぶん知ってるとは思うけどな。

——では一刻も早くママの喜びの声を聞きたいところですよね。やはり、帰国したら家族への報告が一番最優先ですか？

JZ もちろん。そうじゃなくても、家族とは毎日電話で話しているからさ。

——はー、毎日アメリカ〜ブラジル間の国際電話ですか。

JZ フフフ、まあね（照れくさそうに）。でも……、それが済んだらさ、もう、とにかくゆっくり寝たいなあ。

——ええっ!? もう寝ちゃいますか！

JZ ああ。トレーニングがないときは、俺はすぐに寝るからね！ 食事の時間とトレーニングの時間以外、俺は確実にベッドの中にいるんだ。

——そうなんですか!? 食事とトレーニング以外は睡眠だなんて、なんだか少し寂しい気がしますが……。

JZ 何を言ってるんだよ！ そうやっていっぱい寝るからチャンピオンになれるんじゃないか!!

——ああ、寝る子は育つんですね（笑）。

JZ チャンピオンになるのはそう簡単なことじゃないんだぜ！ 24時間、すべての時間をMMAに捧げてる。俺は、そのくらい人生のすべてをかけてMMAに取り組んでるってことさ！

——わかりました！ 次の試合を楽しみしてます！

【07年9月18日／横浜・某ホテルにて収録】

桜庭vs船木の物語に埋もれたプロレスラー

死ねなかった柴田勝頼

[9.17 HERO'S] 横浜アリーナ

○桜庭和志 vs 柴田勝頼×

(1R 6分20秒 腕十字固め)

まずは打撃で牽制し合う両者。桜庭は柴田が突っ込んできたところでタックルでテイクダウン。柴田は倒れたと同時に下からパンチを顔面に何発も叩き込んでいく。桜庭は冷静に対処し、サイドポジションを奪取。そして鉄槌やパウンドを柴田の顔面に叩き込んでいく。そして、じっくりと様子を見てから、腕ひしぎへ移行!　粘る柴田を力で振り切り快勝!!

ひさびさに「強さ」で観客を魅了した桜庭和志。この勝利によって彼の物語は一気に加速し、船木誠勝戦という新たな物語へとつながった。先々にはヒクソン・グレイシーの存在をも見据えつつ、サクの格闘人生、ここに来ていよいよクライマックスといった雰囲気である。

って、ちょっと待った！　物語の相関図における超重要パーソンであったはずの柴田勝頼が、本筋への関与を一切許されなかったのはどういうわけなのか？　柴田の存在と彼自身の物語は、この試合はおろか『HERO'S』というファイティング・サーガ全域においても決して軽くはない。もちろん勝ち負けに関しては致し方ないが、直後に動き出した物語は「柴田勝頼」のパーソナリティを必要としていないように見えた。

柴田がキャラクターとして振る舞うことができたのは、あのかわいらしい花道転倒から花束放り投げまでのわずかなあいだのみ。試合中も試合後も、彼自身のドラマが動き出すことは決してなかったし、桜庭と船木のドラマを後押しするようなことも一切なかった。さながら「石ころぼうし」を被った野比のび太のごとく、柴田は観客の意識からすり抜けていったのである。わざわざ特別な舞台に抜擢されながら、プロデュース側に「柴田勝頼物語」を拒否されるというこの異常事態は、ちょっと見すごせない。柴田に求められたもの、また柴田がこの試合で成し得たものとはいったいなんだったのであろう。

「負けっぷりがよかった」？　「柴田にとってはいい経験だった」？　そのような意見は生ぬるい、と言わざるを得ない。あるいはこれが柴田のMMAデビュー戦であり、一見のインパクトを求められた存在であったならそれで納得できなくもないが、彼の格闘物語がすでに動き始めていることは周知のとおり。ましてやいまだ多くの観客に「MMA素人」と認識されている上、「プロレスラー」という一筋縄ではいかない肩書きを背負っている柴田にとって、物語性を一切伴わない今回の敗戦は「死」に等しいのだ。そして桜庭と船木の物語は、そんな柴田の「死」すらも埋もれさせてしまうほどに大きく、結果として彼は「生殺し」という最も残酷な扱いを受けることになってしまった。

仮に柴田がここで死んだとしても、まだまだ先はあったのだ。「死」を一つの転機とし、「再出発」という新たな物語を描き始めることもできた。なんなら半ベソでプロレス村に出戻ったっていい。強く優しくだらしないプロレスファンたちは、いまさらMMAでの敗戦ごときで揺らぎはしない。

しかしながら下馬評どおりの普通すぎる敗戦を味わったあげく、クライマックスの最中に舞台から叩き出されてしまった柴田は、いまや死ぬべき時も死に場所も奪われてしまった。プロとしては死よりも怖い「ゾンビ化」の始まりである。日の当たる場所には二度と出られず、腐乱して崩れ去るのを待つだけの存在。それでも本能で闘い続ける「格闘ゾンビ」に彼はなってしまうのだろうか？　そもそもの話、柴田はなぜこんな目に遭わねばならなかったのか？

じつのところ理由はハッキリしている。柴田をここまでおとしめたのは、キラー谷川でも桜庭でもない。自らが師と仰いだ船木誠勝その人なのである。

桜庭vs柴田のカード発表記者会見において、船木は「大晦日に桜庭とやりたい」と突然の対戦表明を行なった。いまさらに戦前の意気込みを語ろうとする愛弟子の大一番は、この仰天発言により一気に「前哨戦」と化してしまったのである。

その意味合いは果てしなく重い。船木の秘蔵っ子として、船木の思いまでをも背負って桜庭戦に臨むはずだった柴田の立ち位置はいきなり消失した。船木とのつながりによって成り立っていた、柴田自身のアイデンティティも同時に崩壊した。柴田は自分の武器をすべて手放さねばならなくなり、同時に「柴田勝頼」の再構築をも余儀なくされたのである。物語から弾き出されたのもむべなるかな、こんな負け戦はほかに聞いたことがない。

ならば今後、柴田が息を吹き返す方法は一つしかないであろう。船木に牙を剥くことだ。踏み台にされた恨みつらみを余すところなくぶつけ、師の物語を否定する。この転身は柴田自身の物語となりうるどころか、船木の物語を単発で終わらせないことにもつながるだろう。シリアスな遺恨をリングで表現し、興行を活性化させつつ選手自身の「商品価値」をも高めてゆくこの方法論は、かつて「プロレス」というジャンルにおいて日常的に用いられてきたものである。柴田のゾンビ化を止める特効薬は、この「プロレス活人術」をおいてほかにない。

師に噛みついてプロレスラーになるか、このまま格闘ゾンビとして日々を闘い抜くか。柴田勝頼はいま、岐路に立たされている。

（田中太陽）



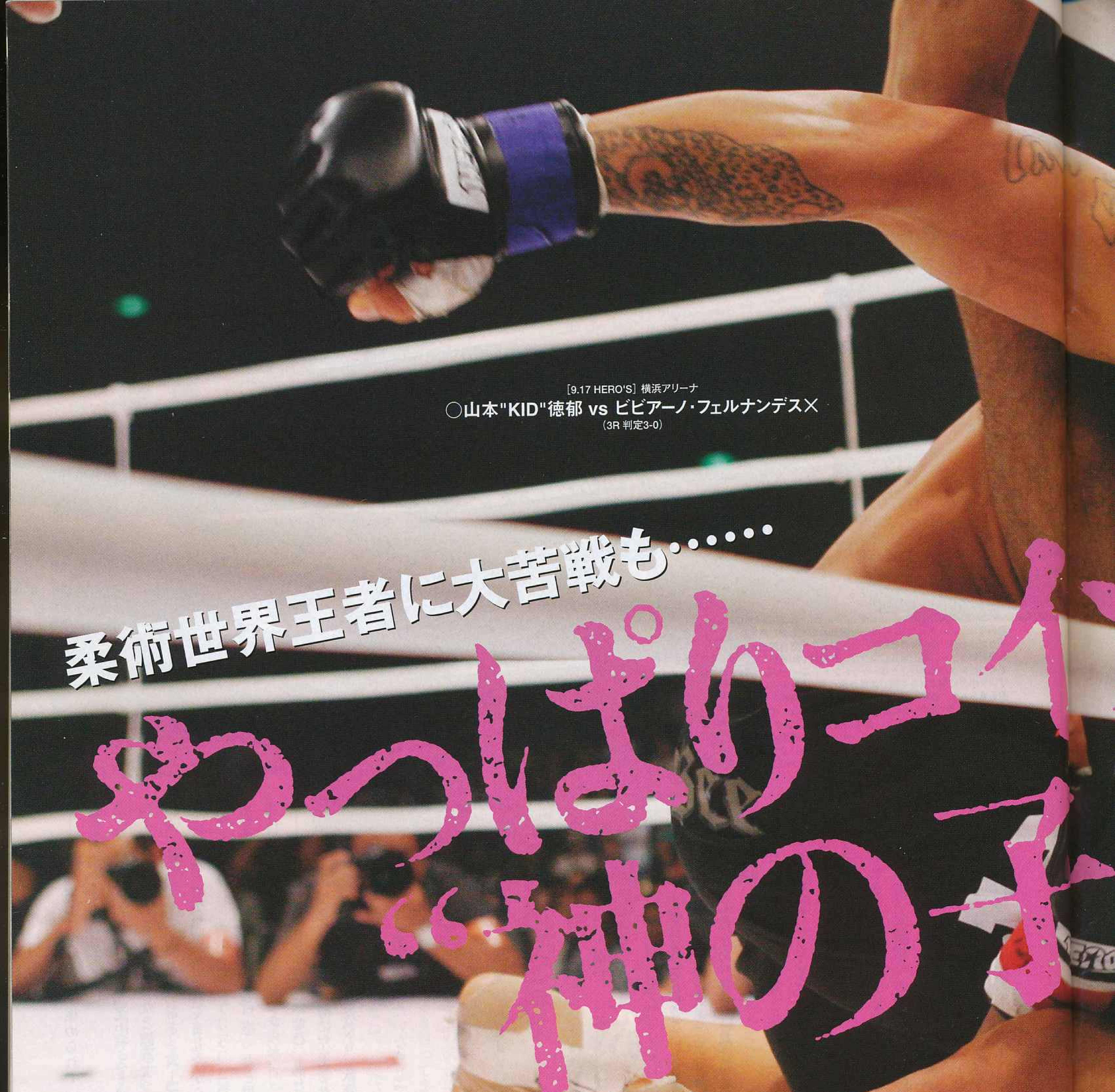
ツは
ずだった!

“神の子”のパパが語る KID復帰戦の裏側

山本郁榮

レスリングで北京五輪出場を目指し、しばらく総合格闘技から遠ざかっていた山本KIDが約9ヵ月ぶりに復帰! 対戦相手は柔術世界王者のビビアーノ・フェルナンデスだ。これまで『HERO'S』では70キロ級で闘っていたが今回は適正体重ともいえる63キロ契約で試合に挑んだKID。しかし、試合では思わぬ苦戦。さすがに“神の子”でもブランクは影響がデカかったのか? そんな、KID復帰戦の裏側を“神の子のパパ”山本郁榮氏に振り返ってもらった。

聞き手/松澤チョロ 撮影/乾晋也



[9.17 HERO'S] 横浜アリーナ
○山本"KID"徳郁 vs ビビアーノ・フェルナンデス×
(3R 判定3-0)

柔術世界王者に大苦戦も……

やっぱりコイ
“神の

――早速ですが、先日のKID選手の総合復帰戦の感想を聞かせてください。

山本 ホントのノリ（KID）の打撃ができなかったねぇ。やっぱり、向こうは打撃よりもグラウンドの選手だから。

――柔術の世界王者ですからね。

山本 ねえ。その二人が、やっぱり自分のスタイルでいくわけだから、どうしても、ああいう試合になっちゃうんですよ。昔、モハメド・アリとアントニオ猪木が試合したじゃない？

――やりましたね。もう30年以上も前の話ですけど。

山本 あれと一緒ですよ。グラウンドでいったら、やっぱりアリは勝てないじゃないですか？

――まあ、そうですね。

山本 だから、ノリは立って勝負したけど、あれが成功したんですよ。あんな選手とグラウンドでやってもね。とてもじゃないが、柔術の世界のトップにはグラウンドでは、やっぱり勝てない。〝いま〟はね。

――〝いま〟は勝てない？

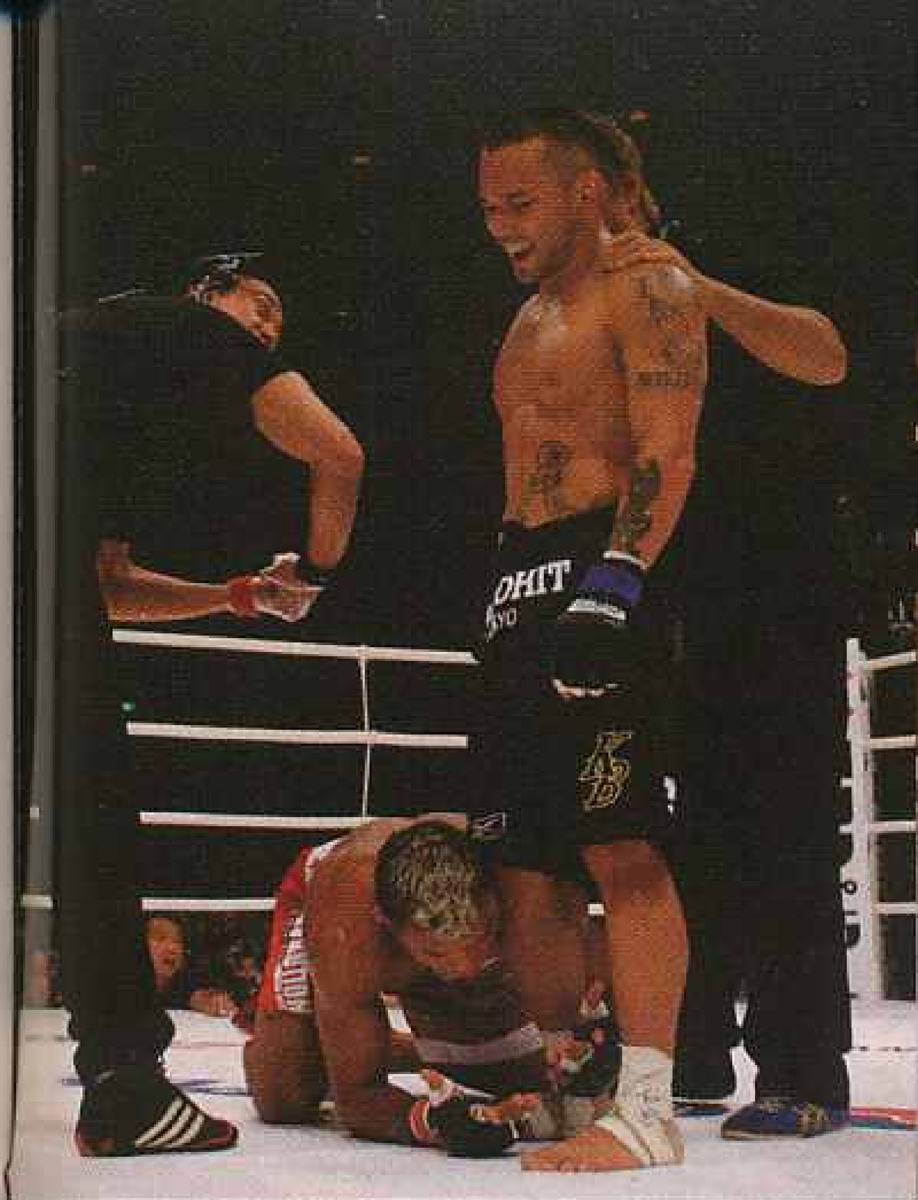
山本 そう。いまは勝てないけど、いまからノリはやるって言ってますから、グラウンドを。

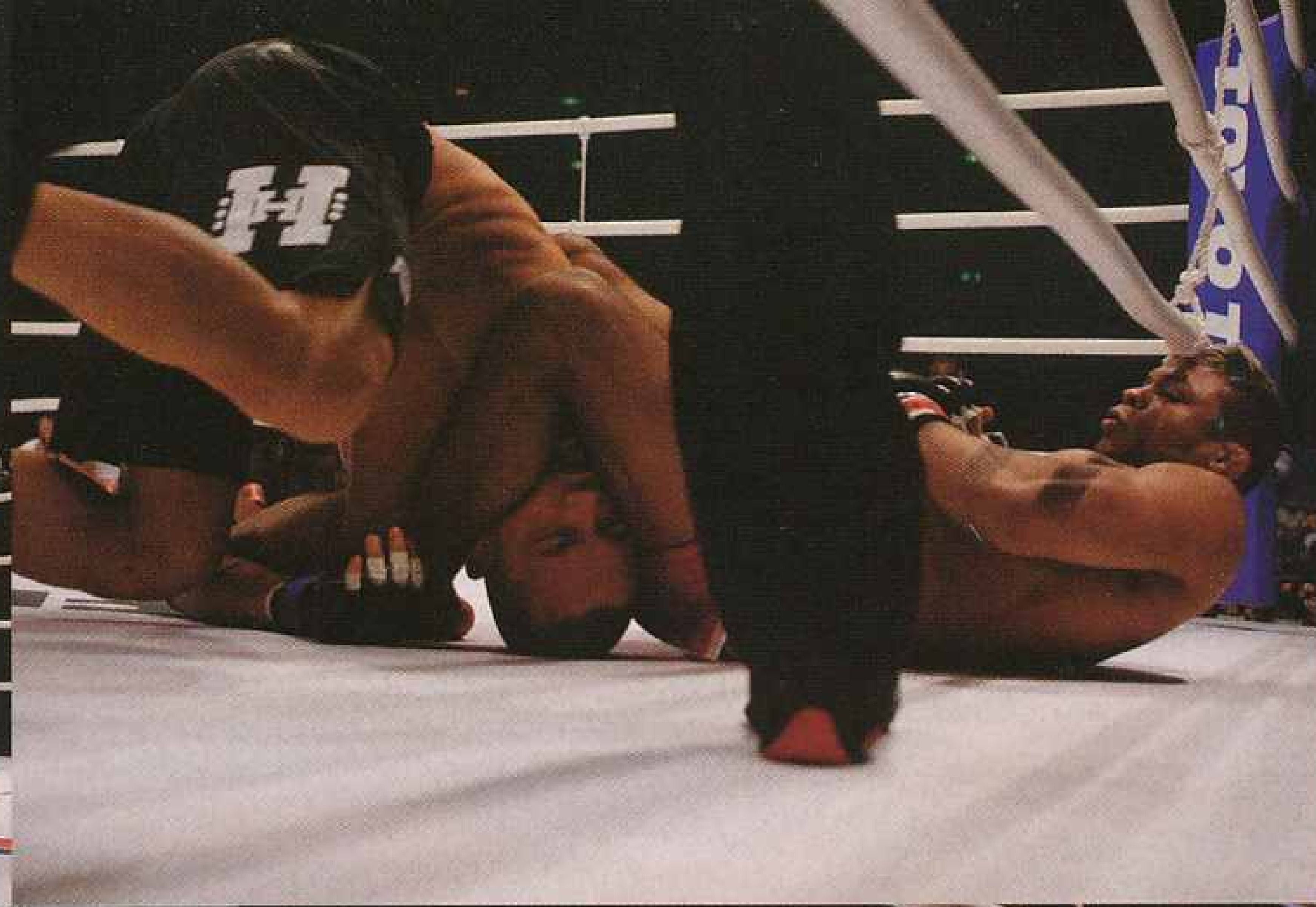
――今回の試合前もブラジルから柔術のトップのベッジーニョという選手を呼んでトレーニングをしてたみたいですけど。

山本 柔術家ね。やっぱり普通の総合のグラウンドと柔術は違うからね。そう考えると、ノリはよく、あのテクニックを凌いで闘ったと思いますよ。

――正直、危ない場面も何度かありましたよね？

山本 あったでしょ。三角絞めと逆十字、この二つでしたね。それでも、極めさせず守ったわけですから、たいしたもんですよ。











開始早々、ローキックでぐらつかせ好調な出だしかと思われたKIDだったが、その後はビビアーノの腕十字や三角絞めで、あわやというシーンも。さらにグラウンド状態で両者がロープ際でもつれ合うと梅木レフェリーからドント・ムーブがかけられ、リング中央に戻されるも同じ体勢が作れずKIDが苦笑いする場面も見られた。結局、試合は苦戦しつつもKIDが勝利をゲット。試合後、マイクを持ったKIDは「豪快なKOじゃなくてすみません。次はKOしますんで」と、観客に頭を下げリングをあとに。コメントブースでは、ミドル級トーナメント2連覇のカルバンとの対戦に興味があるかと聞かれたKIDは「ないですね」とキッパリ。今後も総合では63キロ級で闘っていくつもりのようだ。

――並の選手なら、あれで極められていてもおかしくないですよね。

山本　そうでしょ。あと、途中でストップかけられたのも調子狂ったと思うよ。

――途中、ロープ際でのドント・ムーブで、かなり試合が止められてましたからね。

山本　あれなんかは相手も戸惑ったと思うけど、ノリも首ひねってたからね。

――苦笑いしてましたからね（笑）。あと、KIDさんは試合の何日か前に左手をケガしてたみたいですけど。なんでも、軟骨が剥がれたとかで。

山本　そう。はく離骨折みたいな感じでね。だから、まずはそこを治さないと。まあそういうのとか、足の甲もちょっと腫らしたりもしてたから、今回は負けなきゃいいぐらいに思ってたから。

――とりあえず、勝ててホッとしてる、と。

山本　そうだね。……まあでも、ケガの話したら言い訳になっちゃうから、あんまり言いたくないんだけどね。

――ケガのことは試合後までわかりませんでしたけど、対戦相手の強さが、戦前はあまり伝わってなかったのが残念だった気がしますが。

山本　ねえ？　あれを伝えなきゃダメですよ！　あの選手は凄いですよぉ！

もし、UFCに出るならHERO'Sを背負って出てもらいたい！

――たしかに凄いと思いました（笑）。

山本　その凄い選手に勝ったっていう価値が全然伝わってないでしょ。だって、日本の柔術の選手なんて、もうバラバラにやられるんだから。

――バラバラにされちゃいますか（笑）。

山本　そうでしょう。勝てないんだもん。

――KID復活ということばかりクローズアップされて、相手がいかに強敵だったかということは、いまいち伝わってなかったですからね。

山本　わかってないよ、あの選手の強さを。谷川（貞治）さんたちもね（笑）。

――谷川さんたちもわかってない？（笑）。

山本　わかってないね（笑）。まあ、ノリも力を充分に出せなかったし、打撃で勝負できなかったし、向こうも思うようにグラウンド勝負ができなかったっていうのもあるから。そんな感じじゃない？

――今回は約9ヵ月ぶりの総合ということで、そのへんは影響しましたかね？

山本　それはないと思いますよ。練習はずっとやってましたから。ただ、試合勘だけはね。試合からは遠ざかってたから、まあ、その点だけでしょうね。

――今回はいままでの70キロ以下契約から、63キロ契約で試合に臨んだわけですけど、その点はどう思います？

山本　やっぱり、63キロの階級ができれば一番ですよ。65キロだったら、70（キロ）から落としてくるんで意味がないから。やっぱり、やるんだったら63ですよ。

――その2キロが重要なわけですね。

山本　そりゃそうですよ！　普段、ノリは62（キロ）ぐらいですから。まあ60キロが一番いいと思うんだけどね（笑）。

――通常が62～63キロなら、60キロでも全然いけますよね。

山本　そう。60キロが一番いいんだけど、そういうわけにもいかないから。まあ、60〜63のあいだが一番いいですよ。でね、総合だったら10年もちますよ！

―その階級ができたら、あと10年はやっていける、と？

山本　そう。10年無敗になりますよ！

―10年無敗!?　それは凄い!!

山本　その階級ができたらね。

―2005年には『HERO'S』のミドル級チャンピオンにもなりましたけど、やはり70キロは無理がありましたかね？

山本　そりゃあそうですよ。それでも勝ったんだから凄いんだけどね。今回優勝した（JZ）カルバンだって、普段は75キロ近くあるんじゃない？

―落として70キロって感じですからね。KIDさんは大会後、カルバン選手とやりたい気持ちはあるかと聞かれて「ないです」と答えてましたけど。

山本　いまはもう階級が違うからね。やっぱり、ノリは60〜63の階級ができて、そこでやっていくのが一番だと思うよ。

―KIDさんは今回は63キロ契約とはいえ、なかなか体重が増えなくて、奥さんからの「もっと食べなさい」攻撃が凄かったみたいですけど（笑）。

山本　ホントそうですよ。ノリは体重を落として63ってわけじゃないからね。増量して63だから。だから、レスリングは60キロでやってましたからね。

―そのレスリングなんですが、19日に行なわれた世界選手権でKIDさんと同じ60キロ級の湯元（健一）選手が優勝すれば、日本代表がほぼ決定だったのが、残念ながら敗れてしまったので、結果的にKIDさんも、わずかながらチャンスが残されたみたいですね。

山本　そういう結果は関係なしに、ノリはやりますよ。

―レスリングも続けると？

山本　もちろん！　そういう結果が出たから「やろう」っていうのは相手に失礼になるしね。そんな、負けるのを待ってるような、みっともないことないですよ。

―ということは、今後は総合もレスリングも同時進行で続けていくわけですか？

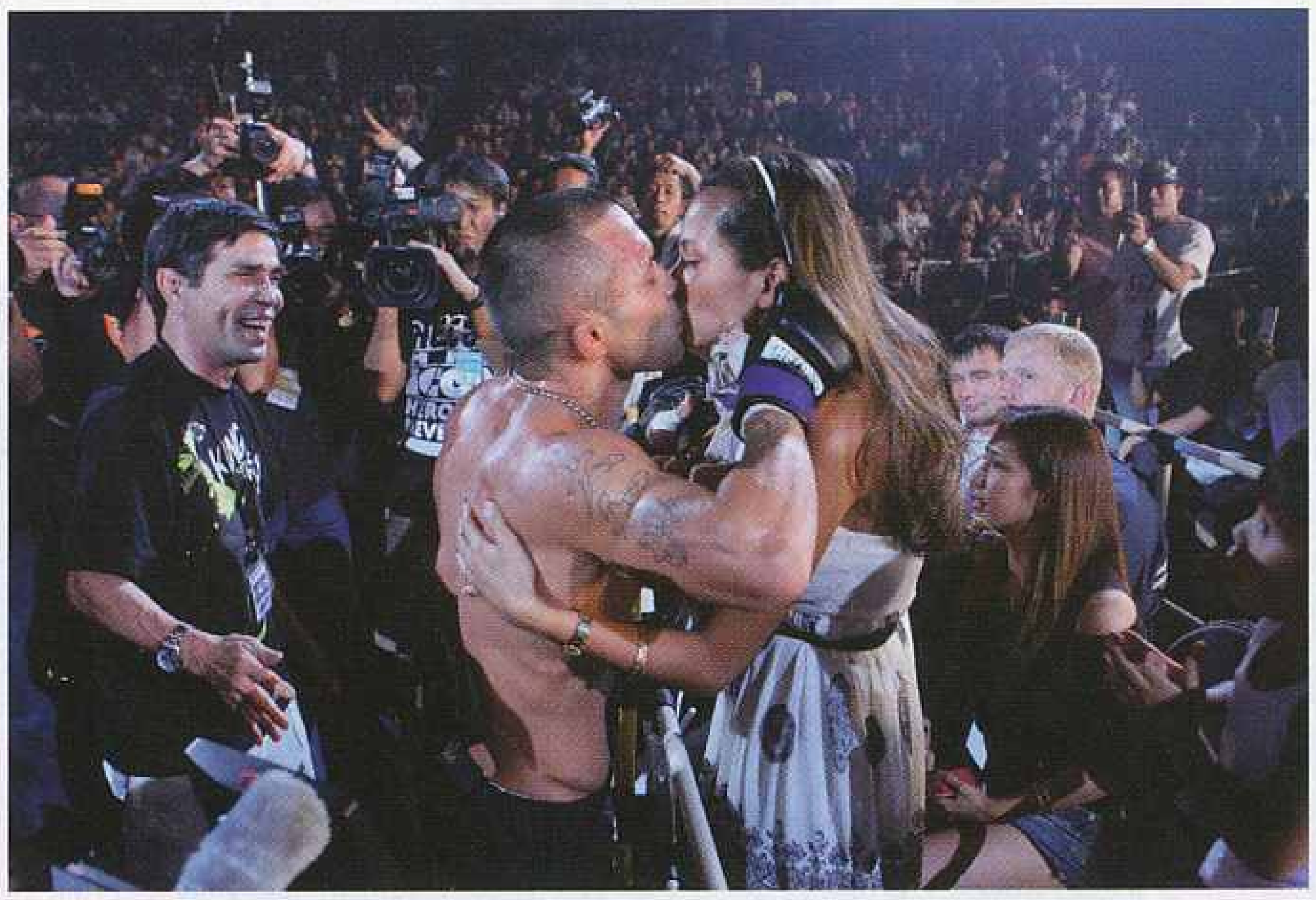
山本　やるでしょ。だってね、ノリのレスリングの実力からいったら、互角かそれ以上ですよ。日本選手の。

―ご、互角か、それ以上！　KIDさんは日本代表に選ばれるだけの実力を充分持っていると？

山本　持ってますよ！（キッパリ）。このあいだの試合は、あのタトゥーを隠すためにテーピングを巻いてやったのが原因で脱臼しただけであってね。僕の責任だから、あれは。

―あ、お父さんが巻いてあげたんですか？

60〜63キロの階級だったら、あと10年は総合のトップでやれますよ！



試合後、花道では山本美憂、聖子の姉妹が勝利を祝福。そして、KIDは今回の試合へ向け陰から支えてくれた真里有夫人に感謝のキッス。もちろん"神の子"の子どもも来場だ。KIDパパも素敵な笑顔でこれを見守っている。

山本　そう。だから、実力でいったら、ホントの互角。一緒。ヘタしたらウチの子のほうが上じゃないかな（笑）。

―"神の子"のパパがそう言うんだった、そうだと思います！（笑）。

山本　総合をやるにしてもレスリングは必要ですし、柔術も必要ですし、キックボクシングもそう。どっちみち総合をやるんだったら全部練習しなきゃいけないからね。

まあ、階級があってデカい相手とやるってなったら、それは不利ですから。でも、同じ階級であれば、プロの選手だから、どこの世界で試合してもいいと思うんですよね。

―総合、レスリング関係なくチャンスがあれば、と？

山本　そうそう。

―今回の『HERO'S』参戦決定前はUFCとかアメリカでの試合にも興味があると言ってましたからね。

山本　そうだね。ただ、いまは『HERO'S』が自分の所属みたいな感じですから。だから、対UFCとかね、そういう感覚なら出て行ってもいいと思いますね。

―『HERO'S』を背負ってUFCと対抗戦のようなかたちだったらアリと？

山本　そうですね。向こうに移るとか、契約するっていうのは、ちょっと問題ですけど。ノリは『HERO'S』で育ってるわけですから。

―そうですね。

山本　逆に言うと、ノリがいたから、『HERO'S』ができたんであって。そういう意味でも、そこに背を向けることはできないですからね。『HERO'S』を軸にしてUFCに挑戦、と。で、向こうがやらせたいっていうんだったら、やっぱりやるべきですよね。

―UFCに限らず、金網で闘いたいっていう気持ちもあるみたいですからね。

山本　そうですね。いま、なんだかんだいっても『HERO'S』ではノリの人気も高いんでね。ファンの人たちを裏切ることはできないので。あくまでも『HERO'S』を中心に年何回をUFCでやるとか、そういうことであればいいですよね。

―まあ、UFCは独占契約が基本なので、難しいところもあるみたいですけど。

山本　そうなると難しいと思うけどね。まあでも、たとえ金網でも、レスリングでも、充分通用すると思いますよ。それだけ才能を持ってますから（キッパリ）。

―お父さんの遺伝子を継いでるわけですから間違いないです！

山本　そう、遺伝子だから（笑）。ウチは全員そう。どんなスポーツだって、その競技に最も適した遺伝子を持つことが一番いいわけですから。それでいったら、格闘技ですから、ウチは。

―まさに格闘一家ですからね。

山本　こんな遺伝子は世界見渡したってないです、はい。

―なかなか、ないでしょうね。レスリングも含めて今後のKIDさんの活躍を期待してます！

山本　いろいろと視野に入れてますので、今後も応援のほう、よろしくお願いします！

【07年9月20日／電話取材にて収録】

五味、青木、そして佐藤大輔にまで本格ラブコール!
サダハルンバが“PRIDE”路線にますます拍車をかける!?

「MMA難民は



HERO'Sが大変身!?
これは驚きだ!!

ボクが救うぞお!」

FEG代表&オリンピア・イメージキャラクター(?)

谷川貞治

今回の『HERO'S』は、大会前から「『PRIDE』っぽいカードにしたいなあ～」と公言していたサダハルンバ。
当日はミノワマン、ハリトーノフらPRIDEファイターも参戦し、さらにはあの“超ビッグサプライズ”まで披露してくれたが、
はたしてその手応えは!? MMA難民救済をも宣言したサダハルンバの“驚き”の心意気を読め!

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／乾晋也

谷川　（いきなり）もう！『東スポ』は勝手に飛ばすんだから!!

――どうしたんですか？　急に（笑）。

谷川　「前田UWF軍vsヒクソン族、東京ドームで開催」だって!!（『東スポ』の一面を見せながら）。

――ダハハハハハハハハハハ！　ヒクソン族!!（笑）。

谷川　「東京ドームで内定」って書いてあるし、おまけに対抗戦のカードまで決定してる。

――あ、記事的には谷川さんが激白したことになっている。なんだ、谷川さんの仕業じゃないですか（笑）。

谷川　そんな計画なんてないよ！「やれたらいいなあ」っていうボクの中の妄想ではあるけどねえ。

――10年前なら大歓迎なんですけどね（笑）。で、今回は『HERO'S』の現実的な話を聞きたいんですけど。

谷川　はい！　昨日の大会はどうだった？

――もう衝撃的でしたね。谷川さんのコマーシャルデビューには（笑）。

谷川　んあ～!!　あれ凄いでしょ!?

――コマーシャルのキメゼリフじゃないですけど、まさに「これは驚きだ!!」ですよ（笑）。

谷川　いやね、今回の冠スポンサーであるオリンピアさんに、「パチスロのイメージキャラクターでお願いします！」って言われて。

――……ええ!?　あれって、もともと予定されていたプランが崩れて、急きょ谷川さんにおはちが回ってきたんじゃないんですか？

谷川　し、失礼だなあ！　最初からボクに白羽の矢が立ったんだよぉ!!

――「これは驚きだ!!」。失礼しました！（笑）。

谷川　ボクの役者になりたいっていう小さな希望がこれでかなえられたなあ～。でも、コマーシャルに出るっていうから、ボクの中ではてっきり二宮清純みたいにかっこよくビールを飲むのかなって思ってたんですけどねえ。

――まあ、やってる内容は『kamipro』のアプローチとほぼ変わりないですよね（笑）。

谷川　だからオリンピアさんの中に『kamipro』ファンがいるんじゃないかと思うんだよねえ。だって、やたら好きだったよ、ボクのこと。

――じゃあ、広告でもお願いしようかな（笑）。しかし、今回の『HERO'S』ってかなり複数のイメージが内包された大会だったわけですよね。谷川さんのコマーシャルに始まって（笑）、UWF、『PRIDE』、もちろんこれまでの『HERO'S』のテイストもそうですけど。



こちらが全国放送でバンバン流れたオリンピアのコマーシャル。サダハルンバが「これは驚きだ！」と演技をするさまは圧巻。いじられるのが“大好き”なサダハルンバにとって、これはまさに快感!?

谷川　まあ、全体的な感想を言うと、正直、まだこなれてないですね。ミドル級トーナメントなんかはようやくこなれてきたなあと思うけど。

――GPは今年で3度目ですし、試合は普通におもしろかったですね。

谷川　やっぱり宇野（薫）くんとか、シャオリンとか、JZとか役者が揃っていたし、試合の運び方もすべてこなれてきたような感じがしました。あと桜庭選手もやっとピントが合ってきたなって。その点、初参戦のセルゲイ・ハリトーノフとかゼルグ・〝弁慶〟・ガルシックとかはまだまだこなれてないですよね。

――なるほど。ポイントはこなれるか、どうか。

全体的には、正直まだこなれてないミドル級トーナメントや桜庭選手はようやくこなれてきましたけど

谷川　格闘技イベントって「誰でもできる」みたいに思ってる人っているじゃないですか。でも、いろんなことを研鑽していくうちに、だんだんこなれた大会になるんであって。だから、ある意味UFCもこなれてるじゃない。なんか〝UFCっぽい〟試合ばっかりでしょ!?（妙に語気を強めて）。

――なんだかトゲがある言い方ですね、やけに（笑）。

谷川　べつに批判じゃないんですよぉ！　あと大晦日が3つに分かれたとき、神戸で『INOKI　BOM-BA-YE』があったじゃないですか。あれってマッチメイクは悪くないと思うんですよ。いま思うとけっこう夢のカードもありますし。でも、何がダメだったかというと、イベントがこなれてないんですよね。そこがねえ、イベントの難しいところなんです。

――『HERO'S』の中で〝UWF〟というテーマはこなれていきそうですか？

谷川　UWFは……、船木さんがどうかわからないから、出たとこ勝負ですね！

――出たとこ勝負!!（笑）。

谷川　さっき言った〝こなれた感〟というのが、どこまで船木さんが『HERO'S』の中で溶け込めるのかがちょっとわからないから。

――船木さんにはそこがまだ見えないってことですね。

谷川　でも、へんな話、船木選手は向いてるかもしれないですね。やっぱりプロレスで育った人だからセンスはいいし、前田さんや高田さんよりも、意外とみんなが期待していることをアッサリできるかもしれない。

――谷川さんがコマーシャルでこなれるように。

谷川　……え!?　ボク、こなれてた？（照れながら）。

――ええ（笑）。こなれてるっていうか、谷川さんの場合はもうキャラが一人歩きしてますけどね。

谷川　でも、人にいじくられるの、大好きなんだよね!!（かわいらしく）。

――ワハハハ！　まあ、『HERO'S』はしばらくいろんなテーマが混じった大会になるってことですね。

谷川　だけど、来年はシステムだけはちゃんと確立しないとね。いまのままじゃ、何をやってるのかわからないって言われるだろうし、せっかくいい選手が出てても整理しないと観にくくなりますからね。その点、K－1MAXなんかはいろんな選手が出てるけど、きちんと整理されてますから。

――いまの『HERO'S』は、K－1WGPとK－1MAXを一緒にやってるような感じもしますもんね。

谷川　そこをどう観やすくしていくかというのが『HERO'S』の今後のテーマですよ。

――大会数は増やしていかないんですか？　もしくは別ブランドを立ち上げるとか。

谷川　う～ん、そこはいろいろ難しいんだよなあ。海外開催の回数はどんどん増えていくかもしれない。

――『PRIDE』が動いてない状況で、ハリトーノフのように『HERO'S』へ流れてくる選手もいますし、じつは『PRIDE』以外の格闘技団体もいつどうなるかわからない状況もあったりするじゃないですか。

谷川　ああ、いろんな話はあるよね。

――だから、『HERO'S』への依存度はもっと高くなると思いますね。

谷川　いやあ、でも、『HERO'S』は〝難民〟の受け皿にはなりませんよぉ!!（キッパリ）。

――難民キャンプにはならない（笑）。

谷川貞治

谷川　でも、頑張りますよ！　だって、猪木さんから始まって、UWFが3派に分かれて、『PRIDE』ができて……っていう流れがあるけど、ここでボクらが頑張らないとその流れもなくなっちゃいますよ。だって、いまのUFCに日本のファンの目が向くかっていったら、絶対にそうはならないし、ましてやミルコやらダン・ヘンダーソンらが負けちゃったら……、どんどん距離は遠くなるよね。

──そもそもUFCは日本で観られないですけどね（笑）。

谷川　でも、いまはまだ観ようという意思があるじゃないですか。「ミルコ、どうなったっての？」っていうのをきっかけにUFCの日時だとか、対戦相手だとか調べたり。一応そういう目線がまだあるけど、ミルコがあんなふうに負けちゃうともう観なくなっちゃう。……っていうか、ダナもさ、もうちょっと考えてマッチメイクすればいいのにねえ!!

──ズバリ言って、日本だけがマーケットではないというところはあるんでしょうね。

谷川　だから、我々は日本のために本当に襟を正してやらないといけない意識はあります。

──そういえば、昨日の会場には『PRIDE』のファンってけっこういましたよね。

谷川　あ、そうそう。昨日は当日券が1000枚以上売れたんですよ。それって、これまでの『HERO'S』にない数字だったから、たぶん『PRIDE』ファンが観に来てたんだと思います。

──じゃあ、やっぱりいまの『HERO'S』に必要なのは『PRIDE』っぽさなんですかね。

谷川　そう思うし、さっきの〝難民〟の話でいうと、選手の〝難民〟を受け入れる気持ちはないんですけど、ファンの〝難民〟はなんとかしてあげたいと思います。ファンの〝難民〟がいなくなったらこの文化自体が途切れちゃうもんね。永遠と続いた大河ドラマが『HERO'S』で終わっちゃったら……。ボク、敗戦処理投手になるの、ヤダよぉ!!

──ダハハハ！「ヤダよぉ!!」と言われても（笑）。

谷川　だから今日の会見で、選手のほうから「五味と闘いたい」とか「ヒョードルとやらせろ」とかいう名前が出ることは凄くいいことですよね。ファンの興味が膨らみます。

──そのヒョードルですけど、手は出せそうでしょうか？

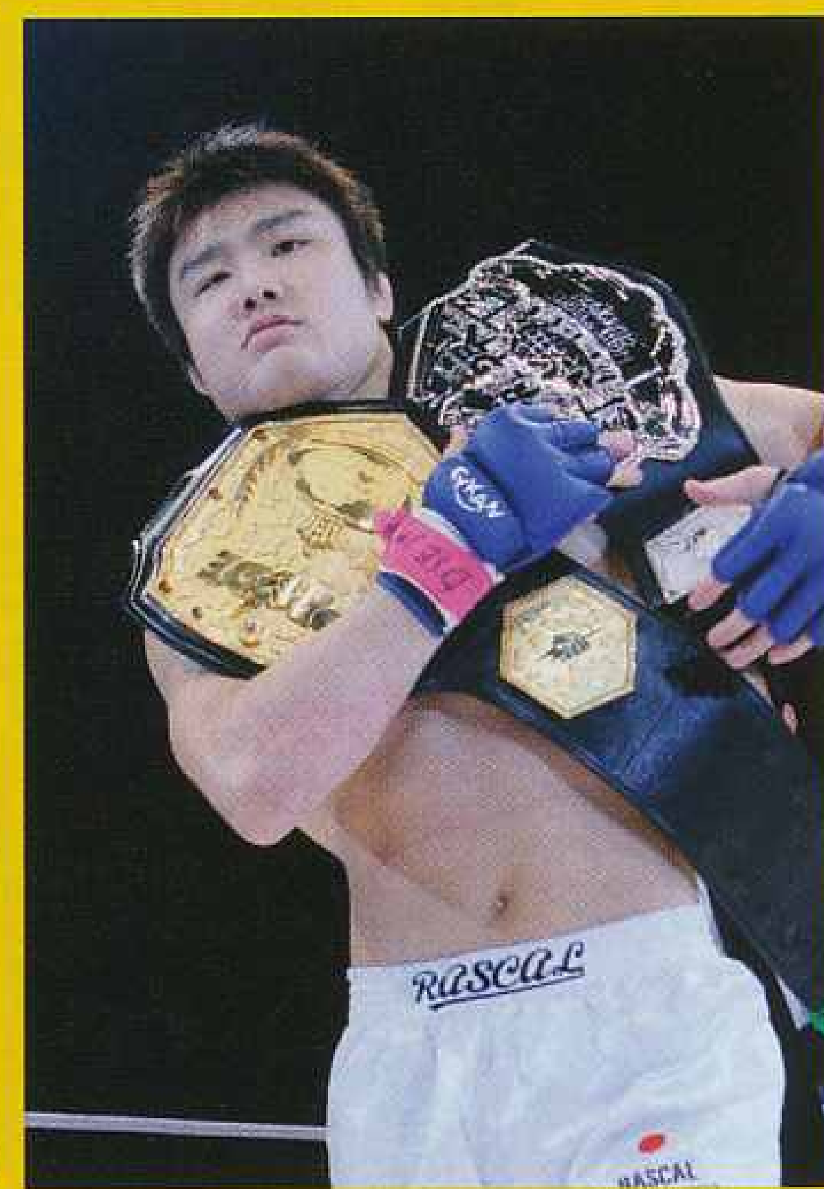
谷川　正直な話、本当に話はきてます。でも、難しいですよねえ。（ファイトマネーの）ケタが違うんで。

──ヒョードルは特別でしょうけど、相対的に見てもやっぱり『PRIDE』の選手って高いですか？

谷川　メチャクチャ高いよぉ!!　K─1の選手より『PRIDE』の選手のほうが高いです。まあ『PRIDE』の選手よりUFCの選手が高いのは間違いないけど。

いきなり、カルバンvs五味ってねえ それだったら青木選手と 闘わせてみたいんだけどなあ～





ミドル級王者のJ.Z.カルバンから「連れてこい！」と名前が挙がった五味と青木だが、谷川氏もまんざらではない様子。今年の『Dynamite!!』あたりで、二人の姿が観られるかもしれない!?

──そこで無理して取ろうと思わないですか？

谷川　ボクは「いらないものはいらない」って言うし、「ヒョードルやノゲイラよりも、ボクのほうが最強だ！」って言っちゃうタイプだからなあ。

──逆に、谷川さんが「高くても金は払う！」っていう選手っています？

谷川　（即答で）佐藤大輔！

──選手を飛び越えて〝煽りVアーティスト〟（笑）。

谷川　ボクのところに来てほしいなあ、佐藤大輔。ってゆーかさあ、ボク、アイツに格闘技のイロハを教えてあげた一人なんですよ。言ってみれば、ボクの弟子ですよ！

──ターザン山本！　みたいな発想だ（笑）。佐藤大輔獲得の手応えはありますか？

谷川　全然ない!!（キッパリ）。まったくない。なんとかしたいなあ。あと、選手でいえば、魅力的な人は何人もいますし、流れの早い総合格闘技の中で、押さえておかないとなっていうのもありますけど……。

──五味選手はどうですか？　カルバン戦の機運は高まってますけど。

谷川　う～ん。プロデューサーとして言えば、いきなりカルバンvs五味ってどうかと思うんですよね。その場はいいですよ、その場は。

──たしかに五味選手が勝ったらそこで終わっちゃいますよね。KID選手とは階級が違うから闘うことはないだろうし。

谷川「次、どうするの？」って話でしょ。五味選手が来るんだったら、○○○○○○○○○○○○○○○○○○がおもしろいと思うんですよね。

──なるほど、なるほど。

谷川　そのほうが絶対にスターになると思うんだよなあ。で、JZだったら青木（真也）選手とやらせたいですよね。青木選手みたいなタイプって、世界中を見渡してもいないし、彼の試合をテレビで流したらみんなビックリすると思うんですよ。

──あそこまで寝技で見せることができる選手はいませんからね。

谷川　青木選手とジダの試合も観たいし、マルセロ・ガッシアとやらせてもおもしろい。中量級で一番興味あるのは青木選手かもしれないですね。

──いいですね、〝恋人〟がいっぱいいて（笑）。

谷川　そうそう。話は変わるけど、昨日の大会を観て思ったのはさあ、金を持ってないヤツはいいよねえ～。

──突然、なんですか、その上から目線は（笑）。

谷川　つまり、ジダのハングリー精神とか凄いじゃないですか！「俺はここでスターになるんだ!!」というかさ。やっぱり格闘技ってハングリーじゃないとダメなんだよねえ。

──観ていて気持ちがいい選手ではありますよね。

谷川　ジダの芯の強さってそこしかないもんね。そういう選手って緊張感も伝わってくるからさ。でも、ある



いまサダハルンバが最も思いを寄せている男が佐藤大輔だが、現在そのラブコールは見送られているようである。

谷川貞治

程度、地位も名誉もお金も手に入れると、「自分の立場を守っていい試合をしないと」っていう感覚に陥っちゃうじゃないですか。這い上がろう!!っていう精神が見えないですよね。だから『PRIDE』からUFCに移った選手が勝てない理由はそこだと思いますよ。

——ああ、なるほど。

谷川　『PRIDE』に来たときのミルコにはハングリーさがあったけど、いまは感じないもんね。それは、いまのヴァンダレイにも感じない。『PRIDE』に来たときのヴァンダレイは凄かったもん！　銃で撃っても死なないような感じがしましたもんね。

——そういう意味ではKID選手の相手のビビアーノ（・フェルナンデス）はよかったですよね。

谷川　うん。ボクもKIDくんも、とにかく強い選手を探そうってことでビビアーノになったんですよね。ここで甘い相手を当てちゃうと、「FEGは所英男にも甘いなあ、KIDにも甘いなあ」って思われるし、そこ一点だけで〝『PRIDE』っぽさ〟がなくなっちゃいますから。でも、ヒクソンはビビアーノをずっと応援してましたしね。

——へえ〜、そうなんですか。

谷川　ヒクソンは「トータルではKIDが試合を支配していたけど、絶対的なピンチに追い込んだ回数だったらビビアーノのほうが多い」って言ってましたし。

——ちなみに、そのヒクソンにはハングリー精神は感じますか？

谷川　いやあ、いまのヒクソンは単純に試合をしたくてしょうがないんだろうなってのは凄く感じてますけどね。だって、普通だったらリングに上がってマイクであんなに長くしゃべったりしないですよ。それにさあ、『HERO'S』のことを「いい大会だった」ってほめてくれたんだよ。「『PRIDE』が動いてないいま、こういうイベントができるのは『HERO'S』だけだ」って。だって、UFCなんて大会としてはメインが始まるまでいいかげんですもんね！　ダラダラダラダラ、試合をしてるしさあ！

——PPV主導だからでしょうね。しかし、最近の谷川さんってUFCへの悪口が本当に凄いですね（笑）。会見で「あんなにつまらないものを！」ってよく言ってるって聞きますし。

谷川　そう？　気をつけないと。でも本当におもしろいと思わないんだもん。押さえつけて殴るだけでしょ。みんな同じ闘い方だしさ。あれは総合格闘技をつまらなくしているよ!!

——ちょっと前までモンスター路線を主導していたとは思えない熱さ！

谷川　よっ、サダハルンバ!!（笑）。

谷川　でもね、ヒクソンと話したときに、彼はUFCのことを「それはそれで意味があることだ」って言ってましたよ。競技として確立されているのもわかるし、金網で闘うことで強くなる部分もあるって。それに、自分だったら金網に押さえつけられても驚く手でひっくり返せるってことも言ってました。

——前田日明みたいなことを言いますね（笑）。

谷川　なんでそんな自信があるかっていったら、彼は16〜17歳から試合をしてるらしいんですけど、一度も審判の手によって勝敗が決まったことがないって。

——つまり、全部一本勝ちってことですね。

谷川　だから、UFCのルールがダメなんじゃなくて、判定に委ねようとする精神がダメなんだって言ってましたね。『Dynamite!! USA』でやったサクちゃんとホイスの試合にはガッカリしてましたよね。

——とくにホイスからは、グレイシー特有の「試合とは決闘である」というこだわりは消えてましたね。

谷川　まあ、ヒクソンに関しては、本人が闘いたい気持ちは聞けたんで、あとはもっと具体的に話さなきゃいけないですね。でも、どちらかというと今回はヒクソンのほうが積極的なんですよ。

——そういう意味ではヒクソンも〝難民〟なんですかね？

谷川　う〜ん。まあ、どっかで試合をしたいんでしょう。もう48歳だし。

——あと〝難民〟といえば、秋山選手ですよね。最近、各方面に手紙を送ってるみたいですけど（笑）。

谷川　秋山選手に関しては大晦日の前に試合をさせたいなと思ってるんですけどね。

——復帰戦をやるとしたら10月末に予定されてる『HERO'S』韓国大会ですか？

谷川　そこが濃厚ですけどね。秋山くんは日本ではバッシングされてますけど、韓国では大歓迎でしょうから。ボクも期待してる選手なんで、復帰に向けていろいろやりたいなって思ってます。そこにUWF軍や『PRIDE』も絡んでくるでしょうし。ま、そういう意味ではFEGもタマがたくさんあるなあって感じですよね。

——でも、一番ほしいのは佐藤大輔なんですよね。

谷川　そう!!　来てくれないかなあ。

——要するに、『HERO'S』ってリング周辺の環境整備が最も問われるわけですよね。レフェリング問題も毎大会の恒例になっていますし。

谷川　そうかもしれないですね。試合もいいし、タマ（選手）は揃っているんだから。そこはしっかりやらないとね。

——じゃあ、谷川さんの大好きな島田裕二という〝レフェリー難民〟は受け入れないんですか？

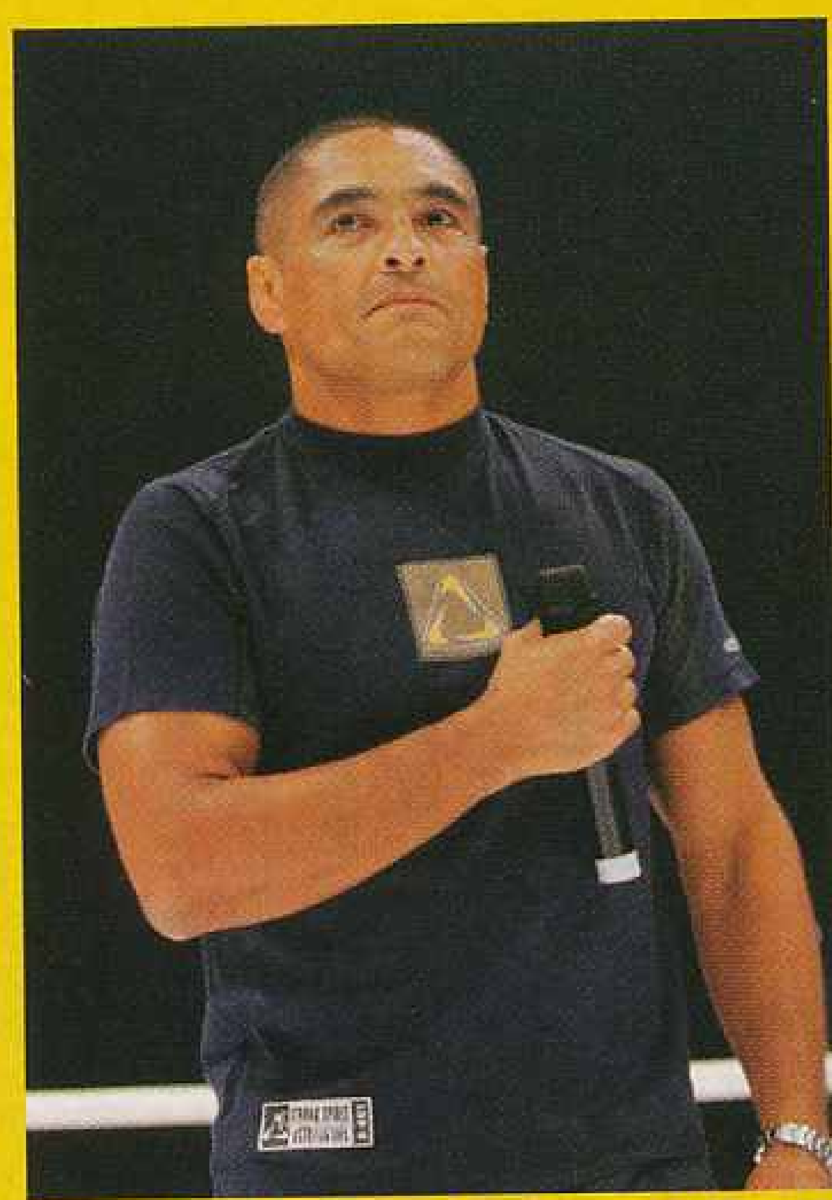
谷川　それはいらない!!（キッパリ）。野口（大輔）くんならいつでも大歓迎だけど、『HERO'S』は公明正大な格闘技団体を目指していきたいんで！

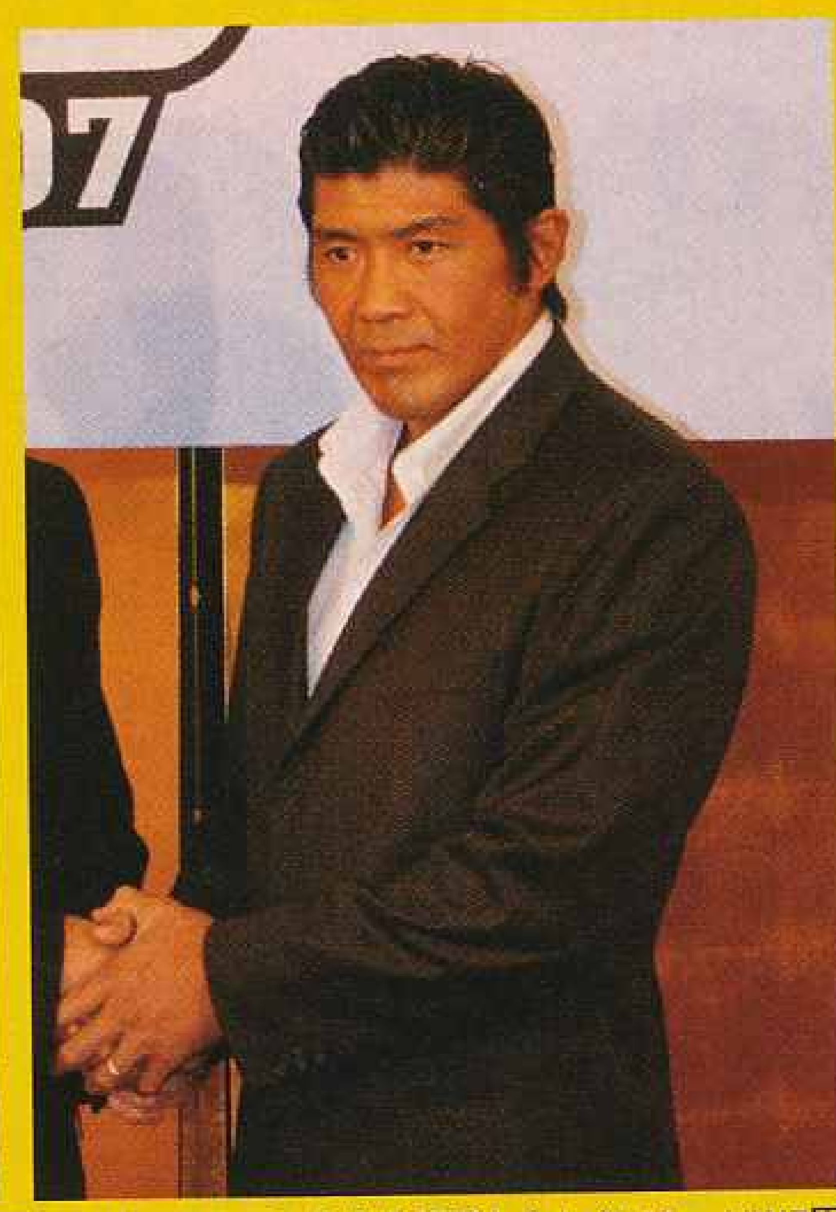
——公明正大！「これは驚きだ!!」（笑）。

谷川　アイツだけは絶対に許さないぞぉ!!

【07年9月18日／横浜・某ホテルにて収録】

KIDくんに甘い相手を当てちゃうと そこ一点だけで"PRIDEっぽさ"が なくなっちゃいますから





「もう一戦、素晴らしい闘いを見せる力は残っています」と『HERO'S』参戦を示唆したヒクソン。UWF軍やヒクソン族の闘いは、はたしてちゃんと『HERO'S』で"こなれる"のだろうか……!?



10.28『HERO'S』韓国大会での復帰戦が噂される秋山。IGFばりの"手紙"が予想以上に効力を発揮した!?



HERO'Sには"真"のUイズムが足りない!!

単なる"おニャン子再結成"は見たくない!!
9.17『HERO'S』座談会

長らくマット界を牽引してきた『PRIDE』の沈黙によって、停滞ムードが高まる日本MMAシーンを背負うことになった『HERO'S』。そのため注目を集めた9.17横浜アリーナ大会から見えたものは、決して谷川代表のコマーシャルだけではないはすだ（あたりまえ）。というわけで、本誌編集部が"変態"的視点から『HERO'S』を語る!!

原タコヤキ君（以下、タコ）　さあ〜、今回は『HERO'S』を語るで〜!!　さっそく編集長の感想から聞こうか？

――いや〜、それが諸事情でボクは会場ではほとんど観られてないんですね。

タコ　なんや。出鼻をくじくなあ。

――テレビでは観ましたけど、現場でちゃんと観たのは後半の3試合だけ。しかもサクの〝入浴〟煽りVから（笑）。

ガンツ　ああ、なぜか佐藤大輔さんが作ったんじゃないかと一部ファンから疑われた、〝大爆笑〟の煽りVね。翌日、大輔さん本人から「断じて俺じゃない!!」という連絡がありましたので、彼の名誉のためにもここで否定しておきます（笑）。

――というわけで、現場でしっかりと観戦していたお二人に『HERO'S』の感想をお聞きします。

タコ　まあ、全体的にはかなりおもしろいイベントやったんじゃないですか。

ガンツ　ミドル級トーナメントをはじめ、いい試合が多かったですよね。

タコ　ただ……。

ガンツ　ただ？

タコ　途中、何度かウトウトとしてしまったけど。

ガンツ　また！　タコ兄さんはターザン山本！さんの次に会場で寝てますよ！

タコ　そんなことないわ!!

――しかし、一気に説得力を失なったなあ。本当におもしろかったんですかね、『HERO'S』（笑）。

タコ　いや、個々の試合はホンマにおもしろかったよ！　だからこそね、「『HERO'S』は何を見せるリングなのか？」っていう全体のテーマが問われてくると思ったけど。

ガンツ　粒揃いではあるんだけど、幕の内弁当的というか、〝プチDynamite!!〟という感じがしましたね。

タコ　そやなぁ、プチ・オールスター戦って感じやわな。

ガンツ　サクがいる、KIDがいる、『PRIDE』の選手も出てる。船木やヒクソンも来てますよって感じで。

――「ヒョードルに勝てる！」っておなじみのヒクソンですね（笑）。

ガンツ　いまやヒクソンは、I編集長の「俺だって勝てますよ!!」節の正当後継者だよね（笑）。ま、そういった幕の内的お得感はあったけど、そのおかげでミドル級トーナメントや、山本KIDという〝旬な素材〟が埋もれてしまった感が少しあるのが、残念というか、もったいないな、という気はしましたね。

タコ　でも、今回は〝PRIDE味〟のおかず目当ての客が多かったんちゃう？　サクが『HERO'S』初登場のときはシーンとしてたのに、今回のミノワマンは入場のときから大歓声だったし、『PRIDE』ファンが相当来てたんかなと思ったけど。

ガンツ　そうですね。サクへの声援もいつもの『HERO'S』と比べて大きかったというのも、そのせいかもしれない。まあ、ミノワマンに関しては驚くほど『HERO'S』という舞台に違和感がなかったですよね。曙が『ハッスル』にいてもまったく違和感がないように（笑）。

――場内には、再開しない『PRIDE』のぶんも『HERO'S』に期待したいというムードがあったんですか？

タコ　う〜ん。今回はおもしろかったけど、まだそこまでの期待感はないよね。

ガンツ　そこはこれからなんじゃないですか。これまでの『HERO'S』は視聴率獲得という遠心力に極端に比重を置いてきたけど、今回から若干、求心力対策に方向転換したばかりですし。

タコ　『HERO'S』は『PRIDE』と違って最初から地上波で流してるわけやから、認知度としては充分にあるはずなんやけどね。

――というか『HERO'S』よりも、所（英男）くんの名前のほうが浸透してたりしますね。

タコ　そうそう。『HERO'S』って「所英男ってフリーターの子やろ？」とか「山本KIDがさ……」とか、イベントとしてよりも選手個人の話題に終始しちゃうよね。

ガンツ　だから『HERO'S』というイベント自体に明確なコンセプトというか、〝人格〟がないままここまできちゃったんですよ。だって、もともとは上井（二三彦）さんのプロデュース興行として始まったんですからね（笑）。

――そうだ！　そもそもは上井さんが始めたことになってたんだ（笑）。

ガンツ　FEGはあくまでも選手を貸し出すだけで、上井さんのイベントって、当初は発表されてたんだから（笑）。

タコ　スタートの時点からしてロマンがないなあ。あのね、K―1にしたって、いまにしたら若干勢いが落ちてきたイベントに見えるけど、『PRIDE』以上にロマンを持って始まってるんだからね。

ガンツ　立ち技のヘビー級世界最強を決めるというコンセプトをもとにスタートして。K―1 MAXだって魔娑斗を中心に人材が揃っていた中・軽量級に光を当てようとしたし、やりたいことが明確にあったんですよ。

タコ　そういえばさ、なんか『HERO'S』

［座談会出席者］

原タコヤキ君
元・本誌編集部。元・カリスマ司会者、現・セクハラ音楽プロデューサー。山口日昇の影響で高級時計収集に目覚めた37歳。

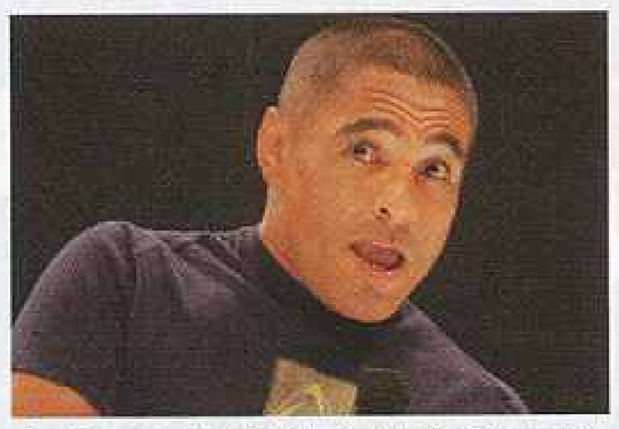
堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃい頃から変態的プロレスファン＆UWF信者として鳴らし、本誌入社後はUWF研究家を自称する34歳。

ジャン斉藤（司会）
本誌編集長。雀鬼・桜井章一の内弟子を経てkamipro入り。永久電機などのアントン事業の調査をライフワークとする32歳。

の前にもK—1のMMAイベントってあったよね？ なんやったっけ？
——『K—1 ROMANEX 格闘技世界一決定戦』。
タコ ほら、名前からしてロマンがないじゃない!! （笑）。
ガンツ 一回で終わりましたけど（笑）。それで次に始まった『HERO'S』にはボブ・サップがいて、秋山成勲がいて、K—1ファイターがいて、中・軽量級のスターがいて、オープニングの挨拶は前田日明。最初から幕の内弁当的になるのはしょうがなかったんですよ。
タコ でもさ、KIDや須藤元気には『PRIDE』と違うおもしろさがあったやん。
ガンツ 最近、『HERO'S』に『PRIDE』っぽさが必要なんて言われてますけど、KIDや元気は、いい意味で『PRIDE』っぽくなかったんですよね。そこに所英男を加えて、まさに総合版K—1 MAX的な世界ができてたんですけど、元気が引退、KIDが戦線を離れて桜庭が加わったことで、また幕の内的になってきちゃった。
タコ そう考えると、やっぱりイベントとしてどうしていくかをハッキリしたほうがいいよね。『PRIDE』だと膠着したり、しょっぱい試合が並んでても、なんとなく「今日の興行は、これはこれで『PRIDE』らしいよな」ってなるでしょ。『HERO'S』にも、その〝らしさ〟が見えたらええんやけど。
ガンツ だから、あの山本KIDですら埋もれちゃったのは、KIDがスッキリ勝たなかったからじゃないんだろうね。
——そこで『HERO'S』がより厄介なのは、階級の違いじゃなくて、TBSの思惑やFEGの戦略、UWFや『PRIDE』という概念が捻れ現象を起こしてるってことですよ。
タコ そうそう。それにさ、Uの思想の前に、『HERO'S』には前田日明の存在自体が馴染んでへんねん。それなのにゴッチさんの10カウントやられても俺だって消化できへんよ。
ガンツ オープニングで前田日明が「カール・ゴッチの遺志を継ぐ者たちの入場です!!」って紹介して、最初にKIDが登場してくるんですからね（笑）。
タコ どこがゴッチの遺志やねん！ （笑）。あれにはひっくり返りました。
ガンツ そして前田にしてもゴッチにしてもテレビでは一切触れられていない。大会前に記者会見では煽っていたヴォルク・ハンやハリトーノフもそう。この捻れ現象はどうにかしてほしいですよねえ。
タコ 『PRIDE』はそれこそUからの地続きで生まれたイベントやし、イベント側もマスコミもその概念を伝えようとしたでしょ。『HERO'S』はテレビでやっていることと興行で伝えてることが大きく違うんやもん。UWFとか過去のものを商売にする気やったら、もっと丁寧にやったほうがファンは喜ぶよ。
ガンツ それでボクが『HERO'S』のUWFに乗れないのは、まったくUWFの理念を感じられないからなんですよ。簡単に言うと、目の前の巨大な敵と闘わないで、身内だけでやろうとしている。それはUWFの理念に反しますよ！
タコ この時代にUWFにここまで熱くなっているのはおまえだけや（笑）。
ガンツ （無視して）U系vsグレイシー一族って、7〜8年前にもありますけど、あのときは桜庭、田村、船木といった別団体の選手たちが、それぞれ微妙に影響し合いながらプロレスやUWFを守るために巨大な外敵であるグレイシー一族と直接勝負していたところにロマンを感じて燃えてたわけじゃないですか。ところが、いまはプロレスやUを守るという大義ではなく、自分たちの地位を守るためにU系やグレイシーの中だけで闘おうとしてる。ハッキリ言ってあれは、Uとグレイシーによる〝互助会〟ですよ！
——ちょっと前に北岡悟が船木に対戦表明したじゃないですか。その試合はべつに観たくないけど、北岡のほうがUっぽかったですね。あの若気の至りは。
タコ 「ボクと真剣勝負してください！」っちゅう、プチ田村潔司やな。
ガンツ UWFっていうのは、「プロレスから格闘技へ」という運動であり、もう一つは、〝格〟の論理で上に立っているメインイベンターに「ノー！」を突きつけることだったわけじゃないですか。身体が動かなくなったアントニオ猪木がトップでいいのか？ と名前だけの世界を否定したのがUWF。そのUWFが3派に分かれたあとも、「Uに年功序列や格があっちゃいけない」ということで純度を高めていったわけじゃない。それなのに、いま『HERO'S』で〝U〟と言われるものや、グレイシーっていうのは、かつて否定したアントニオ猪木と一緒でしょ？ ホントにUが好きなら、こんなUは乗れませんよ、アンタ！ （ドンッ）。
——ちょっと落ち着いてください（笑）。
タコ （さえぎって）でも、それはわかるね！ つまり、セックス・ピストルズ再結成みたいなもんでね、ピストルズの場合は「金儲けのためだろ！ 何がパンクだ！」って批判されたけど、メンバーが「我々には共通の目的ができた。それは金だ！」っていうセリフを吐いてくれるから、ファンは救われたところがあったんでしょ？ また今年も再結成するみたいやけど（笑）。でも、『HERO'S』のUWFには「ロマンのために！」っていう雰囲気でしょ。それは「おい、ちょっと待て!!」って言いたなるわな。
ガンツ まあ、ピストルズの再結成ならまだ美しいと思うんですけど、なんか今回のは、〝おニャン子再結成〟みたいなんだよなぁ。40歳のおニャン子に再結成されても困るでしょ？
タコ でも、おニャン子クラブのDVDボックスとか売れたらしいやん。
ガンツ それは10代の頃の映像を集めたヤツじゃないですか。40歳のおニャン子DVD5枚組とか買います？
タコ そら買わんわ（笑）。
ガンツ だから桜庭vsヒクソン・グレイシーとか、桜庭vs船木とか言われても、非常に微妙な気持ちなんですよ。「観たいか、観たくないか」と言われれば、観たいし、絶対に観に行くと思うんですよ。
タコ 俺も観るな〜。
ガンツ でも、観たいけど観たくないというか……。なんか昔好きだったアイドルが40歳になってヌード写真集出しちゃったというか（笑）。
——要するに、脱ぐんだったらもっと早く脱いでくれ、と（笑）。
ガンツ ホントそう！ そりゃ見たいよ。その写真集買っちゃうよ！ でも、いまさら脱がないでくれよ、もう……。
——ダハハハハハハ！
タコ でもそういう商売の仕方は、どんなジャンルにでもあることやから、ビジネスとしては絶対に活性化するやろうし、我々もなんだかんだ言いながら金を払っちゃうからね。
ガンツ だから桜庭vs船木みたいなレジェンドマッチはあっていいし、大きな売りにはなると思うけど、それがメインストリームになっちゃったら、『HERO'S』にとっても、日本の格闘技界にとってもよくないと思うんですよ。
——カルバンやジダみたいな、若くて強い選手にスポットが当たらないのは、本当にもったいないですよね。
ガンツ 『HERO'S』の理想は、KIDを中心にした軽量級やカルバン、ジダの中量級という、旬な選手たちの試合が並ぶ中に、桜庭のレジェンドマッチが一試合ある感じかな。

“ヒクソン族”とゴッチさんが同居する9.17『HERO'S』のダイジェストです!!


本部席には先日お亡くなりになった“プロレスの神様”カール・ゴッチさんの遺影が置かれた。前田日明SVはオープニングの挨拶でその功績を称え、「カール・ゴッチ先生！ ありがとうございました!!」と絶叫！


ミノワマンと対戦したケビンのセコンドとして、ヒクソン・グレイシーさん（48歳）が来日。あいかわらずのズンドコ発言連発で本誌編集部をたいへん楽しませてくれました。ボクらも“ヒクソン族”に入りた〜い！


『HERO'S』常連外国人メルヴィン・マヌーフは、パンクラスの川村亮を破ったシュートボクセのファビオ・シウバと対戦。スタンドの打撃でダウンを奪い、そのままパウンドで秒殺勝利!! 野獣対決を制した。ウガー！


ユン・ドンシクとセルグ・“弁慶”・ガルシックの“元PRIDEファイター”同士の対決は、成長著しいユンがあっさり一本勝ち。ユンにとって地元開催となる10.28『HERO'S』韓国大会では、主人公の一人として参戦は確実。


ミノワマンはどこへ行ってもミノワマン！ 独自の世界観をブレることなく『HERO'S』で披露。試合はケビン・ケーシーに苦戦したが逆転KO勝利。試合後恒例のSRF8回で、場内はあたりまえに盛り上がった!!



——昔のK—1ってそのへんがうまかったんですよね。K—3GPの中に角田信朗vsジョー・サンがあったり、ハイレベルなK—1GPの中に一人ボブ・サップという異分子がいたり。『PRIDE』だって、シリアスな中に一人、ミノワマンみたいな選手が紛れ込んでたから、相互作用で爆発してたわけですよね。

ガンツ　新聞の見出しを取るためにはビッグネームが必要なんでしょうけど、このまま〝互助会〟会員が増えていったら、おばさんばっかりで下が育たない女子プロレスみたいになっちゃいますよ。もしくは〝レジェンド軍〟が猛威を振るう新日本プロレスというか（笑）。

タコ　そら、あかんわ（笑）。

ガンツ　前田スーパーバイザーにしても、元・前田日明ファンとして言わせてもらえば、いまこそリングスKOKトーナメントみたいなものを開催するチャンスだと思うんですけどね。

タコ　ガンツ、いまの時代に「リングス復活」をうたう時点でいまだに立派な前田ファンや！（笑）。

ガンツ（無視して）いまMMAの選手はたくさんいるけども、上がれるリングや金になるリングは限られてるわけですよ。そうしたら、まったく無名の選手を世界中から集めて代々木第二とかでトーナメントをやったら、きっと凄くおもしろいイベントになると思うんですよね。その優勝者がKIDと闘うとか、前田日明からの刺客として『HERO'S』に出ればいい。そういうふうにいろいろ可能性は広がるんです。だから、前田と縁もゆかりもない人たちの中で偉そうにして、「彼はちょっとスパーリングが足りないね」とか毎度同じこと言ってる場合じゃないでしょうが!!（ドン）。

タコ「リングス復活」ねぇ……。ズバリ言うと、俺はいまの前田日明にそういったロマンを求めてええのかなと思ってしまうな。だってガンツの思うような前田日明だったら、いまのスーパーバイザーのままで『HERO'S』におると思う？

ガンツ　いないでしょうね。だから、会費2万円の「リングス・ファンミーティング」なんてやってないで、立ち上がってほしいんですよね。

——お二人の前田日明LOVEはよくわかりましたので話を進めます（笑）。今回の桜庭は安心して見られたという反響は多いですよね。〝UWF互助会〟のよさはあったんじゃないですかね。

ガンツ　そこは複雑なんだよねえ……。サクに関しては「これでよかったのかな……」っていうかさ。MMA3戦目の柴田に勝っただけで「桜庭復活！」とか「よみがえった伝説」なんて言うのはサクに失礼すぎるけど、ひさしぶりに動きが良かったし、柴田相手に道場での〝いじめスパー〟みたいな嫌らしい強さも見られて良かったと思うんですよ。ただ、この柴田戦が発表前の段階では、デニス・カーン戦っていう噂を聞いてたんですね。

タコ　それは『PRIDE』っぽいな。

ガンツ　サク本人が「デニス・カーンとやる!!」って言っていたとしたら、『PRIDE』っぽいというか、凄くサクらしいと思ったんですよね。もしかしたらヒドイ目に遭うかもしれないけど、強いヤツと闘いたいっていう、『PRIDE』後期のあの締めつけられるような緊張感があっただろうなって。

タコ　う〜ん、もしデニス・カーンとやるとしたら、オレは会場へ行ってへんやろうなあ……。オレからしたらね、今回の柴田戦すら「サクは負けるんちゃうか？」と思ってドキドキしながら観てたから。だから勝ったときは「ああ、よかったわ〜」って一安心したもん。

ガンツ　でも、ハッピーエンドが保証されてない、バッドエンドの危険性が高いけれども、高いからこそ応援する、それが『PRIDE』っぽさだったりするんじゃないですか。髙田vsヒクソン、小川vsヒョードル、桜庭vsシウバ、みんなそうだったじゃないですか。



ここ数年で最も“サクっぽい”動きを見せた桜庭和志。『PRIDE』で圧倒的現実に苦しむサクを見届けてきた関係者やファンからすれば、いまサクの試合に求めるものは“安心”なのかもしれない。

——その『PRIDE』っぽさというのは、存在を懸けた闘いということですよね。で、両者のドラマが合わさると〝存在の消し合い〟になるという。

タコ「負けたら何を失なうのか？」ということね。政治的なこと言うと身もフタもないけど、さいちんの言う〝存在の消し合い〟って、それは〝存在の消し合いに見える〟だけやんか。だって『PRIDE』も多くの選手と複数回契約してるわけやから、たとえ負けても次の試合があるわけでしょ。だから、それは佐藤さんの煽りVを含めて「この試合を落としたらえらいことになる!!」っていう見せ方を、スタッフ、ブレーンが必死になって演出していたというわけですよ。

——そうなんですよ。やっぱり見せ方は重要ですよ。前にも言いましたけど、突き詰めると『PRIDE』もK—1も売りものは一緒だと思うんですよね。どう店頭に並べるかが問われてくるのであって。たとえば、ここでまたJZカルバンをK—1 MAXに出して、そこで負けたり、格の差が見えちゃうと、いくら別ジャンルとはいえ存在感は軽くなりますよ。

タコ　逆のパターンでも同じやな。ピーター・アーツが総合にヒョッコリ出て負けると、K—1でもな〜んか軽く感じてしまうもんね。

——そのジャンルの中で純化させるというか、存在を高めていかないと〝消し合い〟にまでには至らないんでしょうね。

タコ　勝っても負けても値打ちがなくなるちゅうことや。

——でも、『HERO'S』にも〝存在の消し合い〟の刺激はあるはずですよ。今回の宇野くんだって、我々が想像しているよりプレッシャーはあったはずですし。

タコ　それを浮かび上がらせることができれば、もっとおもしろいはずだよね、『HERO'S』って。

ガンツ　やっぱり、格闘技において〝負け〟というのは一番の商売になるんですよ。「この人が負けちゃうんだ!!」っていう闘いが一番、興奮する。我々が『PRIDE』の何にシビレたかといえば、「ここで絶対に負けられない!!」試合を組むところじゃないですか。

タコ　とくに日本の格闘技なんかそうやもんね。負けたヤツのドラマは日本人のメンタリティに合うしさ。

ガンツ『PRIDE』はそのストーリーを見せていくんですよ。で、UFCが厳しいのは、負けたら「はい、負けましたね」で終わっちゃうこと。

HERO'Sには“真”のUWFイズムが足りない!!

——UFCはもっとドライというか。

ガンツ　そこはアメリカ的なビジネスの仕方なのかもしれない。日本人はいちいち敗者の美学にこだわるけど、向こうからしたら「負けたらうしろに並んでください」という世界だし。で、「こいつに負けたら大変だ」っていう重みが『PRIDE』らしさだったり格闘技らしさだとしたら、『HERO'S』で一番『PRIDE』らしさを出せるのは、桜庭vs秋山なのかもしれないですね。

タコ　それはシビレるな〜!!『PRIDE』でもそれだけの重みはないで!!

ガンツ　桜庭にとって秋山というのは田村以上に負けちゃいけない相手になったんですよ。桜庭と秋山の因縁って、桜庭vs田村の意義を無効にするほどのキラーカードなんですよね。

タコ　まさに〝存在の消し合い〟やなあ……。

——しかし、その一戦がもし実現したら、みんな全力で桜庭を応援しますよ！　いまなんだがボンヤリと応援してるじゃないですか。「桜庭がヒドイ目に遭わないでほしい」くらいの姿勢で。

タコ　サクを観る視線も揺らいでるねん。UWFなのか、『PRIDE』なのか、まったく新しい価値観なのか。観る側のためにも整理しないといけないな。

ガンツ　まあ、かつてのUWF vsグレイシーも『PRIDE』も本質は同じはずなんですけどね。前に立ちはだかる巨大な敵にその存在を懸けて挑戦する。『HERO'S』に足りないのは、じつは本物のUWFイズムですよ！

——ええ。二人は前田日明やUWFが好きだということがわかりました（笑）。

【07年9月18日／kamipro編集部にて収録】



HERO'Sの理想形がここにある!?

中・軽量級王国

WEC

WORLD EXTREME CAGEFIGHTING

1 ブチ抜き15ページ大特集



現在、海の向こうのUFCが大ブレイク中だということは聡明なる『kamipro』読者の皆さんなら説明不要かと思うが、もう一つブレイク中のイベントがあるのはご存知だろうか？　そのイベント名はWEC。UFCと同じくズッファ社傘下の中・軽量級中心の大会であるWECは『PRIDE』と同様、昨年12月に買収されるもUFCの下部組織になることもなく、現在も独立したイベントとして成功を収めている。そんなWECをブチ抜き15ページで大特集だって！

構成／阿修羅チョロ



ブレイクしてるのはUFCだけじゃない!
中・軽量級ナンバーワン・プロモーションの正体とは?

What's WEC

テレビで観られないとはいえ、ここ最近のUFC事情については『kamipro』を読めば、だいたいは理解できるとは思うが、さすがに「WECが熱い!」と言われてもピンとくるのは、よほどのマニアだけだろう。というわけで、ここではWECの設立から現在までの流れを説明しつつ、今後の可能性を占ってみよう。これを読めばWECがわかる!

文／橋本宗洋　撮影／Josh Hedges（UFC）

いま、MMAの世界がアメリカを中心に回っていることは、誰にとっても疑いようのない事実である。そして、その中心にあって恐ろしいほどの勢力を持っているのがUFCであることも、また事実。ボードッグやエリートXCといった新興勢力にしても、選手獲得競争をはじめ〝UFCにどう対抗するか〟が大きなテーマになっている。

そんな中で、あくまでも独自の路線でMMAファンから脚光を浴びているのがWEC（World Extreme Cagefighting）だ。2001年にスコット・アダムスとリード・ハリスがスタートさせたこの団体は、地道に活動を続けてきたものの世界的に見れば〝ローカル大会〟だった。だが、昨年12月に団体の運命は大きく転換することになる。UFCを運営するズッファ社によって買収されたのだ。

ただし、そのことでWECがUFCの〝下部組織〟や〝二軍〟になったわけではなかった。WECはズッファ傘下となったあとも、UFCの選手供給源としてでなく、あくまで独立したプロモーションとして大会を開催しているのだ。創設メンバーのアダムスとハリスも、共同CEOとして団体のトップであり続けている。

ペンタゴン（五角形）のケージがUFCと同じオクタゴン（サイズはUFCより小さい）となり、会場もカリフォルニアからラスベガスに移ったものの、WECはあくまでもWECとして、UFCとは違う個性の打ち出し方をしている。それが、中・軽量級主体のマッチメイクだ。言うまでもなく、UFCをはじめとする多くのMMAプロモーションはヘビー級、ライトヘビー級に力を入れている。だがWECは、それらの団体では手薄な階級をメインに据えることによって差別化に成功したのだ。WEC

メインは65キロ以下の軽量級！ WECは業界再編成の〝その先〟を切り拓く

でタイトルが制定されているのはライトへビー級までで、ヘビー級タイトルはなし。

マッチメイクで中心になっているのが中・軽量級戦線ということから、UFCとWECの関係は『PRIDE』と『PRIDE武士道』の関係に似ていると言っていいかもしれない。実際、ズッファ社のダナ・ホワイト社長は、WECを〝UFCの中・軽量級部門〟と認識しているようだ。

そう考えると、WECの存在は決して目新しいものではないようでもあるが（中・軽量級主体のイベントには『HERO'S』もある）、WECは『武士道』や『HERO'S』以上に中・軽量級を特化、あるいは先鋭化させている。一般的に中・軽量級というと70～80キロ台の階級と思われがちなのだが、WECで最も人気があるのは65キロ以下のフェザー級。さらには、その下のバンタム級（61キロ以下）のタイトルも制定されている。UFCや『PRIDE』が手をつけていなかったカテゴリーに進出しているのだ。

その最大のスターが、フェザー級王者のユライア・フェイバーである。KOTC（King Of The Cage）王者として君臨してきたフェイバーは、ズッファ社と契約を結ぶと今年1月にWEC初参戦。いきなりタイトル奪取に成功してみせた。そのファイトスタイルはスピーディにしてパワフル、かつ荒々しい迫力に満ちている。とりわけテイクダウンからのヒジ打ち連打は圧巻と言っていい。ニックネームは〝カリフォルニア・キッド〟。アメリカの〝KID〟として、マニアのあいだではすでに山本KID徳郁と並び称される存在になっている。

大会で使用される会場はラスベガスのハードロック・ホテル&カジノ内のライブホール。『THE ULTIMATE FIGHTER（TUF）』のイベントも開催されるこの会場は、客席数1500と小さいものの、そのぶんだけ熱気の密度はハンパではない。UFCが万単位のビッグアリーナで興行を行なっているのに対し、WECはメガ・イベントとは違うかたちのおもしろさをアピールしていくという姿勢の表われだろう。〝UFCより小さい〟のではなく、〝UFCとは違う〟魅力のアピールだ。WEC関係者は、UFCを上位概念ではなく競争相手と考え、「世界一のブランドを目指す」と語っている。

実際、WECはビジネス的にも成功を収めている。UFCを放送するスパイクTVではなく、全米7200万世帯が視聴可能なヴァーサスというチャンネルで放送される（ここでも〝UFCの下〟ではなく独自路線を選択したわけだ）WECは、当初ハイライト番組がオンエアされていたが、その好評を受けてか6月からは大会のライブ中継も行なわれるようになった。そうして認知度の高まったWECには、世界各国から強豪ファイターが集まっている。9月に予定されていた初参戦こそケガで流れたものの、元UFCライト級王者ジェンス・パルヴァーの獲得に成功。また『PRIDE』で活躍してきたパウロ・フィリオもWECに参戦し、早くもミドル級タイトルを獲得している。

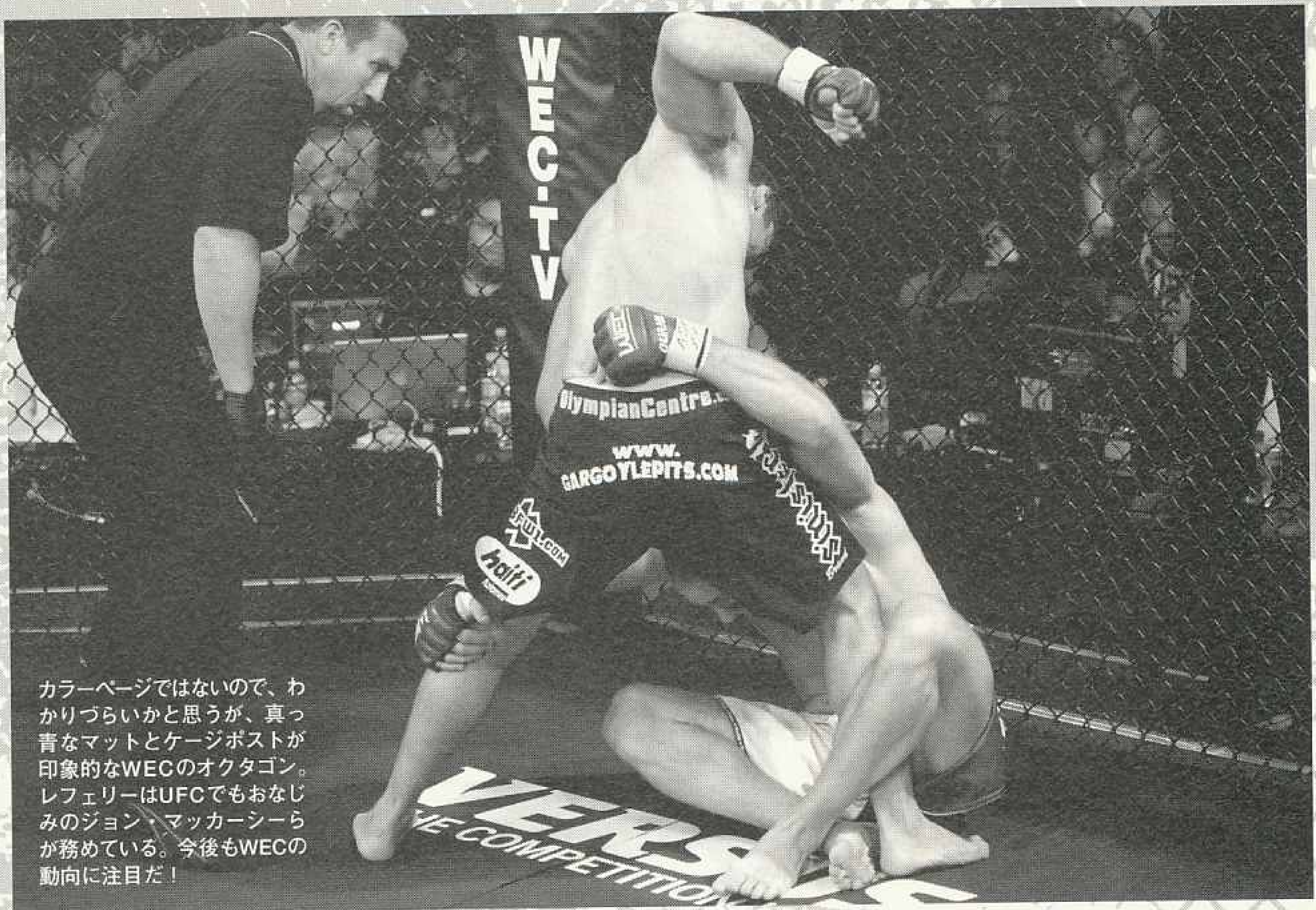
つまりWECは、パルヴァーやフィリオを獲得できるほどのビジネス規模にあるということ。パルヴァーは日本での活躍機会こそ少なかったが、アメリカにおいては中・軽量級の開拓者としてビッグネームである。

DEEPや修斗、パンクラスなど、これまでも65キロ以下の階級を設けている団体はあった。ただし、それは日本を中心とした狭いマーケットにとどまっていた。もし65キロ以下のファイターが『PRIDE』やUFC、あるいは『HERO'S』といったビッグイベントに参入しようとすれば、70キロ（『PRIDE』では73キロ）の階級で闘わなければならなかったのだ。後楽園ホールでは観客を熱狂させてきた実力ある選手が、ビッグイベントでは階級的な不利もあって真価を発揮しきれない。そんな場面を何度、観てきたことか。

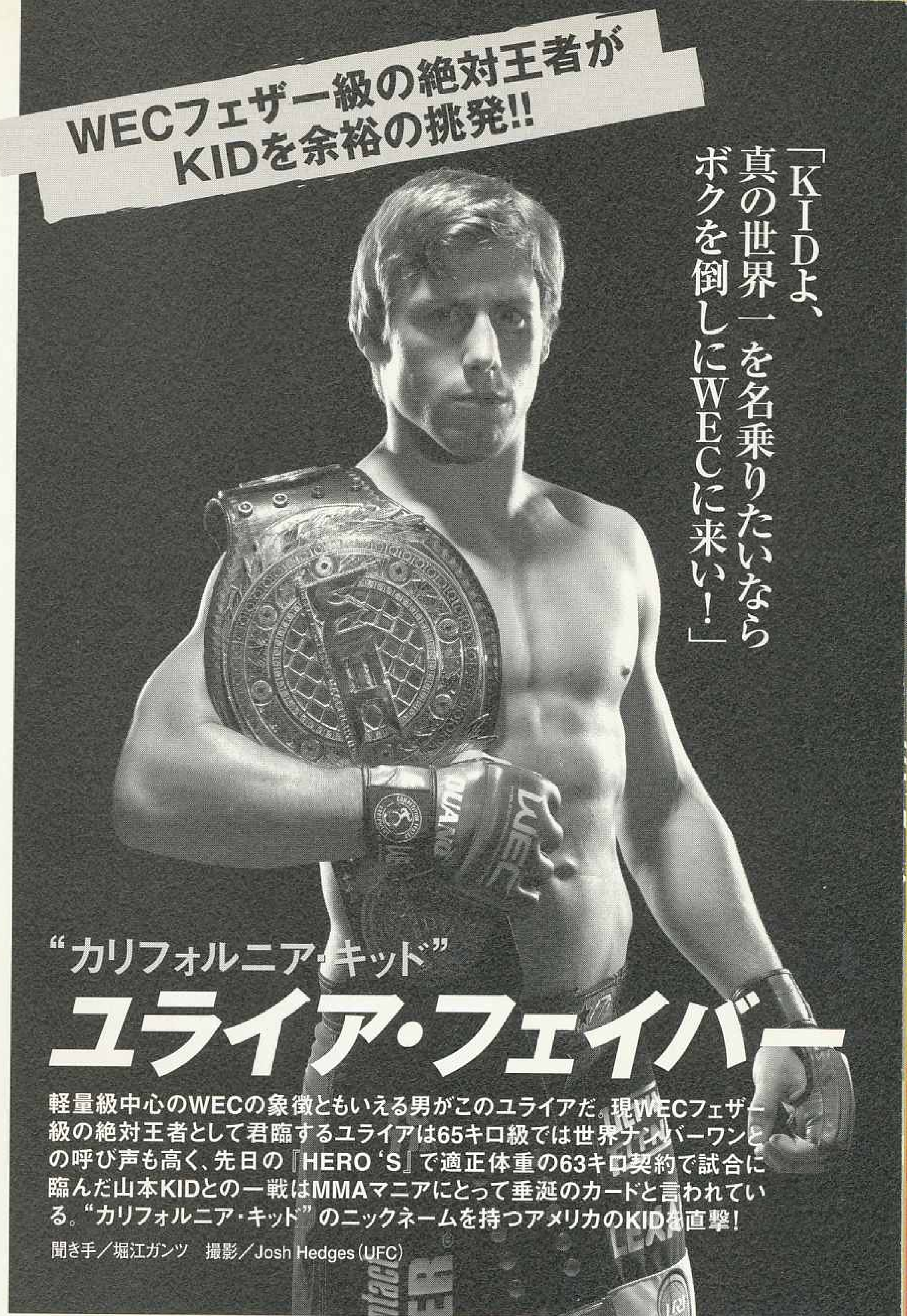
だが、WECの盛り上がりによって、65キロ以下というカテゴリーがクローズアップされるようになった。ときを同じくして、日本では山本KID徳郁が65キロ以下への階級変更を宣言。日本にはKIDだけでなく所英男、今成正和、前田吉朗などこの階級の強豪がひしめいている。今後、彼らは本来の階級で、本来の実力を発揮してくれるはずだ。つまり65キロ以下という階級には、大きな可能性があるということ。

そしてその中心に、WECがある。KIDはアメリカ進出に意欲満々。独占契約（他のプロモーションには出場できない）がネックにはなるが、もし仮にズッファ社と契約した場合、その主戦場はWECになるはずだ。KID以外にも、WECは日本の有力な65キロ以下のファイターに食指を伸ばしているともいう。

『PRIDE』活動休止に伴なう業界再編成が進むMMA界にあって、65キロ以下級のメジャー化という〝その先〟の世界を切り拓いていくWEC。今後、その存在はますます大きなものになっていくはずだ。



カラーページではないので、わかりづらいかと思うが、真っ青なマットとケージポストが印象的なWECのオクタゴン。レフェリーはUFCでもおなじみのジョン・マッカーシーらが務めている。今後もWECの動向に注目だ！



WECフェザー級の絶対王者が
KIDを余裕の挑発!!

「KIDよ、真の世界一を名乗りたいならボクを倒しにWECに来い！」

“カリフォルニア・キッド”
ユライア・フェイバー

軽量級中心のWECの象徴ともいえる男がこのユライアだ。現WECフェザー級の絶対王者として君臨するユライアは65キロ級では世界ナンバーワンとの呼び声も高く、先日の『HERO'S』で適正体重の63キロ契約で試合に臨んだ山本KIDとの一戦はMMAマニアにとって垂涎のカードと言われている。“カリフォルニア・キッド”のニックネームを持つアメリカのKIDを直撃！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／Josh Hedges（UFC）

——今回は、まだ日本ではあまり知られていないユライアさんのプロフィール的なことを聞かせてもらえればと思っています。

ユライア　なんでも聞いてくれよ。

——まずは、どういった経緯で格闘技を始めたのかを教えていただけませんか？

ユライア　一番最初はカレッジで始めたレスリングだね。で、卒業してすぐにファイティングの世界に足を踏み入れたんだ。

——ファイティングの世界というのは具体的にいうと？

ユライア　まずはムエタイとブラジリアン柔術を始めたんだ。その数ヵ月後にはデビュー戦を闘って、このスポーツをますます好きになったんだ。

——あれ、ユライアさんって生まれは、どちらになるんでしたっけ？

ユライア　ボクが生まれたのはセントバーバラっていう小さな町だよ。そこはヒッピータウンみたいな感じで、ボクの両親は家で生まれたんだ。病院じゃなくてね（笑）。

——そうなんですか。

ユライア　詳しく説明すると、オハイオのホーミオ・パシフィック・バックグラウンドというところにいてね。そこではホリスティック医学っていうのが盛んだったんだ。そのことを知っているかどうかは知らないけど。

——スミマセン！　まったくわからないです（笑）。

ユライア　それはしょうがないだろうね（笑）。簡単に説明すると、そこにいたときは、薬や注射とかも受け入れたことはなかったんだ。

——つまり、ナチュラルな治療だけということですね。

ユライア　そうさ。自然なものだけで治療をするんだ。たとえば、病気になってもアスピリン（※有名な消炎鎮痛剤の一つ）を摂らずに、ニンニクやビネガー、ビタミンなどを食べて治したりね。そういう生活のおかげで、いまの健康で強い身体ができたんだと思うよ。

——そんな過去がありましたか。話は戻りますけど、レスリングを始めたのは何歳の頃なんですか？

ユライア　7thグレード（日本の中学1年にあたる）からだね。というのも、ボクの3歳年上の兄がレスリングをやっていて、ボクにもやるように勧めたんだ。それまではホッケーやフットボールをやってたんだけどね。

——レスリングでの実績はどんな感じなんですか？

ユライア　ハイスクールのときに、アメリカのトップトーナメントで上位に入ったこともあるよ。でも、実際に力が伸びたなって感じたのはカレッジに入ってからだね。カリフォルニア大学デービス校に入ったんだけど、そこのレスリングチームに入って奨学金をもらえたんだ。

——いわゆるスポーツ推薦みたいなかたちですね。

ユライア　そうだね。そこで、いいコーチにも恵まれて、そこにいるヤツらを全員倒すようになったのさ（笑）。実際、133パウンド（約60キロ）の階級では誰にも負けなくなった。

——それは凄いですね！

ユライア　で、全米大学選手権で準優勝して、コーチとして1年間大学に残るようになったんだ。そのときにデリック・ムーアというチャンピオンを輩出したよ。

——コーチもやっていたんですか。MMAを始めようと思ったのは、いつぐらいになるんですか？

ユライア　2003年の終わりだったね。23歳のときかな。もともと格闘技が好きだったし、ボクシングのファンだったからね。トミー・ガンやマイク・タイソンはもちろん、もっとマニアックな選手も応援してたんだ（笑）。

——ボクシングおたくだった、と（笑）。

ユライア　そうかもしれない（笑）。中でもオスカー・デ・ラ・ホーヤが築いたキャリアは素晴らしいと思う。同じようにMMAも好きになって、1994年ぐらいから観ているよ。レスリングのスパーリングでもパンチを取り入れたりしてたしね（笑）。

——ちなみにユライアさんにとってMMAのアイドルは誰なんですか？

ユライア　やっぱり、ランディ・クートゥアーは大好きだね。選手としてだけではなくて、人間として素晴らしいと思うし。あとはサクラバ（桜庭和志）だね。彼のおもしろくてクリエイティブなスタイルも好きだよ。

——ランディは、いまだに現役バリバリの王者ですからね。

ユライア　それは凄いことだよ。ランディとは一緒に練習したこともあるし、ティト・オーティズとチャック・リデルが最初に闘ったときは、一緒に観戦して、ビッグショーとはどういうものなのか確認したんだ。

——接点もあるわけですね。ちなみに、これまで日本での試合のオファーはなかったんですか？

ユライア　オファーを待ってたんだけど……、一度もなかったんだ（残念そうに）。このスポーツはまだまだ発展してないし、日本のイベントを盛り上げるために、（日本人を勝たせるために）強いヤツを呼ばないようにしているんじゃないかな。ボクは誰にも負けないからね（キッパリ）。

軽量級のトップはWECにいるんだ。ボクが、この階級を背負っていくよ！

——凄い自信ですね（笑）。でも、WECがここまで大きくなる以前は、『武士道』や『HERO'S』、修斗など、軽量級は日本が一番盛り上がっていたと思うんですが。

ユライア　そのとおりだよ。ボクもレスリング時代は、日本に遠征に行ったりしたけど、大東文化大学とか、あと名前は忘れたけど、日本中で8試合してるんだ。

——すでに、レスリングで試合をしていましたか？

ユライア　そうなんだ。最後はヒザをケガして負けてしまって7勝1敗だった。だから、日本でまた闘いたい気持ちはあったよ。WECが盛り上がる前は、とくに行きたくてしょうがなかったんだ。

——具体的に闘いたい選手は誰かいました？

ユライア　日本人で闘いたいのは、ヒオキ（日沖発）。

——日沖選手って、なかなかマニアックですね（笑）。

ユライア　でも最近は彼も有名になってきたよね。あとはゲンキ・スドー（須藤元気）、ルミナ・サトー（佐藤ルミナ）もいいね。いま彼らがどこのプロモーションで試合をしてるかは知らないけど、日本には多くの強いファイターがいることは知っている。機会があったら闘ってみたいね。

——日本の『HERO'S』っていうイベントは知ってます？

ユライア　もちろん。好きだし、いつも観てるよ。

——『Dynamite!! USA』でブラッド・ピケットと闘った所英男選手は知ってます？

ユライア　ちょっとわからないな。145ポンド（約65キロ）の選手なの？

——普段はそれぐらいなんですけど、試合では155ポンド（約70キロ）で闘ってる選手です。

ユライア　あ〜、アイヴァン・メンジバーと闘った選手だね。あの試合は、一進一退のいい試合だったよ。彼とだったらやってみたいね。

——山本KID選手のこともご存知ですよね？

ユライア　もちろんさ。彼ともゼヒ闘いたい。ボクが思うに、彼は、この世界でナンバーワンだと思う。

——そこまで評価してるんですか？

ユライア　スドーやカオル・ウノはトップファイターだけど、トップの中のトップじゃない。でも、本当のトップのKIDとボクが試合をすれば、いい試合になると思うよ。

——勝ったほうが真のナンバーワンだと？

ユライア　そういうことだね（笑）。

——では、現在、ユライアさんが活躍しているWECというイベントについて教えていただけますか？

ユライア　知ってる人も多いと思うけど、WECはUFCとは別の組織なんだ。ズッファがともに所有しているけどね。UFCとは別のテレビ局がついているし、見どころも違う。WECは145ポンドから205ポンド（約93キロ）まで階級があるけど、ヘビー級ではなくて、軽量級に焦点が当てられている。

——その代表的な選手がユライアさんなんですよね。

ユライア　そう（笑）。でも、WECは軽量級だけじゃないんだ。たとえば、ミドル級のナンバーワンとも目されているパウロ・フィリオも参戦しているし、カーロス・コンディットも闘っている。ただの中・軽量級のイベントじゃなくて、強いブランドになりつつあるんだ。実際、WECの放映は注目を浴びているし、観衆の反応も凄くいいしね。

——ユライアさんは、いつからWECに出ているんですか？

ユライア　もともとボクはいろんな大会に出ていたんだ。グラジエーター・チャレンジっていう小さい大会から、KOTC、TKO、そしてWECとね。最初にWECに出たのはいつだったかなぁ？　たしかコール・エスコバードと闘ったときだと思う（2006年3月17日）。ズッファ体制になってからは3試合闘っているよ。

——これまでUFCでライト級タイトルを争っていたジェンス・パルヴァーが145ポンドに落としてWEC参戦を決めたみたいですね。

ユライア　この階級のトップはWECにいるんだ。パルヴァーだけじゃなく、これからも世界からベストファイターがドンドンWECに集まってくると思うよ。

——つまり、WECはUFCの下部団体ではなく、完全に独立していると。別々のチャンピオンがいるわけですからね。

ユライア　そうだね。ボクは決して〝UFCの下にある団体のチャンピオン〟じゃない。このスポーツをさらに高めていく、本当のナンバーワン・ファイターで、そして、この階級を背負っていこうと考えているんだ。

——素晴らしい！　つまり、WECの145ポンドの王者になることは、世界一になるということですね。

ユライア　そういうこと！

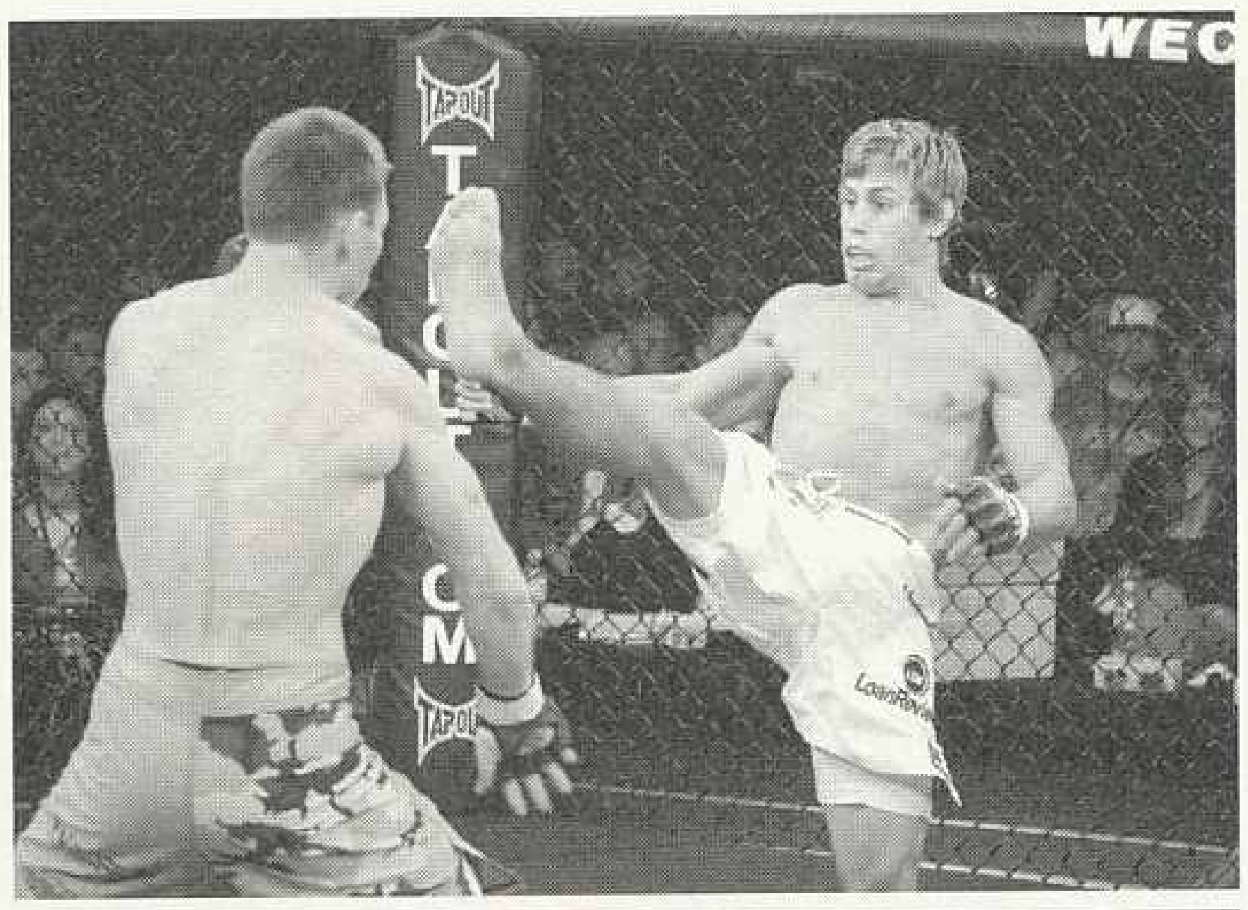
——ユライアさんを倒さない限り、フェザー級で世界一は名乗れませんよ、ということですね（笑）。

ユライア　KIDもそうだけど、真の世界一になりたければ、ボクを倒しにWECに来いって（笑）。

——KIDさんに会う機会があれば、そう伝えておきます！（笑）。

ユライア　よろしく頼むよ（笑）。ボクはいつでも、WECのケージで待ってるってね。

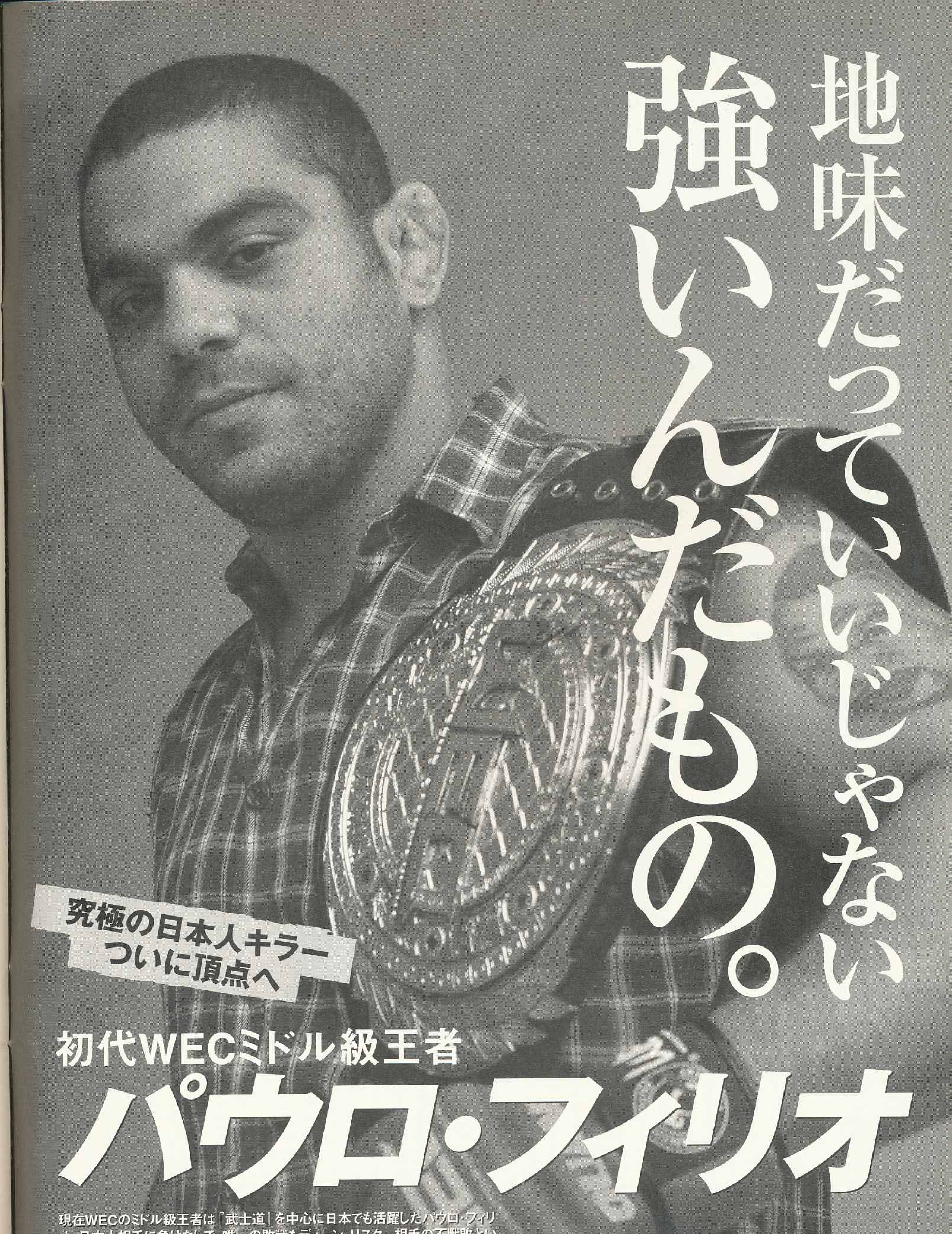
【07年7月7日／米国カリフォルニア州サクラメント、ARCOアリーナにて収録】



これまでMMAでの黒星は約2年前のタイソン・グリフィン戦のみという驚異の勝率を誇るユライア（ちなみにタイソンは一階級上の選手）。KID同様、バックボーンはレスリングのユライアだが、ADCCにも出場経験があり、各種チョークもお手のもの。ヒジ攻撃も得意としている。

ユライア・フェイバーMMA全戦績（07.10.1現在）

○vsジェイ・ヴァレンシア 1R 1分 22秒 ギロチンチョーク（03.11.13 GC20）
○vsジョージ・アドキンス 2R 2分 42秒 TKO（04.2.12 GC22）
○vsデビッド・バラスケス 判定2-1（04.6.3 GC27）
○vsデル・ホーキンス 1R 3分 19秒 TKO（04.8.19 GC28）
○vsラミ・ブーカイ 判定3-0（04.9.24 KOTC）
○vsイーベン・カネシロ 3R 4分 33秒 一本勝ち（04.11.14 KOTC）
○vsデビッド・グラナドス 1R 2分 13秒 チョークスリーパー（05.3.13 GC35）
○vs阿部裕幸 3R 2分 37秒 TKO（カット）（05.5.7 KOTC）
×vsタイソン・グリフィン 3R 0分 5秒 TKO（05.9.10 GC42）
○vsショーン・バイアス 1R 1分 24秒 フロントチョーク（05.10.29 KOTC）
○vsチャールズ・ベネット 1R 4分 38秒 チョークスリーパー（05.12.11 GC46）
○ vsアイヴァン・メンジバー 2R 2分 2秒 反則（06.1.28 TKO24）
○ vsコール・エスコバード 2R 終了時 TKO（タオル投入）（06.3.17 WEC19）
○vsチャーリー・ヴァレンシア 1R 3分 9秒 チョークスリーパー（06.5.13 KOTC）
○vs植松直哉 2R 3分 35秒 TKO（06.7.1 GC51）
○vsエノック・ウィルソン 2R 1分 1秒 TKO（06.9.9 FCP）
○vsビビアーノ・フェルナンデス 1R 4分 16秒 TKO（カット）（06.10.28 KOTC）
○vsジョー・ピアソン 1R 2分 31秒 TKO（07.1.20 WEC25）
○vsドミニク・クルーズ 1R 1分 38秒 フロントチョーク（07.3.24 WEC26）
○vsチャンス・ファーラー 1R 3分 19秒 チョークスリーパー（07.6.3 WEC28）



地味だっていいじゃない 強いんだもの。

究極の日本人キラー
ついに頂点へ

初代WECミドル級王者

パウロ・フィリオ

現在WECのミドル級王者は『武士道』を中心に日本でも活躍したパウロ・フィリオ。日本人相手に負けなしで、唯一の敗戦もディーン・リスター相手の不戦敗という文句なしの強豪ファイターだ。しかしながら、日本では「強いのはわかるけど闘い方が地味」と評価されがちだったフィリオ。彼の目指すところはどこなんだ!?

聞き手&撮影／Fernando Ramos　試合写真／Josh Hedges（UFC）　構成／阿修羅チョロ

—だいぶ日にちも経ってしまいましたが、WECミドル級王座奪取、おめでとうございます！

パウロ　ありがとう！

—これまで『PRIDE武士道』を中心に活躍していたパウロ選手ですが、WECマットを主戦場に決めた一番の理由は何になるんですか？

パウロ　これはボクが決めたことじゃなくて、マネージャーのジョルジ・ギマラエスの決めたことなんだ。

—あ、そうなんですか。

パウロ　彼がアメリカでキャリアを積むことを勧めてくれたんだ。ボクはアメリカでは、まだまだ無名のファイターだし、WECはテレビ放映されているから、いい機会だと思ってるよ。

—ギマラエスさんっていうのはUFCのミドル級王者のアンデウソン・シウバのマネージャーでもありますよね。

パウロ　そう。彼のマネージメントのほうが先だけどね。アンデウソンは友だちなんだけど、UFCのチャンピオンになるだけのキャリアを積んできている。まあでも、友だちだし、マネージャーも一緒だから、彼とは、いまのように違うイベントで闘えればパーフェクトだけど、もしボクがこのままWECで勝ち続ければ、たぶんUFCで闘うことになるだろうね。

—マッチメイクされたら、友だちだろうと関係ない？

パウロ　ボクたちはプロフェッショナルだからね。闘いが終われば、また友だちとして接することはできるさ。その前にまず、ボクも彼のように強い選手を倒して、実績を積まないといけないと思ってるんだ。

次は93キロ級のWECチャンピオンと闘いたい。目指すは二階級制覇さ！

—ちなみにWECとの契約はどうなっているんですか？

パウロ　WECとは4試合契約を結んだいる。期間は約1年半だね。

—WECはUFCに買収されて資本的には安定してると聞きますが、金銭的な条件はいかがでしょうか？　言える範囲でかまいませんが（笑）。

パウロ　じつを言うと、『PRIDE』よりもファイトマネーはいいんだ。

—え、そうなんですか（笑）。

パウロ　でも、日本ではBTTに10パーセント、マネージャーにも10パーセント支払わないといけなかったのが、アメリカではタックスで30パーセントも取られて、さらにマネージメントに15パーセントを支払わなきゃいけないんだよ。

—じゃあ、半分ぐらいしか懐に入らないと？（笑）。

パウロ　そういうことさ。でもコスチュームに広告を入れてくれる大きなスポンサーを獲得できたから、日本にいた頃より儲かってるんだ（笑）。

—それはよかったですね（笑）。

パウロ　それにもっと知名度がアップすれば、たくさんのスポンサーが獲得できるだろうしね。

—実際にWECに上がってみての感想はいかがですか？

パウロ　じつは減量に苦戦したから、クスリを飲んでいたんだよ。

—……え、それはどんなクスリなんですか？

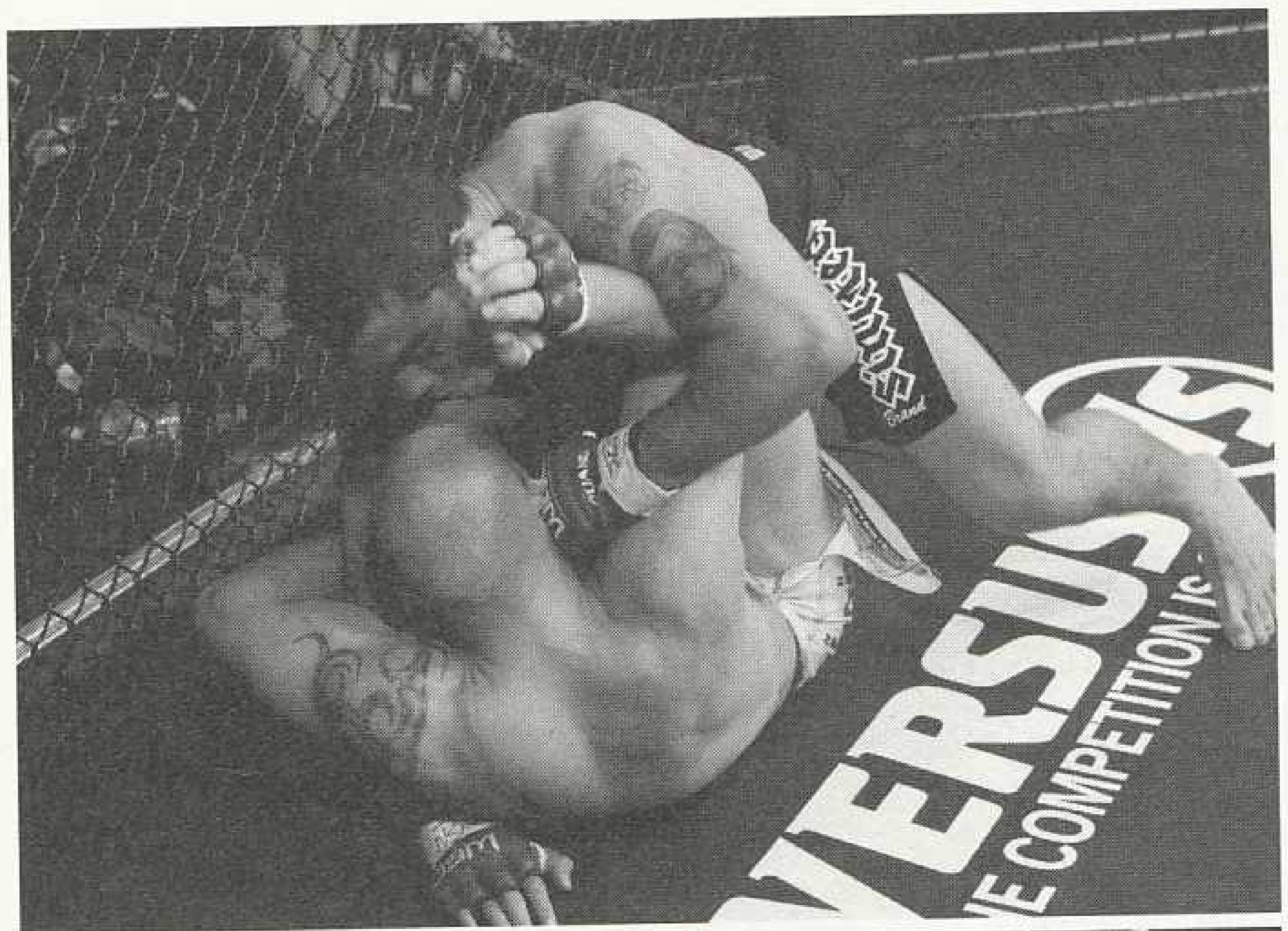
パウロ　いやいや、危ないクスリじゃなくて、みんなが減量で使っているヤツだよ（笑）。スピーディに体重を落として、またすぐに体重を戻すことができるクスリなんだ。

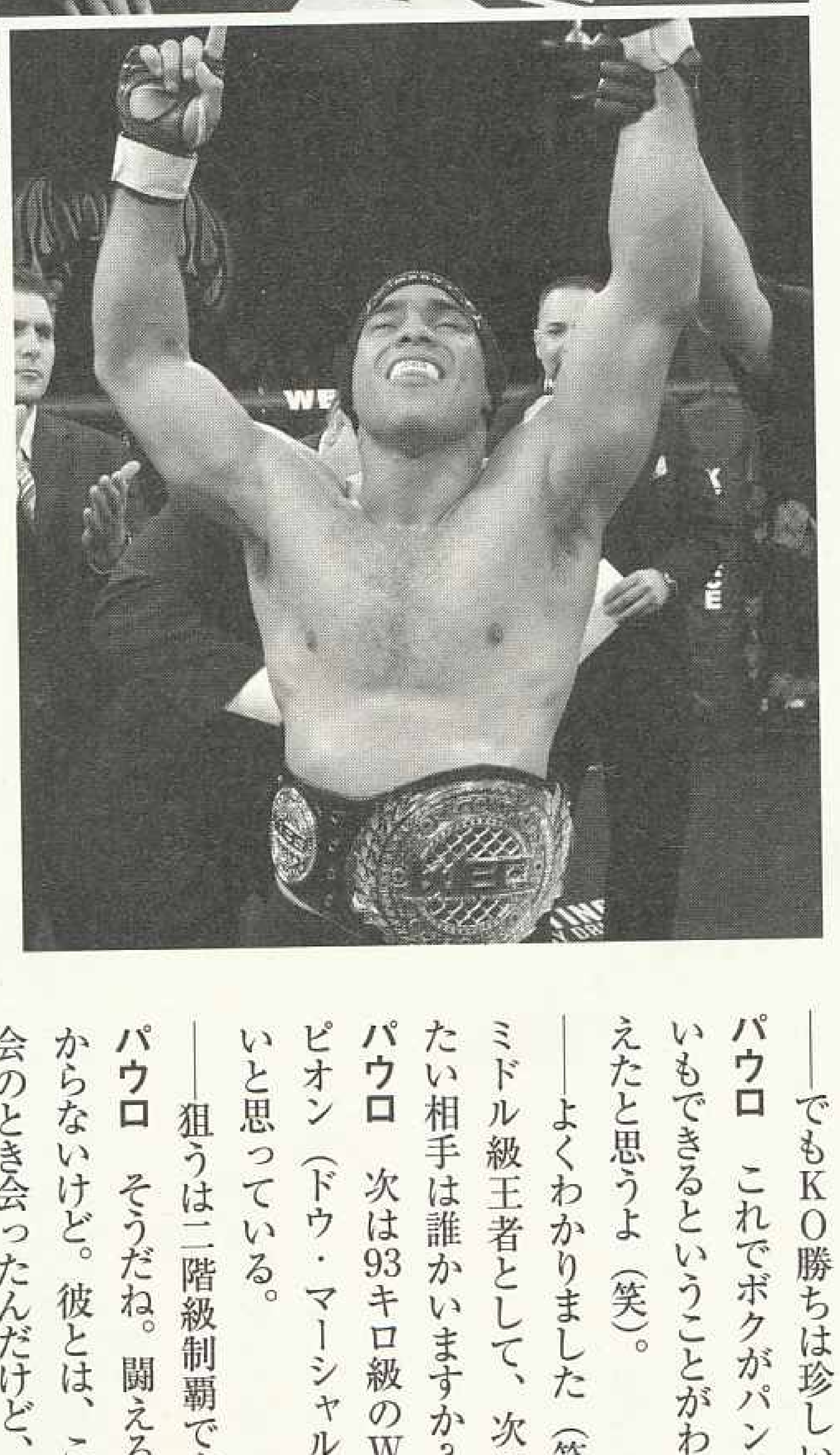
—へぇ〜、そんな便利なクスリがあるんですか。

パウロ　でも、そのせいで計量前の24時間だけでなく、試合当日の午後も食べることができなかったんだ。そして試合の1時間前には気分が悪くなってしまってね。

—試合中は大丈夫だったんですか？

パウロ　いや、試合のときは正直、完璧なコンディションで臨むことができなかったんだ。でも、結果的にはパウロ・フィリオというファイターが何をできるか見せつけることができてよかったと思ってるよ。





今年8月5日、ラスベガスで開催された『WEC29』で空位となっていたWECミドル級王座を賭けジョー・ダークセンと闘ったフィリオ。スタンドでのパンチでダメージを与えたフィリオは苦し紛れにタックルに来たダークセンを潰し、一気にパウンドの連打を浴びせ、わずか4分足らずでベルト奪取に成功！　バンサ〜イ!!

—対戦相手はジョー・ダークセンという選手でしたが、パウンドからのKO勝ちという結果でしたよね。

パウロ　まったく危ない場面はなかったね。ただ、体調がよくなかったから、まずはテイクダウンっていういつもの闘い方を変える必要があった。それでパンチを繰り出したってわけさ。

—でもKO勝ちは珍しいですよね

パウロ　これでボクがパンチの打ち合いもできるということがわかってもらえたと思うよ（笑）。

—よくわかりました（笑）。WECミドル級王者として、次に闘ってみたい相手は誰かいますか？

パウロ　次は93キロ級のWECチャンピオン（ドゥ・マーシャル）と闘いたいと思っている。

—狙うは二階級制覇ですか？

パウロ　そうだね。闘えるかどうかわからないけど。彼とは、こないだの大会のとき会ったんだけど、うぬぼれた態度をしていたんだ。

—うぬぼれ野郎でしたか（笑）。

パウロ　ああ。ああいう傲慢な態度をされると、ブッ飛ばしたくなるんだよね。今度、プロモーターに話してみようと思うけど、もしアイツのベルトを奪えたら、その次はヘビー級のチャンピオンと闘って3階級制覇したいと思っている。

—WEC3階級制覇！　でも、WECにはいまはヘビー級のチャンピオンはいないみたいですけども。

パウロ　そうなんだよ。まあでも、WECはボクにとってトライアルだと思ってるからね。

——感覚的にはトライアルだと思っているると？

パウロ　そうだね。WECはレフェリーもUFCと同じだし、オクタゴンも少し小さいだけ。近いうちにダナ・ホワイトはボクをUFCに引き上げてくれると思うよ。

——やはり、ゆくゆくはUFC参戦を考えているわけですね？

パウロ　そうだね。

——ちなみに、いまのベストウエートはどれぐらいなんですか？

パウロ　やっぱり、93キロ級がベストだね。『PRIDE』では93キロ級に友だちが多すぎたから83キロに落としただけだから。

——やはり友だちとは闘いづらいですか？

パウロ　そりゃあ、できれば闘いたくないよ。あと、ルールについて言えば、UFCルールのほうが『PRIDE』よりも闘いやすいね。4点でのヒザ攻撃がなければ得意の両足タックルにいきやすいし、それにボクはストンピングはもともと使わないからね。

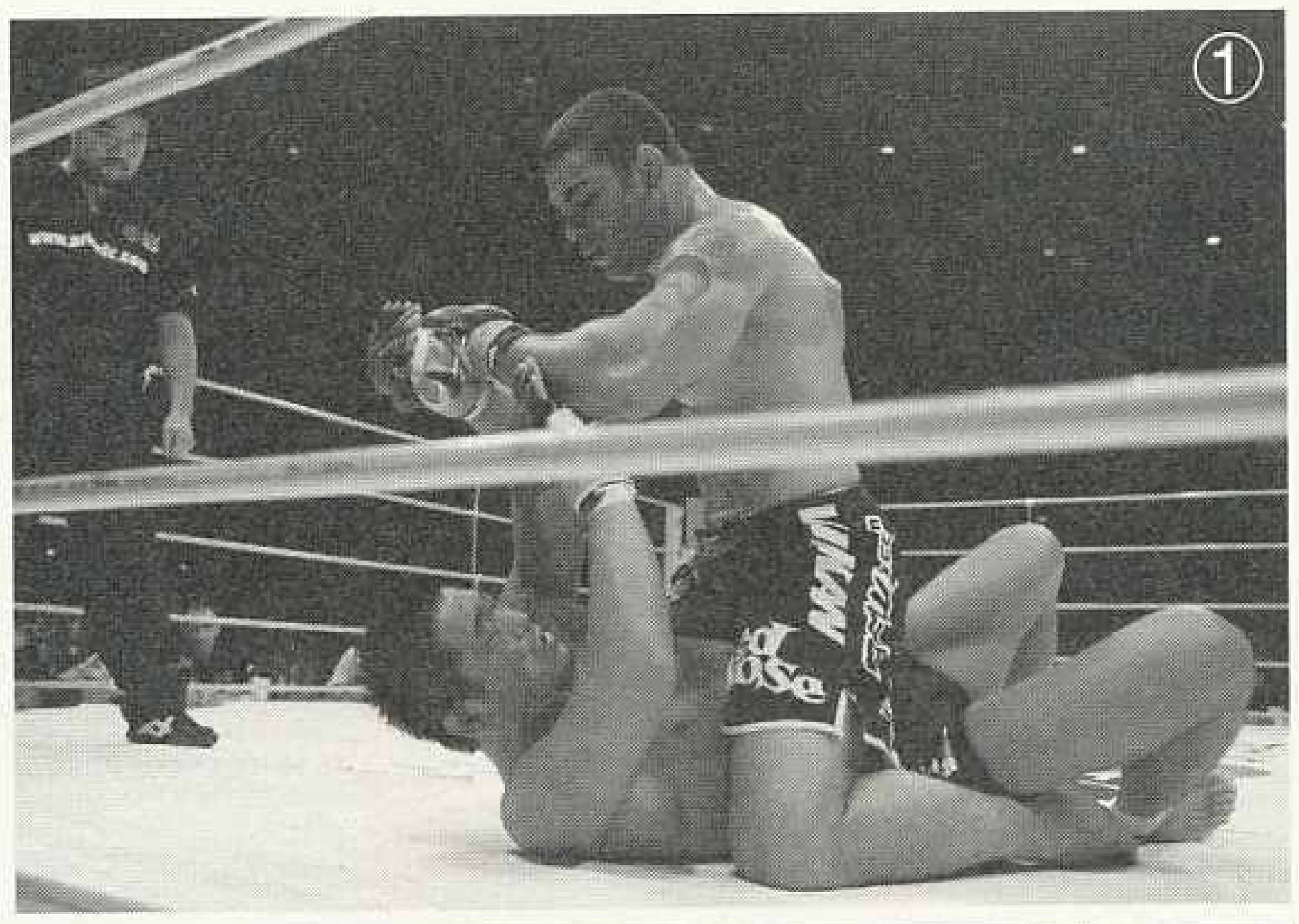
——では、いまのルールのほうが自分の持ち味を発揮しやすいと？

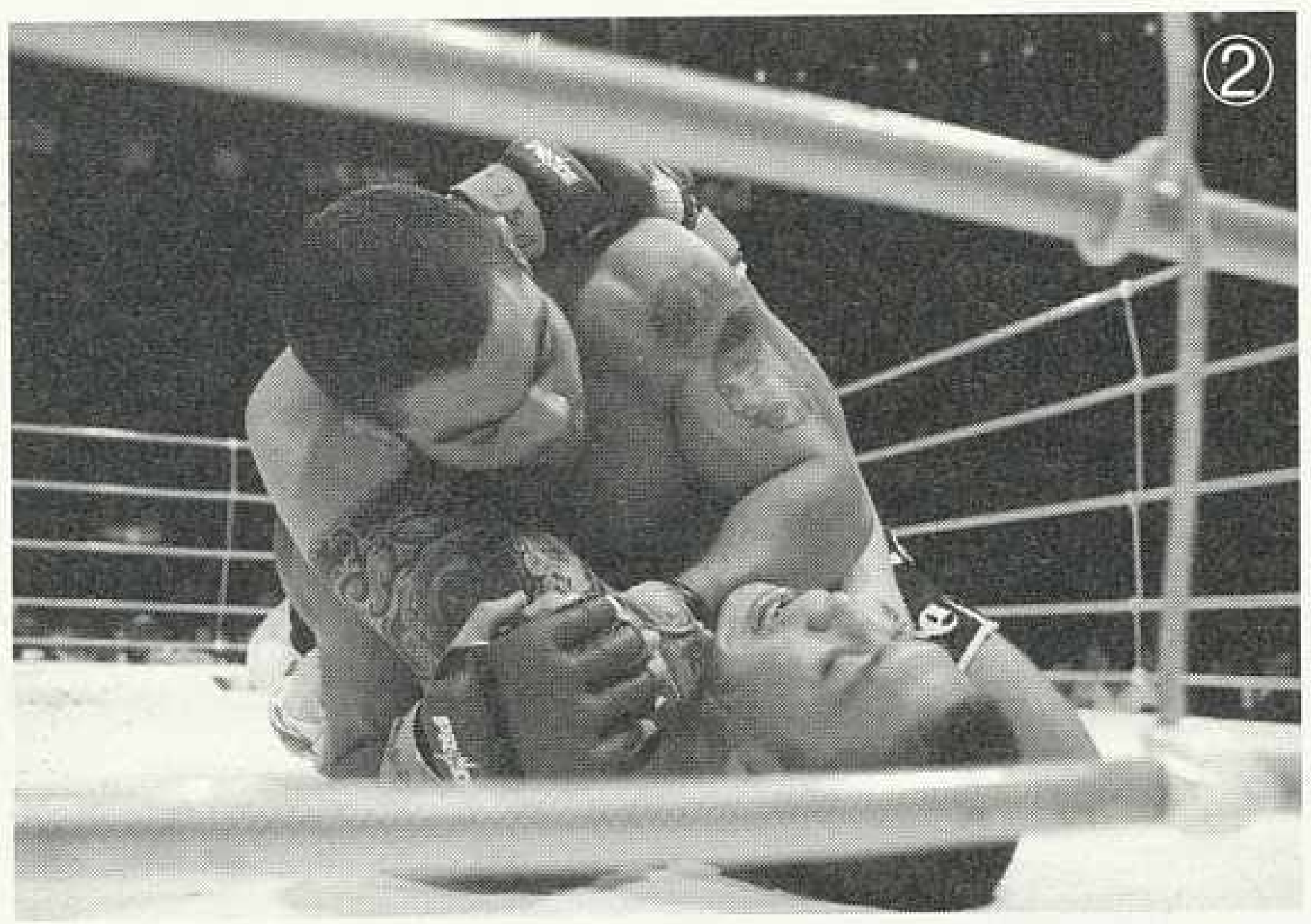
パウロ　ただ『PRIDE』のラウンド制のほうが、よかったね。10分あれば、よりサブミッションで仕留められる可能性が高いからね。

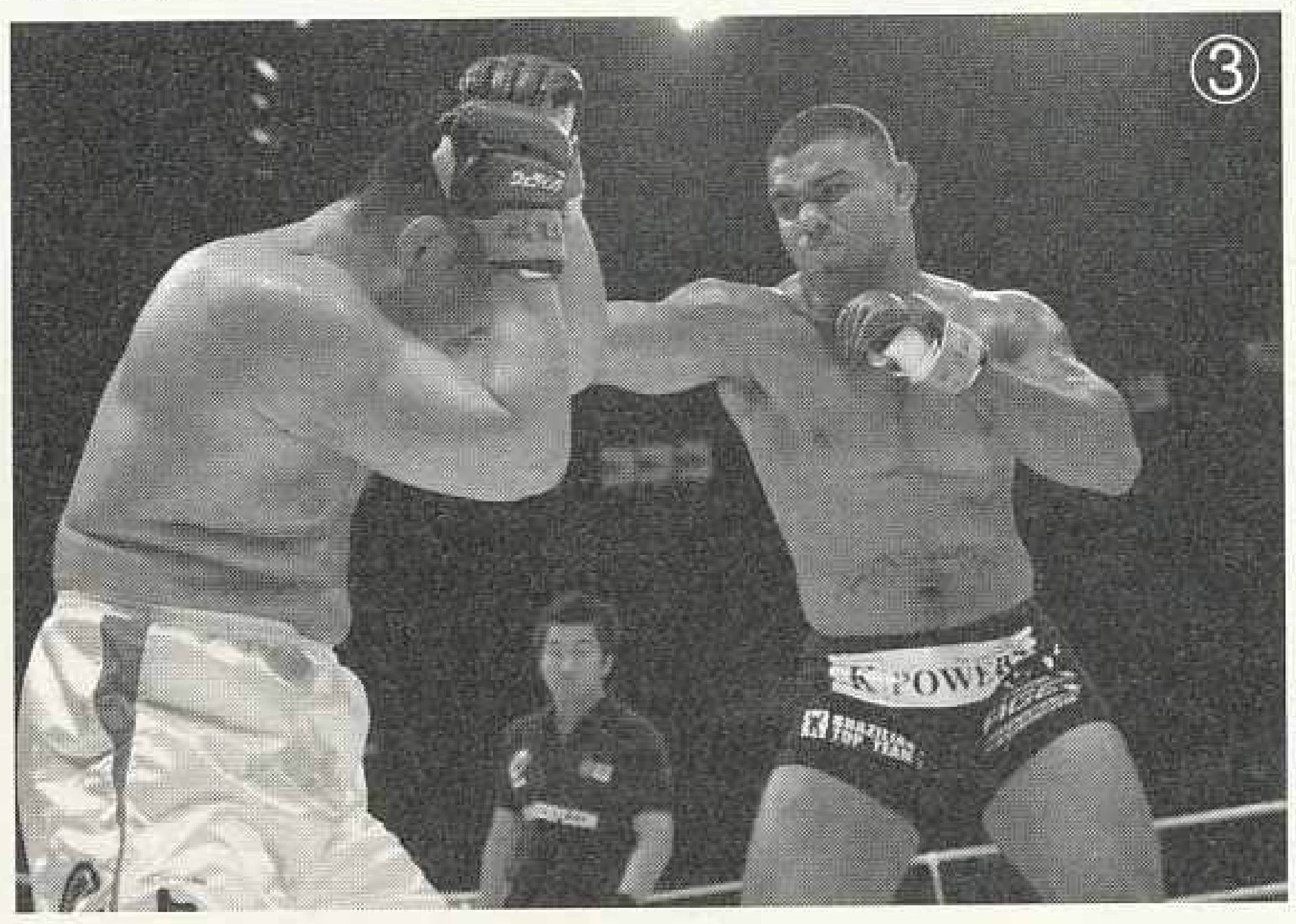
——ミルコ、ノゲイラ、シウバ、ショーグンといったPRIDEファイターのUFC参戦についてはどう思っていますか？

パウロ　自然な流れだよね。だって、ボクらは趣味で試合をしているわけじゃないからね。トップファイターならなおさら新しい戦場を探さないと。

不戦敗以外負けなし！フィリオと『PRIDE』









①06年11月に開催されたPRIDEウェルター級GP準決勝で三崎和雄と対戦し一本勝ちしたフィリオだったが、負傷により決勝戦は欠場。二転三転ありつつ、その三崎が優勝という皮肉な結果に。②06年8月にはウェルター級GP2回戦として長南亮と闘い、わずか150秒、腕十字での一本勝ちで準決勝進出を決めた。③フィリオの日本初登場はDEEPでの美濃輪戦。その後、近藤を下すと、02年9月に『PRIDE』初登場で小路を撃破。04年7月に再度、小路と対戦するも、これも退けている。④05年のウェルター級GPではリザーブマッチで桜井隆多に完勝！

——まあ、そうなりますよね。最近までマネージャーだったマリオ・スペーヒーや練習仲間だったホジェリオ（・ノゲイラ）、（ヒカルド・）アローナとの関係はどうなっているんですか？

パウロ　いまでもいい関係だよ。BTTはカーウソン（・グレイシー）がタネをまいたモノで、ボクはカーウソンのブラックベルトを持っている。だから、彼らとはこれからも友だちさ。とくにアローナとは家が近いから仲がいいよ。

——報道ではパウロさんはBTTを離脱して、現在は、ブラックハウスに所属しているとのことですが？

パウロ　たしかにBTTは離脱してるけど、ブラックハウスには入ってないよ。まあ、BTTの成長とともに、自分の人生にとって何がいいかを真剣に考えるようになったんだ。そして、いまは自分にとって適したトレーニングができるところを探している最中なんだ。

——では、いまはかたち的にはフリーということになるんですか？

パウロ　そうなるかな。べつにチームに属する必要はないと思ってるしね。BTTでトレーニングしていたときは1時間もかけてリオに行かないといけなかったし、渋滞のせいもあって、朝からのトレーニングは出られなかったんだ。これからはアローナと一緒にニテロイでジムを作るかもしれない。

——時間の問題だけではなく、BTTの体制にもなんらかの不満はあったんですか？

パウロ　不満はとくにはなかったね。ボクにとっては、畳さえあればいいんだ。

——畳さえあればトレーニングできると？

パウロ　そうだね（ニッコリ）。正直、60キロもあるBTTまで通うのは大変だったけどね。それにボクはもう子どもじゃないから。だからこれからは、自分にとってベストな方法でトレーニングしたいんだ。BTTはBTTで、また新しい世代の若いファイターたちといいアカデミーを作っていけると思うよ。

——ミノタウロやマリオ・スペーヒー、そしてヴァンダレイも新しいチームを作っていますね。

パウロ　そうだろ。ブラジルのMMAは変化しているんだ。でもそういう変化がMMAってスポーツをより発展さ



スポンサーや仲間たちとつかの間の休日を楽しむフィリオ（一番左はLYOTOに似ている気もするが別人とのこと）。ちなみに、うしろはブラジルはニテロイにあるフィリオの自宅だ。近くにはアローナの家もあるんだとか。とにかく周りは大自然だらけなのだ。

せるんじゃないかな。MMAは大きくなっているし、マリオは優秀なコーチだし、アメリカで独立しても成功するとだろうね。それはヴァンダレイも同じ。彼らがブラジル人ファイターにとっての道を拓いてくれると思っているよ。

――パウロさんも上がっていた『PRIDE』に対してはどう思っています？

パウロ 『PRIDE』は素晴らしいイベントだった。いま活動していないのはMMAにとって、大きなロスだと思うし、みんな残念に思っているよ。

――実際に闘ってみて、日本とアメリカのファンはどう違うと感じます？

パウロ アメリカのファンは、選手のいいときだけ声援を送る感じなんだけど、日本のファンは、ファイターの芸術性を尊敬しているし、その闘うスピリットを見ている。決して戦績だけを見てないよね。

――日本のファンの前のほうが闘いがいがある？

パウロ そうだね。でも、実際に試合をするときは、ファンのことは関係ないよ。自分自身の準備をして、試合に集中しないといけないからね。でも、『PRIDE』のエネルギーは凄かったと思う。そこにストーリーがあったし、ファンが本当に愛していたからね。

――フィリオさんも『PRIDE』の復活を期待している、と。

パウロ そうなることを願っているね。いまはアメリカのマーケットが凄いことになってるし、実際に闘うだけならアメリカだけでも充分だけど、日本のイベントは懐かしく思うよ。『PRIDE』が戻ってくるのか、新しいイベントができるのかわからないけど、また日本の市場が復活することを期待しているよ。

――これまでパウロさんはMMAでは、ほとんど負けがないですが、ライバルと思っている選手は誰かいます？

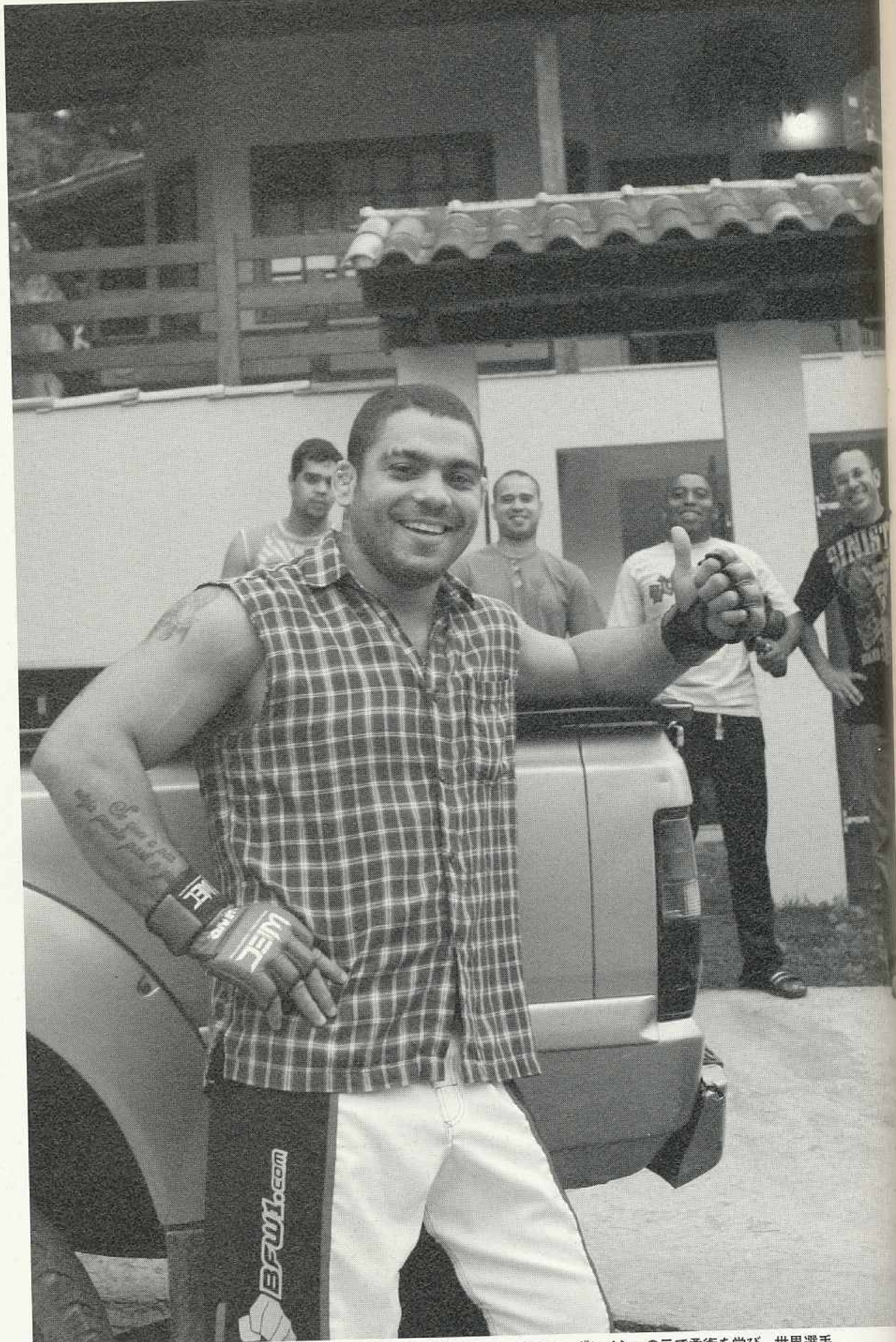
パウロ ライバルはいないね。ただ、自分を試すために、闘いたい相手はいるよ。

――そのファイターとはズバリ誰なんでしょう？

パウロ その一人はダン・ヘンダーソンだね。でも闘えば勝てると思う。そして、ショーグンとも闘いたいね。彼のPRIDEミドル級のベルトはボクこそがふさわしいと思うからね。

――自信満々ですね（笑）。ちなみに、これまで闘った相手の中で一番手ごわかったのは？

パウロ フィジカルなことを言えば、シルマール・ホドリゴとの試合だね。彼との試合のときは始まって30秒で、手の骨を折ってしまったからね。そして精神的な面でいえば、（ムリーロ・）ニンジャとの試合だね。それはシュートボクセとBTTとのライバル関係というのもあるけど、あの試合で勝った嬉しさは一生忘れないよ。



PAULO FILHO■1978年5月24日、ブラジル・リオデジャネイロ出身。カーウソン・グレイシーの元で柔術を学び、世界選手権を制覇した実績を持つ黒帯柔術家。01年、初来日となったDEEPで美濃輪を下し、02年の『PRIDE.22』で『PRIDE』初参戦。その後は『武士道』を中心に活躍、不戦敗以外は負けなしのまま、今年8月5日、『WEC29』でミドル級王座を奪取。

ショーグンのPRIDEミドル級のベルトはボクこそがふさわしいと思うよ

――そうですか。では、階級抜きで一番強いと思うファイターは？

パウロ ミノタウロ（ホドリゴ・ノゲイラ）だね。彼は、もっとも完成されたファイターだと思う。ボクシングも強いし、グラウンドはベストだ。彼の唯一の弱点は投げだけど、それも改善されつつあるしね。

――ヒョードルはいかがですか？


パウロ ヒョードルは投げは強いけど、グラウンドテクニックはそんなに強くない。もし制限時間がなければミノタウロが勝つと思う。ミノタウロはテイクダウンでは負けるかもしれないが、サブミッションで仕留めることができるだろう。

――最後に日本のファンへのメッセージをお願いします！

パウロ 日本に行けなくて残念に思っている。また優秀なプロモーターが現われて、『PRIDE』のようなイベントができることを願っているよ。いまのボクの生活があるのは日本のおかげでもあると思っているんだ。いま、ボクのファイトはアメリカに来ないと観られないけど、ボクの心は日本にあると思ってるよ。

――ありがとうございます。今後のさらなる活躍を期待してます！

【07年9月3日／ブラジル・ニテロイの自宅にて収録】



WECサムライ

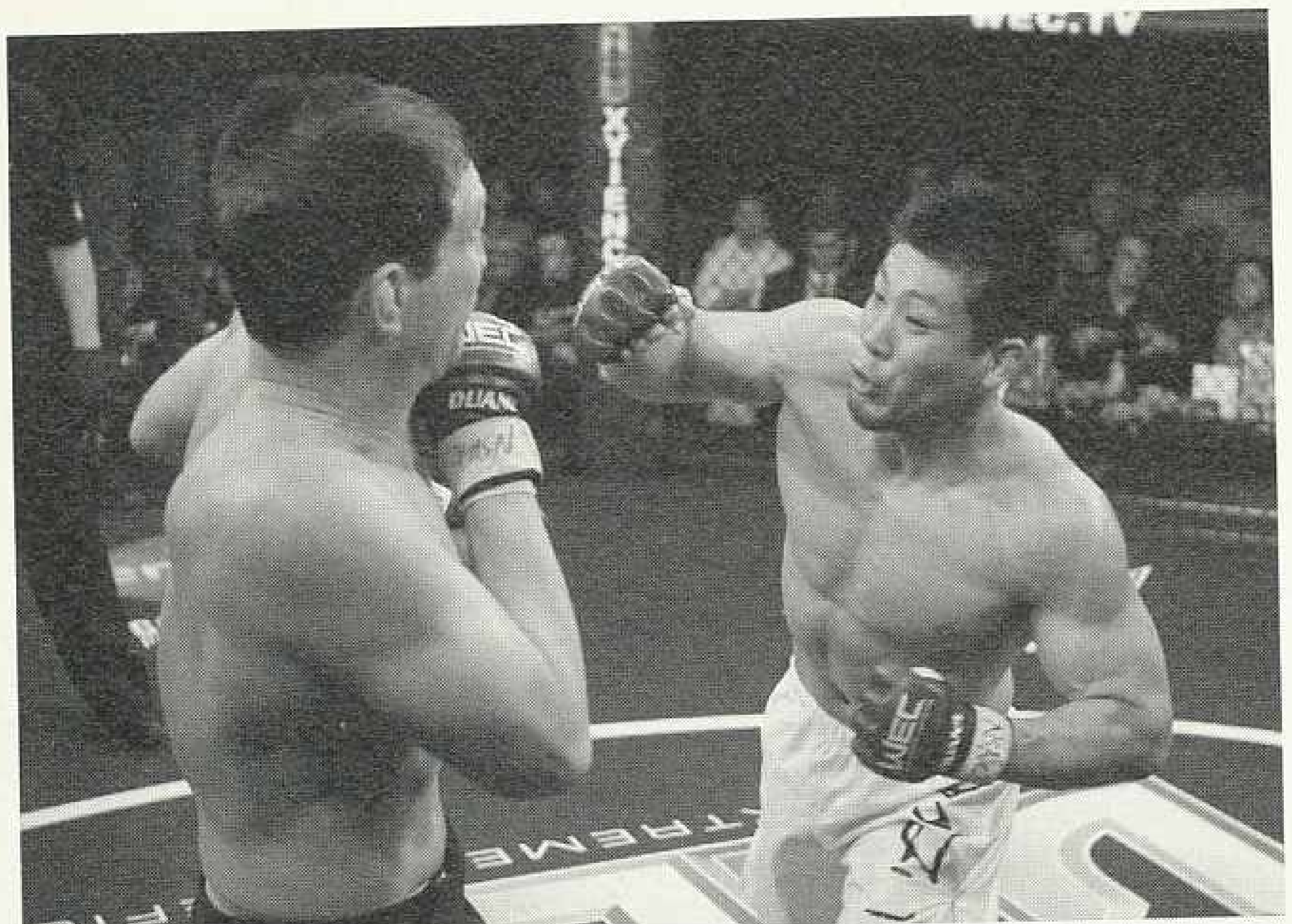
ほかの日本人が来ないうちに、いけるところまでいこうと思ってます！

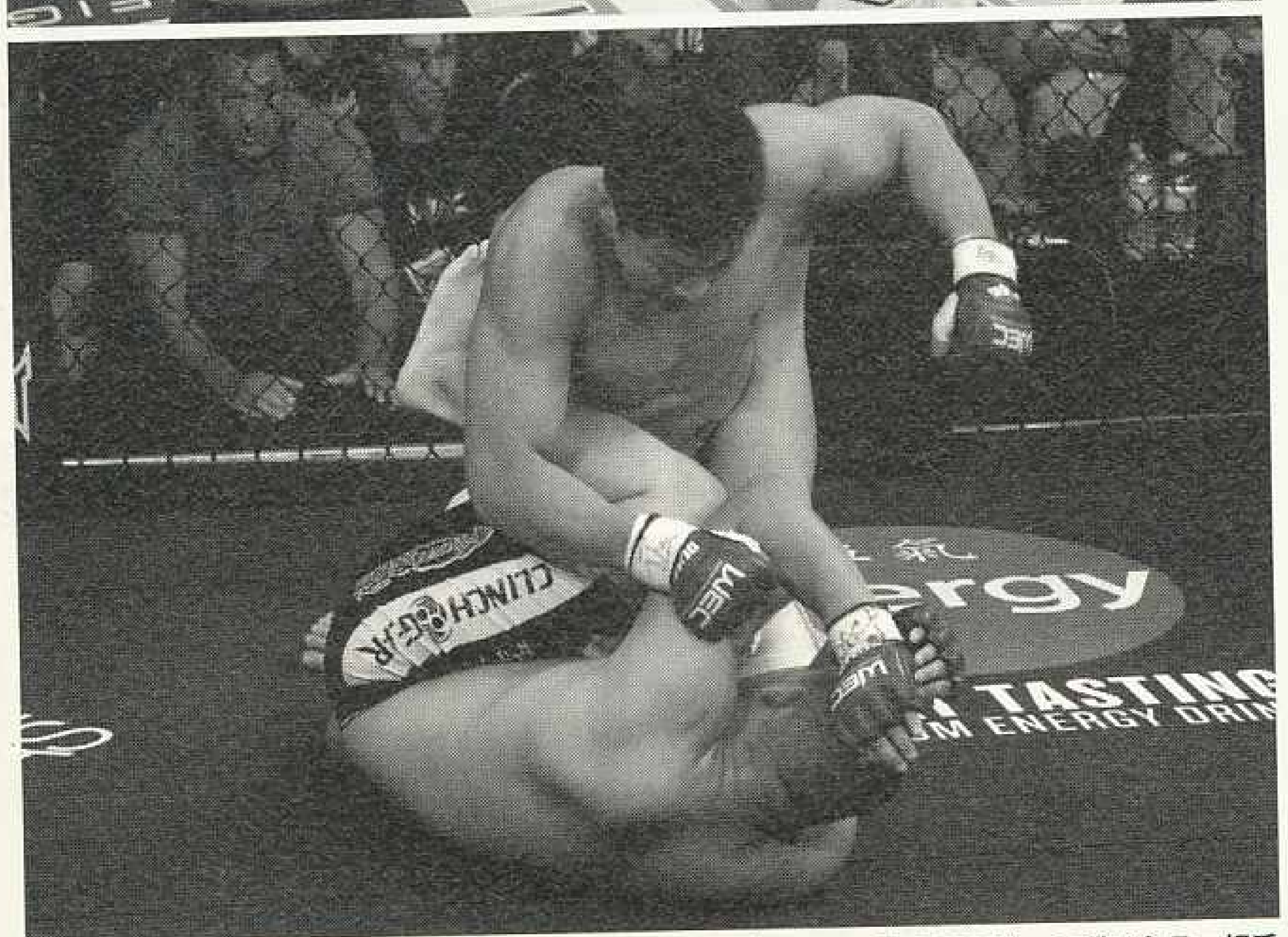
三浦広光
(SAMURAI SWORD)

これまでUFCに参戦した日本人は数多くいるが、この本の発売日の10月1日現在、WECに参戦した日本人は三浦広光ただ一人。パンクラスで総合デビューをはたした三浦は、その後、DEEPやHERO'S、さらにはキックルールにも挑戦するなど幅広い舞台で活躍してきた。そんな三浦にWEC参戦の経緯と今後の野望を直撃！

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／Josh Hedges（UFC）

WECの一回目は相手がケガして、大会当日に帰ってきました(笑)





上は三浦のWEC初参戦となったジェイソン・ミラー戦（07.5.12『WEC27』）。三浦はミラー相手に互角の勝負を演じたものの判定負け。しかし、その内容を評価されWEC社長からベストバウト賞をゲット。下はWEC2戦目となるフェルナンド・ゴンザレス戦（07.8.5『WEC29』）。この試合での三浦はスタンドでのパンチや飛びヒザ蹴り、グラウンドでも肩固めやアームロックで攻めまくり、最後はパウンド連打でWEC初勝利。次の試合はWEC12月大会の予定とのことだが、相手は誰だ!?

——日本の総合格闘技界は、ちょっと元気がない中、海外で活躍する日本人選手が増えてきてますが、今回はWECで活躍する三浦さんに話を聞かせてもらえればと思ってます！

三浦　よろしくお願いします。

——テレビでは観られないとはいえ、UFCはだいぶ知られてきていると思うんですが、WECはまだ……。

三浦　知らない人のほうが多いでしょうね（笑）。

——そうかもしれませんね（笑）。いまのところ、WECで何試合してるんでしたっけ？

三浦　とりあえず、3回は会場に行ってるんですけど（苦笑）。

——たしか、一発目からハプニングがあったんですよね。

三浦　そうなんです（苦笑）。大会前日に対戦相手（ジョー・リグス）がケガしちゃって試合が中止になって。それで、そのまま大会当日に帰ってきました。

——それはなかなか貴重な体験ですね（笑）。

三浦　さすがに大会前日だったんで代わりの選手もいなかったみたいで。WECでは撮影とかあるんで、大会の5日前ぐらいから行かなきゃいけないんですよ。

——煽り映像の撮影とかがあるんですね。

三浦　そうです。最初の二日間とかでUFCのスタジオとかで撮影とか煽りVを撮ったりとかして。それで前日計量になるんですけど、計量のときまでは相手がいたんですよ。

——どのタイミングで相手がいなくなってしまったんですか？（笑）。

三浦　次の日の朝ですね。ボクのところに朝の5時ぐらいに電話がかかってきて、そのときは出れなかったんですけど、8時ぐらいにまた電話があって、いきなり部屋に知り合いのエルメス・フランカの関係者が来てくれたんです。で、その人が「試合なくなった」って言って。朝っぱらから電話してきて何かなと思ったんですけど、そういうことみたいで（苦笑）。

——よくほかの大会とかでも、直前で負傷欠場とかってありますけど、まさか自分の相手が……。

三浦　（さえぎって）全然想像してなかったです。中止が決まってからはWECの関係者の方が気を使ってくれて「次回は相手を二人用意しておくよ」って（笑）。

——アハハハハハ！　でも、WECには初参戦だったんで相当に気合いも入ってたんじゃないですか？

三浦　そうですね。体調も良かったし、相手がけっこう名前のある選手だったんで、やりたかったんですけどね。あと日本から応援団がいっぱい来てくれてたので、それがちょっと気まずかったですね（苦笑）。

——自分のせいではないとはいえ、それは気まずいですね（笑）。当然、ファイトマネーも出ないんですよね？

三浦　あ、出ました（笑）。

——そこは保証してくれるものなんですか。

三浦　WECの社長がかわいそうだって言うんで。不戦勝っていうか、ウインマネーっていう勝ったときのぶんのファイトマネーをもらえました。そこはよかったかな、と（笑）。

——それはよかったですね（笑）。WECはUFCと同じズッファ社の傘下ってことですけど、UFCのダナ・ホワイト代表とは会ったりしました？

三浦　二回目の試合のあとに「いい試合だった」って、ほめてもらいましたね。

——二回目というか一発目の試合ですよね（笑）。

三浦　あ、そうでした（笑）。ダナ・ホワイトは毎回来てるんですけど、WECはお客さんも凄い豪華なんですよ。パリス・ヒルトンとかも来てましたし。

——セレブも観に来てるんですね。誰か選手と関係でもあるんですかね？

三浦　たしかティト・オーティズだったかが向こうの有名なポルノ女優と付き合ってるらしくて、その人脈でいろいろと来てるみたいで。

——うわ～、それはリングサイドも目が離せませんね（笑）。ちなみに、WECとは何試合契約なんですか？

三浦　5戦契約ですね。一番最初の試合は除いてってことなので、あと3試合残ってます。

——ちなみに、どういった経緯でWECに上がることになったんですか？

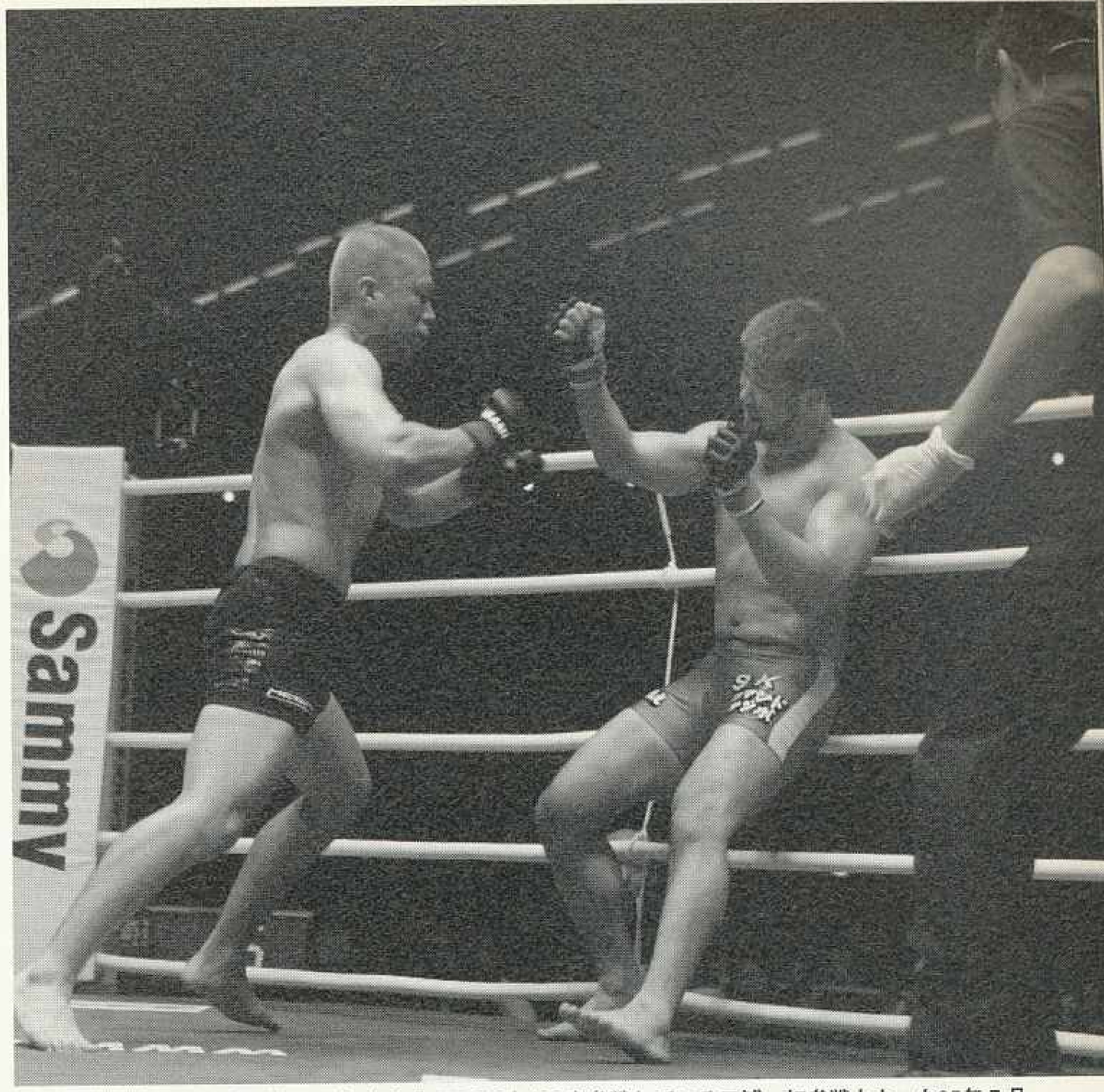
三浦　エルメス・フランカのところに練習に行ったときに、「なんでもいいから試合に出してくれ」ってお願いしたのがきっかけです。

——そうなんですか。フランカといえば、かつてUFCで宇野選手にKO勝ちしたり、『HERO'S』にも参戦経験（朴光哲に判定負け）のある選手ですよね。

三浦　そうです。その頃、エルメスから「WECの話があるけど出るか？」って言われて「お願いします」ってことで決まったんです。

三浦広光MMA全戦績(07.10.1現在)

×vsジョー・ダース　3R　4分56秒　ギブアップ(04.7.25　パンクラス)
○vs中西裕一　2R　判定2-0(04.9.24　パンクラス)
○vsクァク・ユン・ソブ　1R　54秒　TKO(04.11.7　パンクラス)
○vs藤沼弘秀　2R　判定3-0(05.2.12　DEEP)
○vs出田源貴　1R　56秒　TKO(05.4.10　club DEEP)
×vs竹内出　2R　3分35秒　TKO(05.7.6　HERO'S)
×vsケスタティス・スミルノヴァス　2R TKO(05.11.26 HERO'S　リトアニア)
○vs大久保一樹　3R　判定3-0(06.1.28　Wカプセル)
○vsジョバニ・ペレイラ　1R　2分35秒　KO(06.6.11　Wカプセル)
○vs滝川リョウ　1R　1分36秒 TKO(06.10.9　HERO'S)
×vsジェイソン・ミラー　3R　判定3-0(07.5.12　WEC27)
○vsフェルナルド・ゴンザレス　2R　3分35秒 TKO(07.8.5　WEC29)



オープニングファイトながら、これまで『HERO'S』に2度参戦している三浦。初参戦となった05年7月の代々木大会ではパンクラスなどで活躍する実力者・竹内出と対戦。三浦はムキになり殴り合ってしまい最後はTKO負け。この試合を契機に三浦は本格的に打撃のトレーニングをするようになったという。

――そんなに簡単に決まるものなんですね（笑）。

三浦　なんか簡単に決まりましたね（笑）。

――オープニングファイトとはいえ、『HERO'S』にも出場していた三浦さんがWECを選んだのは何か理由でもあるんですか？

三浦　『HERO'S』は、秋山選手がああいう状態になって、ライトヘビーもしばらくやるのかどうかわからなくなっちゃったじゃないですか。

――トーナメントの予定も延期されちゃいましたからね。

三浦　ですよね。そのうち、『PRIDE』のほうもやるのかやらないのかわからなくなったんで。じゃあ、しばらくはアメリカに練習に行ってレベルアップしようってことで、たまたま知り合いの紹介でエルメスのところに行ったんですよ。

――そこでエルメスと仲良くなったと？

三浦　そうですね。その頃は自分のプロモーションビデオとか作って、いろんな団体に送ったりしてたんですけど、あんまり返事もなくて。そんなときにエルメスと知り合って紹介してもらったっていうのがWECに上がるきっかけですね。

――たしか、エルメス選手もWECに上がっていたんですよね？

三浦　そうです。そのツテもあって自分のことを売り込んでくれて。

――海外の試合ってWEC以外にも経験されてるんでしたっけ？

三浦　リトアニアで試合してます。桜庭さんと『HERO'S』で闘った（ケスタティス・）スミルノヴァスに負けちゃいましたけど（苦笑）。

――そうでしたか。でも、日本もそうみたいですけど、やっぱりツテであったり、コネであるとかって重要なんですね。

三浦　ボクはコネとかも全然なかったんですけど、たまたまエルメスのところに練習に行ったら試合まで面倒みてくれて。

――三浦選手は日本では『HERO'S』以外にも、パンクラスだったり、DEEPだったり、ほかにもキックのリングだったりといろんな大会に出てますよね？

三浦　そうですね。いろいろと出ましたけど、いまが一番いいですね。

――体重は大会によって、まちまちなんでしょうけど、いまはどれぐらいがベストなんですか？

三浦　82キロが自分の中で一番やりやすいですね。でも、WECのミドル級は83・9キロなんで凄く大きいんですよ、みんな。試合当日は「えっ？」って思うことも多いし（笑）。

――それは大変ですね。いまは減量するって感じではないんですか？

三浦　いや、落としてますね。普段は85～86キロはあるんで。ホントは81キロとか82キロぐらいでやるのが一番いいですけど、いまのWECの階級では90キロ近くある選手が落としてくるんで、けっこう大変なんです（苦笑）。

――もう一つ軽い階級で闘うこととかも考えているんですか？

三浦　考えてますね。そっちのほうが力を出せるかなっていうのもあるんですけど、まだ迷ってるところです。

――いまのところ、狙っているのはパウロ・フィリオが持っているミドル級王座？

三浦　う～ん、やっぱりベルトは獲りたいんですけど、いまは、まだ経験を積む時期かなっていうのもあって。それに、パウロ・フィリオのチームメイトからは「一緒に練習しないか」って話もされてて、今後、ブラジルまで行こうかなっていうのもあるんで。

――一緒に練習したら闘いづらくなりますからね。そういえば、WECでの初戦で社長から賞をもらったんですよね？

三浦　はい。判定で負けた試合だったんで微妙なんですけど（苦笑）、一応「ベスト・オブ・ザ・ナイト」って賞をいただきました。

――それは当日のベストバウトみたいな感じなんですかね？

三浦　そうみたいです。社長が直接決めるみたいなんですけど、その日一番いいなと思った試合の選手に小切手をくれるんですよ。控室で。

――社長賞みたいな感じですね。

三浦　WECには「ベスト・オブ・ザ・ナイト」っていうのと、あと、一番いいKO賞と、一番いいサブミッション、3つ賞があるんですよ。その中の一つです。

――へぇ～、そんなに社長賞があるんですか。『PRIDE』とかでも、一本勝ちとかKOしたらギャラアップとかって聞きますけど、WECでも、おもしろい試合をすればするほどギャラが増えていくと？

三浦　そうみたいです。あと、どんなかたちでも勝てば、とりあえず、最初に言われたファイトマネーの倍もらえるんですよ。

――たとえ、しょっぱい試合でも？

三浦　はい。どんなかたちであれ、契約でそうなってるみたいで。

――じゃあ、選手にとっては凄くヤル気が出るイベントなんですね。

三浦　そうですね。社長やスタッフとかも試合前とか凄く煽ってきますから。「いい試合しろ！　KOしろ！」って（笑）。

――それはプレッシャーですね（笑）。まあ、日本でもDEEPの佐伯代表とかも同じようなことを選手に言いますけどね。

三浦　ホントそんな感じです。試合前に控室に来て言われるんで（笑）、これはやるしかないなと思いますね。

――WECの試合はナマで見たことがないんですが、やっぱり日本人ということで客席からのブーイングとかも凄いんですか？

三浦　最初の試合のジェイソン・ミラーのときは凄かったですね。もう、入場のときから「ブーブーブー」



今年8月の『WEC29』に出場した際、セコンドについてくれたというエルメス・フランカの仲間たちとおどける三浦。英語に限らず外国語は苦手だという三浦だが「逆にそのほうが仲良くなれる」とのことで海外生活も苦にしていない様子だ。

言ってたんで（笑）。

—それは、日本人だからですかね？

三浦　どうかわからないですけど。でも、この前の試合のときは少なかったですね。自分の名前をコールされたときにちょっと「ブーブー」っていう感じで。

—そういうブーイングって影響あったりします？

三浦　いや、試合には影響はないですけど、やっぱちょっとムカつきますね（笑）。

—まあそうですよね（笑）。三浦さんは日本でもいろんな大会で試合をされてましたけど、試合後は勝っても「つまんない試合してすみませんでした」みたいな発言をしていることが多いですよね。

三浦　あ～、そうかもしれないですね（笑）。

—やっぱり、単に勝てばいいっていうんじゃなく、お客さんを楽しませたいっていうのはあるんですかね？

三浦　う～ん、デビュー戦がちょっと、出来がよかったっていうか（笑）。

—あ～、たしか勝利目前だったのに、残り何秒かでの逆転負けで会場は盛り上がってましたよね。「何やってんだ！」って感じで（笑）。

三浦　そうですね（苦笑）。で、そのあとの試合は勝ったとしても、なんかよくわかんない感じだったんで、このままじゃいけないなっていうのもあったんですよね。関節取るのも難しいなあとか思って、それから打撃に力を入れるようになったんですよ。

—三浦選手は柔道出身ですけど、総合を始めた当初は、もっと簡単に関節を取れると思っていたとか？

三浦　思ってましたね。『PRIDE』とか観てても「俺でも絶対にいける」っていう根拠のない自信とかもあったんで（苦笑）。

—その思いがデビュー戦で打ちのめされたと？

三浦　そうですね。それから打撃に力を入れるようになったらKOできるようになってきたんで、いまは試合内容とかもけっこういい感じだとは思うんですけど……どうですかね？

—いや、いい感じなんじゃないですか（笑）。いまは総合格闘家としてある程度自信も出てきたと？

三浦　最近やっとかたちになってきたかなっていうのはありますね。

—三浦さんはキックの試合にも出て勝利を収めてるんですよね？

三浦　そうですね。RISEって大会で一応KO勝ちしてますね。

—それはどういった経緯で？

三浦　その頃ちょうど総合で上がるリングもなかったんで、練習させてもらってるRIKIXの小野寺（力）会長から「経験積むためにアマの試合に出るか？」って言われたんですけど、それをウチの代表の市野川さんに話したら、「プロの試合で」ってことになって、いつの間にか決まってましたね（笑）。

—いまはアメリカでMMAが盛り上がってるっていうのもあるんでしょうけど、やっぱり契約とか抜きに日本で試合がしたいっていうのはないですか？

三浦　正直それもありますけど、理想を言えば、WECの試合を日本でも放送してくれればいいですよね（笑）。

—そうですね（笑）。いまはUFCも観られなくなってますからね。

三浦　まあでも、ボクはまだWECでも有名じゃないんで、いまは一試合一試合勝つことが重要だと思ってます。

—UFCで活躍してる岡見（勇信）選手のように、三浦選手もWECで活躍して、日本に逆上陸できたら最



みうら・ひろみつ■1981年9月22日、福岡県うきは市出身。小学時代から柔道を始め、大東文化大学在学中には全日本ベスト8、01年コンバットレスリング85kg級優勝、04年全日本サンボ選手権90kg級優勝の実績を持つ。04年7月にパンクラスでデビュー。その後はHERO'Sやキックルールにも挑戦。現在はWECで活躍。176cm、85kg。右は三浦が所属するSAMURAI SWORDの市野川昌也代表。市野川氏は都内で飲食店を数店経営する実業家でもある。

理想を言えばWECの試合を日本でも放送してもらいたいです！

高なんじゃないですか？　チャンピオンにでもなれば日本で闘ってる選手よりも、いいファイトマネーをもらえる可能性もあるでしょうし。

三浦　そうですよね。たぶん、WECって、これからはいままで以上に大きくなっていくと思うんで、そこで活躍し続けていけば、そういう可能性もありますよね。

—あると思いますよ。いまのところWECに上がっている唯一の日本人選手なわけですから。

三浦　そうなんですよね。そういえば、このあいだの試合で勝ったんで、次のギャラが違うんですよ。

—契約中でも勝てば次の試合はギャラが上がるんですか？

三浦　勝っていけばドンドン上がっていくみたいで。そういうのもあるし、次の試合は12月って言われてるんですけど、よけいに負けられないなって思ってます（笑）。

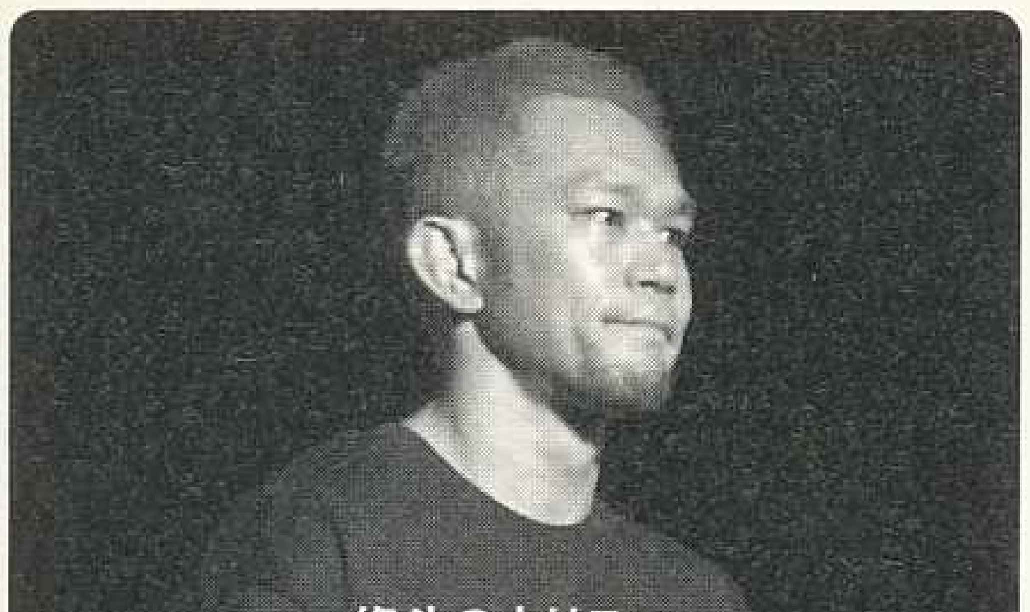
—モチベーションが上がりますよね。では、日本代表としてWECマットでの活躍を期待してます！

三浦　あんまり日本代表っていう気持ちはないんですけど、いまのところ一人だけ出てるっていうのは気分はいいですね（笑）。

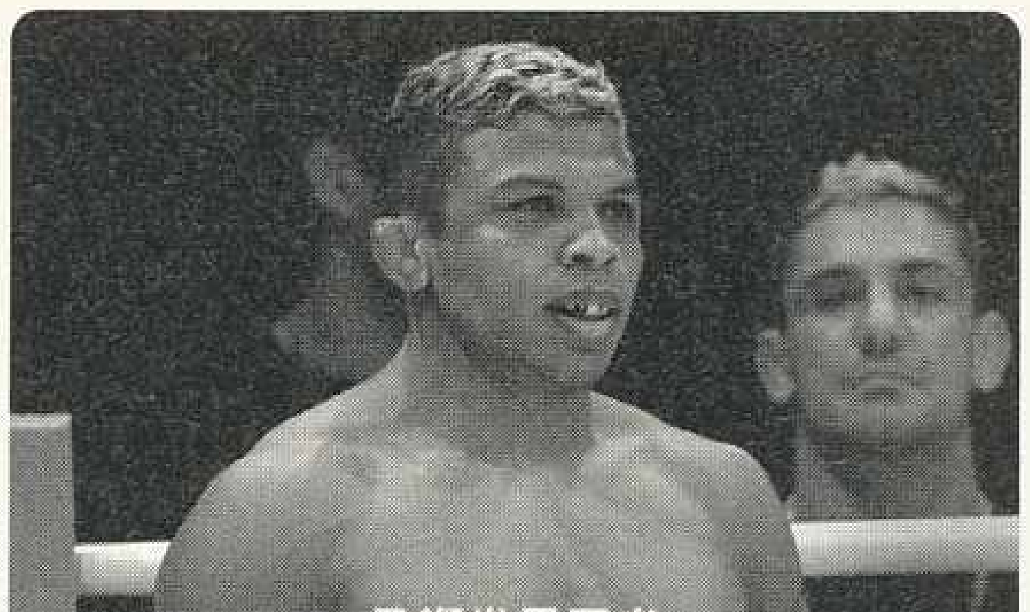
—まあ、おいしいですよね（笑）。

三浦　はい（笑）。正直、WECはUFCと変わらないぐらいレベルも高いし、チャンピオンになるのは難しいですけど、ほかの日本人が来ないうちに、いけるところまでいこうと思ってるんで、とりあえず「三浦広光」って名前を覚えておいてください！

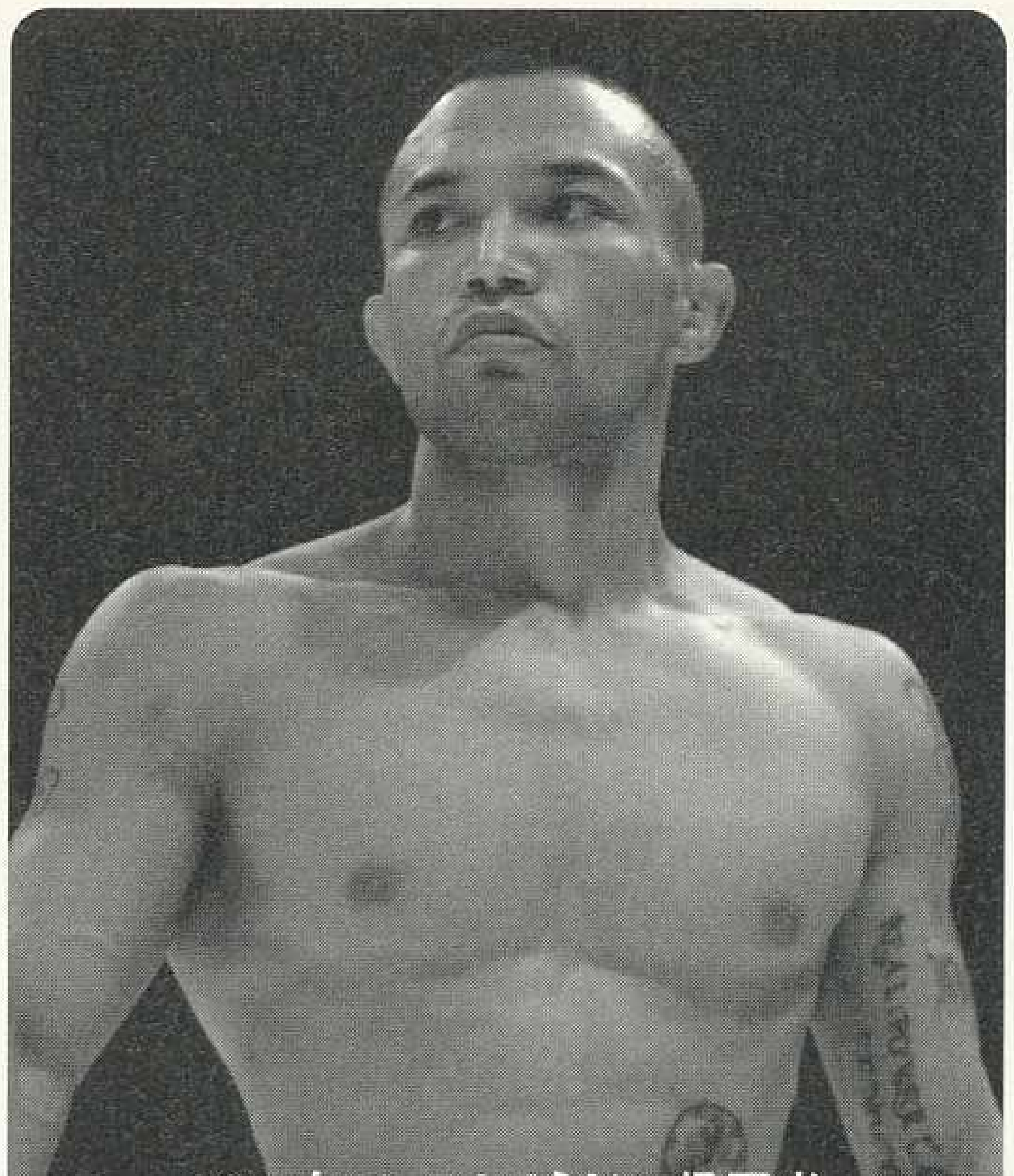
【07年8月25日／都内・神泉「うなぎ いちのや」にて収録】



修斗のカリスマ
佐藤ルミナ
1973年12月29日、神奈川県出身。167cm、65kg。roots所属。初代修斗環太平洋ライト級王者。10年以上にわたって世界の強豪と闘い、修斗というジャンルを支えてきた"修斗のカリスマ"。一昨年に環太平洋王座を獲得するも、世界タイトルを照準にベルトを返上。その後はケガもあって満足な戦績を残せていないが、どんな相手に対してもあえてリスクを侵して一本を狙いにいくアグレッシブな姿勢はまさにプロの鑑。修斗ファンからの支持は誰よりも熱い。



柔術世界王者
ビビアーノ・フェルナンデス
1980年3月30日、ブラジル出身。167cm、61kg。レボリューション・ファイトチーム所属。柔術ブラジル選手権、世界選手権（ムンジアル）、パンアメリカン選手権優勝。柔術、グラップリングで数々のタイトル歴を誇り、教則DVDも発売されるほどの優れた技術を持つ。MMAの経験はKID戦を含めても3戦（1勝2敗）だが、敗れたKID戦、ユライア・フェイバー戦ともグラウンド・テクニックは光った。総合の闘い方にフィットしていけば、存在感を増していくことは確実。

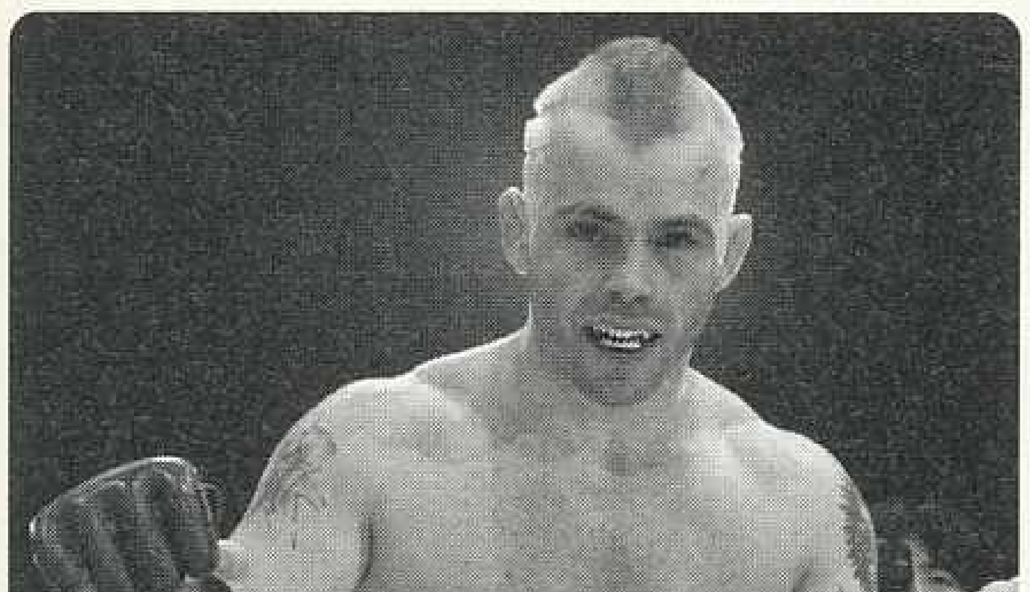


2005年HERO'Sミドル級王者
山本"KID"徳郁
1977年3月15日、神奈川県出身。163cm、65kg。KILLER BEE所属。2005HERO'Sミドル級トーナメント優勝。日本トップクラスだったレスリングの能力をベースに、破天荒かつ鋭い打撃と暴力的なまでのパウンドで70kgトーナメントでも頂点に立った"神の子"。この男の階級変更によって、一気に65kgの階級が注目を浴びることに。9／17『HERO'S』でのビビアーノ戦は判定勝利にとどまったがジャンルの牽引役として、これからも存在感を増していくはず。ユライアとのリアル"KID"対決にも期待!

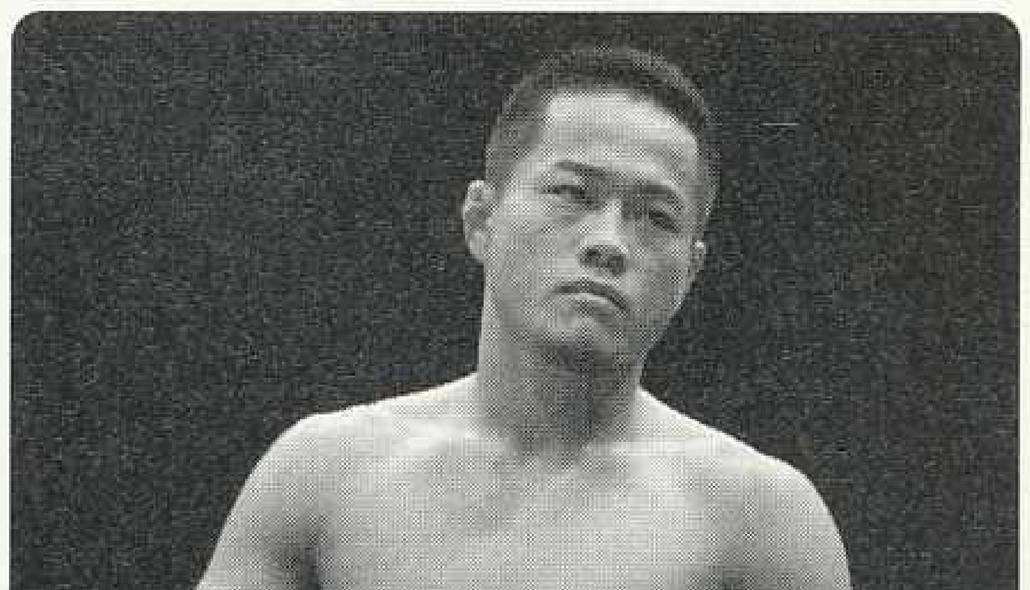
世界を階級か？ -65kg FIGHTERS LIST

ここまでWECの特集をしてきましたが、何か気づきませんか？　そうです！　WECで盛り上がっている軽量級は強豪日本人選手がわんさかいる階級なのです。大げさにいえば、日本人が世界を獲れる唯一の階級と言ってもいいかもしれません。というわけで、ここでは団体の垣根を超え、65キロ級の世界のトップファイターを一気に紹介しましょう！

文／橋本宗洋　構成／阿修羅チョロ



初代UFCライト級王者
ジェンス・パルヴァー
1974年12月6日、アメリカ出身。170cm、70kg。ミレティッチ・マーシャルアーツ所属。初代UFCライト級王者。2001年、宇野薫を下して初代UFCライト級王座に就いた、アメリカにおける中量級のパイオニア的存在。現在のMMAでは基本となる"テイクダウンされずに殴る"スタイルの元祖でもある実力者で、階級をフェザーに下げてのWEC参戦でユライア・フェイバーとの世代闘争が注目される。日本でも修斗、『PRIDE武士道』、さらには『LEGEND』に登場した。



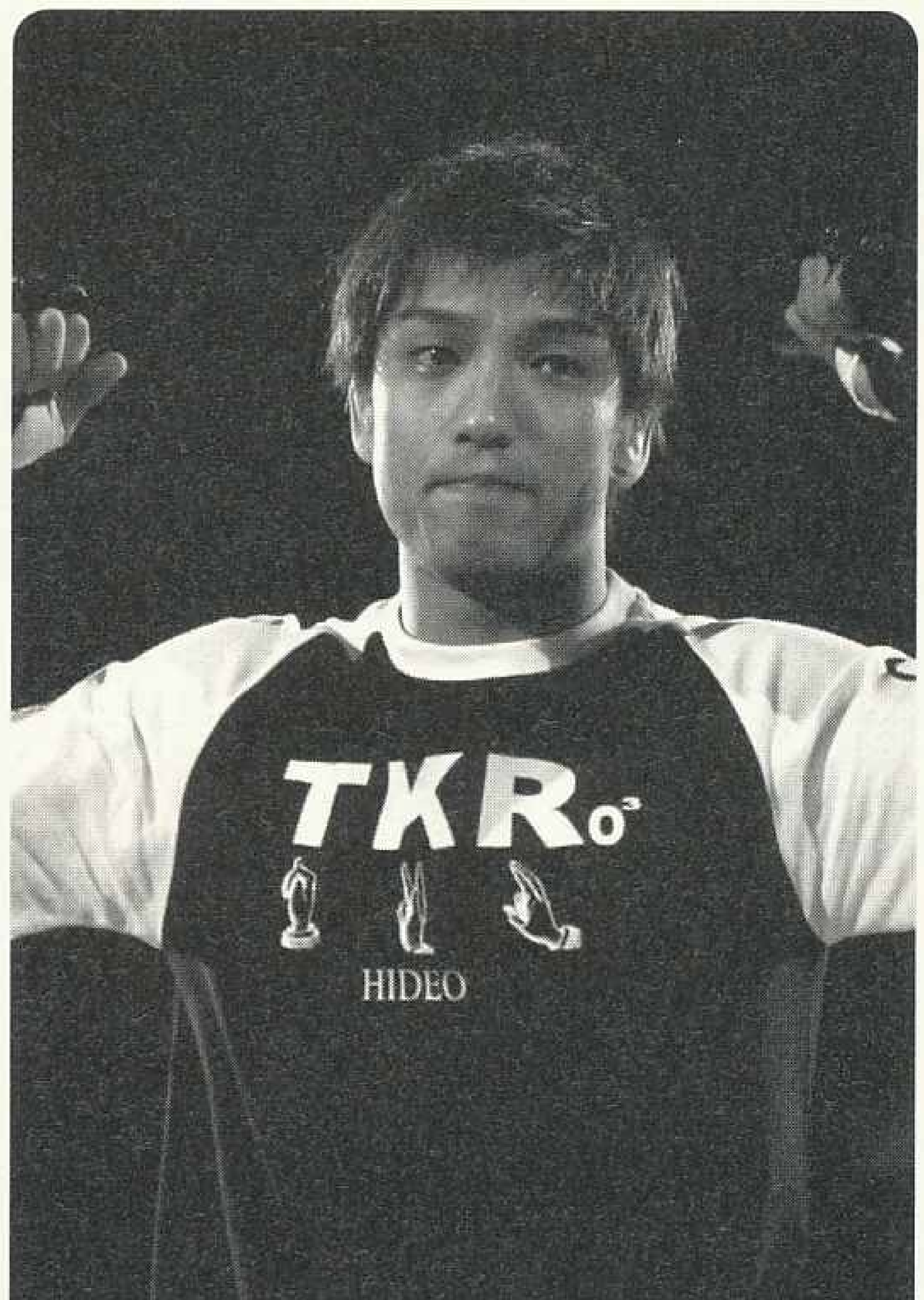
ケンカ番長
高谷裕之
1977年6月10日、千葉県出身。167cm、65kg。WK高谷軍団所属。2003修斗ライト級新人王。『HERO'S』ではこのところ3連敗を喫しているが、9月8日のCAGE FORCEでは左フック一発で豪快なKO勝利を挙げ、ひさびさにらしさを見せた。打撃重視のアグレッシブなスタイルはプロとして◎。かつて修斗でステファン・パーリングをハイキックKOに下し、ジョン・ホーキとも引き分けて世界挑戦目前までいった実力は、本来の階級で再び開花すること確実だ。



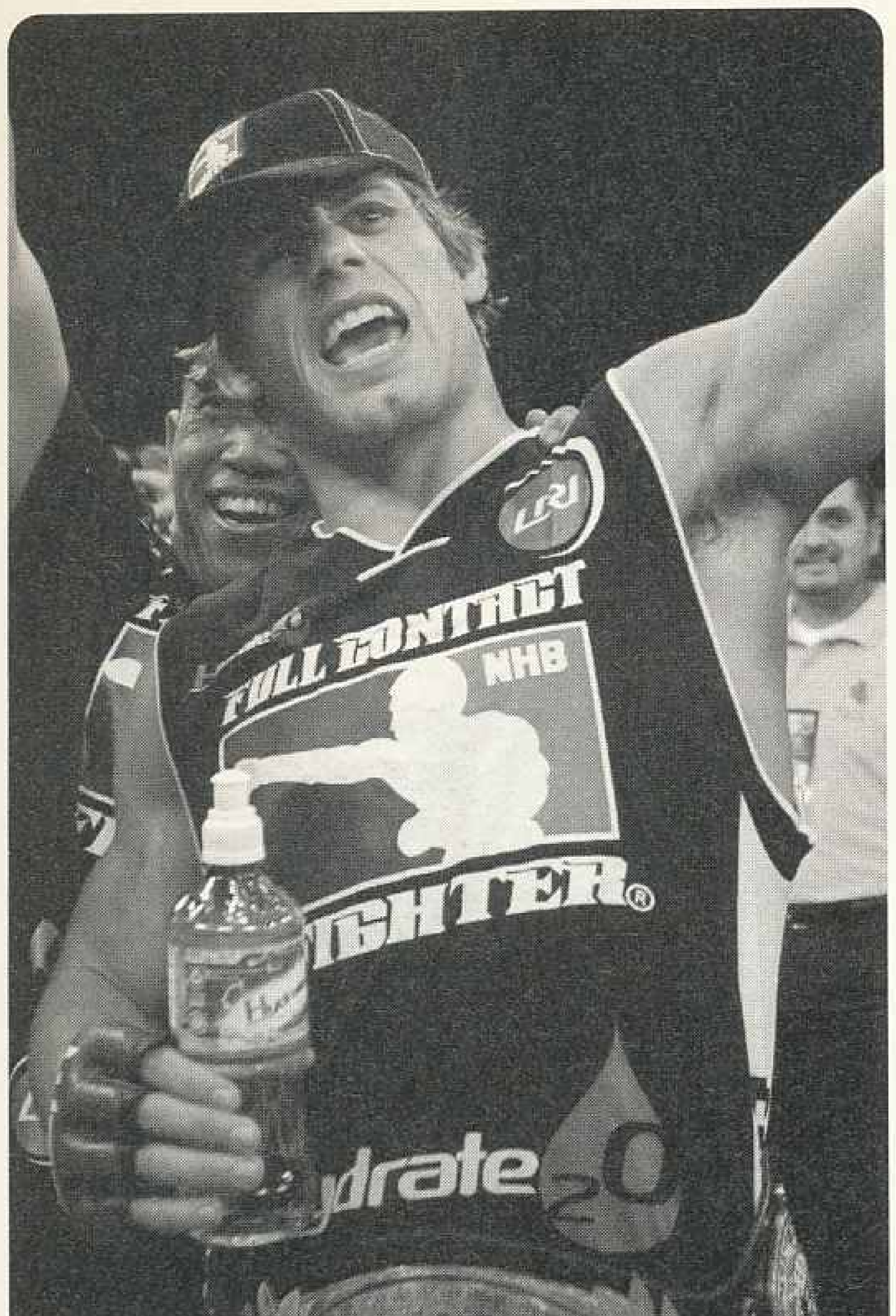
第5代修斗世界ライト級王者
リオン武
1980年3月10日、神奈川県出身。172cm、65kg。シューティングジム横浜所属。第5代修斗世界ライト級王者。熾烈なランキング&タイトル争いが展開される修斗、その最激戦区であるライト級で13勝2敗（うちKO・一本勝ちが8）という戦績は見事というほかない。鋭く伸びるパンチと的確なパウンドで、昨年5月には世界タイトルも獲得してみせた。田村彰敏に敗れベルトは失ったものの、復帰戦では一本勝ち。今後の巻き返しは確実と言っていい。



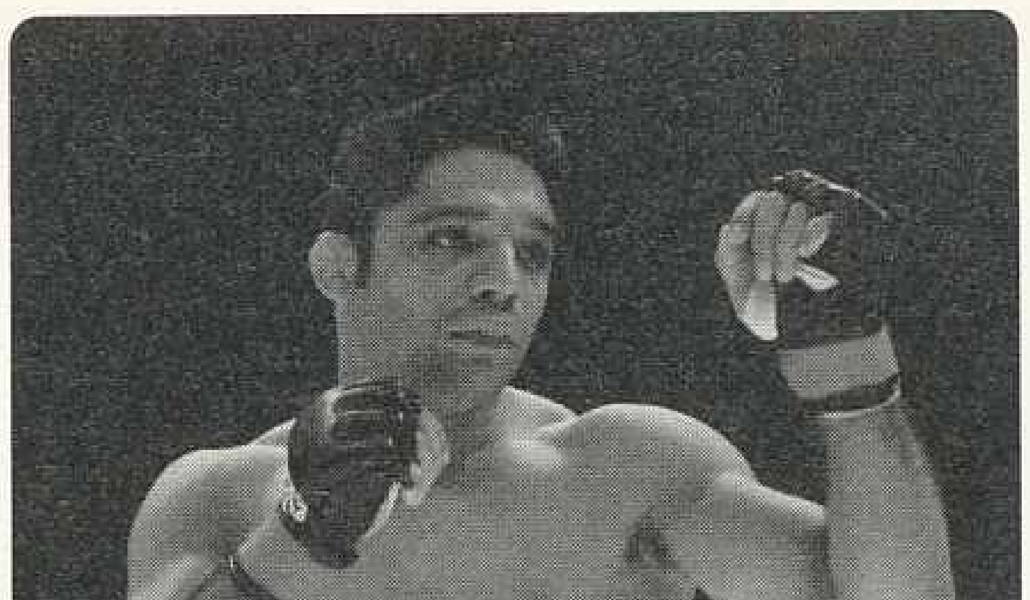
TKOフェザー級王者
日沖発
1983年7月18日、愛知県出身。177cm、65kg。ALIVE所属。TKOフェザー級王者。この階級としては破格といっていい177cmの長身と長い手足を武器に、スタンド、グラウンドとも高いポテンシャルを持つ。打・投・極、あらゆるテクニックを使いこなすことから"修斗の子"の異名も。昨年8月には『PRIDE武士道』参戦も果たしている。カナダの大会TKOでマーク・ホーミニックを二度にわたって下すなど、今後も世界レベルでの活躍が期待される選手だ。



小さなヴォルク・ハン
所英男
1977年8月22日、岐阜県出身。170cm、65kg。チームゼスト所属。第1回GTF優勝。いまさら紹介するまでもない"世界の"所さん。だがフリーターよりも風呂なし生活よりも、所にとって重要なアピールポイントはひらめきにあふれた変幻自在の関節技。強豪揃いのZSTグラップリングトーナメントで優勝し、レミギウス・モリカビュチスやアレッシャンドリ・ノゲイラらを下した抜群の勝負強さは、本来の階級でさらに発揮されるはず。



WECフェザー級王者
ユライア・フェイバー
1979年5月14日、アメリカ出身。168cm、66kg。キャピタルシティ・ファイティング・アライアンス所属。KOTCバンタム級王者、WECフェザー級王者。注目が高まりつつあるWECの王者にしてエース。全米大学選手権準優勝の実績があるレスリングをベースに強烈なパウンド（ヒジ）、そして極めと抜群の攻撃力を誇る。山本KIDにも対戦表明しており、この両者が65kg級の両輪といっていいだろう。通称“カリフォルニア・キッド”。



第4代修斗ライト級王者
アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ
1978年1月15日、ブラジル出身。166cm、65kg。修斗ブラジル道場所属。第4代修斗世界ライト級王者。ペケーニョの相性で知られる、この階級の看板選手の一人。必殺のギロチンチョークを武器に修斗初参戦で朝日昇を倒し、わずか3戦目でライト級タイトルを奪取。その後も修斗における王座最多防衛記録を持つ。『HERO'S』ではミドル級に階級を上げたことで動きにキレが失われた感もあるが……。65kg級の盛り上がりによって、再び評価が高まりそうな気配だ。



DEEP&CAGE RAGEフェザー級王者
今成正和
1976年2月10日、神奈川県出身。165cm、66kg。Team-ROKEN所属。DEEPフェザー級王者、CAGE RAGE世界フェザー級王者。“足関十段”の異名通り、いかなる体勢からでも足関節を狙いにいくファイトスタイルで常に会場を沸かせる。前田吉朗との神経戦をアンクル一発で制したDEEP王座決定戦は、その真骨頂。コンバットレスリングで実現した佐藤ルミナとの足関合戦もマニアの語り種。『PRIDE武士道』では連敗したが、65kgでは世界屈指の強豪といえる。

日本人が世
獲れる唯一の階

コイツらの名前も覚えておいて損はなし！
軽量級注目ファイター
ここで紹介した選手以外にも、軽量級の注目ファイターはまだまだたくさんいるんです。写真はないですが、これから紹介する5人の選手は名前だけでも覚えておいたほうがいいかと思われます。3、2、1、軽量級、＼(^o^)／！

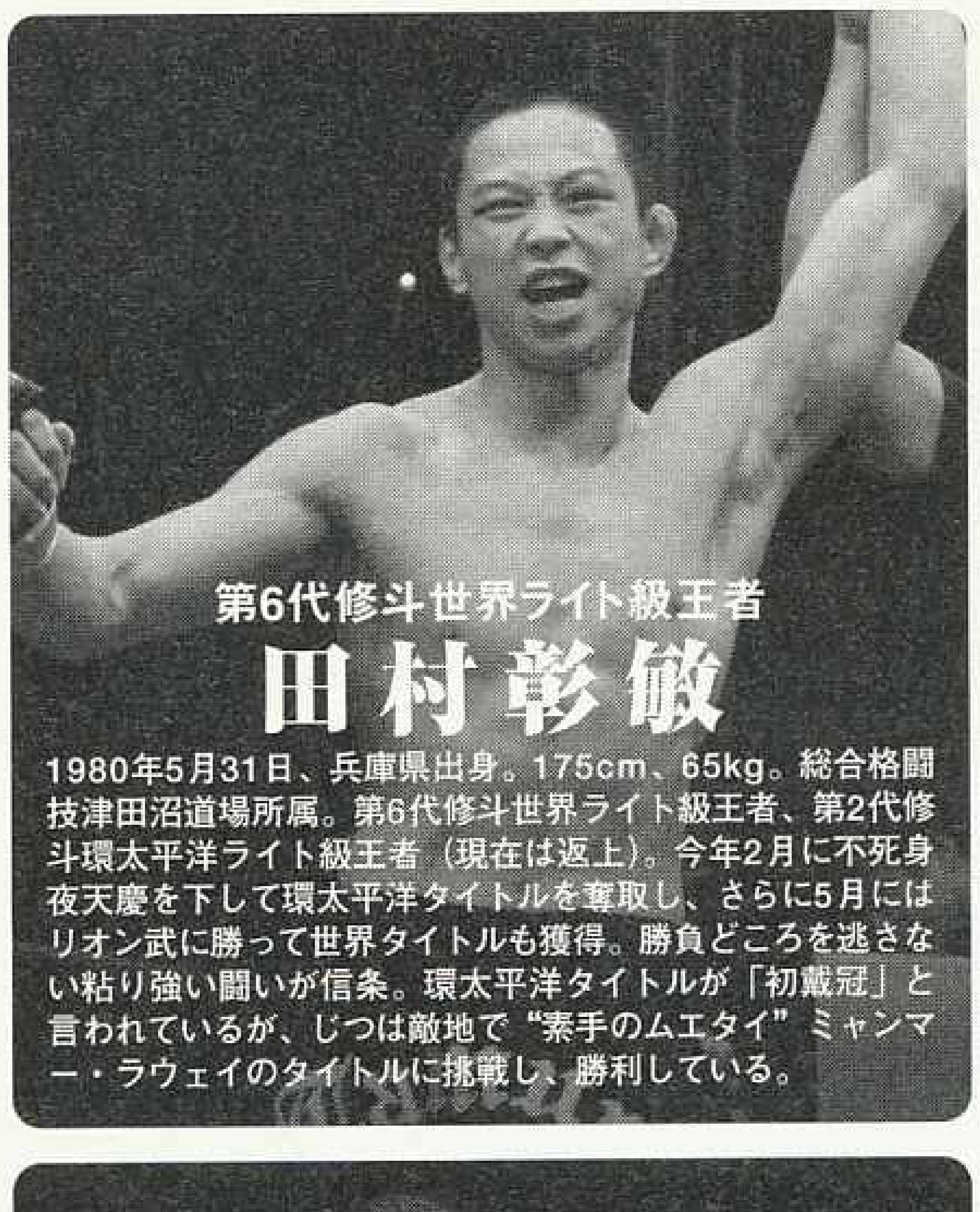
タイソン・グリフィン
ユライアに唯一黒星をつけた男として知られるタイソン・グリフィン。締め切りの関係上このページでは紹介できないが、9/22『UFC76』ではチアゴ・タヴァレスと対戦したタイソン。この試合の勝者は写真つきで紹介している15選手となんら遜色はないと言っていいと思います。

エイドリアン・パン
06年11月25日のCAGE FORCE有明大会で慧舟會の期待の星・中原太陽を三角絞めで下し、一躍脚光を浴びたエイドリアン。今年5月、地元オーストラリアで開催されたウォリアーズ・レルムでは同じく慧舟會の戸井田カツヤに引き分けている豪州軽量級のトップファイター。

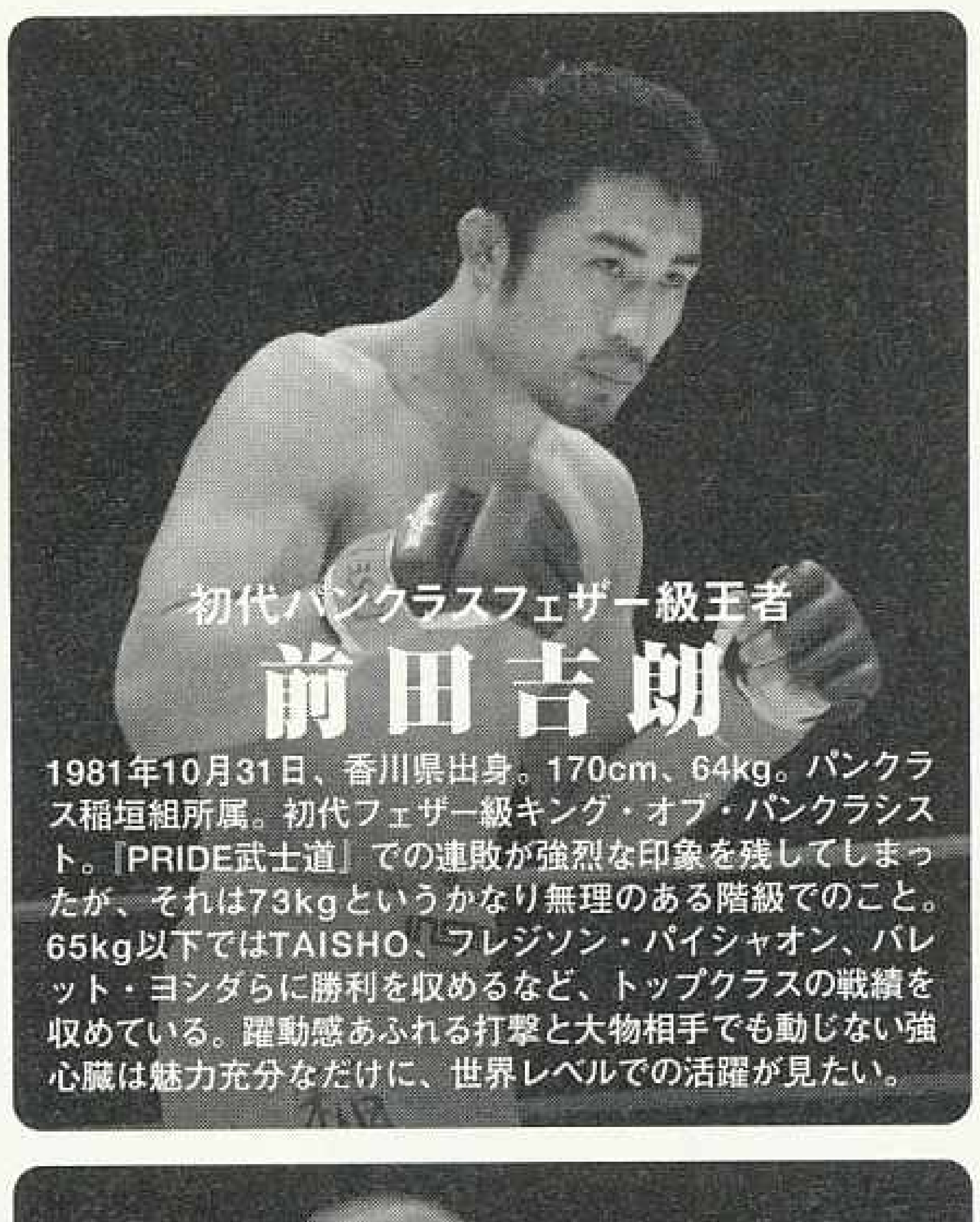
マイク・ブラウン
05年6月のDOGで中原太陽に一本勝ち、同年10月のDEEPフェザー級トーナメントでは山崎剛にも勝利しているマイク（準決勝で今成に敗退）。06年12月のボードッグ・ロシア大会では『武士道』でも活躍したイーブス・エドワーズを判定で下している米国軽量級の強豪。

マーク・ホーミニック
日沖発とはTKOフェザー級のタイトルを賭け2度対戦するも、どちらも敗戦。しかし、上のマイクと同様、UFCではイーブスに勝利、今年7月にはシュートボクシングに参戦。初のSBルールながらもウェルター級1位の菊地浩一を下しているカナダを代表する軽量級ファイター。

フレジソン・パイシャオン
ブラジリアン柔術で数多くの実績を残し、04年5月にジャングルファイトでのハニ・ヤヒーラ戦で総合デビューし、見事勝利を飾る。同年8月にはパンクラスでの前田吉朗戦で判定負けを喫するも、その後は総合ルールで5連勝。06年8月のDEEPでは今成を判定で下している。



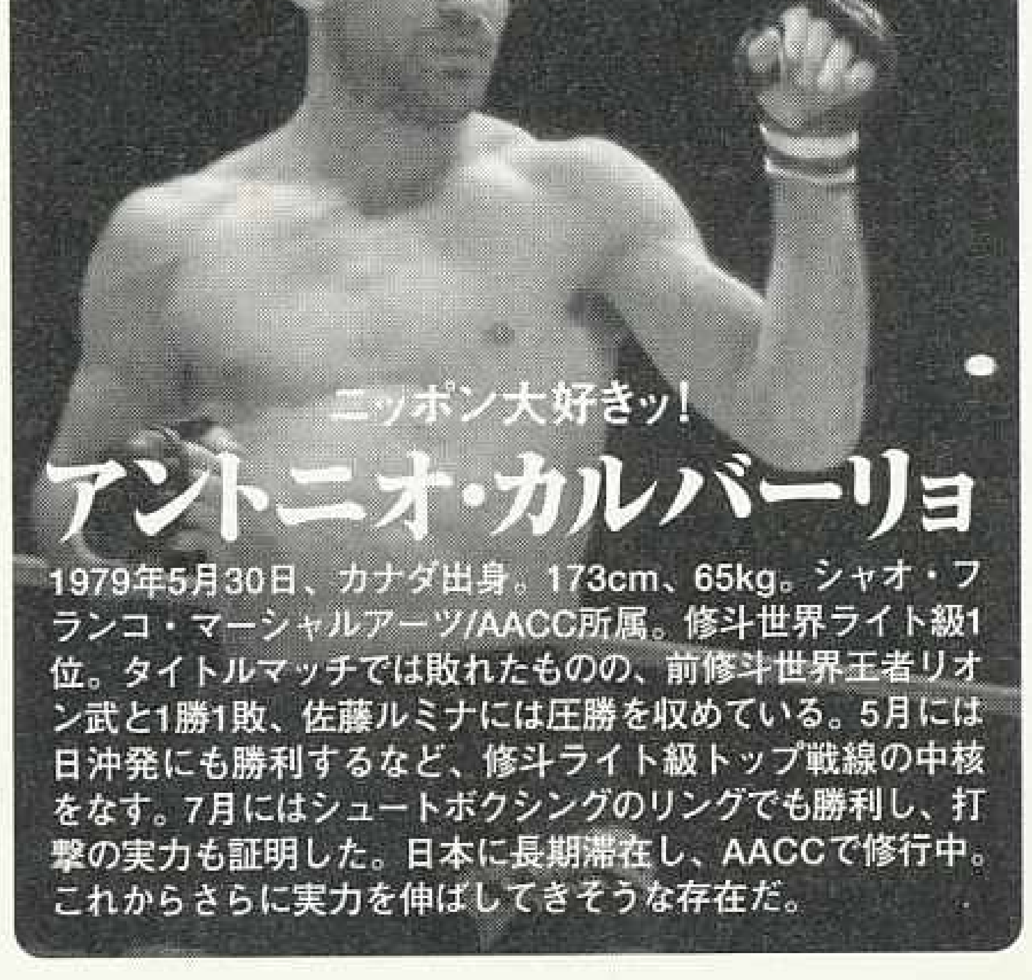
第6代修斗世界ライト級王者
田村彰敏
1980年5月31日、兵庫県出身。175cm、65kg。総合格闘技津田沼道場所属。第6代修斗世界ライト級王者、第2代修斗環太平洋ライト級王者（現在は返上）。今年2月に不死身夜天慶を下して環太平洋タイトルを奪取し、さらに5月にはリオン武に勝って世界タイトルも獲得。勝負どころを逃さない粘り強い闘いが信条。環太平洋タイトルが「初戴冠」と言われているが、じつは敵地で“素手のムエタイ”ミャンマー・ラウェイのタイトルに挑戦し、勝利している。



初代パンクラスフェザー級王者
前田吉朗
1981年10月31日、香川県出身。170cm、64kg。パンクラス稲垣組所属。初代フェザー級キング・オブ・パンクラシスト。『PRIDE武士道』での連敗が強烈な印象を残してしまったが、それは73kgというかなり無理のある階級でのこと。65kg以下ではTAISHO、フレジソン・パイシャオン、バレット・ヨシダらに勝利を収めるなど、トップクラスの戦績を収めている。躍動感あふれる打撃と大物相手でも動じない強心臓は魅力充分なだけに、世界レベルでの活躍が見たい。



第7回ADCC 66kg未満級王者
ハニ・ヤヒーラ
1984年9月12日、ブラジル出身。169cm、66kg。アタイジジュニア柔術所属。2007アブダビ・コンバット66kg未満級優勝。軽量級においてグラウンド・テクニックでは最高峰といえる選手。アブダビで準優勝1回、優勝1回という成績からも、それはうかがえる。『HERO'S』ではJ.Z.カルバンにフロントチョークで敗れたが、それ以前に矢野卓見、中原太陽という実力者に一本勝ちを収めている。WECでは61kg以下のバンタム級に落としたが、65kgでも充分に闘えるはず。



ニッポン大好きッ！
アントニオ・カルバーリョ
1979年5月30日、カナダ出身。173cm、65kg。シャオ・フランコ・マーシャルアーツ/AACC所属。修斗世界ライト級1位。タイトルマッチでは敗れたものの、前修斗世界王者リオン武と1勝1敗、佐藤ルミナには圧勝を収めている。5月には日沖発にも勝利するなど、修斗ライト級トップ戦線の中核をなす。7月にはシュートボクシングのリングでも勝利し、打撃の実力も証明した。日本に長期滞在し、AACCで修行中。これからさらに実力を伸ばしてきそうな存在だ。

kamipro books

ハッシモト！ ハッシモト!!
またまた時は来た！

橋本真也三回忌追善本
笑えて泣けるトンパチエピソード満載の
破壊王本第二弾!!

紙の破壊王
ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集



破壊王弁当級の
ボリュームで
全国書店にて
大絶賛発売中!!

B6変型判 304ページ
予価＝1,890円
（本体1,800円十税）





第一弾も発売中や！

"愛すべき馬鹿"のすべて!!
『紙の破壊王
ぼくらが愛した橋本真也』
全国書店にて絶賛発売中!!

B6変型判 304ページ
定価＝1,680円（本体1,600円十税）

語ろう！ 破壊王

笑えて泣ける
トンパチエピソード
満載!!

★橋本大地★藤波辰爾★天山広吉★西村修★馳 浩
★スティーブ・コリノ★ケビン・ランデルマン★田中秀和
★田山正雄★ライガー夫人★折り鶴兄弟★AYAMI
★紅蘭のマスター★佐藤正行★金沢克彦 ほか



うわ〜〜ん！
みのもけんじ先生が
書き下ろしマンガを
書いてくれたよ──ッ！
『紙のプロレス・
スターウォーズ』
新・破壊王伝説!! 編
堂々掲載!!

eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/



〝小さなヴォルク・ハン〟がついに憧れの〝ご本人〟と対面!!

ロシアン・レジェンド5年ぶりの来日記念

所英男×ヴォルク・ハン

狼魂伝承対談

かつてコマンドサンボ仕込みの変幻自在な技でリングスファンを虜にし、リングス末期には40歳にしてノゲイラと激闘を展開。ヒョードルを世に送り出したことでも知られる“ロシアン・レジェンド”ヴォルク・ハンが、5年ぶりに来日！　これを記念して、かつてハンに憧れて格闘技を始め、プロになってからは“小さなヴォルク・ハン”の異名を持つ所英男との対談がここに実現した！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

――さて、所選手。いよいよ〝小さなヴォルク・ハン〟が〝ご本人〟と対面となるわけですけど、いまの気持ちはいかがですか？

所　いやぁ……、緊張して。今日はほとんどしゃべれないと思います。

――対談なんだから、しゃべってくださいよ（笑）。

所　はい。いろいろ心構えとか学びたいと思ってるんで、頑張って話します！

（※ここで用意されたホテルの一室にヴォルク・ハンが登場！）

ハン　ドーモ！　ゲンキデスカ！（やたら元気よく）。

所　元気です！

――ハンさん、お久しぶりです。こちらが所英男選手です。彼のことはご存知ですか？

ハン　もちろん、知ってるよ。残念ながら、日本での試合は観たことがないが、ドナタス（・シマネイティス＝リングス・リトアニア代表）からビデオテープをもらって、リトアニアでの試合は観たことがあるんだ。私と同じようにアグレッシブで、いい試合をしているね（ニッコリ）。

所　ありがとうございます！

ハン　〝小さなヴォルク・ハン〟って呼ばれてるんだって？

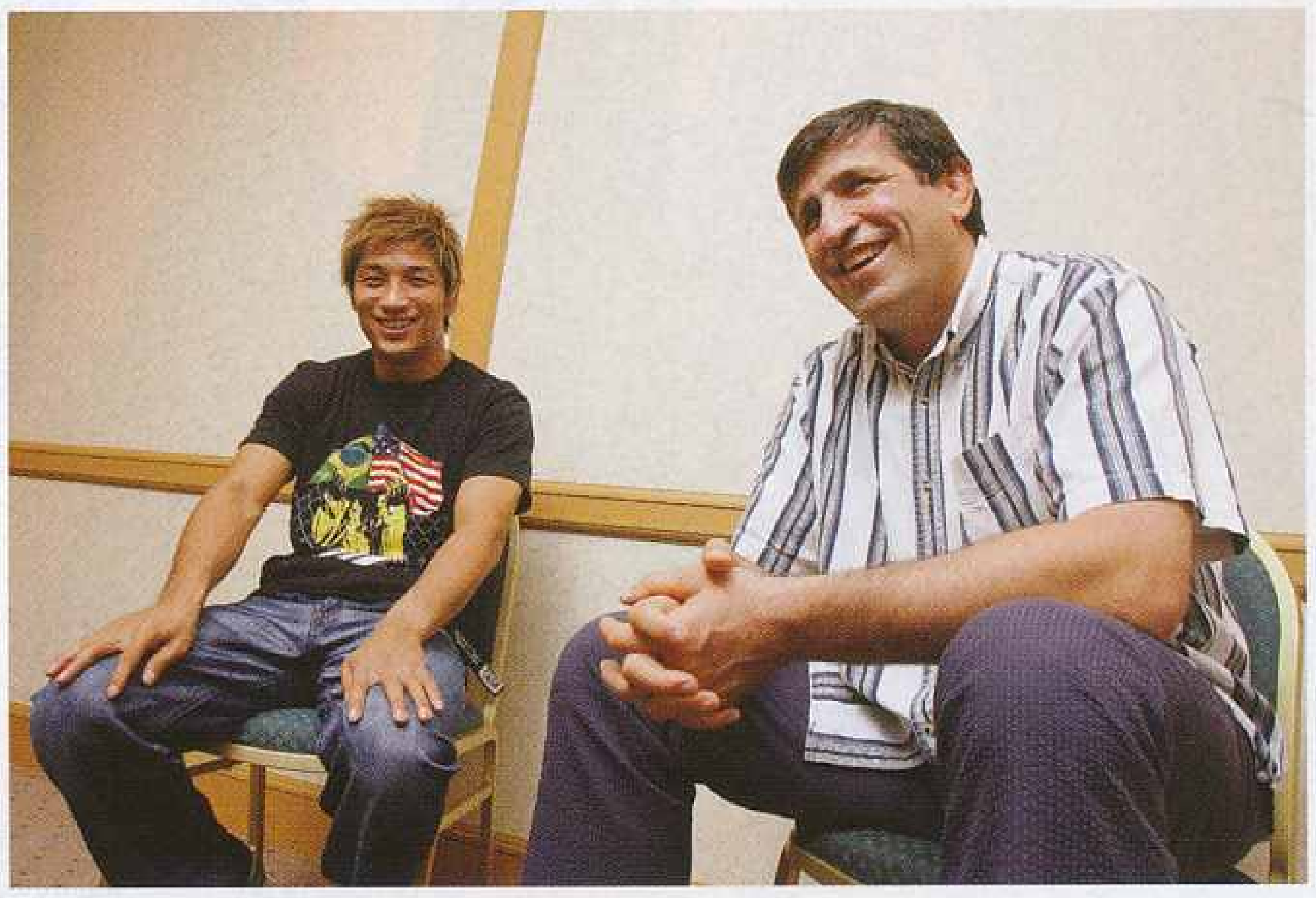
所　……はい。すいません（笑）。

――彼が〝小さなヴォルク・ハン〟という名前を使っていることについてどう思いますか？

ハン　凄く嬉しいよ。私が日本にいないあいだ、彼が「ヴォルク・ハン」という名前を使って、私と同じようにアグレッシブな試合をしてくれたからこそ、ファンもまだ「ヴォルク・ハン」という名前を覚えていてくれているんだろうからね。ありがたいし、感謝しているよ。

所　そんなふうに言っていただけると……恐縮です！

私が日本から離れているあいだ〝ヴォルク・ハン〟の名前を絶やさずにいてくれて、とても感謝しているよ（ハン）



そんなふうに言っていただけると……恐縮です！（所）

――所選手は、ハンさんとディック・フライの試合を観て、格闘家を志したんですよね？

所　はい、そうなんです。91年に横浜アリーナでやった試合なんですけど。

ハン　私とフライ、どっちを応援してたんだい？（笑）。

所　もちろんハンさんです！

ハン　ありがとう（ニッコリ）。私の試合のどんなところが気に入ってくれたんですか？

所　試合中、何をしてくるかわからないっていうことと、勝っても負けても「また観たい」と絶対に思うような試合をしてくれていたので、毎回、楽しみにしてました！

ハン　スパシーバ（ありがとう）。そう言ってくれるのは嬉しい。いろんなテクニックを見せることを自分はいつも心がけていて、弟子たちにも、いつもそのようにするよう教えてきたつもりだからね。

――彼は元々、ハンさんとも闘ったことがある山本喧一選手の弟子なんですよ。

ハン　ヤマモト？

――宜久ではなく、喧一のほうですけど、覚えてますか？

ハン　ああ、小さいほうのヤマモトだね。覚えているよ。彼はリングスの最後の頃に少し一緒だっただけで、あまりしゃべったりしたことはないけど、キミのような弟子を育てたということだけでも、彼が優れたスポーツマンであることがわかるね。

所　ありがとうございます！

ハン　私が愛したリングスは終わってしまったが、こうして私の試合を観ていたかつての子どもたちが、いま選手として活躍しているというのは、とても嬉しい。できれば今度、トコロが試合するときには、セコンドに付いてアドバイスしたいね。

所　ホントですか⁉　ぜひお願いします！

ハン　セコンドだけでなく、ロシアに来てくれれば、練習も見てあげますよ。ぜひ来てください、歓迎しますよ。

所　行きたいですねぇ。

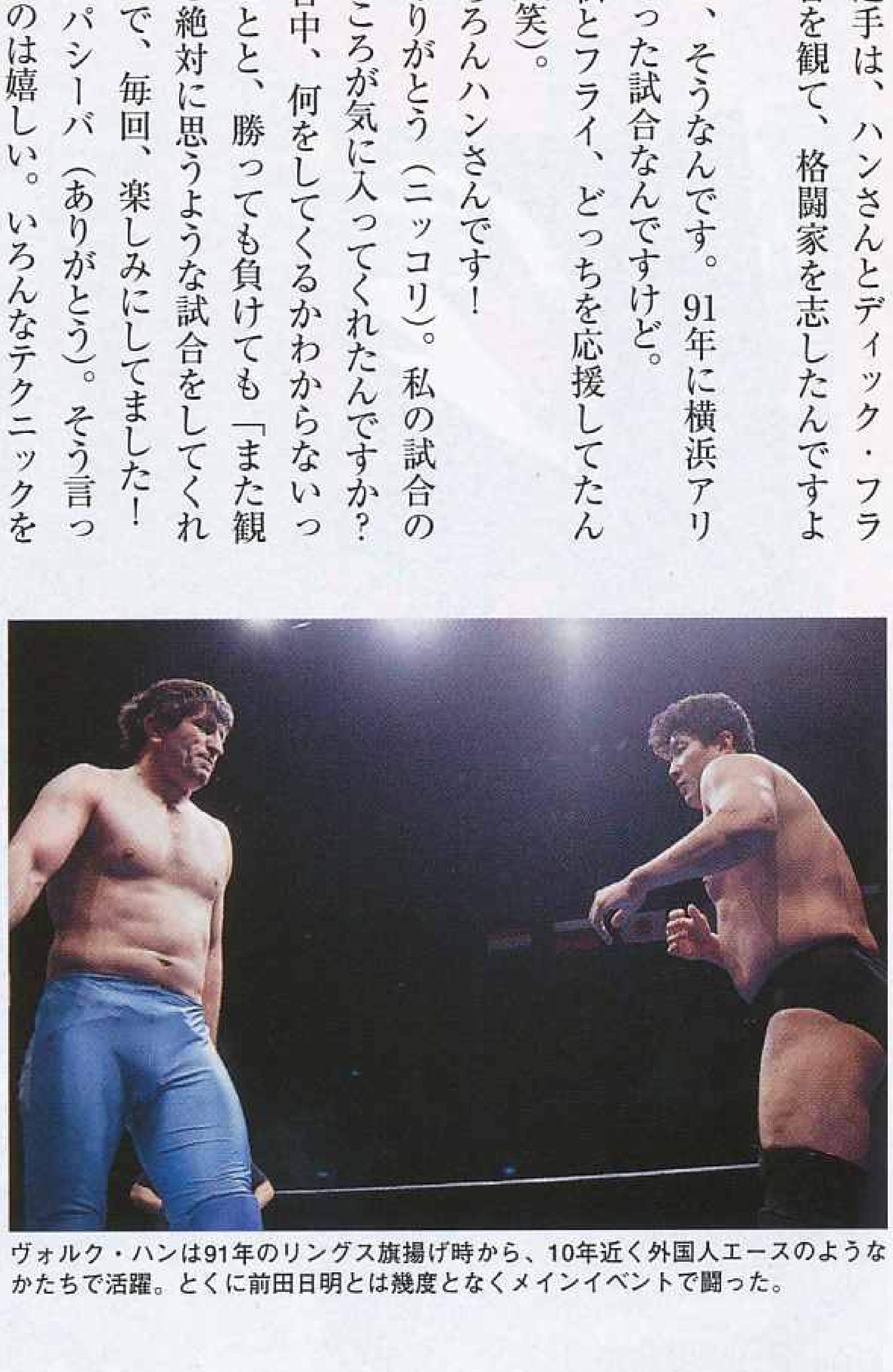
ハン　トコロもいろんな技を知っているだろうけど、私だったらまだ知らない技をいくつも教えてあげることができるでしょう。『HERO'S』に出ている選手が誰も知らない技を教えてあげたいね。ただ、私は軍隊出身だからね、厳しい練習は覚悟してもらわないと（笑）。

――いや、所選手はいま、ハンさんもよくご存知の前田（日明）さんに、軍隊のように厳しいトレーニングをやらされているんですよ（笑）。

ハン　それはいいことだ（笑）。まぁ、マエダもいろんなテクニックを知っているから、それは素晴らしいことでしょう。でも、私はサンビストなので、マエダも知らないサンボの技があるからね。

所　凄い世界なんでしょうねぇ。教えてもらいたいですけど、ちょっと怖いです（笑）。

――ハンさんはリングスでの現役末期、ブ



ヴォルク・ハンは91年のリングス旗揚げ時から、10年近く外国人エースのようなかたちで活躍。とくに前田日明とは幾度となくメインイベントで闘った。



君は“ヴォルク・ハン”なんだからもう負けは許されないよ（笑）（ハン）

いやぁ、プレッシャーだなぁ……（所）



7.16『HERO'S』ミドル級トーナメント１回戦で、ブラックマンバとのリベンジマッチに挑んだ所。あの手この手のグラップリングで攻めていったが、最後は足関節を狙いにいったところでパウンドの餌食になりKO。これを聞いたハンが、殴られないで極める足関節を伝授！「技術もそうですけど、足の締めつける力がボクと全然違いました（所）」

ラジル勢がライバルだったと思いますけど、所選手はブラジルの強豪選手も倒しているんですよ。

ハン ほう、それは素晴らしい。どんな選手なんだい？

――アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラという修斗の世界チャンピオンです。つまり“小さなヴォルク・ハン”が“小さなノゲイラ”を倒しているんですよ（笑）。

ハン ハッハッハ、よくやってくれた！ 私の代わりにノゲイラに復讐してくれたんだからね（笑）。

所 そういえばそうですね（笑）。

――ハンさんにとってもノゲイラ戦というのは、思い出深い試合ですか？

ハン 思い出深いというか、いまでも悔しい試合だね。あのときは試合前にインフルエンザにかかって40度の熱があったんだ。そのため、思ったような動きができなくて、悔いが残った。でも、体調が万全であれば負けないといまでも思っているよ。

所 当時のハンさんって、すでに40歳だったんですよね？

ハン 歳は関係ないさ。ただインフルエンザで喉が苦しくて、熱があっただけだよ。それでもノゲイラがやってくる技は全部わかったから、極められる気はしなかったよ。でも、さすがに彼を痛めつけるまではいかなかったので、それが心残りだね。

所 凄いですねぇ。ボクはもっと心を強くしたいと思ってるんですけど、ハンさんの試合に挑む心構えを教えてもらえますか？

ハン 私は試合というのは仕事だと思っているから、ビジネスマンが朝、会社に行くように、平常心でリングに向かうね。ただ、仕事ではあるけれども大好きな仕事だから、試合前は凄くハッピーでわくわくした気持ちなんだ。だから、極度に緊張したり、周りが見えなくなるぐらい入れ込んだりはし

ない。凄くリラックスした気持ちで、さぁ、これからショーが始まるんだ！　私の技術で多くの観客を喜ばせるんだ！　そういういい意味での気持ちの高まりはあるよ。逆に言えば、そうしなければ、いい仕事はできないんじゃないかな。

――所選手は試合前、どんな感じなんでしょうか？

所　ボクはもうガチガチです（笑）。

ハン　緊張する必要なんてないんだよ。試合というのはリングという狭い空間で行なわれるもので、相手はその中に一人いるだけなんだから。これが戦場だったら、まったく予期しないところから攻めてきたりする心配はない。いきなり後ろから襲われたりするので緊張するが、リングはそういうことはないんだよ。いつも相手は見えているし、しかも一人しかいないんだから、怖いことなんか何もないんだ。そう考えれば、リング上でリラックスすることができるよ。

所　さすがですねぇ……。

ハン　私は元ソ連空軍のパラシュート部隊だったし、除隊後は内務省の特殊部隊で教官をしていたから、あらゆる局面で生き残る術を知っている。だからこそ、闘いに対する心構えができているとも言えるがね。どうですか。ロシアの部隊に体験入隊してみますか？（笑）。

所　い、いや……せっかくですが、さすがに遠慮しときます！（汗）。

――所選手はいま、ブラックマンバというインドの打撃系ファイターに2連敗してるんですけど、苦手な相手に勝つためには、何が必要ですか？

ハン　ビデオなどを見て、敗因を研究したり、相手の闘い方を研究することはもちろん大事だね。でも一番大事なことはハートの問題なんだ。苦手意識を持ってしまうことが一番いけない。相手は確かに強いかも



私の代わりに〝ノゲイラ〟を倒してくれてありがとう（笑）（ハン）

いやいや……そういえばそうですね（笑）（所）

しれない、自分は二度も勝てなかったかもしれない、でも何度やっても負けると決まったわけじゃない。自分もいい選手だし、キミはいい選手なんだから、次にやるときは前の自分よりも絶対に強くなっているはずなんだから。「前の自分より強い自分は、前の自分に勝った相手にも勝てるんだ」と信じて、一生懸命練習するべきだね。

所　そうなんですよね（しみじみ）。

ハン　ちなみに試合時間はどのぐらいだったんだい？

所　1回目は40秒ぐらいでKO負けしてしまいました（笑）。

ハン　パンチ？

所　いや、ヒザ蹴りでやられました。

ハン　タックルにいったところでやられたのか？

所　はい。そうなんですよ。

ハン　よし、ちょっと立ってみろ。

（※ここでハンのヒザ蹴りを入れられないようにするタックルを実技指導！）

ハン　打撃選手の懐に飛び込むのは勇気がいるが、下を向いてタックルしてしまうのが一番いけない。しっかりと相手を見ながら、顔面だけは打たれないようにタックルで入るんだ。2回目はどのくらいの時間でやられたんだい？

所　2回目は4分30秒ぐらいです。

ハン　そのときはどうやってやられたんだ？

所　足関節を取りにいったとき立ち上がられてパウンドをもらってしまって、亀になったところでパンチでめった打ちにされてしまいました。

ハン　何!?　じゃあ、私がパンチを入れられない足関節の取り方を教えよう。どんな体勢だったんだい？

（※ここでハンのパウンドをもらわないで極める足関節の取り方をたっぷり実技指導！　何パターンもの足関節のレパートリーを披露する）

所　いやぁ……、凄いですねぇ。

ハン　試合のビデオを観てみないとなんとも言えないが、あの体勢からならいくつも極めるパターンはあるよ。参考になりましたか？（笑）。

所　はい！　でも、ボクとハンさんとでは、技術もそうですけど、足の締めつけの力が全然違いました。

ハン　ビデオが観たいね。ビデオを観ながらだったら、もっとちゃんとしたアドバイスができるよ。たとえば足を取ったときにパンチを打たれたなら、そこで関節技を諦める勇気も必要なんだ。足にこだわったことで顔面が無防備になって、KOされたら元も子もないからね。

所　ボクはまさにそういう感じでした……（苦笑）。

ハン　足関節というのは下になるわけだから、危険はどうしても伴なう。だからこそ、さっき教えたように足を掛けて倒すか、それができなかったら、パッと離して距離をとることも必要だ。要はその局面にあった動きを臨機応変にすることが大切なんだ。

所　ありがとうございます！

――ちなみにハンさんが苦手だった相手って誰だったんですか？

ハン　リングスで？　そうだなぁ、ハンス・ナイマンだね。

所　ほぉ〜、ナイマンなんですか！

ハン　彼の空手時代込みの打撃は素晴らしい。威力があるのはもちろんだが、どこから蹴りが飛んでくるかわからない。その打撃を食らわないようにするのは大変だったよ。

所　やっぱり〝ナイマン蹴り〟は厄介だったんですね。

ハン　〝何をしてくるかわからない〟という点では、タムラ（田村潔司）もそういうところがあったね。彼はとにかく素早く動き、



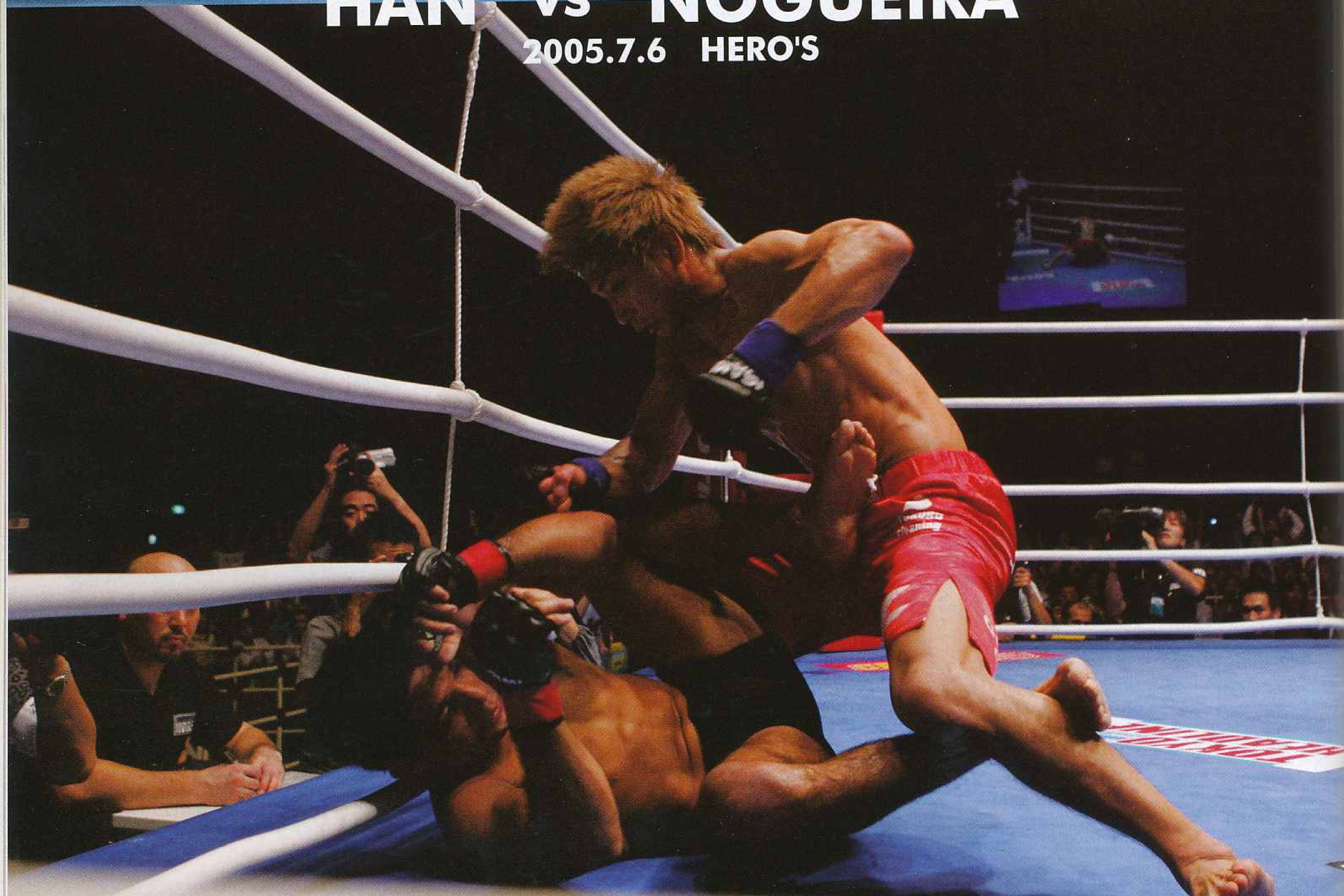
2000年に行なわれた第２回『KOKトーナメント』でノゲイラと対戦したハンは、このとき40歳、しかも高熱があったにも関わらず、真正面からぶつかり大奮闘。判定負けを喫したが、この大会に優勝したノゲイラが唯一、一本を奪えなかったのがハンだった。そしてこの一戦から５年半後、この時点で“軽量級最強”と呼ばれた小ノゲイラと“小さなヴォルク・ハン”所英男が対戦。KO勝ちの大番狂わせを演じ、大ブレイクするきっかけとなった。



2000.2.26 RINGS

“HAN” vs “NOGUEIRA”

2005.7.6 HERO'S



いろんなことをやってくる。私もそれに対抗して、彼が思いもよらないような動きをしたから、私たちの試合は動きのある美しい試合になったんじゃないかな。

所　何が来るかわからないのは、ハンさんでも怖いんですね。

ハン　誰にとってもそうなんだよ。だから、私はよくスタンドでバックブローを使ったが、あれも相手の虚をつくためのものだね。リングの中で頭を使うことが必要だよ。そのために、練習のときも一つの技だけを狙うのではなく、アキレス腱を狙いながらヒザ十字を狙ったり、そこから腕を取りにいったり、首を取りにいったりと、関節技でも技の連携、コンビネーションが大事なんだよ。相手に予想する暇を与えないということがね。

所　なるほど。ハンさんが一番得意な動きはなんだったんですか?

ハン　どの技も好きだけど、自分はとくに見栄えのする技、美しい技が好きだったね。10ぐらいの技を次々と出していくのが好きだったよ。ちょっと、コンビネーションをお見せしましょう!

(※そう言うと、所英男を相手に流れるようにアキレス腱固め→ヒザ十字固め→アンクルホールド→ヒールホールド→腕十字固め→クロスヒールホールド→変形4の時固めを極めていく!)

所　アイタタタタ!

ハン　こうやって、どんどん相手の動きに合わせて切り替えていくことが大事なんだ。たとえばヒザ十字を狙いにいくと、相手は



今回はセルゲイ・ハリトーノフのセコンドとして来日したハン。セルゲイは現在、ロシアン・トップチーム（旧リングス・ロシア）との契約は切れているが、練習自体は引き続きイリューヒン・ミーシャと行なっており、そのため、その師匠であるハンのチームとして出場したかたちになっている。なお、「CLUB VOLK HAN」は実在し、ハンの弟子が10月の『HERO'S』韓国大会に出場する予定だという。



これぞまさに“回転体”！ ヴォルク・ハンが相手の動きに合わせて、次々と違う関節技を仕掛けていく、寝技のコンビネーションを披露！ まさにハン・マジックだ！

足を伸ばされないように踏ん張るだろう？　そしたらアンクルホールドにいくチャンスでもある。逆に言えば、アンクルホールドを狙うための〝餌〟として、ヒザ十字固めを使うという手もあるね。こうやって、どんどん違う技に切り替えることによって、相手も自分の動きが予想できないようになるんだ。

所　いやぁ、なんか次々と技が切り替わって、極められてるこっちも楽しくなるくらいでした（笑）。

ハン　ハハハハハ！　こういう動きをすればファンも喜んでくれるんじゃないかな。

所　ハンさんが闘ってて、一番楽しかった相手って誰だったんですか？

ハン　いろんな選手がいるが、一番数多く闘ったマエダは、やってていつも楽しかったよ。彼は身体が大きいし力も強いしテクニックもある。そして頭もいい選手なので、闘ってて楽しかったよ。ところで、私のほうから質問していいですか？

所　はい。

ハン　これからの計画は？　どんな目標があるんだい？

所　計画……そうですねぇ、いい試合が最近できてないので、とくかくいい試合がしたいです。

ハン　それなら一生懸命練習するしかないね。もっと技術を上達させたかったら、私の地元ダゲンスタンに来たらいい。来れば練習も教えるし、女の子も紹介しよう（笑）。

所　そんな特典まで（笑）。

ハン　今度、ダゲスタンで私がプロモートして総合格闘技の大会を開くんだ。11月20日開催するから、そこに〝小さなヴォルク・ハン〟としては、ぜひ出てもらいたいね。

所　（傍らにいるZSTの上原氏のほうを見ながら）あそこにいるボスが許せば（笑）。ハンさんは出るんですか？



ところ・ひでお■1977年8月22日、岐阜県揖斐郡出身。"ZST四兄弟"の一角として活躍後、05年に修斗世界王者A.F.ノゲイラを破り大ブレイク。『Dynamite!!』など大舞台では大活躍するも、その一方でブラックマンバに2連敗してしまったりする。"小さなヴォルク・ハン"の異名は、本誌命名。170cm、66kg。

VOLK HAN■本名・カムザトキノフ・マゴメッドハン。1961年4月15日、ロシア・北コーカサス出身。91年にリングスに初来日、コマンド・サンボ旋風を巻き起こす。その後、ヒョードルらを育てるなど、コーチとしての手腕にも定評がある。現在はロシアでビジネスのかたわら、格闘技道場「クラブ・ヴォルク・ハン」を主宰する。

ハン　いや、私はプロモーターだから。

――所英男 vs ヴォルク・ハンの〝ヴォルク・ハン対決〟なんていいんじゃないですか？

所　死んじゃいますよ！（笑）。

――では、所選手。そろそろ時間も少なくなってきたので、最後に一つ、ハンさんに聞きたいことがあればお願いします。

所　そうですねぇ、ハンさんが考えるプロ格闘家にとって一番大事なことってなんですか？

ハン　やはりプロとしての闘いぶりを見せていくことが大事だね。我々はファンあってこそのプロなので、お客さんを楽しませることが最も重要なんだ。自分が派手な技、美しい技が好きだったのは、それでお客さんが喜んでくれるからで、そういう技を見せたいと思って私はやってきた。プロというのはそういうものだと思っている。ただ勝てばいいだけじゃない。でも、勝たなきゃいけない。それがプロなんだ。

所　勉強になります！

ハン　どんどん練習して勝ち星をあげていって、このあいだ負けた相手にはもう負けないように、頭を使って頑張ってほしいね。もう負けは許されないよ。だって、キミは〝ヴォルク・ハン〟なんだから！（笑）。

所　はい（苦笑）

ハン　私の名前を受け継いだからには、日本やロシアにいる私の多くのファンの期待も同時に受け継いでもらいたい。私のファンはみんなキミを応援すると思うよ。これからの〝ヴォルク・ハン〟はキミのことなんだからね（笑）。


所　いやぁ……プレッシャーですけど、〝小さなヴォルク・ハン〟の名に恥じぬよう、試合で魅せられるように頑張ります！

ハン　ハイ！　ガンバッテー！（元気よく）

【07年9月15日／横浜市内のホテルにて収録】

"手の関節技を持つ男" これがハン・マジックだ!















この男の決断が世界を決める

皇帝の選択

ロシア サンクトペテルブルグ レッドデビル潜入取材特集

ミルコに始まり、ノゲイラ、シウバ、さらにはダンヘン、ショーグンまでもが出場するなど、いまやUFCはPRIDEトップファイターのオールスター戦状態だ。しかし、そのUFCがいまだ"世界最強"を名乗れないのは、この男を獲得できていないからにほかならない。いまだ動かない皇帝が選ぶ舞台ははたしてどこなのか。それを探るべく、ヒョードルが所属するレッドデビルの本拠地、ロシア、サンクトペテルブルグへ飛んだ。

取材・構成／堀江ガンツ（本誌前特派員）
写真協力／レッドデビル



ロシア サンクトペテルブルグ
皇帝の選択
レッドデビル潜入取材特集

ダナ・ホワイトに“クレイジー・ロシアン”と呼ばれた

MMA世界再編最後の鍵を握る男

独占インタビュー

ワジム・フィンケルシュタイン
レッドデビル代表

「UFCが提示する契約は100パーセント主催側有利の契約なんです」

「人のものは俺のもの、俺のものは俺のもの」とジャイアンぶりを発揮しまくるダナ・ホワイトが唯一手に入れられないのが、皇帝ヒョードル。その交渉が進まないことにイラつき、のび太のくせに、ならぬ「ロシア人のくせに生意気だぞ！」とばかりに、ダナが“クレイジー・ロシアン”と吐き捨てたのが、ヒョードルのボスであるレッドデビル、ワジム代表だ。まさに「NOと言えるロシア人」であるワジム代表は、UFCとの契約をどう考えているのか？　ズバリ、MMA世界再編の行方はこの男の決断にかかっている！

聞き手・撮影／堀江ガンツ　写真協力／レッドデビル



——今日はお忙しい中、時間を割いていただいてありがとうございます！

ワジム　こちらこそ、ロシアまで来ていただきありがとうございます。

——いま、UFCの急激な巨大化、そして『PRIDE』の活動休止によって、世界の格闘技界の勢力図というのが大きく変わってきているのですが、その一番の鍵を握っているのがヒョードル選手であり、所属するレッドデビルだと思い、今日はここサンクトペテルブルグまで来たんですよ。

ワジム　いま、格闘技界にはいろいろ変化があるかもしれませんが、私たちはそのままです。残念ながら『PRIDE』が活動を休止してしまったので、この4～5カ月間、UFCと新たな契約を結ぶかどうかの交渉が行なわれていますが、なかなか契約書にサインすることはできていません。なぜかと言うと、UFCの契約内容はとても厳しいものだからです。

——ヒョードル選手はコマンドサンボの大会にも出場したいため、UFCの独占契約に難色を示しているらしいですね？

ワジム　確かにヒョードルはサンボの大会への出場を希望していますが、それがUFCとの契約に応じられない大きな理由ではありません。べつに我々はUFCと独占契約を結んでも構わないのですが、お互いにとっていい条件の契約を結びたいと思っています。その〝いい条件〟とは、主催者側にとって50パーセント、選手側にとっても50パーセントという意味です。しかし、UFCがいま提示している契約の内容は、100パーセント主催者側の都合しか考えていないものであり、選手のことを考えた契約内容ではありません。だから交渉に時間がかかっているのです。

——主催者側の都合しか考えていないというのは、どういった点ですか？

UFCとの契約は急いでいません
日本で〝新たなイベント〟が生まれるかもしれませんしね



UFCからの契約書はとても一方的な内容です
たとえば、ヒョードルが一度でも負けたら
UFCはいつでも契約を解除できたりするのです

ワジム　この契約書はとても一方的な内容なんです。たとえば、複数回の契約を結んだとしても、ヒョードルが一度でも試合に負けたら、主催者側は自由に契約を終了できるといった内容なんです。

――へぇ！　ヒョードルが“無敗”でなくなった時点で、UFCは一方的に契約解除できてしまう、と。

ワジム　さらにもう一つ。UFC側は一度決まった対戦カードを選手側の承諾なしに変更することができるんです。ということは、対戦相手が決まり、その相手に合わせた練習をしていても、極端に言えば、試合の1時間前に対戦相手を変えられるということもありうるということです。

――なるほど。

ワジム　突然変わったりしなければ、ヒョードルは誰とでも闘います。しかし、ヒョードルは試合を行なう際、しっかりと相手を研究し、相手に合わせた練習をします。たとえば、ミルコが相手ならミルコに合わせたトレーニングを、ノゲイラが相手ならノゲイラに合わせたトレーニングを行ないます。総合格闘技はいろんなタイプの選手がいますから、対戦相手に合った準備というのが、非常に大事なんです。

――ところが、いま提示されている契約内容だと、たとえミルコとの試合が決まっていたとしても、ミルコがケガをした場合、突然ノゲイラに変更される可能性がある、と（笑）。

ワジム　そのとおり。試合の相手を決めるのは主催者側です。それは、私たちももちろん理解しています。しかし、一度決まった対戦相手を変えるということに関しては、認めるわけにはいきません。

――選手を守る側としては当然ですよね。

ワジム　そのほか細かいことはいろいろありましたが、メールやFAXでやりとりしていてもなかなか決めることができないので、この夏、私はアメリカまで直接ダナ・ホワイトに会いに行き、すべての項目について話し合いました。このミーティングはとても効果的でしたね。ダナ・ホワイトは私の言うことをすべて理解してくれて、私の言うとおりにしたいと言っていました。まだ言葉だけで文書にはなっていませんが、きちんと契約の専門家に見てもらい、お互いが一つ一つの項目に対してきちんと守られるような契約書にしたいと思っています。それはUFCに対してだけでなく、いままで出場したすべての格闘技イベントに対してもそうですけどね。



サンクト・ペテルブルグ郊外にあるこの建物は、市が運営するスポーツの学校。柔道や陸上競技、自転車などでとくに才能がある10歳～18歳までの子どもたちが通う全寮制の学校で、スポーツ以外に通常の勉強も行なっている。ワジム氏はここのワンフロアを借りて、総合格闘技の専門学校『レッドデビル・ミックスファイト・スクール』を運営。才能がある選手をここに住まわせて、MMAのトレーニングをさせているのだ。ちなみにエメリヤーエンコ兄弟の三男イワンもこの学校に通っている。

ロシア サンクトペテルブルグ
皇帝の選択
レッドデビル潜入取材特集

ワジム・
ンケルシュタイン

――では、UFCとの契約は前向きに進んでいるわけですね。

ワジム　はい。UFCは『PRIDE』という世界で一番素晴らしい格闘技イベントを潰して、いまは格闘技界のリーダーとなりましたから。当然、一番大きなイベントとの契約を第一に考えています。

――『PRIDE』が買収されたという状況については、どう感じていますか？

ワジム　とても残念です。我々は『PRIDE』が大好きでした。『PRIDE』は選手の立場に立って、物事を考えてくれるイベントでしたが、UFCはすべて主催者が正しいという感じなんです。イベント自体、『PRIDE』のほうがUFCよりも完成度の高いものでした。アリーナの舞台装置も素晴らしく、あの舞台に立つだけで選手は皆、感動するんです。ところがUFCは控室からすぐに金網の中に入るだけ。イベントというより、PPV中継のための試合という感じです。

――確かにライブを第一に考える『PRIDE』と、PPV至上主義のUFCでは性質が違いますよね。

ワジム　試合自体も『PRIDE』のほうがよかったと思います。UFCの試合もDVDでいろんな大会を観てみましたが、美しい試合はあまり観られなかった。ですから、本当ならずっと『PRIDE』との関係を続けていきたかったのですが、いまのところUFCが格闘技界のリーダーなので、UFCとの契約を考えているんです。

――ヒョードル選手自身はUFCで闘うことについて意欲的なんですか？

ワジム　まあまあですね。ヒョードルも『PRIDE』が大好きでした。でも、いまは『PRIDE』がなくなってしまったので、仕方がないからほかで試合をしなければいけないという感じです。

――リングとオクタゴンの違いや、『PRIDE』とUFCのルールの違いについてはどう考えていますか？

ワジム　確かにUFCはヒジ打ちが認められていたり、『PRIDE』と違う点はいくつかありますが、ヒョードルにとってはあまり問題ないと思います。ミルコは『PRIDE』時代、よくロープの近くで闘って組みつかれないようにしていましたが、ケージの中でそれはできません。しかし、ヒョードルはレスリングも得意ですので、ケージで闘うことはまったく怖くないですね。いま、ランディ・クートゥアーがUFCのチャンピオンですから、ヒョードルがUFCと契約を結んだら、対戦相手は彼になると思いますが、アメリカの『Sherdog』という格闘技サイトで、「ヒョードルとクートゥアーが対戦したら、どちらが勝つか？」というアンケートを行なった際、78パーセントのファンが「ヒョードル」と答えたそうです。

――『Sherdog』までチェックしてるんですか（笑）。

ワジム　我々はUFCの対戦相手もルールも恐れていない。しかし、理解しがたい判定をされるかもしれないという点については、懸念を抱いています。つい先日、イギリスの大会（9・8『UFC75』）で、イギリス人の人気選手が、ほとんど内容では負けていたにも関わらず、なぜか判定で勝ってしまうということがありました。

――ああ、マイケル・ビスピングですね。あの試合の判定は、現地でも問題になっていました。

ワジム　それから、まだ私は試合を観ていないのですが、観戦した人の意見をインターネットで見たら、ダン・ヘンダーソンはクイントン・“ランペイジ”・ジャクソンに負けていなかったという人がたくさんい

ました。「UFCチャンピオンとPRIDEチャンピオンの試合だったので、UFCチャンピオンを勝たせたのだろう」という意見ですね。そういったことが、ヒョードルとクートゥアーが闘った際も起こるのではないかと、ちょっと心配はしていますね。とくに向こうはアメリカ人の人気選手で、ヒョードルはロシア人ですから。

——そういった事態も想定して、契約に慎重になっている部分もあるわけですか？

ワジム 私はあらゆる事態を想定しています。そのためUFCとの交渉は時間がかかっています。でも、契約を急ぐ必要はないでしょう。まだ、ジョシュ・バーネットやマーク・ハントも新しい契約を結んでいませんしね。それに、しばらく待っていれば、日本に新しいイベントが現われるかもしれませんし。

——そういう噂を聞いているんですか⁉

ワジム 噂はちょっと聞いています。日本には『PRIDE』のような新しいイベントが必要だと思います。『HERO'S』だけではファンも物足りないでしょう。あのイベントには、あまりいい選手がいませんからね。

——いい選手がいませんか（笑）。確かに軽量級はともかく、重量級は手薄ですよね。では、ヒョードル選手の『HERO'S』参戦ということは、あまり考えていませんか？

ワジム 『HERO'S』からもオファーはあるのですが、あのイベントはちょっと違うんじゃないかと思います。

——ちょっと違うというと、どんなところですか？

ワジム 『PRIDE』というのは、世界中のMMAファンが楽しめる真の国際的イベントでした。その性質はいまだにアメリカ人が中心のUFC以上です。しかし、『HERO'S』は日本人と韓国人のためだけにやっているイベントという感じで、国際的ではないと思います。だから、あまり興味は持てませんね。

——まぁ、『HERO'S』に上がったとしても、ヒョードル選





7.21サンクト・ペテルブルグで行なわれた『M-1』の大会は、なんと市内中心部を流れるネヴァ川の上にリングを組んで開催！　向こう岸に見えるのは、エルミタージュ美術館だ。一見、FMWの洋上プロレスチックにも見えるが、こんな場所でイベントを開催できるとは、ワジム氏の政治力がいかに大きいかわかるだろう。なお、この大会のテレビ開設はヒョードルとオレッグ・タクタロフが務めた。

『PRIDE』こそが世界に通用するイベントでした 『HERO'S』は日本人と韓国人のためだけのイベントで、いい選手もあまり見あたりませんね

手の相手はセルゲイ・ハリトーノフぐらいしかいませんしね。

ワジム ハリトーノフはいい選手ですね。しかし、こう言ってはなんですが、彼はバカなことをしました。

——どういうことですか？

ワジム かつてハリトーノフとヒョードルは兄弟のような関係でした。ヒョードルは彼を非常にかわいがっており、自分の知っている技術をすべて教えていたようです。そして2003年にヒョードルは、前のマネージャー（ロシアン・トップチーム、パコージン代表）との関係が悪くなって、私のところへ来ました。そのときにヒョードルは私に「ハリトーノフも呼んでいいか」と聞いてきたんです。

——そんなことがあったんですか！

ワジム しかし、ハリトーノフは悩んだ挙げ句、前のチームに残り、出て行ったヒョードルたちを非難しました。ところがあれから3年経ってハリトーノフもパコージン氏との関係が悪くなり、ほかのチームへの移籍を考えはじめたんです。それなら、ヒョードルに「あのときは悪かった」と頭を下げて、私のところに来ればよかったのに、なぜか彼はゴールデン・グローリーに行ってしまった。ゴールデン・グローリーは確かに強いチームです。しかし、あそこの専門はキックボクシング。MMAの強い選手はアリスター・オーフレイム一人しかいません。しかも、ハリトーノフはオランダに住むわけではないので、ゴールデン・グローリーで練習するためには、そのたびにビザを取得しなければならない。彼にとっていいことはほとんどないはずなんです。

——確かにそうですね。

ワジム もっと不思議なのは、彼はゴールデン・グローリーの一員になったのに、『HERO'S』では同じチームであるアリスター・オーフレイムと闘うことです。なぜ、こんなことが起こるのか？

——ハリトーノフは『HERO'S』では、「CLUB VOLK HAN」所属として出場するみたいですね。

ワジム でも、ヴォルク・ハンはゴールデン・グローリーのコーチじゃないですよね？

——違いますね。まぁ、ハリトーノフのマネージメント権はゴールデン・グローリーに移っても、練習自体はロシアでやっているので、「CLUB VOLK HAN」所属ということなんじゃないかと思いますが……。

ワジム なぜ、そんなややこしい関係にするのか、理解できない。これは私見ですが、やはりハリトーノフはヒョードルに謝って、また彼と一緒に練習するべきだったんじゃないかと思います。ヒョードルさえOKすれば、私はハリトーノフをレッドデビルに迎え入れる準備はありますからね。

——本当ならそれが一番いいんでしょうけどね。

ワジム 彼もレッドデビルに入ったら、このチームのよさがわかると思います。たとえば、レッドデビル所属であれば、『HERO'S』に上がりながらロシアでの大会に出場することもできる。これはロシア人選手にとって、とても大事なことです。ヴォルク・ハンという名前は、日本はともかくロシアでは全然知られていません。でも、ヒョードル、ア

ワジム・フィンケルシュタイン

レキサンダー、ローマン・ゼンツォフの名前は多くの人に知られています。それは、我々が毎週放送されるテレビのレギュラー番組を持っているからなんです。しかも9月15日から、また新しい番組もスタートします。

――あのプーチン大統領までが、ヒョードル選手の存在を知っているわけですからね。

ワジム　そのとおり。プーチン大統領も一般の格闘技ファンと同じように、テレビ番組を観て、ヒョードルのファンになったんですよ。そういったこともあって昨年末、大統領自ら招待する人間を選ぶクリスマスパーティーに私とヒョードルが招待されたんです。

――クリスマスパーティに招待されましたか！

ワジム　ただ、パーティは29日だったんですが、ヒョードルは大晦日にマーク・ハント戦を控えていたので、残念ながら出席できませんでした。それで4月のイベント（4・16『ボードッグ&M―1』ロシア大会）の前に「もし、お時間がありましたら、試合を観に来てください」という手紙をプーチン大統領に出したんです。私たちも本当に来てくださるとは思っていなかったので、実際に来場されたときは感動しましたね。

――4月の大会にプーチン大統領が来場したのは、ワジムさんとヒョードル選手の招待だったんですね。

ワジム　はい。ボードッグはあたかも自分たちで招聘したように宣伝していましたけどね（笑）。

――さすがボードッグですね（笑）。

ワジム　あの4月の大会は、本当ならボードッグではなく、『PRIDE』とのパートナーシップで、M―1&PRIDEのイベントとして行ないたかったんです。その話は、もう4年ぐらい前からしていたのですが、なかなか実現しなかった。そんなときにボードッグから「ヒョードルを自分たちの大会に出場させたい」というオファーが来たんです。しかし、私は『PRIDE』との契約があるので、「それはできない」と断っていたのですが、一つの方法として、「M―1との合同興行でロシアで開催するなら、ヒョードルを出場させることも可能だ」と言ったんです。

――レッドデビルが主催する『M―1』の大会で、ロシアで開催するなら、『PRIDE』との契約もクリアできる、と。

ワジム　ロシアで試合をすることは、ヒョードル自身が強く望んでいたことでした。だから、あの大会でのヒョードルのファイトマネーは、『PRIDE』で闘うときより、はるかに低いものだったんです。

――そうだったんですか！　ボードッグが大金を使って、一時的に『PRIDE』から引き抜いたのだとばかり思ってました。ただ、この大会において、ボードッグはレッドデビルに対して、あまり誠実ではなかったと聞きましたが？

ワジム　ボードッグとの関係は大会前はよかったんです。しかし、結果的に騙されたような感じになってしまいました。あの大会は90パーセントを私のコネクションで行なったんです。にも関わらずボードッグは、すべて自分たちでやったと言い、会場にはあらゆる設備に「ボードッグ」のロゴが入っているのに、「M―1」はほんの少し、小さく入っているだけだったんです。それに対して文句を言ったら、「M―1のロゴデータが手に入らなかった」などと言う。そんなもの私のオフィスに電話一本かけるだけで手に入るのに。

――ひどい話ですねぇ（笑）。いまはもうボードックとは関係は切れたんですか？

マーク・キューバンから正式なオファーはまだありません。でも、おもしろい話ではありますね

ワジム　はい。彼らとももう、仕事をする気はないです。私はカルビン・エアー（大富豪として知られるボードッグのオーナー）のことを悪く言っているのではないんです。彼のことは尊敬しています。ただ、彼の周りにいる人間は誠実な仕事をしていないし、正しい情報をエアー氏に伝えてないんだと思います。だから彼は、あの大会をボードッグの力でできたのだと勘違いしている。

――悪いのはオーナーではなく、『ボードッグ・ファイト』の人間だ、と。いまは、どこかほかのイベントとパートナーシップを組む考えはありますか？

ワジム　それは考えています。いまNTVというロシアで一番大きなテレビ局と、ビッグイベントを開催する話が進んでいます。これはモスクワのオリンピック・スタジアムでやりたいと思っているので、どこか大きな団体と協力してできたらと考えているんです。先日、ダナ・ホワイトと会ったときも少しその話をしたのですが、彼はあまり合同興行には興味がなかったみたいですね。まぁ、いまはいろんな団体がありますから、どこかいい団体と手を組めたらと思っています。

――NBAのダラス・マーベリックスのオーナーであるマーク・キューバン氏がMMAに進出し、ヒョードル選手の獲得を狙っているという報道がありましたが、これは事実ですか？

ワジム　ヒョードルにオファーを出したいという〝打診〟は来ましたが、まだ正式なオファーは来てませんね。ただ、彼の会社は大きな会社であるし、しっかりとしたイベントを行なうのであれば、おもしろい話かもしれませんね。ただ、まだ具体的な話は何もありません。

――では、あくまで現時点での第一候補はUFCだ、と。

ワジム　そうですね。最有力候補であることは間違いありません。ただ、UFC側が100パーセント有利ないまの契約内容を改めて、我々の権利が守れる契約書にならないかぎりサインはしません。私もダナ・ホワイトが言ってることに反対だというわけじゃないんですよ。だから、すべての項目に納得がいけば、サインはします。ただ、契約書は2年にわたる長い契約ですから、細部に至るまでしっかり考えないといけないというだけです。

――では、今年中の契約締結は難しそうですか？

ワジム　そんなことはありません。納得がいく契約ならサインはしますから、年内にヒョードルが試合をする可能性だってありますよ。しかし、それはUFCではなく、ほかのイベントである可能性もあります。

――わかりました。今日はお忙しい中、ありがとうございました！

【07年9月12日／ロシア・サンクトペテルブルグ『レッドデビル・ミックスファイト・スクール』にて収録】



プーチン大統領やジャン＝クロード・ヴァン・ダムなど、VIPが来場した4.14『ボードッグ&M-1』大会。しかし、ご覧のように舞台装置に描かれたロゴはボードッグ一色。これじゃワジムさんも怒るって！



ロシア サンクトペテルブルグ
皇帝の選択
レッドデビル潜入取材特集

いまやレッドデビルのエースとなった
ヒョードルの弟が語るUFC、そしてPRIDE

エメリヤーエンコ・アレキサンダー
Emelianenko Alexander

「UFCはロシア人を恐れている」

今年7月の『M-1』サンクトペテルブルグ大会では堂々メインを務めるなど、いまやレッドデビルのエース的存在のアレキ。兄ヒョードルの動向ばかりが注目されがちであるが、この男も充分UFCヘビー級のトップ戦線に食い込める実力の持ち主だ。そんな彼に『PRIDE』の活動休止やUFCについての考えを聞いてみた。

聞き手・撮影／堀江ガンツ　写真協力／レッドデビル

エメリヤーエンコ・アレキサンダー

ロシア サンクトペテルブルグ 皇帝の選択 レッドデビル潜入取材特集

——アレキサンダー選手が日本のメディアに登場するのはひさしぶりだと思うんですけど、ここ数カ月は、どんな活動をされていたんですか？

アレキ　『PRIDE』に出場する機会がなくなったこと以外は、以前と変わらないよ。レッドデビルが主催する『M-1』をはじめとした試合に出場したり、試合がないときには主にトレーニングに時間を費やしている。空いている時間は家族と一緒に過ごすことが多いかな。

——いまは、故郷のスタールイ・オスコルから、サンクトペテルブルグに引っ越してきたんですか？

アレキ　じつは結婚して、子どもができたんだよ（ニッコリ）。

——あ、そうなんですか。おめでとうございます（笑）。

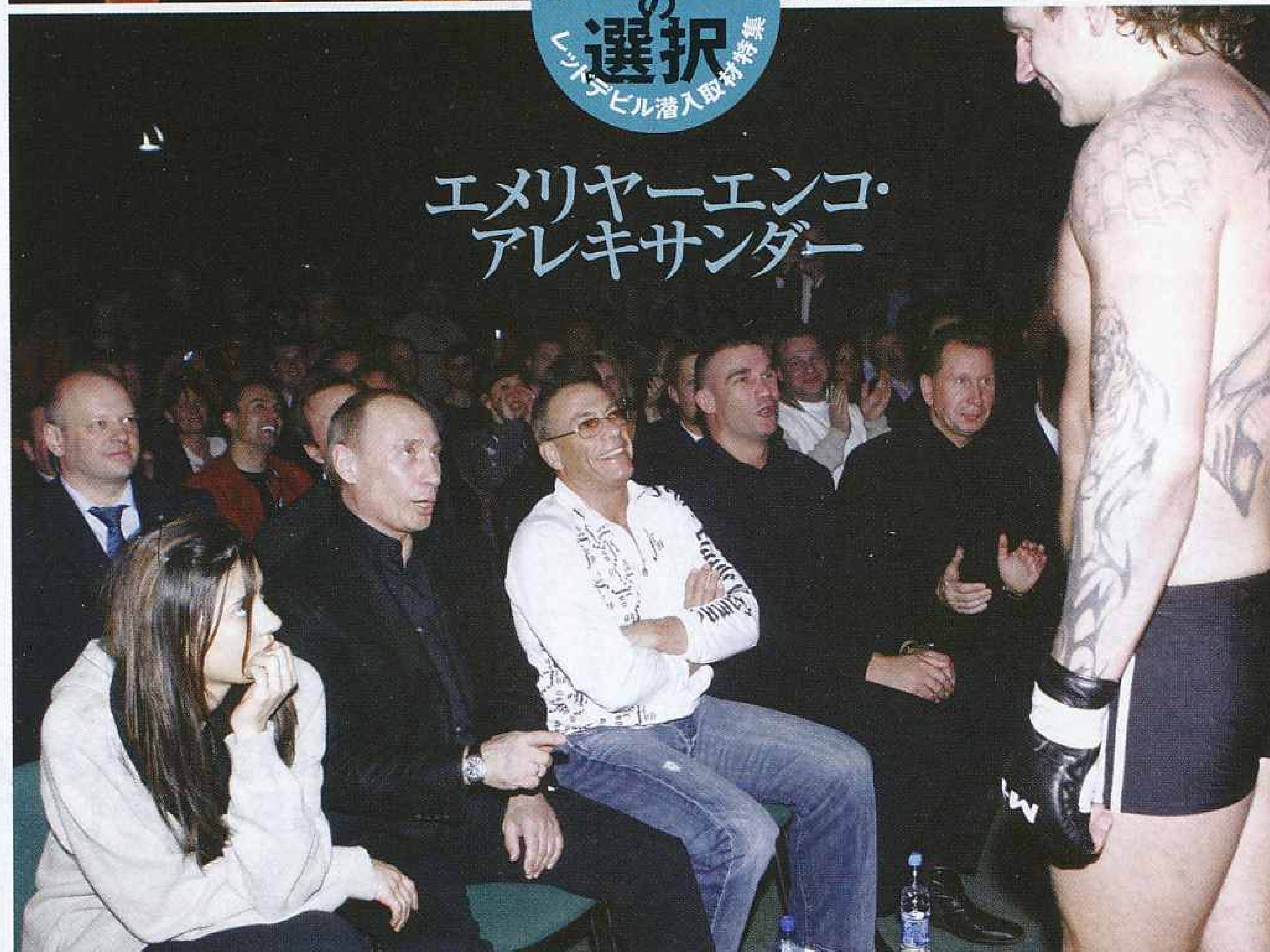
アレキ　それでいまはカミさんと子ども、それから弟のイワンと一緒にサンクトペテルブルグに住んでいるんだ。兄貴（ヒョードル）はまだ、地元に住んでいるけどね。

——4月に『PRIDE』のオーナーが交代し、活動を休止してしまいましたが、そのことについてどう感じていますか？

アレキ　とても残念だね。『PRIDE』は世界中から強い選手が集まる世界ナンバーワンのイベントで、しかも一番いい時期に突然なくなってしまったので、本当にビックリしたし、残念だね。

ミルコはもう引退したほうがいい バーネットももう一度俺と闘うのは怖いだろうな





試合数の少ない兄ヒョードルに代わり、いまやレッドデビルのエース的存在となっているアレキ。4.14『ボードッグ＆M-1』ロシア大会では、エリック・ペレを一蹴。プーチン大統領もアレキの実力を高く評価しているとか。

——アレキサンダー選手自身、『PRIDE』でプロとしての名声を上げていったわけですもんね。

アレキ　そうだね。『PRIDE』では強いファイターとたくさん闘ったし、どの試合も印象深いよ。

——昨年のセルゲイ・ハリトーノフ戦、ジョシュ・バーネット戦もいい試合でした。

アレキ　ありがとう。バーネットとはどこのリングでもいいからもう一回やりたいよ。あのときは調整不足で、実力では俺が上回っていたのに、スタミナ切れで負けてしまった。でも、あいつは俺とやるのが怖いだろうな。自信満々だった鼻をヘシ折ってやったからね（笑）。本当は『PRIDE』のリングでリマッチがしたいけど、こうなった以上、どこでもいいからジョシュとは闘いたいね。

——『PRIDE』という目標がなくなってしまったことについては、どう思いますか？

アレキ　『PRIDE』がなくなって、俺も新しい目標を考えなきゃいけない、とは思っているよ。でも、日本人は頭がいいから、また『PRIDE』に変わる新しい何かを作り出してくれるんじゃないか、と期待してもいるんだ。もっとグレートなものをね。

——かなり『PRIDE』を気に入ってたようですが、『PRIDE』とほかのイベントの一番の違いってなんですか？

アレキ　すべてだよ。『PRIDE』は非の打ちどころがないほど、素晴らしいイベントだった。選手への対応、大会の演出、大会の行ない方、そして試合の中身そのもの、それらすべてに文句をつけるところが何もない。こんなイベントは世界中で『PRIDE』だけだ。いま、世界中にいろんな格闘技のイベントがあるけど、『PRIDE』に比べたら、改善しなきゃいけないところが山ほどあると思うね。

——UFCというイベントについてはどの

ような印象がありますか？

アレキ　ＵＦＣの試合には出たことがないので、他人から聞いた話だけで判断するのは難しいけど、いま現在、世界で一番強い選手たちが集まっているイベントではあるんじゃないかな。ま、実際に参戦してみないと、彼らが本当に強いのかはわからないけど、機会があれば、ＵＦＣで一番強いヤツと闘ってみたいとは思ってるよ。

――もしＵＦＣに出場したら、活躍する自信はありますか？

アレキ　あたりまえだろ（笑）。ＵＦＣのファイターで、とくに誰と闘いたいというヤツはいないけど、その時点で一番強いヤツを倒したい。そして、俺のほうが強いことを証明したいね。

――たとえば、アンドレィ・アルロフスキーなんかとやったら、おもしろいんじゃないかと思うんですが。

アレキ　試合が組まれれば受けてもいいよ。でも、彼はベラルーシ人で俺はロシア人。仲間意識みたいなものもあるから、できればほかの国のファイターとやりたいね。それに俺はサンボの強さを世界中に知らしめたいという気持ちがあるから、同じサンビストのアルロフスキーは、闘いたいというよりも協力したいぐらいだね。

――なるほど。いま、『ＰＲＩＤＥ』からＵＦＣに行ったミルコ・クロコップが、２連敗を喫して、元ヘビー級王者のノゲイラもＵＦＣデビュー戦では苦戦しました。彼らが本来の力を発揮できていない理由ってなんだと思いますか？

アレキ　ミルコもノゲイラも長年、ハードな闘いを続けているから、いつもグッドシェイプで試合に望むっていうのは難しいんだろう。リングではなくケージという環境の変化もあるだろうしね。ミルコは年齢が結構いってるだろ？　俺はいま26歳だけど、新しいものにすぐに順応するには難しい年齢になっている。やはり、ちゃんと準備ができてないうちに試合をしたらダメだね。ＵＦＣのような大きな舞台で、弱い姿を何度もさらしたら、せっかくの彼の名声を落とすことになってしまうよ。年齢的にもこれ以上強くなるとは思えないから、俺個人の考えを言わせてもらえば、ミルコは引退したほうがいいと思うけどね（笑）。

――手厳しいですね（笑）。

アレキ　いや、親切心で言ってるんだよ（笑）。ミルコは俺たち兄弟にとって、いいライバルだからね。



EMELIANENKO ALEXANDER■1981年8月2日、ロシア・ベルゴルド州出身。03年10月『PRIDE武士道』に初来日。いきなりアスエリオ・シウバに勝利。その後、ミルコ・クロコップには敗れたものの、ジェームス・トンプソン、ヒカルド・モラエスを秒殺。06年『PRIDE無差別級GP』では１回戦でジョシュ・バーネット相手に優位に試合を進めるが逆転負け。リザーブマッチではハリトーノフをKOしている。体格に恵まれており、素質は兄ヒョードル以上とも言われる。198cm、115kg。

――アレキサンダー選手はケージとリングの両方で試合をしていますが、ＵＦＣに出たとしてもルールに関してはあまり問題なく闘えると思いますか？

アレキ　まあ、とくに問題はないだろうね。これまでケージで闘っても、とくに違和感はなかったからな。

――かつての盟友、セルゲイ・ハリトーノフがゴールデン・グローリーに移籍したことについてはどう思いますか？

アレキ　とくになんとも思わないね。たしかに以前、俺たち兄弟とセルゲイは三兄弟なんじゃないかというぐらい仲がよかったし、一緒に練習もしていたけど、ここ数年は電話で連絡を取ることすらしていないからね。彼には彼の人生があるだろうし、自分の思ったとおりにやればいいさ。ただ、３年前に俺たちが前のチーム（ロシアン・トップチーム）を抜けたとき、さんざん俺たちの悪口を言ってたくせに、いまになってチームに文句を言ってるんだから、何言ってんだ、とは思うけどね。

――ワジムさんは、「ハリトーノフはゴールデン・グローリーに行くのではなく、レッドデビルに詫びを入れて、ヒョードルに来るべきだった」と言ってますけど。

アレキ　べつにいまさらどうでもいいよ。ただ、彼がいま身につけている技術は、みんな俺たち兄弟との練習で身につけたものだよ。その証拠に、この３年で彼の技術はあまり上達してないじゃないか。いまになって後悔してるんだろうけど、自業自得だな。

PRIDE王者こそが世界一の証だった UFCはまだそこまでいってないよ

――では、今後の目標を聞かせてください。

アレキ　10月20日にカナダで試合があるんだ。いまは、それに向けて全力でトレーニングして、しっかり勝つ。それが目標かな。

――何という大会なんですか？

アレキ　『ハードコア・チャンピオン・ファイティング（ＨＣＦ）』というイベントで、まだ相手は聞いていない。でも、マネージャーが言うには、条件も悪くないらしいから、結構いいイベントなんじゃないかな？

――直近の目標ではなく、大きな目標としては、何かありますか？

アレキ　もっと強くなって、もっともっと稼ぐことかな。家族を養っていかなきゃならないからね（笑）。それから引退したら、日本に住みたいね。日本は環境がいいし住みやすいから、引退後に何かいい仕事があったら教えてくれよ（笑）。

――でも、日本の夏は暑いですよ（笑）。

アレキ　暑いくらいのほうが、ロシアの寒く長い冬よりマシだよ（笑）。

――チャンピオンになりたい気持ちはありますか？

アレキ　そりゃ、もちろんあるよ。でも、以前は『ＰＲＩＤＥ』という誰もが認める世界一のベルトがあって、俺も含めてみんながそのベルトを目指して頑張っていたわけだけど、いまはイベントがありすぎて、なんのチャンピオンを目指せばいいか、わからなくなってるんだ。とくに俺は、『ＰＲＩＤＥ』が活動休止してから、毎回違うイベントに出場してるからね。

――ＵＦＣヘビー級は、アレキサンダー選手が目指すに値する、世界一のベルトだとは思いませんか？

アレキ　ＵＦＣのベルトもほしいと言えばほしいけど、あそこのベルトは実力だけじゃ奪えないからね。ＵＦＣは自分のところのアメリカ人のチャンピオンを守ってるんだ。ヤツらはロシア人を恐れている。ＵＦＣヘビー級にロシア人が一人もいないことでも、それはわかるだろう。


――う～ん、確かにそうですね。

アレキ　アメリカ人はアメリカ人がチャンピオンでいてくれるほうがいいんだろう。じゃなかったら、ここに強いヘビー級のロシア人がいるのに、オファーをかけないわけがないからね（笑）。

――なるほど（笑）。では、いろんなイベントでの活躍を期待してますよ。

アレキ　日本でまた『ＰＲＩＤＥ』みたいなイベントが復活したら、俺は必ず出場するから、日本のファンにはよろしく伝えておいてくれ！

【07年9月12日／ロシア・サンクトペテルブルグ『レッドデビル・ミックスファイト・アカデミー』にて収録】


裂の真相

ブラジル格闘技界再編 名門チームに何が起こったのか？

『PRIDE』の活動休止、そしてUFCの急激な巨大化によって、世界の格闘技界はいま再編の真っただ中にある。そして、その影響をモロに受けているのが格闘王国ブラジルだ。今年に入ってヴァンダレイ・シウバ、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの二大巨頭が、それぞれ所属するシュートボクセ、ブラジリアン・トップチーム（BTT）を離脱しアメリカに進出。とくにBTTはノゲイラ兄弟に続き、パウロ・フィリオ、さらには共同オーナーだったマリオ・スペーヒーまでもが抜け、チーム創立以来の危機に直面していると言われる。いまブラジルで何が起こっているのか？

構成／堀江ガンツ



特集

BTT分

ブラジリアン・トップチーム



BEBEO DUARTE■2000年にカーウソン・グレイシーのもとを離れたあと、マリオ・スペーヒー、ムリーロ・ブスタマンチ、ヒカルド・リボーリオとともにBTTを設立。ノゲイラら多くの優秀なファイターを集め、創業オーナーとしてチームを成功に導いた。総合の戦績は1戦1勝。

MURILO BUSTAMANTE■1966年7月30日、ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ出身。ブラジリアン柔術ほか、格闘技歴30年のキャリアを誇る元UFCミドル級王者。05年の『PRIDEウェルター級GP』では、須田匡昇、美濃輪育久（現・ミノワマン）を下して決勝戦にまで進出。その“匠”の技を披露してみせた。185cm、82.9kg。

©Fernando Ramos

ノゲイラ兄弟、スペーヒーが去った“名門”の現在

その後のブラジリアン・トップチーム

ムリーロ・ブスタマンチ with ベベオ・デュアルチ

「リーダーが多すぎるのがBTTの問題だった」

ヘビー級にノゲイラ、ライトヘビー（ミドル）級にアローナ、ウェルター級にパウロ・フィリオと、各階級の世界最高峰の選手を抱え、まさにその名のとおり“トップチーム”だったBTT。しかし、いまやノゲイラ兄弟とフィリオが抜け、ブスタマンチ、ベベオとともに共同オーナーだったマリオ・スペーヒーも独立してしまった。彼らが抜けたBTTはいまどうなっているのだろうか？　名門チームを守る二人のオーナーに話を聞いた。

聞き手／Fernando Ramos　試合写真／Josh Hedges（UFC）　構成／堀江ガンツ

――今回、ビジネスパートナーであり、共同オーナーでもあったマリオ・スペーヒーがBTTから離脱したわけですが、そのいきさつを教えてください。

ムリーロ　今年の4月に『アブダビ・コンバット（ADCC）』が開催されていたアメリカから戻ってきて、BTTの首脳陣でミーティングを行なったとき、別々にやっていこうと決めたんだ。もともと長年、一緒にやってきた中で、考えの違いが出てきたことも確かだしね。そして、アメリカでのビジネスチャンスが舞い込んだマリオはアメリカへ行くことにして、私とベベオはブラジルに残ることにしたんだ。

――今回のマリオの独立は、かつて創立オーナーの一人であるヒカルド・リボーリオがBTTを離れて、アメリカに渡ってATT（アメリカン・トップチーム）を立ち上げたときと同じようなケースですか？

ムリーロ　だいたい同じようなものだね。ただ、リボーリオのときは、彼が一人で決断したことだけど、マリオの場合はチームで話し合って決めたことなんだ。分かれてやったほうがうまくいくと判断してね。

――では今後、マリオとの関係はどうなるんでしょうか？

ムリーロ　マリオとはプロフェッショナルとして、今後もいい関係でいるよ。彼はアメリカでいくつかのプランがある。私たちの選手をIFLで闘かわせたり、いろんな面でパートナーシップを築いていけるだろう。

――しかし、こうしてノゲイラに続いてマリオまでもが離れることで、多くのBTTの選手が離脱する心配はありませんか？

ムリーロ　その心配はしてないね。むしろ、このことでチームは運営しやすくなるだろう。そもそもBTTには、リーダーが多すぎるという問題があったんだ。

――確かに、これまでのBTTはムリーロ、マリオ、ベベオの3人がみんなリーダーでしたもんね。

ムリーロ　だから、私はチーム内で選挙を行なって一人のリーダー決めようと提案したことさえあったぐらいなんだ。

――そんなこともありましたか（笑）。

ムリーロ　もっともそれは誰も賛成しなかったけどね（笑）。ただ、なんにせよ、3人（マリオ、ムリーロ、ベベオ）の異なる意見があることで、いろんな物事が面倒なことになっていた。たとえば、もし私たちのリーダーが一人だけだったら、ミノタウロ（ノゲイラ）がチームを出て行くことはなかっただろうね。

――ノゲイラの離脱は、チーム内の意見の相違にも問題があった、と。

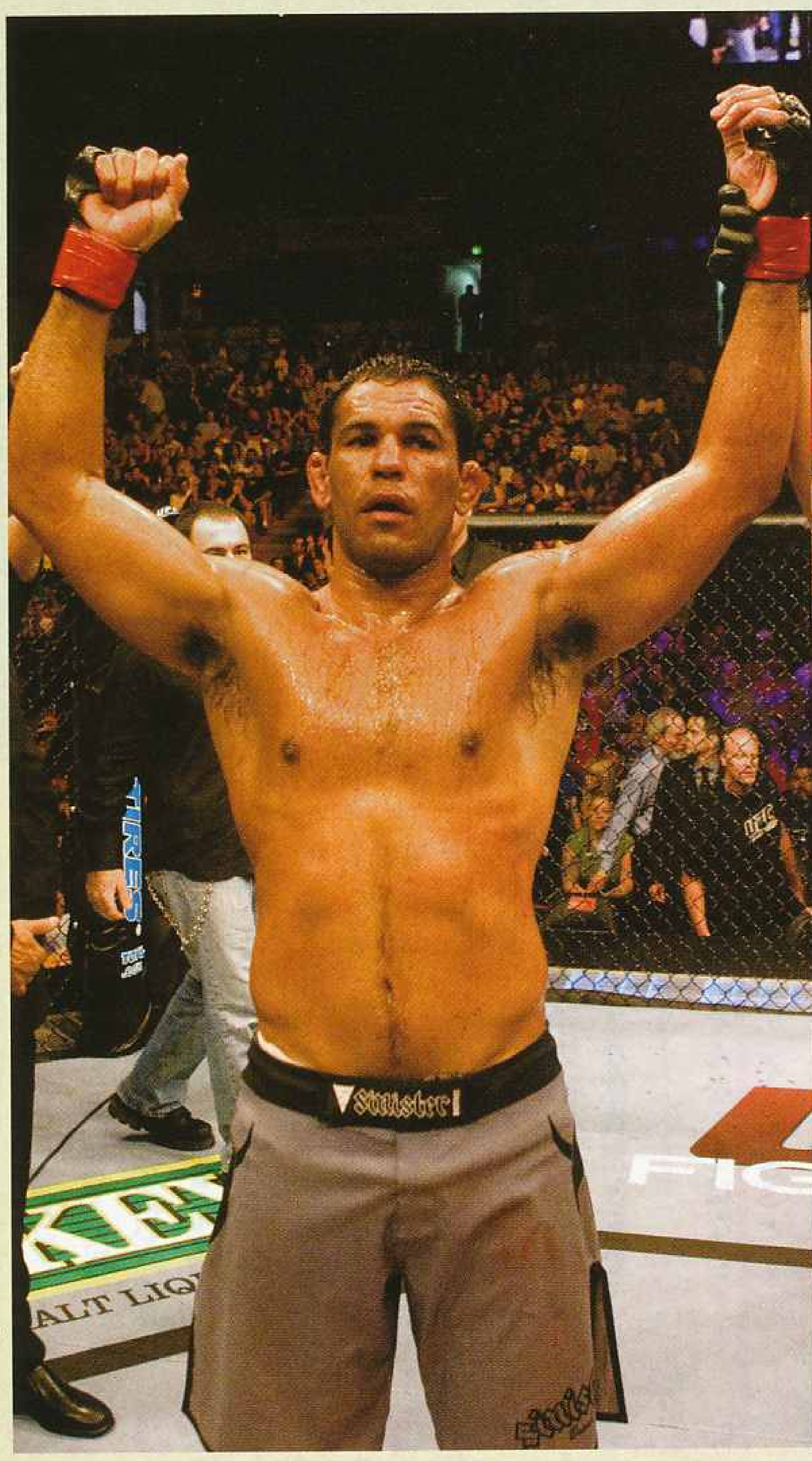
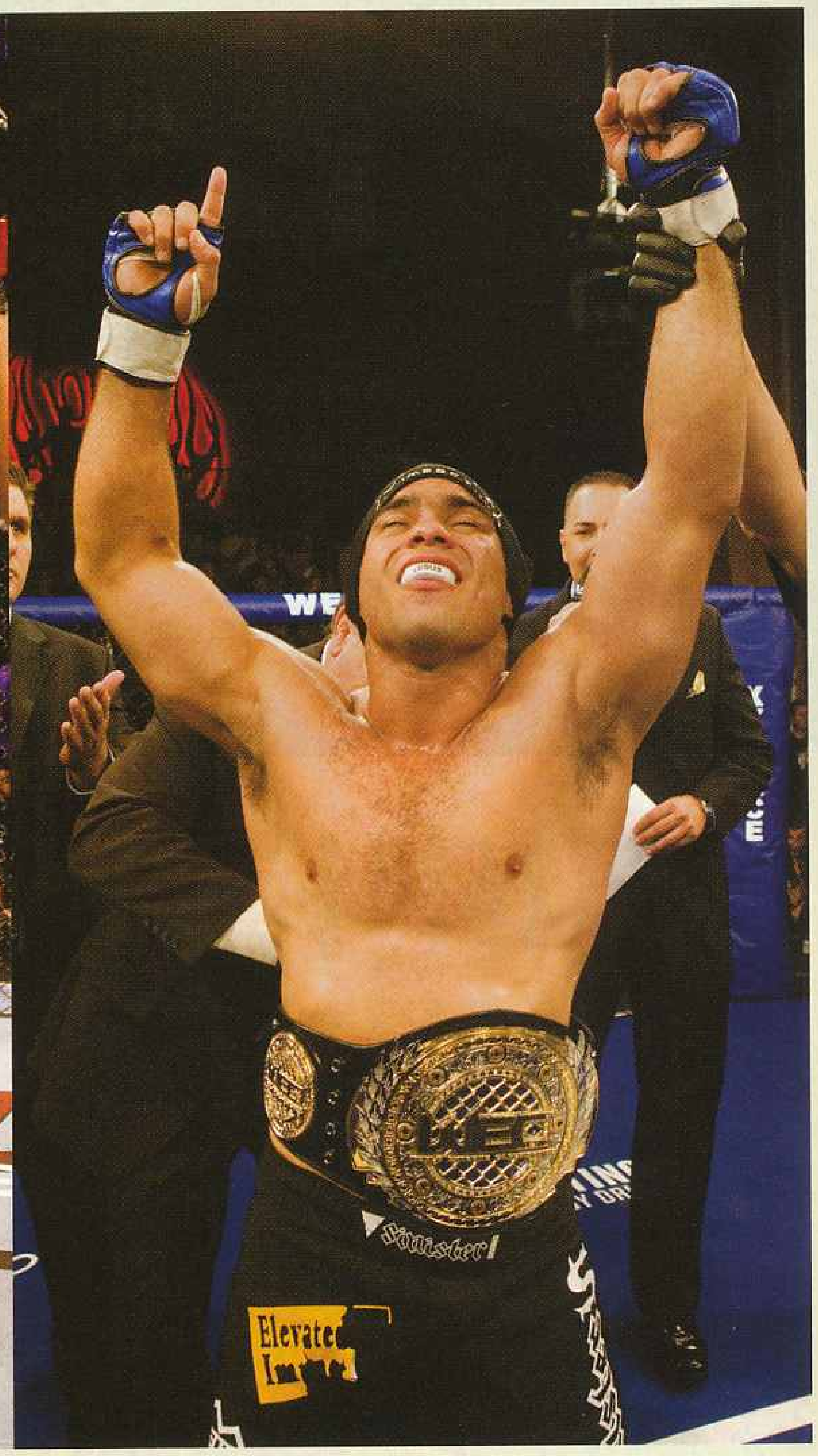
ムリーロ　ライバルであるシュートボクセも同じように選手が離脱する問題が起きているが、あそこには一人の強力なリーダー（フジマール・フェデリゴ会長）がいるので、どうにかすることができるだろう。そしてBTTでは、私とベベオはチーム運営に関してだいたい同じ考えを持っている。これからはチームをまとめあげることができると思うよ。

――しかし、パウロ・フィリオもチームを離脱したとの情報があるのですが……。

ムリーロ　彼からは何も聞いていない。彼は何も言わずに前回の試合を決めて（『WEC29』に初出場し、ミドル級王座を獲得）BTT以外からセコンドを連れていって闘ったんだ。もし、本当に彼が離脱したというのなら、「グッドラック」と言うしかないね。

――そもそもフィリオやノゲイラは『PRIDE』との契約が残っていたのではない

パウロが本当に離脱するのなら「グッドラック」と言うしかないね

7.7『UFC73』に出場したノゲイラと8.5『WEC29』に出場したパウロ・フィリオ。二人ともBTTを通さずに話を進め、タフメディアのマネージメントで契約。今後もこの流れは続いていくのか？



©乾 晋也

ですか？

ムリーロ　確かに私たちは『PRIDE』との契約をUFCでも闘うことのできる契約に書き替えた。しかし、いまだに誰もUFCからは呼ばれていない。ただ、UFCとはいい関係を築いていて、いまBTTからはホアン・ジュカオン・カルネイロとチアゴ・タルベスがそこで闘っているよ。もっとも、私たちが強いパイプを持っていた、毎月大会を開催する『PRIDE』はなくなってしまった。これから、ほかのチームも含めて、このハプニングに適応せざるを得ないね。

――『PRIDE』の活動休止や有力選手の離脱はBTTにとって大きな危機だとも思いますが。

ムリーロ　そんなことはないよ。私たちは、やるべきことをやるだけさ。そしてすぐに新しいチャンピオンを育てることができるようになるよ。

――離脱した選手の中には練習環境に不満を持っていた人もいたという話もありますが、たとえばジムを広い場所に移すとか、オクタゴンを導入するとかっていう考えはないのですか？

ムリーロ　ジムはもっと広くする計画があるが、いまのところ、場所を移す予定はないよ。オクタゴンを導入する考えもない。私はUFCのチャンピオンだったが、オクタゴンで練習したことはないからね。

もしBTTのリーダーが一人だけだったら ノゲイラがチームを出ていくこともなかった

――そうなんですか！

ムリーロ　練習なんてどこでもできるんだ。ファイターが強くなるのは環境が整っているかどうかじゃないよ。ノゲイラとパウロがチームを去ったことで、BTTは大きなものを失なった。でもいまチームのリーダーシップは以前よりよくなっている。これからは、名前のあるファイターよりも、いまここにいる若い選手やこれからの新しい選手たちをどう育てるかに関心があるね。

――ところで、そのノゲイラやパウロが、所属しているわけではないですが一緒にトレーニングしているチーム・ブラックハウスについてはどう思いますか？

ムリーロ　（顔をしかめつつも）いいチームなんじゃないかな。スタッフの中には、昔からの知り合いもいるし、ブラックハウスで働くことになるという相談は受けていたよ。ただ、仲のよくない人間も確かにあそこにはいるね。

――では、そのブラックハウス勢やノゲイラらをマネージメントしているエージェント・オフィス、タフメディアについては？

ムリーロ　彼らについて、私からとくに言うことはないよ。ただ、競争相手が一つ増えただけの話さ。

――ただ、そういったマネージメント会社の出現によって、これからブラジル人ファイターたちがもっとアメリカへ行くようになるとも思います。

ムリーロ　そうだね。これからアメリカで闘うようになる選手が増えると思う。ただ、私たちのファイターをほかのエージェントにマネージメントさせるつもりはないよ。私たちはこれからのファイターたちに投資していくんだから、彼らにはBTTから離れることがないようにしてもらいたいね。

――チームビジネスは、選手への投資と選手からのリターンで成り立っているわけですよね。一方で、ヴァンダレイのように、アメリカに移住してしまう選手も増えてきていますが。

ムリーロ　今回の彼の決断はいいタイミングだったと思うよ。ただ選手を集めてチームを作ることは簡単なことじゃないんだ。それにヴァンダレイだって、自分の力だけでここまで成功できたわけじゃない。シュートボクセという信頼できる組織があったからこそ、あそこまでの成功を勝ち取ることができたんだ。だからアスリートとしてだけのことを考えると、彼はシュートボクセに残ったほうがよかっただろう。ただ、これは彼の決めたこと。彼の人生のすべてについてバランスをとっての決断だったんだろう。

――彼のアパレルブランドや家族のことなども配慮したんでしょうね。

ムリーロ　『PRIDE』がなくなったことで、選手たちは日本へ行く代わりにアメリカに闘いの場を求めている。しかし、なんで日本のような、いいファイターが揃った国で、素晴らしいイベントが開催できなくなったのか不思議でしょうがないよ。『PRIDE』ができないなら、新しいイベントを立ち上げて、『PRIDE』みたいな名前を使えばいいじゃないか。

――なかなか難しい問題があるようなんですよね……。ところでアメリカだけではなく、ブラジルでもMMAが盛り上がっていますよね。チーム別対抗戦MTLが始まったり、と。

ムリーロ　そうだね。このイベントはサンパウロやブラジル各地の富裕層の多い場所で開催されていて、よくオーガナイズされている。ブラジルMMA史上、ベストイベントじゃないかな。もし彼らがこのまま投資を続ければ、チームファイトのコンセプトを根づかせて成功できるだろうね。

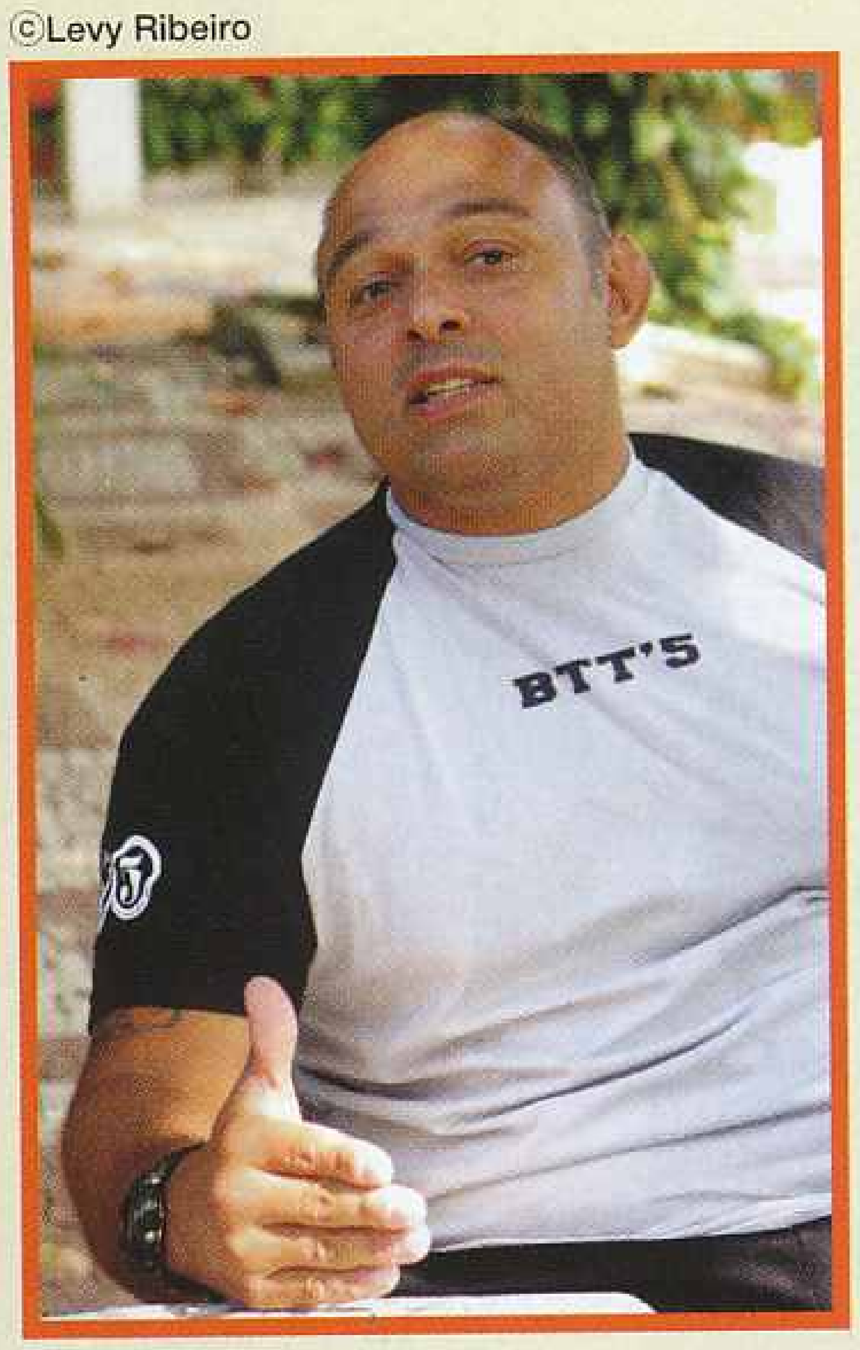
――この激動のブラジリアンMMAシーンは今後どうなると思いますか？

ムリーロ　確かにマーケットは変わってきている。何が起きて、誰が正しい判断をしているのかわからない状況だよ（笑）。でもおかげで私のチームは刺激を受けているし、これからもっと強くなってブラジル、そして世界で一番強いチームになろうという目標が共有できてきた。まぁ、新しいBTTを見ていてくれよ！

――わかりました。新生BTTに期待してます！

［07年8月29日／ブラジル、リオ・デ・ジャネイロにて収録］

©Levy Ribeiro



もう一人のBTTリーダー
ノゲイラらの“引き抜き”に怒る！

ベベオ・デュアルチ

「ブラックハウスのトップは我々にウソをついた」

7年前にムリーロ・ブスタマンチ、マリオ・スペーヒー、ヒカルド・リボーリオ（現ATT）とともにBTTを設立。現在もブスタマンチとBTTを共同経営しているのが、このベベオ・デュアルチだ。他のオーナーたちが選手兼業だったのに対し、専業マネージャーだったベベオは今回の離脱劇をどう捉えているのか？

――BTTを去ったビクトー・ベウフォートらが加入しているブラックハウスについてはどう考えていますか？

ベベオ　ジョインア（ジョルジ・ギマラエス＝ブラックハウス・オーナー）はオレのいい友人だ。スマートなヤツだしね。でも彼が今回その頭の良さを使ってやったこと（元BTTの選手と契約したこと）については異論があるね。

――お怒りのようですね。

ベベオ　ビクトーのケースについてはしょうがないかもしれない。ジョインアとビクトーは友だちだったからね。だが、ジョインアは私たちにウソをついてきたんだ。

――実際、ギマラエスはいま、ノゲイラ兄弟やパウロ・フィリオら元BTTのトップファイターのマネージメントもしていますが、選手を奪われたという気持ちがあるわけですね。

ベベオ　ジョインアのビジネスの仕方について言えば、彼はもっとほかの人間に対して正直にならないといけないだろうな。

――しかし、ギマラエスは選手や関係者のあいだで信頼が厚く、選手のほうからコンタクトをとったという話もありますが？

ベベオ　確かにマネージャーを選ぶのは選手だ。だからしょうがないのかもしれない。（シュートボクセから移籍した）アンデウソンについて言えば、彼はスマートだった。ミノタウロと仲がよかったアンデウソンは、ブラジルでの格闘技番組を制作しているジョインアを紹介してもらって、チャンスをつかんだわけだからな。だけど、ジョインアは選手のストーリーを作ることのできる人間じゃないよ。

――ノゲイラが離脱したことについてはどう考えていますか？

ベベオ　その件で心配していることは彼が私たちに一切の連絡をしなかったことだね……。BTTはいま新しいサイクルに入っている。再びミノタウロのような強い選手を育てあげないといけないんだ。『PRIDE』がなくなり、アメリカがMMAの中心になるなど、マーケットが変わってきている。もしかしたら、この次は中国が一番大きな市場になるかもしれない。それでも、私たちの仕事は変わらない。選手をチャンピオンに育てあげて、MMAシーンで活躍させることなんだ。

［07年8月29日／ブラジル、リオ・デ・ジャネイロにて収録］



“首領”はなぜこの時期にチームを離れたのか？

BTT離脱の深層に迫る

マリオ・スペーヒー

「現在のアメリカにおける MMAと柔術のマーケットを考えたら、いまが独立のときだと思ったんだ」

ノゲイラらトップファイターたちのBTT離脱が続く中、前ページでブスタマンチが語っているように、“MMAの新天地”アメリカで自らのチーム作りを目指すことになったマリオ・スペーヒー。オーナーとして、99年にはノゲイラをBTTにスカウトした本人でもあり“BTTの首領”とまで呼ばれたマリオは、なぜこのタイミングで独立を決意したのか？

聞き手&撮影／Fernando Ramos　構成／堀江ガンツ

MARIO SPERRY■1966年9月28日、ブラジル出身。96年から99年まで柔術世界選手権を4連覇。また99年にはアブダビで98kg以下級&無差別級で2階級制覇を達成した。2000年にブスタマンチ、ベベオ、ヒカルド・リボーリオらとカーウソン・グレイシーから独立しBTTを結成。その後、『PRIDE』ミドル級戦線で活躍した。188cm、95kg。

――今回、BTTから独立を決意したきっかけはなんでしたか？

マリオ　まず言いたいのは、アメリカへ行くことは以前からの夢だったということ。そして現在のアメリカにおけるMMAと柔術のマーケットを考えると、いまが独立のときだと考えたんだ。

――アメリカへの移住は、やはりUFCの人気高騰や、『PRIDE』の活動休止と関係があったわけですか？

マリオ　もちろんさ。もし、日本がいまもアメリカのようなMMAの中心だったとしたら、日本へ行くことになっただろうね。

――具体的にはいつから独立を考えていたんですか？

マリオ　それも、かなり前からだね。とくに娘が生まれてからは、彼女の将来のことを考えると、アメリカで働くことを具体的に考えるようになったよ。なぜなら、ここブラジルと比べて、アメリカは教育水準も高い。彼女にいい教育を与えてあげたいと思うようになったんだ。

――家族のためを思って渡米という側面もあったんですね。チームのほかのオーナー（ムリーロ・ブスタマンチとベベオ・デュアルチ）とチームに対する考え方の違いで対立したり、軋轢があったわけではないと？

マリオ　考え方の違いはあったよ。私たちは人間なので、それぞれに考えがあるし、ある部分で優れていたり、また不完全な点もあったりした。でも、その違いがBTTを成功に導いたんだとも思う。つまり、いろんな意見をチームに取り込めたからね。そして、我々は、常にチームの名声を高めようと努力してきたんだ。

――なるほど。

マリオ　3人の中では私は英語が得意なこともあって、海外に対してのスポークスマン的な役割を果たしてきた。それに私はコミュニケーションをとることは得意なんだ。ベベオはチームの運営の面で大きな役割をはたしていた。選手のトレーニングや試合の管理もしていたよ。そして、ブスタマンチはトレーニングをコーディネートしていた。彼はいつも正しいアドバイスを与えることのできる人間だったし、チームにとっても素晴らしいアイデアを持っていた。だから彼は現場のリーダーのような存在だったね。

――アメリカ進出にあたって大きなスポンサーはついていますか？

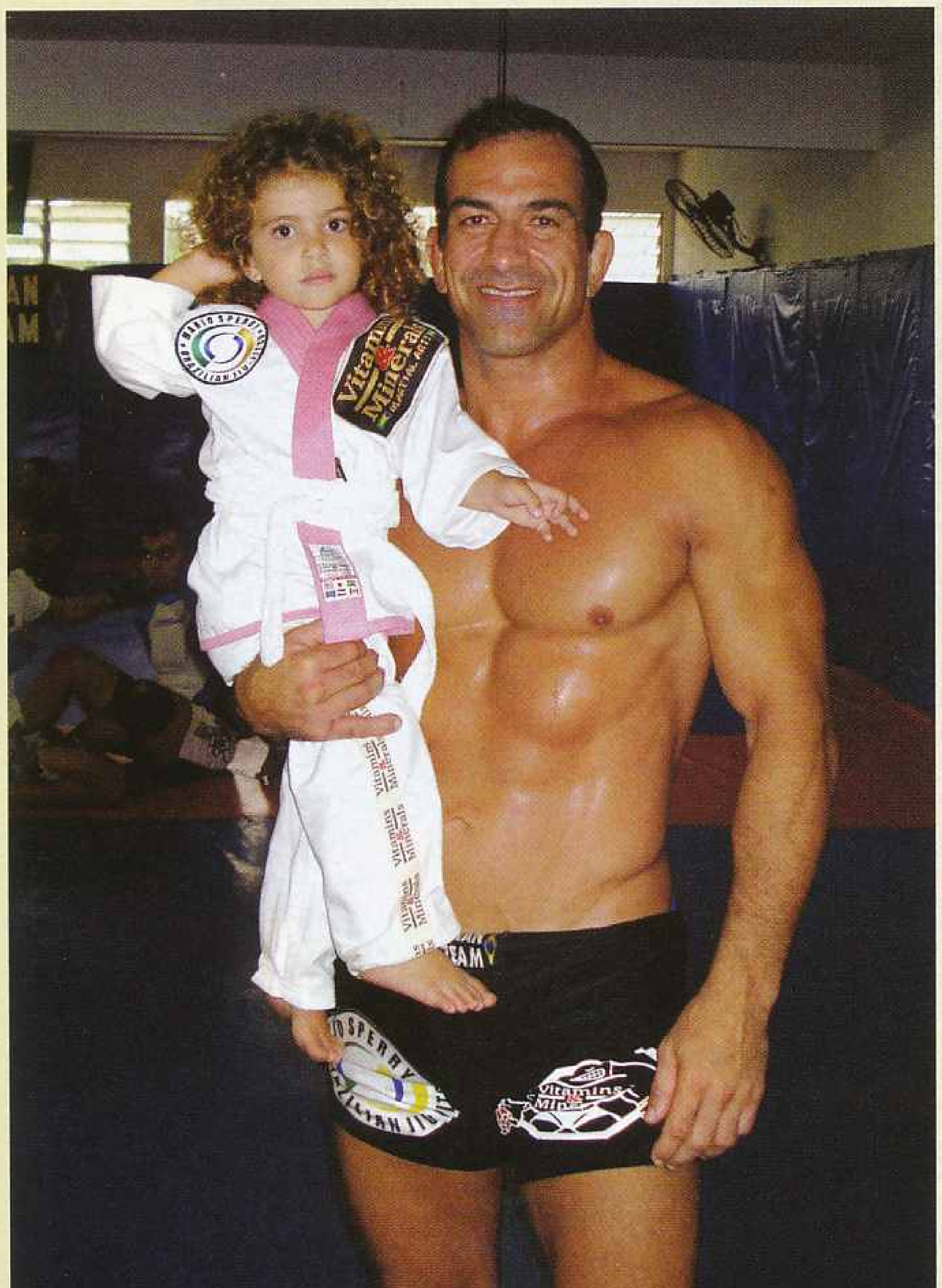
マリオ　私を手伝ってくれる人はいる。ファイトビジネス業界の人間もいるし、そうでない人もいる。いろんなサポートがあるよ。

――新しいジムはどこに設立するんですか？

マリオ　場所はまだ決めてないけど、ニューヨークかラスベガスにするつもりだね。まだ何も決まってないんだ。名前すらね。

――アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラもBTTを離脱したわけですが、もしかしてマリオさんとアメリカで合流する予定があったりするんですか？

娘の将来のことを考えると、教育水準の高いアメリカへの移住がベストな選択だと思ったんだ



一人娘のマリアちゃんを抱っこするマリオ・スペーヒー。現在スペーヒー一家が住むリオ・デ・ジャネイロは裕福な都市ではあるが、治安が悪いことでも有名。それもあってマリオは、かねてからアメリカへの移住を考えていたのだという。

マリオ　ミノタウロとは関係ないよ。私はこれまで彼のキャリアを伸ばすことを手助けしてきた。でも私の今回の決断と彼のBTT離脱は直接的には関係ない。私たちは別の道を進むことになる。ただ私はノゲイラという優れたファイターを育てた自負はあるし、これからも多くの人からそう認識されるだろうね。それについて異論のある人間はいないハズだ。

――では、ほかにあなたについていくBTTのメンバーはいますか？

マリオ　いまのところ、いないよ。ただアメリカでキャリアを形成したいというファイターに対しては、ドアはいつでも開けている。実際、私はBTTを離れるとき、すべての選手とコーディネーターにそう言ったんだ。

――アメリカとBTTの懸け橋になる考えもあるわけですね。ところで、BTTになかったもので、新しいジムに導入したいことはありますか？

マリオ　新しいジムはBTTとあまり変わらないと思うよ。MMAを意識した上での、柔術とサブミッションのアカデミーになるね。もちろんボクシングやムエタイも取り入れる。だから基本的には、いまのBTTがやっていることと同じさ。ただ、アメリカ人にとってもやりやすいように、キチンと選手たちを律して、合同トレーニングを行なうなど私の考えがもっと反映されたアカデミーになるとは思うけどね。ブラジル人のほうがアメリカ人よりも協調性があると思うしね。

――そのジムにはオクタゴンを導入しますか？

マリオ　必要ならね。ただ、言っておくが強くなるために大事なのは、設備といった練習環境だけじゃない。金網対策だって、

やろうと思えばリングのコーナーにバーを置いてでもできるからね。

――では、強くなるために必要なものは？

マリオ　それは強くなろうとするモチベーションと、そのために自律できる心の強さだよ。たとえば、BTTではブラジル文化の悪い癖なのか、トップファイターとなって金を稼ぐようになると、それまでと違って、チームと一緒にトレーニングをしなくてもよいと考えて、文句を言いだすようになるんだ。最初はちゃんとできていたことが、できなくなる。

――そういうケースはよくあったんですか。

マリオ　残念ながらね。つまり、多くのファイターはある日突然、名声を得て、それに対応できない。結果、そのままキャリアを伸ばすことなく沈んでしまう。そういう選手を何人も見てきたよ。チャンピオンになることが大事じゃないんだ。強くなることが大事なんだ。強ければ、いつまでもチャンピオンで居続けられるわけだからね。彼らは成功のウラには努力があったことを忘れてしまったんだ。

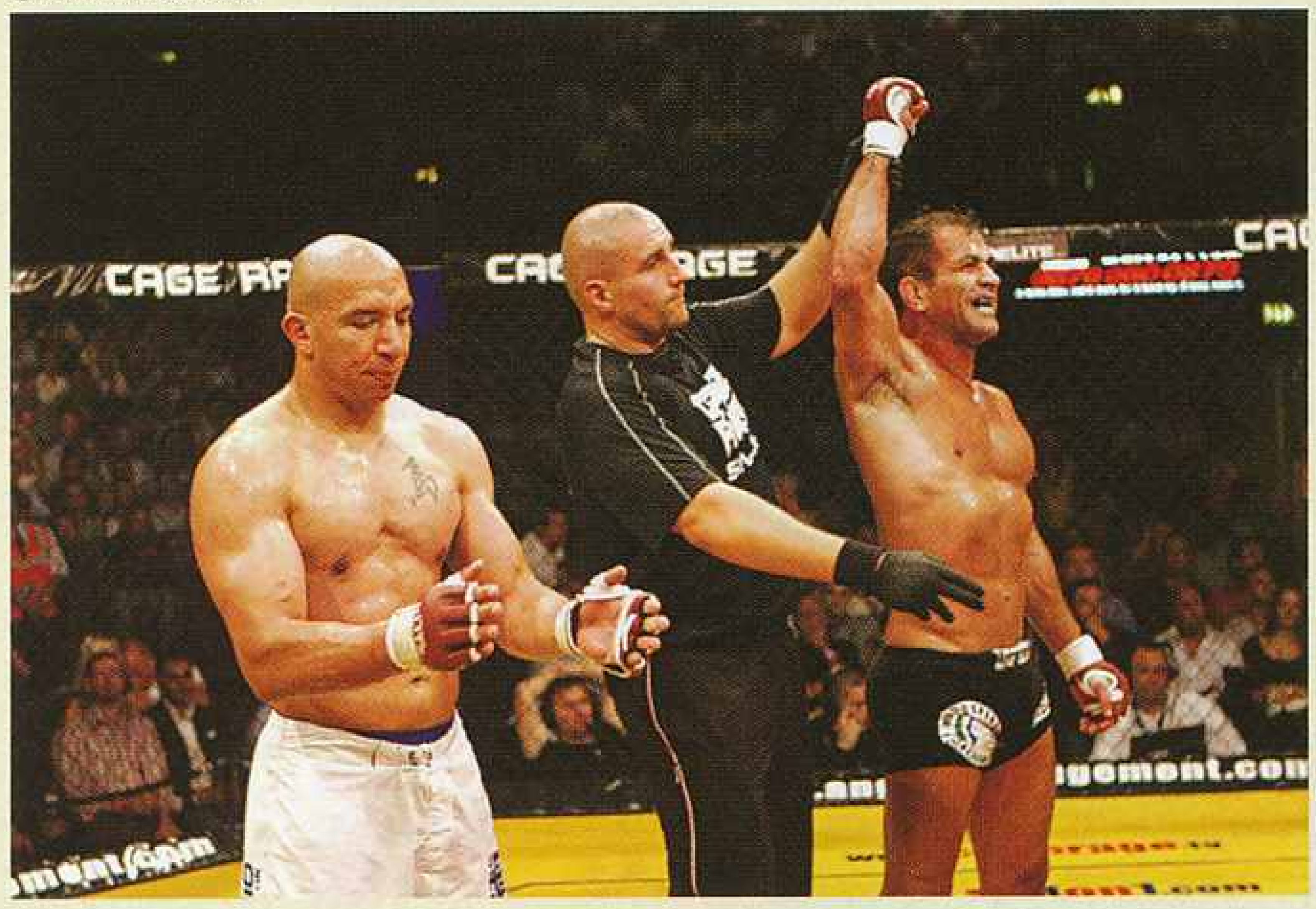
――そういった選手はチームに対して不満があったんですか？

マリオ　彼らは、アカデミーの設備に不満があったようだね。でもミノタウロとアローナがリングスと『PRIDE』のチャンピオンだったとき、アカデミーには基本的な設備しか揃ってなかった。もし設備がチャンピオンに勝つのというのなら、キューバ人はボクシングや柔道、そしてレスリングの世界で活躍できないだろう。実際、私は4年前にリングを設置したんだが、使う選手はあまりいなかった。ムダにしたとも思ったよ。ファイターたちは、「家が遠いから」とか「交通渋滞があるから」といってトレーニングに参加しないんだ（タメ息をつきながら）。彼らは、単に居心地のいい場所を望んでいるだけなんだ。

――ではあなたの考えにあう、自分を律してトレーニングを積んで、将来チャンピオンになる選手は誰ですか？

マリオ　ホジマー・パルハレス・トキーニョかな。彼は次の（ブラジルの格闘技興行）『フューリーGP』に勝つよ。彼の契約はこれまで私が行なってきた。スポンサーも私がつけたしね。だが、もしほかの誰かが彼の面倒をみるというのなら、私は問題はないよ。ただ、これからも彼のブラジル国外での試合は私がアレンジするつもりだし、すでにアメリカでの試合については、決定してきたんだ。

©Lee White Head



7.14『ケージレージ』に出場したマリオは、"リングスUK"代表として日本でおなじみのリー・ハスデルと対戦。1R1分39秒、チョークスリーパーで快勝した。そして、これがBTT所属としては最後の試合となったのだ。

アメリカに移住したあと ヴァンダレイやクートゥアーと 協力関係を築く可能性はあるよ

――ほかの選手はどうですか？

マリオ　いろいろな選手がいるから、一概には言えないね。ただ、いまのファイターたちはいいテクニックを持っているし、コンディション作りも素晴らしい。しかし、自分の限界を超えるという意思を持たない選手は、それまでなんだ。

――では、限界という意味では、ご自身の現役ファイターとしては、どんなプランがありますか？　やはりUFC出場ですか？

マリオ　まだまだリタイアする気はないから、試合は続けるよ。ただまず初めに、今年中にチームとアカデミーを作りたいね。アメリカではもっとビジネスがしやすいと思う。実際、ケージレージなどいろんな団体からオファーが来ているし、IFLでは来年からチームを持つことになると思う。今月下旬にはIFLの社長と会って、チームの名前と選手を決めるつもりさ。

――いま多くのブラジル人ファイターがアメリカへ進出しようとしていて、その契約をタフメディアというエージェントが行なっていますが、そのことについてどう思いますか？

マリオ　彼らはこのビジネスのパイオニアとして、いい仕事をしていると思うよ。選手のためにも頑張ってほしいね。

――タフメディアのようなエージェントが出てくることも含め、BTTからはあなたとノゲイラが離れ、シュートボクセからヴァンダレイが離れるなど、ブラジル格闘技界は再編の時期に来ていますよね。

マリオ　マーケットが変わっているからね。私たちは日本とのパイプは強かったけど、UFCとの関係を築いてこなかった。『PRIDE』に独占的に選手を派遣していたからね。そして『PRIDE』がその活動を終えて、UFCが大きくなると、完全に状況が変わってしまった。しょうがないだろう（笑）。

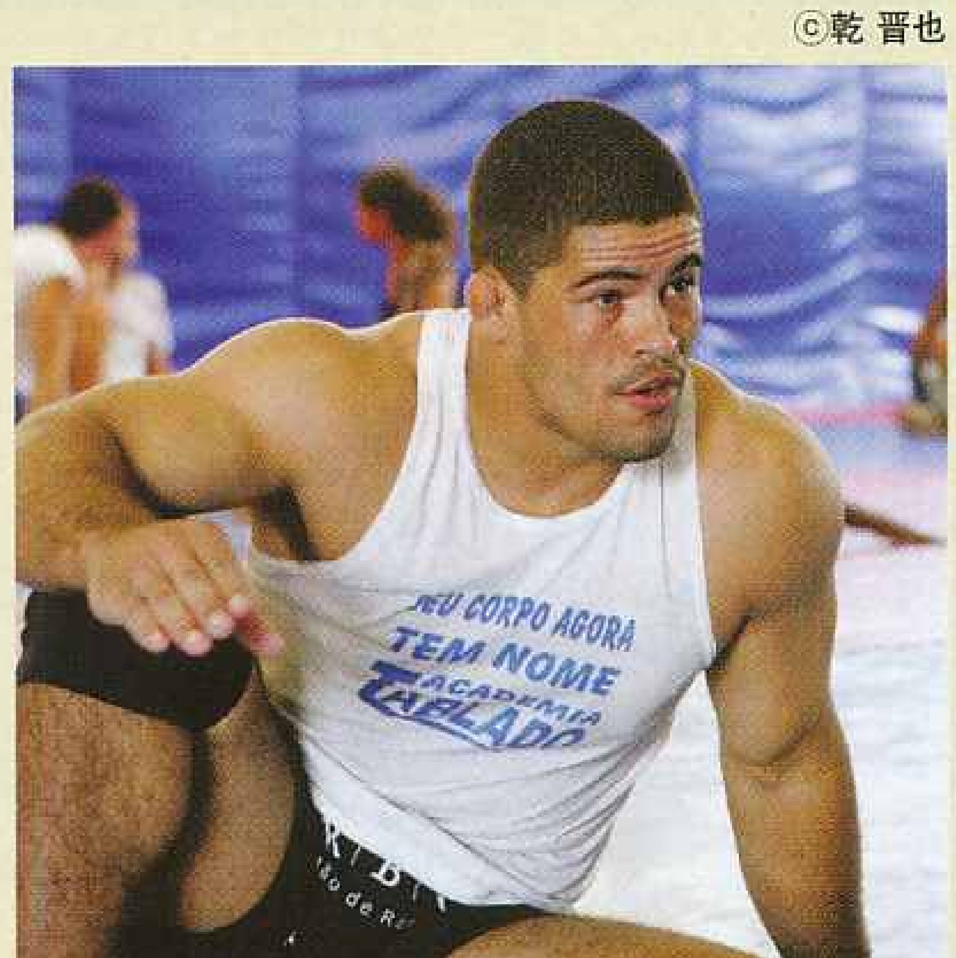
――すでにアメリカに移住したヴァンダレイとチームを作る可能性はありますか？

マリオ　その可能性はあるよ。私にとっては問題はない。彼とはリング上ではライバルだったが、私はプロフェッショナルだ。もしお互いのビジネスにとってよいことであれば、ヴァンダレイであれ、ランディ・クートゥアーあれ、ビジネスパートナーにすることに異存はないよ。

――新天地でのご活躍に期待しています！

【07年8月31日／電話取材にて収録】

©乾 晋也



この男がマリオの愛弟子でもあるホジマー・パルハレス・トキーニョ。アローナとパウロ・フィリオを足して2で割ったような彼が、今後のBTTが生む新たなチャンピオンとなるか？



ED SOARES■ロサンゼルス生まれのブラジル系アメリカ人。バンドのマネージャーなどを経験したのち、アパレル業に進出。選手へスポンサードをしたことからMMAと接点を持つようになる。その後、MMA業界では珍しいマネージメント会社、タフメディアを設立。現UFCミドル級王者アンデウソン・シウバやノゲイラらブラジル人選手のアメリカ進出をサポートしている。

ノゲイラ&フィリオ、BTT離脱の“黒幕”を直撃!

チーム・ブラックハウス&タフメディアの正体

エド・ソアレス
(タフメディア代表)

「我々はブラジル人選手たちに新たな道を示すことができるんだ」

ブラジル格闘技界再編において、大きな鍵を握るのがタフメディア代表である、このエド・ソアレスだ。タフメディアとはアンデウソン・シウバ、LYOTOらブラックハウス勢のほか、ノゲイラ、フィリオ、ハレック・グレイシーらもマネージメントするオフィス。ブラジル人強豪ファイターのアメリカへの橋渡しをする“黒幕”でもある彼に、現在のブラジルMMA事情とその展望をうかがってみた。

聞き手&撮影/石井史彦　写真提供(ブラックハウス)/Fernando Ramos　構成/堀江ガンツ

タフメディアはUFC、WEC、PRIDE、K−1すべてに選手を派遣できることが強みだ

——UFCウェルター級王者、アンデウソン・シウバやLYOTOらブラックハウス勢に加えて、ホドリゴ・ノゲイラ、パウロ・フィリオ、ハレック・グレイシーなど強豪選手のマネージメントをされているタフメディア代表のソアレスさんに現在のブラジルMMA事情とその展望をおうかがいしたいと思います！

ソアレス　オーケー！

——まずは初めに、ソアレスさんが格闘技界と関わるようになった接点から教えていただきたいのですが。

ソアレス　私はもともとMMAの大ファンで、アメリカでのブラジル人社会の交流を通じて、ホイス（・グレイシー）がUFCのリングに上がる前から彼のファミリーとは交友関係を築いてきたんだ。そして、その関係もあって、私の経営するアパレルブランド『シニスター』はファイターへのスポンサードをしていたんだよ。

——では選手のスポンサーとして、MMAビジネスに関わるようになったわけですね。

ソアレス　そう。だから、2003年の11月にチャック・リデルがクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンに負けたときにも日本に行ったりしているんだ。当時、リデルのスポンサーをしていたからね。

——それが、どうしてマネージメント側に回ったんですか？

ソアレス　それは古くからの友人であり、現在はタフメディアでの私のビジネスパートナーでもあるジョルジ・ギマラエス（チーム・ブラックハウス代表）が、ブラジルで『パサ・ナ・グワルダ（「ガードをパスする」という意味）』という格闘技番組をやっていたんだが、それを私がアメリカで売り込むことになったことがきっかけかな。

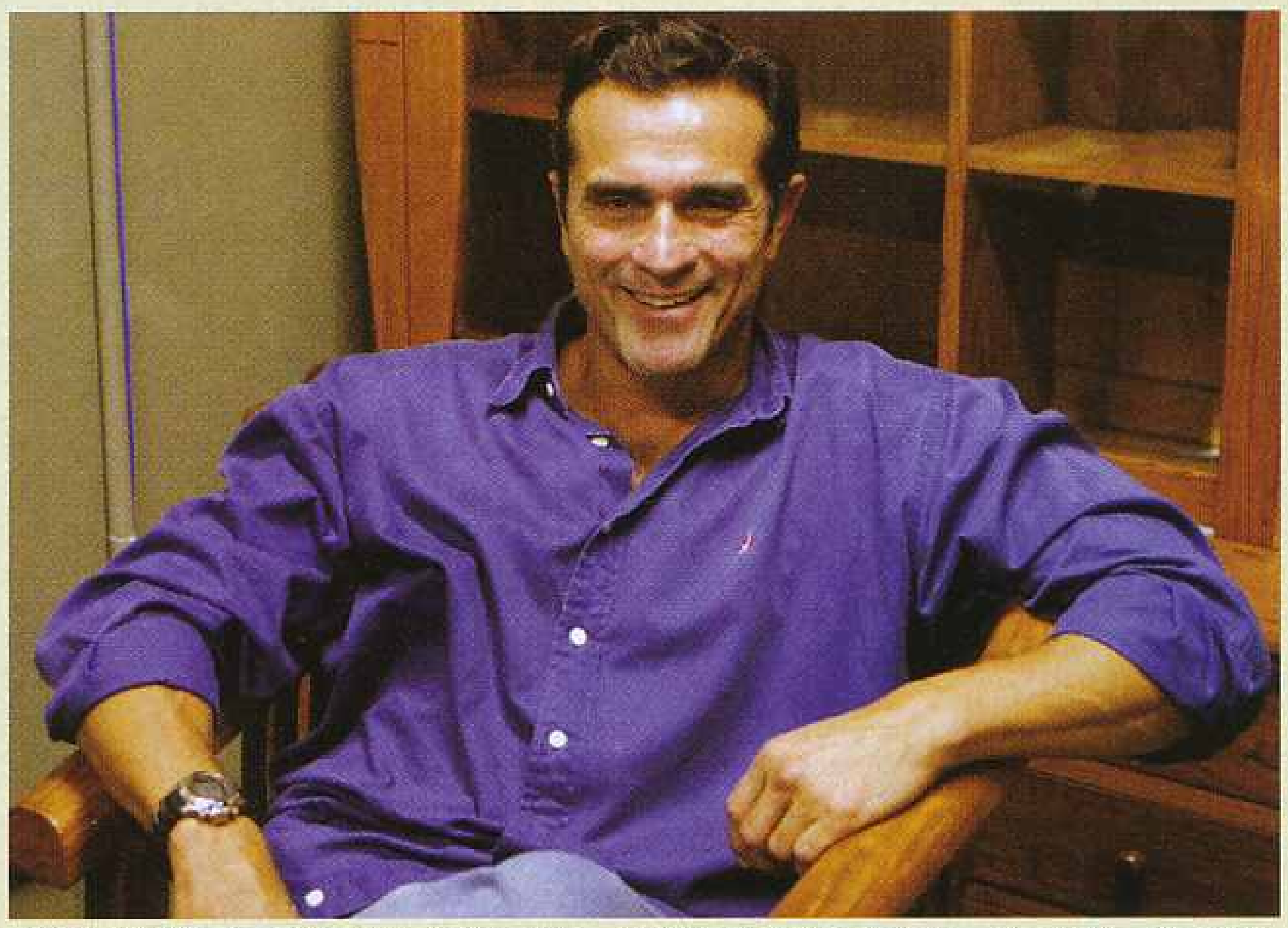
——それはいつのことですか？

ソアレス　2004年の春だね。その頃はアメリカのフリーテレビでのMMAの放映はほかにはなかったんだが、11シーズンにわたって放映することができたんだ。その活動の中で私たちは多くのファイターたちといい関係を築くことができた。そして彼らのマネージメントを始めるようになったんだ。

——なるほど。タフメディアが、現在勢いのあるブラックハウス勢のマネージメントをするようになったのはどうしてですか？

ソアレス　それはタフメディアでの私のパートナーであるジョルジが、ブラジルでファイターがトレーニングできる施設としてブラックハウスを作ったからだよ。それにブラックハウスには私も数パーセントだが投資しているんだ。

——ブラックハウスはプロチームのことだけではなく、トレーニング施設なんですか？



この男が現在ブラジルで最大のジムとなったブラックハウスの代表、ジョルジ・ギマラエス。"ブラジルMMA界のドン・キング"と呼ばれる彼こそが、ノゲイラらブラジルのトップファイターのアメリカ進出に関わった張本人だ。

ソアレス　そうだね。ブラックハウスは一般の人々も練習できるジムでもあるんだ。2400平方メートルもある大きなジムでトレーニング設備も整っているし、スタッフもヘッドディレクターにカーロス・バヘットがいて、柔術、ボクシング、ムエタイ、フィジカルトレーニングにおいてそれぞれの分野でコーチを揃えているんだ。そこに所属しているプロ選手もいるが、それ以外にもタフメディアと契約しているファイターがトレーニングをしている。たとえば、チーム・ノゲイラはブラックハウスでトレーニングしているがブラックハウス所属というわけではないよ。ミノタウロ（ノゲイラ）は自分のトレーナーを連れてきているしね。

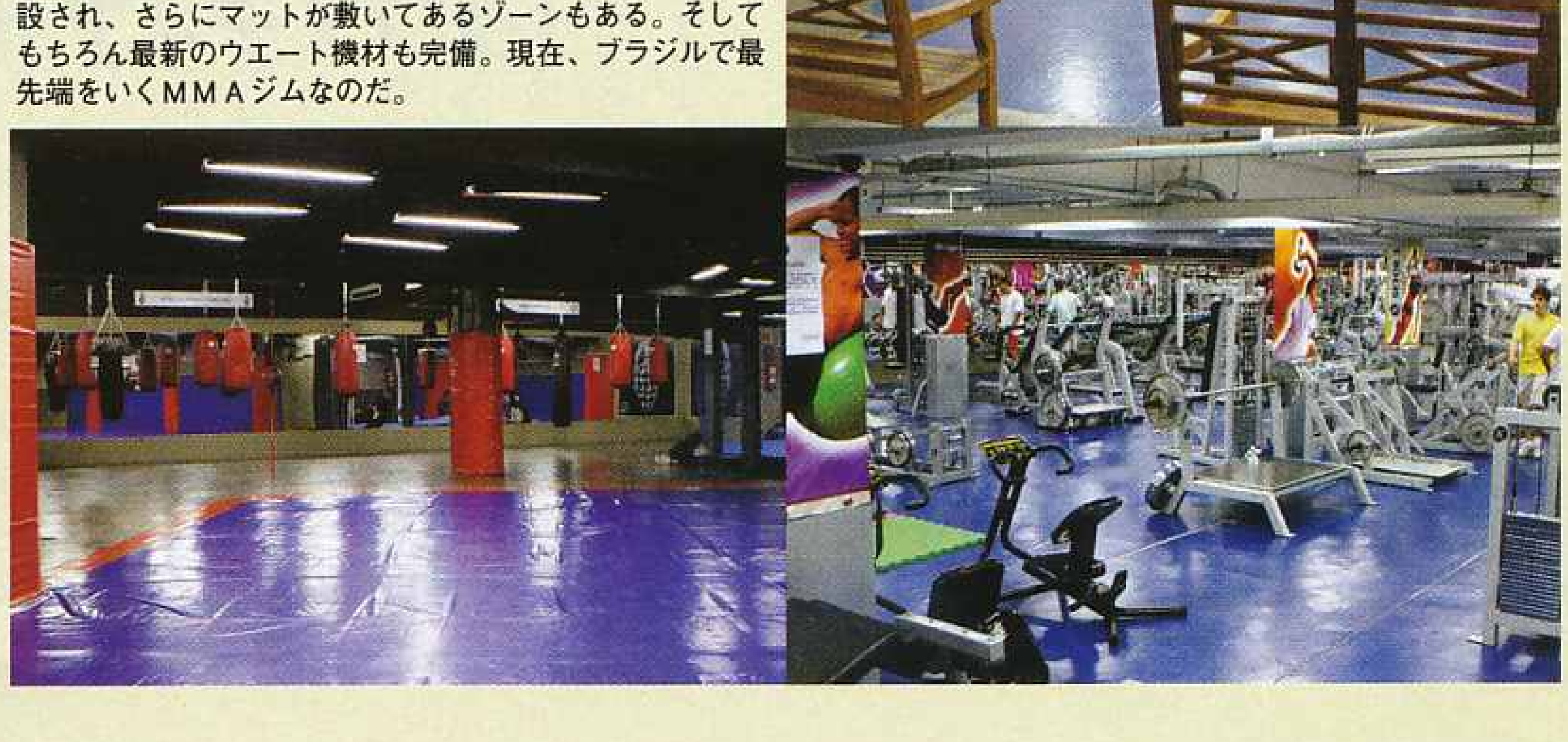
——ノゲイラは場所だけ借りて、自分の仲間と練習しているわけですね。

ソアレス　いまのところ、そのへんは緩くしているんだ。というのは、私たちにとって最も大切なことは世界で一番のトレーニング環境を提供すること。もちろんチーム・ブラックハウスの一員となってもらうことは大歓迎だが、私はファイターたちを縛って、窮屈な思いをさせたくないからね。私たちは選手にファイターとして、そしてビジネスマンとして成長してもらいたいと思っている。だからブラックハウスはトレーニング面で選手をサポートして、タフメディアはマネージメント面で、ファイターのビジネスキャリアに役に立っていきたいんだ。

——トレーニングとマネージメントが分かれているというのは、これまでのブラジルのMMAシーンを考えると画期



これがノゲイラらも練習に訪れるブラックハウスのジム。広い敷地内にはフルサイズのオクタゴンとリング両方が常設され、さらにマットが敷いてあるゾーンもある。そしてもちろん最新のウエート機材も完備。現在、ブラジルで最先端をいくMMAジムなのだ。



的ですよね。では、ノゲイラやアンデウソンら、BTTやシュートボクセなど大きなクラブのマネージメントを受けていたトップ選手がタフメディアにマネージメントを頼んでくるのは、なぜだと思いますか？

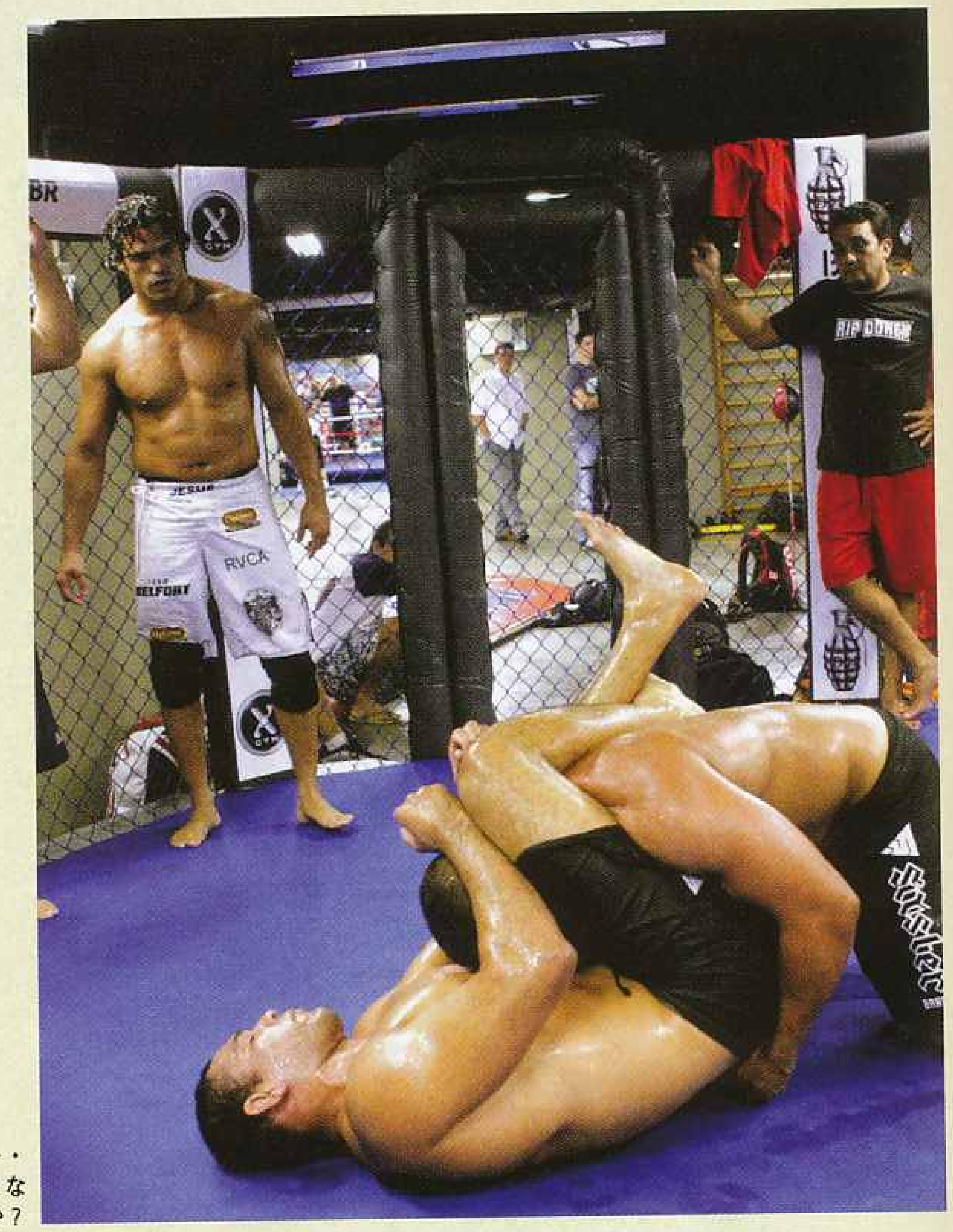
ソアレス　まず、私はファイターを追っかけるようなことはしていないことを言っておくよ（笑）。私のパートナーであるジョルジはMMAの世界でとても尊敬されている。彼はブラジルスポーツ界のアイコンでもあるし、テレビ界にも影響力がある。信頼が厚いんだ。そして私と彼のパートナーシップはブラジル人ファイターにとって、とても都合がいい。私がここアメリカにいて、ジョルジはブラジルにいる。彼らは一人ぶんのマネージメント料で二人のマネージャーを持つようなものなんだ。アメリカにいるときは私が世話をするし、ブラジルにいるときはジョルジが面倒をみるということは、ブラジル人ファイターが世界進出するにはいい話だろう。

――アメリカで闘いたいファイターには頼もしいですよね。

ソアレス　ブラジルからアメリカに一旗揚げにやってきたときに、ファイターにはそれまでは気にする必要のなかった多くの課題が待っている。契約であるとか、団体の規制や税金など多岐に渡ってね。そんなとき、私たちがそういった問題を一手に引き受けて、選手にプロフェッショナルなサポートを提供することで、選手は目の前の試合そのものに集中できるんだ。

――MMAが国際的なスポーツとなったいま、こういう新しいかたちのマネージメントは選手にとってはありがたい話ですよね。その一方で名門のBTTやシュートボクセは、選手の独立がこのところ相次いでおり、ブラジル格闘技界の勢力図が再編の真っただ中にあります。

ソアレス　細かい事情はわからないが、いまが変化の時期なんだと思うよ。さっきも言ったようにMMAはいまやインターナショナルなスポーツになった。残念ながらいくつかのブラジルのチームは、言語面で障害があったりもする。それにビジネスの進め方にも違いがあって、アメリカ進出を狙う以上は、アメリカではどのようなプロセスで物事が進むのかを理解する必要がある。タフメディアはその道を示すことができるんだ。それに私たちには多くの団体とコネクションがある。UFC、WEC、『PRIDE』そしてK-1ともいい関係だ。つまりタフメディアという一つのマネージメント会社がワールドワイドに選手をケアできるんだ。



UFCミドル級王者アンデウソン・シウバや、ノゲイラ兄弟、ビクトー・ベウフォートらが一緒に練習するなど、ブラジルのドリームチームとなりつつあるブラックハウス。この勢いは今後、さらに加速していくのか？

――UFC以外ではどういった選手が契約してますか？

ソアレス　たとえば、K-1（『HEROS』）で闘うハレック・グレイシー、ケージレージで闘うビクトー・ベウフォート、『ART OF WAR』で闘うペドロ・ヒーゾ、WECで闘うパウロ・フィリオなどさまざまな選手がいる。UFCは最も大きな団体だが、すべての選手がUFCにフィットするわけではない。だからUFC一辺倒ではダメで、各選手の状態や特性を見極めてベストな機会を与えることが大切なんだ。K-1だって選手を大切に扱ってくれるし、そういう団体と私たちはいい関係を築いているんだ。

――団体との関係で言えば、ソアレスさんはUFCのマッチメイカー、ジョー・シウバとも古くから付き合いがあるとのことですが、ノゲイラのUFC参戦は、ジョー・シウバからのリクエストだったんですか？

ソアレス　じつは、そうなんだ。ジョー・シウバはプロフェッショナルな人間だ。お互いに実りのある話し合いができ、それを実現の方向へもっていくことができた。それに加えて、アンデウソン・シウバの影響も大きかったよ。ノゲイラとアンデウソンは昔から一緒にトレーニングしていたからね。だから『PRIDE』がいまのようになる前から、じつはノゲイラとアメリカ進出について話をしていたんだ。

――そうだったんですか。かつてUFCでは重要視されていなかったブラジル人ファイターですが、いまではノゲイラやアウデウソン以外にも、多くの選手がトップクラスにいますよね？

ソアレス　それはまずこのスポーツ自体が成長しているからね。一般的には、選手をアメリカに連れてくるにあたって、航空券のコストやビザの問題などの初期投資がかかるから、もしチャンピオンになるようなポテンシャルがなければリスクを負ってまで外国の選手に投資をしようとは思わない。でも、いまUFCはグローバルにショーを行なっていてインターナショナルな選手の重要性が高まっているんだ。

――確かに、昔のUFCはアメリカ人ばかりでしたよね（笑）。

ソアレス　そして、いまではホジェリオ・ノゲイラやニーノ・"エルビス"・シェンブリらもUFCと契約の話もある。

――ホドリゴに続いて、ホジェリオもオクタゴンに上がる可能性がありますか！

ソアレス　まだ決まってないけどね。ホジエリオはパンアメリカン・ボクシング選手権で銅メダリストになったところだから、UFCだけでなくK-1とも話をしている。ノゲイラ・ブラザーズは長い時間をかけて日本でいい評判を得ているから、日本のファンも彼の活躍を楽しみにしていると思うしね。ほかの団体からもオファーはあるからどうなるかわからないけど、近いうちに何か発表できると思うよ。

――それは楽しみですね。

ソアレス　現在活躍しているアンデウソンやノゲイラ・ブラザーズらに限らず、これからもタフメディアは選手を獲得し、育てて、確固たる地位を築いていくつもりだ。ブラックハウスを通じて次世代ファイターを輩出して、世界一のエージェンシーとして拡大させていきたいね。

【07年8月25日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】

ジル人ファイター分布図

MMA世界再編により、選手のチーム離脱、移籍が頻繁に起こっている現在のブラジル格闘技界。いったい、いま誰がどこのチームにいるのか、わからなくなっている人も多いことだろう。そこで読者にやさしい本誌は、ここにチーム別ブラジル人ファイター分布図を掲載。これを見れば、いまのブラジル格闘技界が一目瞭然だ！　たぶん。

構成／堀江ガンツ



NOVA UNION

ノヴァ・ウニオン

1994年にアンドレ・ペデネイラスとウェンデル・アレクサンダーが、リオ・デ・ジャネイロにオープンした、ブラジリアン柔術アカデミー。ファス・バーリ・トゥードと同じ建物を使用しており、総合格闘技の練習はファスＶＴと合同で行なっている。練習のレベルは高く、日本から中村和裕がたびたび集中トレーニングのために訪れている。チームのエースは、言わずと知れたビトー・“シャオリン”・ヒベイロ。

ビトー・“シャオリン”・ヒベイロ
レオナルド・サントス
ホブソン・モウラ
ハファエル・カリーノ
ビトー・ミランダ
ターレス・レイチ
ダニーロ・シューマン

Ruas Vale Todo

ファス・バーリ・トゥード

ホドリゴ・ファス
ディエゴ・ブラガ

ⓒFernando Ramos



AMERICAN TOP TEAM

アメリカン・トップチーム

ブラジリアン・トップチームの創設者の一人、ヒカルド・リボーリオが独立して、米国フロリダにオープンした総合格闘技のチーム。支援者のバックアップにより、アメリカでもトップクラスの設備を誇る。チームは当初ブラジル人が中心だったが、現在はジェフ・モンソン、デニス・カーン、さらになぜかバタービーンなど、国際色豊か。チームの充実ぶりは『HERO'S』ミドル級トーナメントで二連覇した、J.Z.カルバンの強さを見てもよくわかる。

ヒカルド・リボーリオ

マーカス・アウレリオ

J.Z.カルバン

アントニオ・“ペザオン”・シウバ

BRAZILIANS in USA

アメリカに移住するブラジル人ファイター

かつては、グレイシー一族をはじめとしたブラジリアン柔術家が、アカデミー開設のためにアメリカへ移住することが一般的だった。しかし、いまはプロのMMAファイターとして、現在、MMAがもっとも盛んな国となったアメリカを拠点にするというかたちに変化。その代表選手がノゲイラ、シウバといったところだ。『PRIDE』の活動休止、UFCの巨大化によって、今後ブラジル人トップファイターのアメリカ進出は、ますます盛んになっていくことが予想されている。

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
（BTTから独立。チーム・ノゲイラとしてフロリダでジムをオープン予定）

ヴァンダレイ・シウバ
（シュートボクセから独立。フロリダでジムをオープン予定）

ヘンゾ・グレイシー
（ニューヨークでヘンゾ・グレイシー柔術アカデミーを運営）

レナート・ババル
（元ファス・バーリ・トゥード。現在はジョシュ・バーネットとともにトレーニング中）

マリオ・スペーヒー
（ブラジリアン・トップチームから独立。ラスベガスでジムをオープン予定）

パウロ・フィリオ
（ブラジリアン・トップチームを離脱。自分のチームを結成予定）

最新 チーム別 ブラジル

BRAZILIAN TOP TEAM
ブラジリアン・トップチーム



2000年にムリーロ・ブスタマンチ、マリオ・スペーヒー、ヒカルド・リボーリオ、ベベオ・デュアルチの4人が、カーウソン・グレイシー柔術アカデミーから独立するかたちで結成した、ブラジルの名門中の名門。リオ・デ・ジャネイロの一等地にジムを構え、コーチ陣も充実。今年に入り、ノゲイラ兄弟、そしてオーナーの一人、マリオ・スペーヒーが離脱したことで危機が叫ばれるが、アローナをはじめ強豪をズラリと揃えている。しかし、ビッグイベントのメインを務めるスターの不在が悩みか。

ムリーロ・ブスタマンチ
ヒカルド・アローナ
エジソン・ドラゴ
アンジェロ・アラウージョ
ファビアノ・カポアニ
ジェファーソン・"タンク"・シウバ
アレッシャンドリ・カカレコ
ホジマー・"トキーニョ"・パルハレス
ホアン・"ジュカオン"・カルネイロ
チアゴ・タバレス
ファビオ・メロ
ミルトン・ヴィエイラ
ルイス・ブスカペ

CHUTE BOXE ACADEMY
シュートボクセ・アカデミー

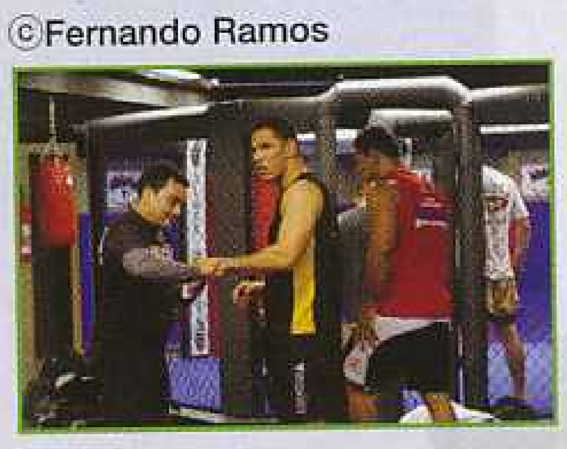


ヴァンダレイ・シウバを生み出し、BTTと並ぶブラジルの一大勢力。地方都市クリチバにジムを構えながら、地理的ハンデを感じさせぬほど、充実した陣容を誇る。練習内容にも定評があり、あの桜庭和志が日本からたびたび練習に訪れるほど。シウバの独立により転機を迎えてはいるが、マウリシオ・ショーグンという若き大黒柱がチームを引っぱり、アンドレ・ジダというニュースターも誕生。さらにチーム・クロコップからファブリシオが移籍するなど、さらなる成長を続けている。

マウリシオ・ショーグン
ムリーロ・ニンジャ
ファブリシオ・ヴェウドゥム
エヴァンゲリスタ・サイボーグ
ダニエル・アカーシオ
ジョルジ・パチーユ・マカコ
ルイス・アゼレード
ジーン・シウバ
アンドレ・ジダ
クリスチアーノ・マルセロ

BLACK HOUSE
ブラックハウス

ⓒFernando Ramos



ブラジルのテレビプロデューサーであり、MMAイベント『メッカ・バーリ・トゥード』なども共催したジョルジ・ギマラエスが設立したジム。フルサイズのリングとオクタゴン、さらに最新のウエート機材など、設備面ではブラジルナンバーワンを誇る。マネージメント・オフィス、タフメディアを通じ、ブラジル人ファイターのアメリカへの橋渡しをすることで、有力選手を次々と獲得。チーム・ノゲイラもここを練習場としており、今後もっとも目が離せないチームといえる。

アンデウソン・シウバ
ビクトー・ベウフォート
LYOTO
パウロ・ボイコ
モハメド・カチャ
ウゴ・デュアルチ

GORDO JIU-JITSU
ゴルドー柔術
（元グレイシー・バッハ・コンバット・チーム）

ⓒFernando Ramos



ゴルドー柔術という文字面を見ると、ジェラルド・ゴルドー師範のケンカ柔術がオープン？　などと思ってしまうが、ジェラルドはまったく関係ない。もともとエージェントであるカルロ・マルタとトレーナーのホベルト・ゴルドー・コレアが、創設者であるカルロス・グレイシー・ジュニアと離別。グレイシー・バッハ・コンバット・チームに所属する9割の選手を連れて結成した新しいチーム。この新チーム誕生により、グレイシー・バッハ・コンバット・チームは事実上、消滅した。

ファブリシオ・モンテイロ
グスタボ・シム
エドアルド・パチュー
アントニオ・ブラガ

kamipro SHOPPING



え〜、みのもけんじ先生イラストのマッスルTシャツが完売間近です!!

うわ〜ん、うわ〜ん!
もう売り切れちゃうよ〜!!



マッスル スターウォーズ Tシャツ
[S･M･L･XL ブルー] ¥3,150(税込)



「ワールドプロレスリング」実況席の興奮がよみがえる!!

マサ斎藤Tシャツ
[M･L･XL ブラック]
¥3,150(税込)

©mmsaito Co. Ltd. 2007 All Rights Reserved.



HUSTLE melty Tシャツ
[XS･S･M･L･XL ホワイト/ブラック/グリーン]
¥3,990(税込)



TAJIRI Buzzsaw Tシャツ
[S･M･L･XL ブラック] ¥3,990(税込)



ニューリン様“BERO”Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)
(身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm)



ニューリン様“BERO”Tシャツ
[M･L･XL ブラック] ¥3,990(税込)



ニューリン様“SIGN”Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)



ニューリン様“SIGN”Tシャツ
[M･L･XL ブラック] ¥3,990(税込)

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せください)

★代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを

kapra@kamipro.com

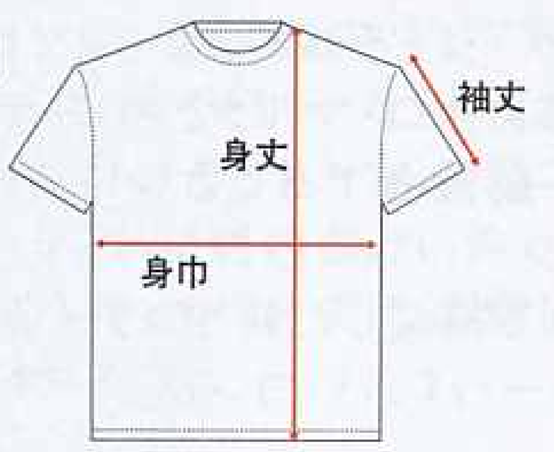
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。

販売元/(株)ダブルクロス

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24





青木LOCK STAR Tシャツ
[S･M･L･XL イエロー/ネイビー] ¥4,200(税込)



KamiproマスクTシャツ
[S･M･L･XL ホワイト×レッド] ¥3,990(税込)



I編集長“殺し”Tシャツ
[M･L･XL ブルー] ¥3,990(税込)

ケータイサイトはもちろん24時間受付OK!

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!

au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand


[QRコード]

※価格はすべて税込みです

MMAバブルの実態と、その行く末とは——!?

カネとリングとボードッグ

構成／松下ミワ





ボードッグの恐るべき実態を
kamiproが
総力をあげて徹底調査!!

ボードッグ 06〜07版

あの金で何が買えたか!?

—カルビン・エアーの驚くべき"お買い物"の実態—

「さくら銀行への公的資金投入額8000億円があれば、ワシントンポストとシカゴ・ブルズが買えてタイガー・ウッズとライセンス契約できて、さらに152億円のおつりがくる」(by村上龍)
じゃあ、ボードッグとカルビン・エアーがこの1年間でMMAに注ぎ込んだお金があったら、いったい何が買えたのか？　どれだけの格闘ワーキングプアが救えたのか？(は、今回触れないが)。あらゆる情報を収集し、ボードッグが各大会で費やした費用をかき集めてみたが、本当の額はこんなもんではないだろう。しかし、湯水のように使われたお金の価値を、ここに検証する!

文／高崎計三

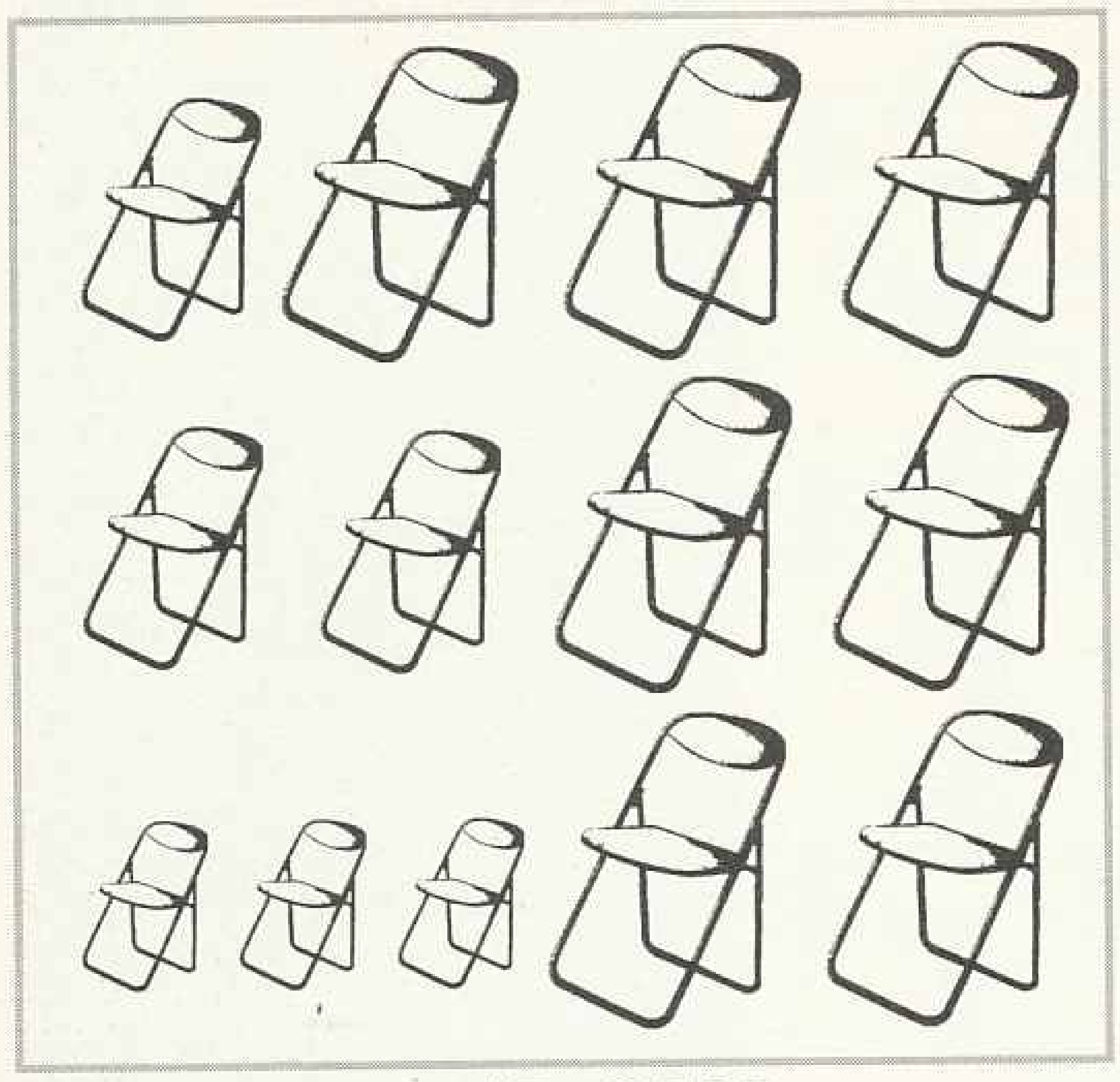
⑦ 07年8月下旬 **バンクーバー大会** 大石幸史らパンクラス勢が参戦 **200**万ドル (2億4000万円)	⑤ 07年4月14日 **サンクトペテルブルグ大会** エメリヤーエンコ・ヒョードル参戦 プーチン大統領来場 **310**万ドル (3億7200万円)	③ 06年12月中旬 **サンクトペテルブルグ大会** 初のロシア大会 カルビン・エアーが戦車から登場 **180**万ドル (2億1600万円)	① 06年8月22日 **コスタリカ大会** MFCと提携後、旗揚げ オフィシャルHPにて全試合を無料配信 **200**万ドル (2億4000万円)
総額 **1505**万ドル (18億600万円)	⑥ 07年7月14日 **ニュージャージー大会** 初のアメリカ上陸 近藤有己らパンクラス勢が参戦 **105**万ドル (1億2600万円)	④ 07年2月中旬 **コスタリカ大会** 全32試合64選手を招集 髙橋義生、たま☆ちゃんらが参戦 **360**万ドル (4億3200万円)	② 06年12月2日 **バンクーバー大会** ホジャー・グレイシー総合初参戦 エディ・アルバレスがMFCウェルター級王座を防衛 **150**万ドル (1億8000万円)

※すべて1ドル＝120円で計算

会場費編

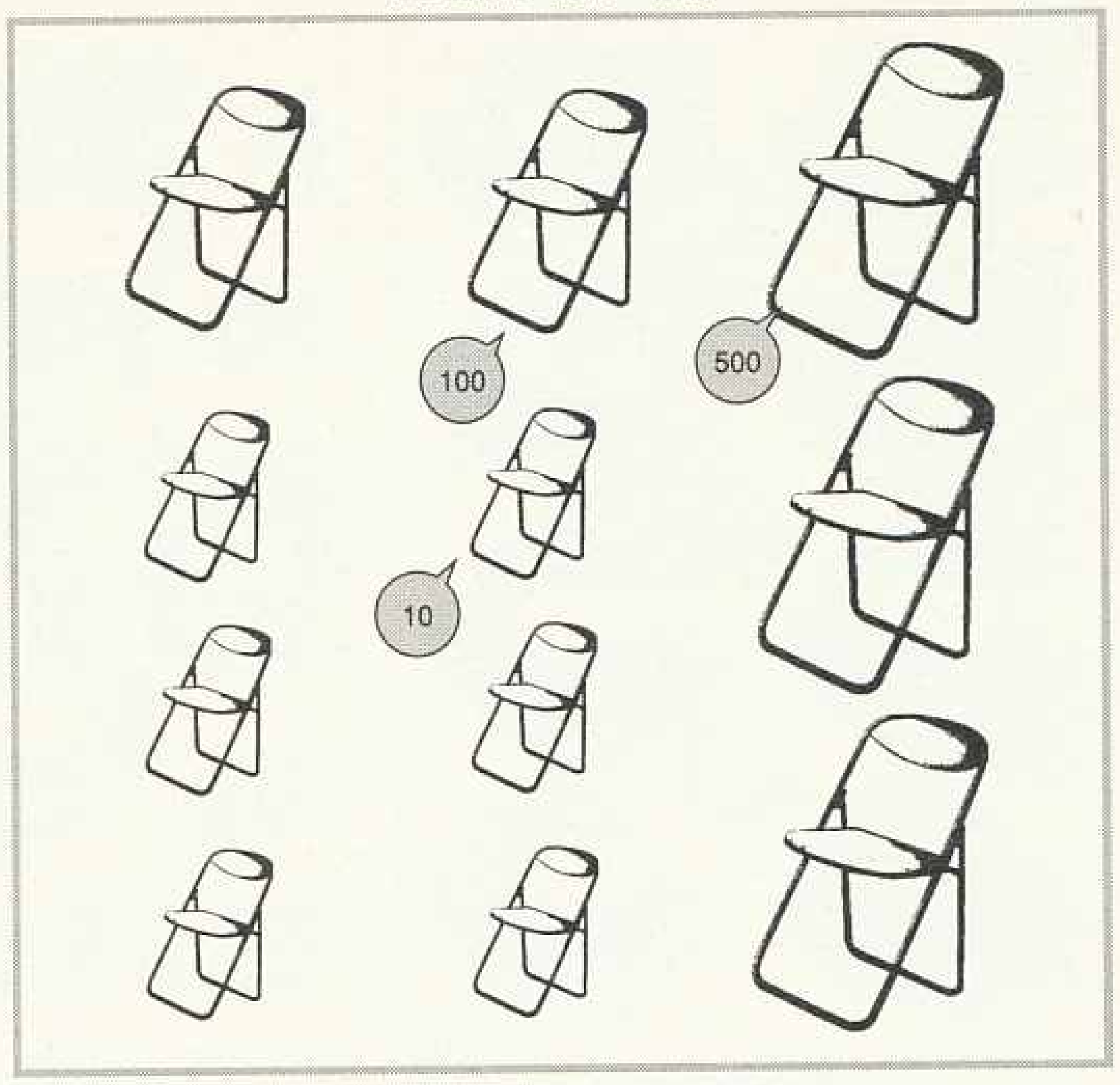
18億円で日本の主要会場を借りたらどれだけになるか？　なんとさいたまスーパーアリーナを1年間通して借りきれる！　後楽園だったら5年弱、ディファだったら8年弱！　しかも平日はもっと安くなるし、それだけ大口だったらきっと割引が……いやいや、これだけ金があるんだから、そんなみみっちいことは言うまい。つーかまあ、この金で専用会場建てちゃえって話ですなあ。都心のど真ん中で可変式アリーナでサブアリーナもあって……18億円ありゃこんぐらいできるでしょ（スケールが大きすぎてまったく判断材料なし）。

新宿FACE
（※土日祝・夜間の場合）



利用料金 47万2500円
=3,822.2回

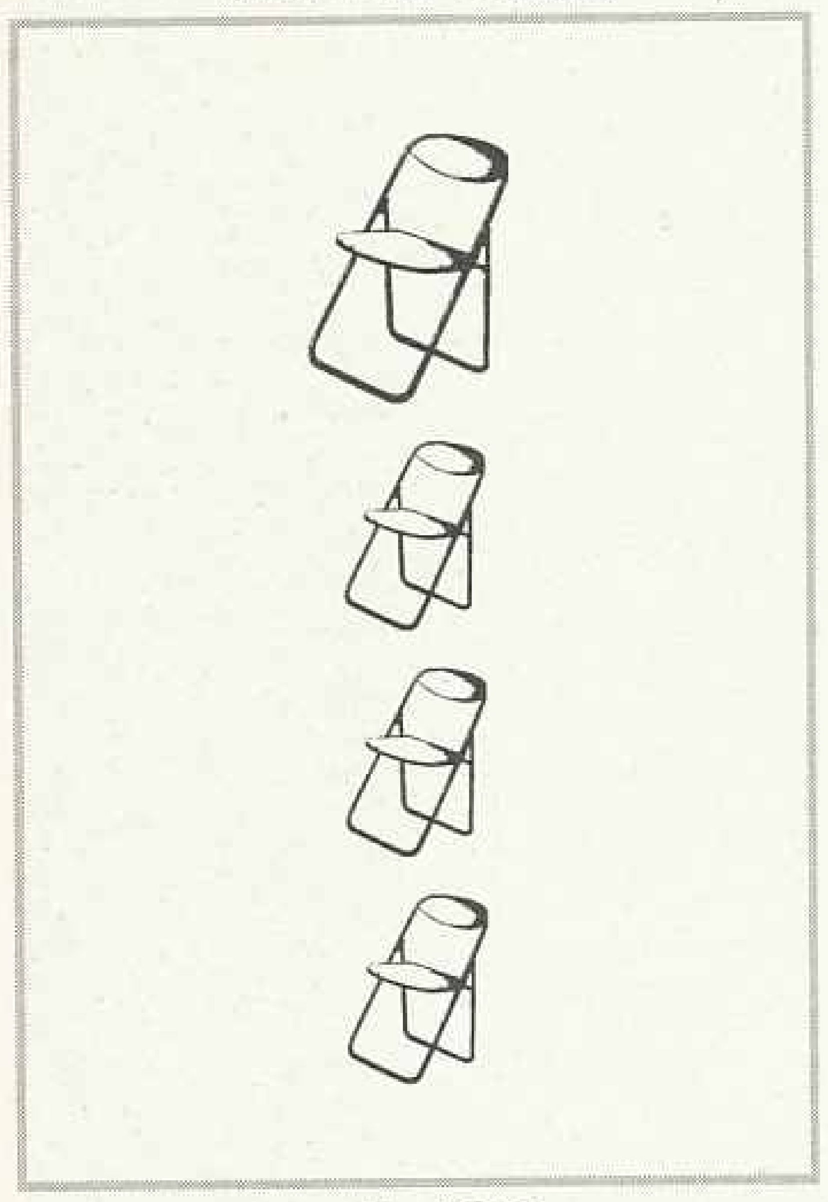
後楽園ホール
（※土日祝・夜間の場合）



利用料金 102万9000円
=1,755.1回

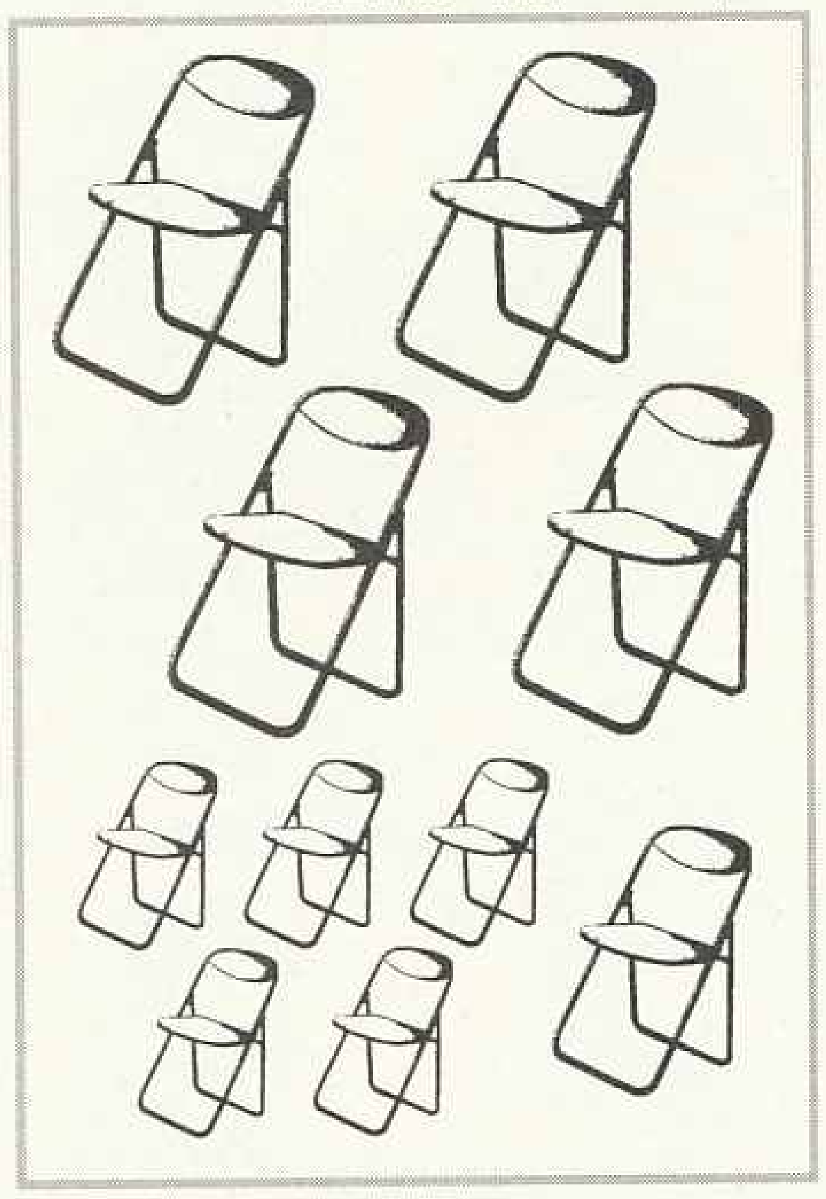
数字 は、各アイコンの単位を表わしています

京セラドーム
（※プロスポーツの場合）



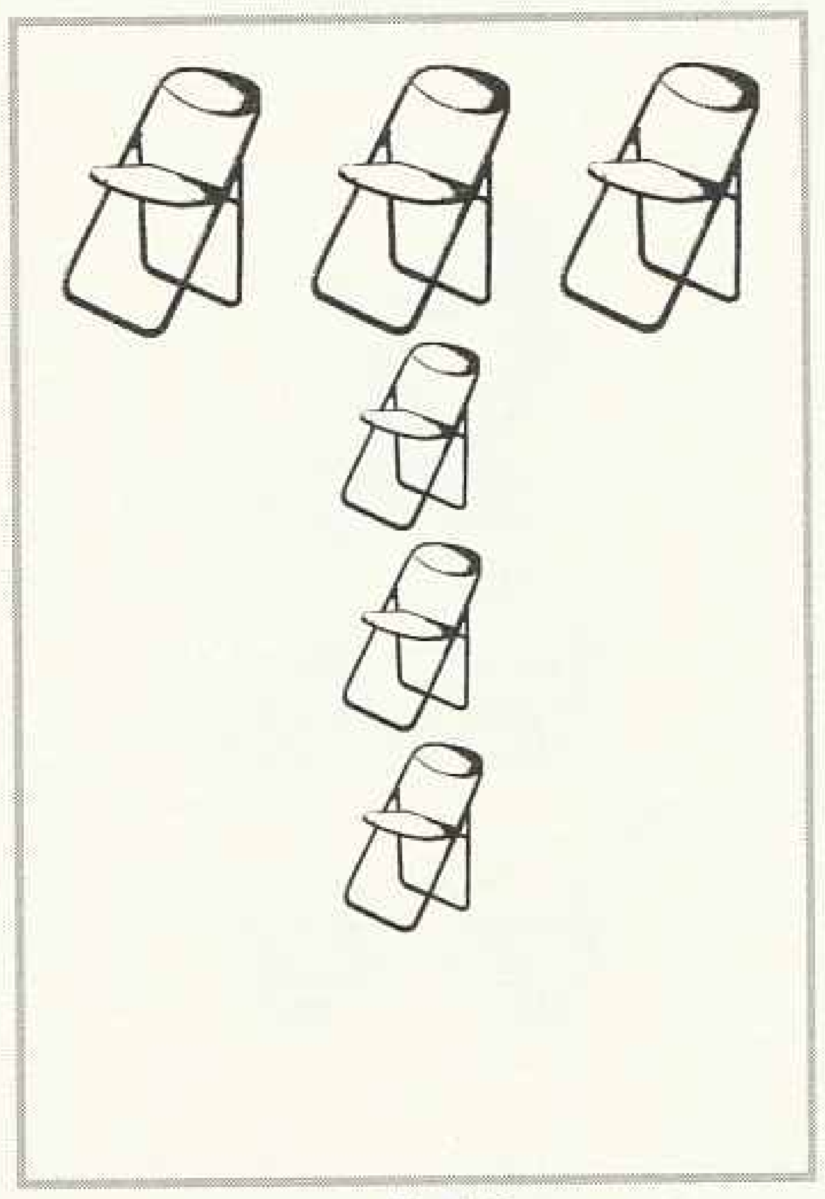
利用料金 1400万円
=129回

ディファ有明
（※土日祝の場合）



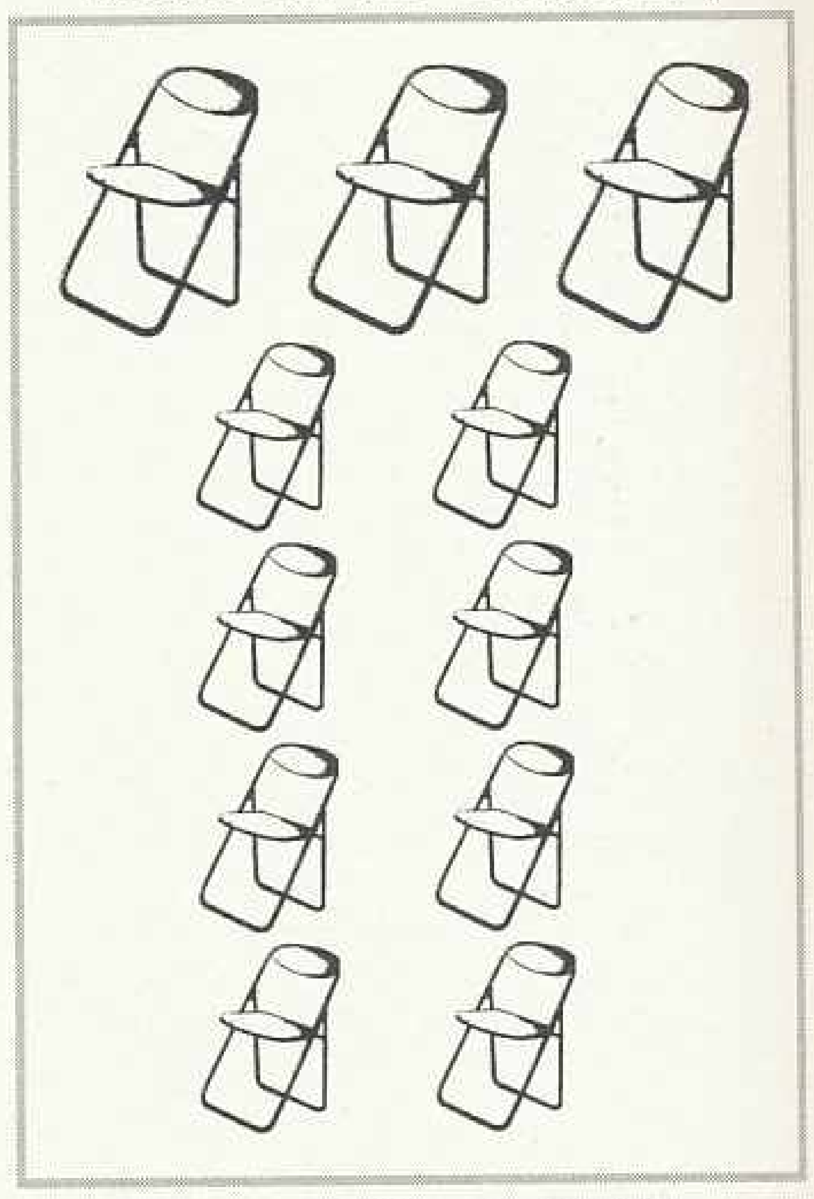
利用料金 84万円
=2,150回

横浜アリーナ
（※土日祝の場合）



利用料金 550万円
=328.3回

さいたまスーパーアリーナ
（※スタジアムバージョン・土日祝の場合）

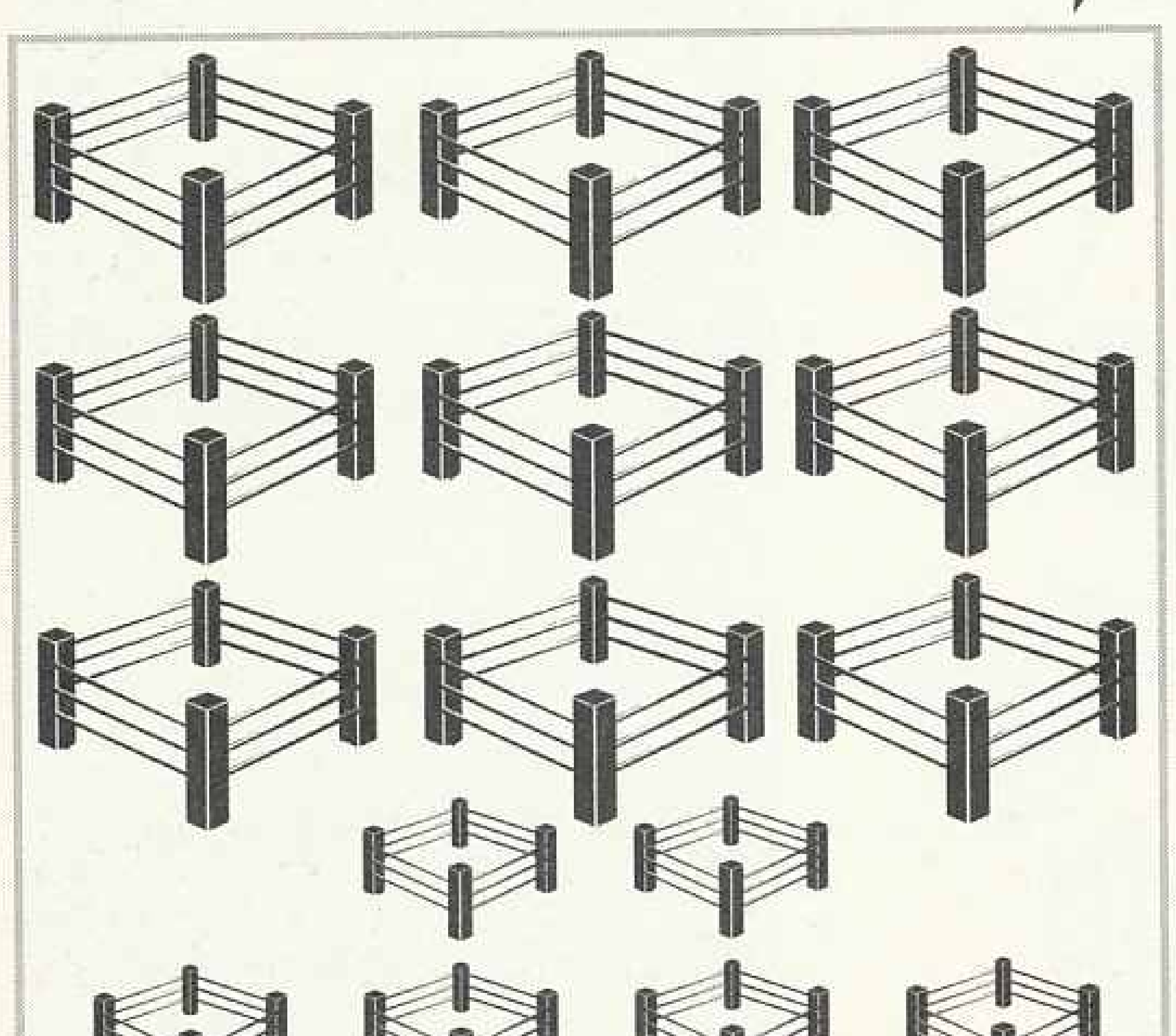


利用料金 479万1000円
=376.9回

興行金額編 編

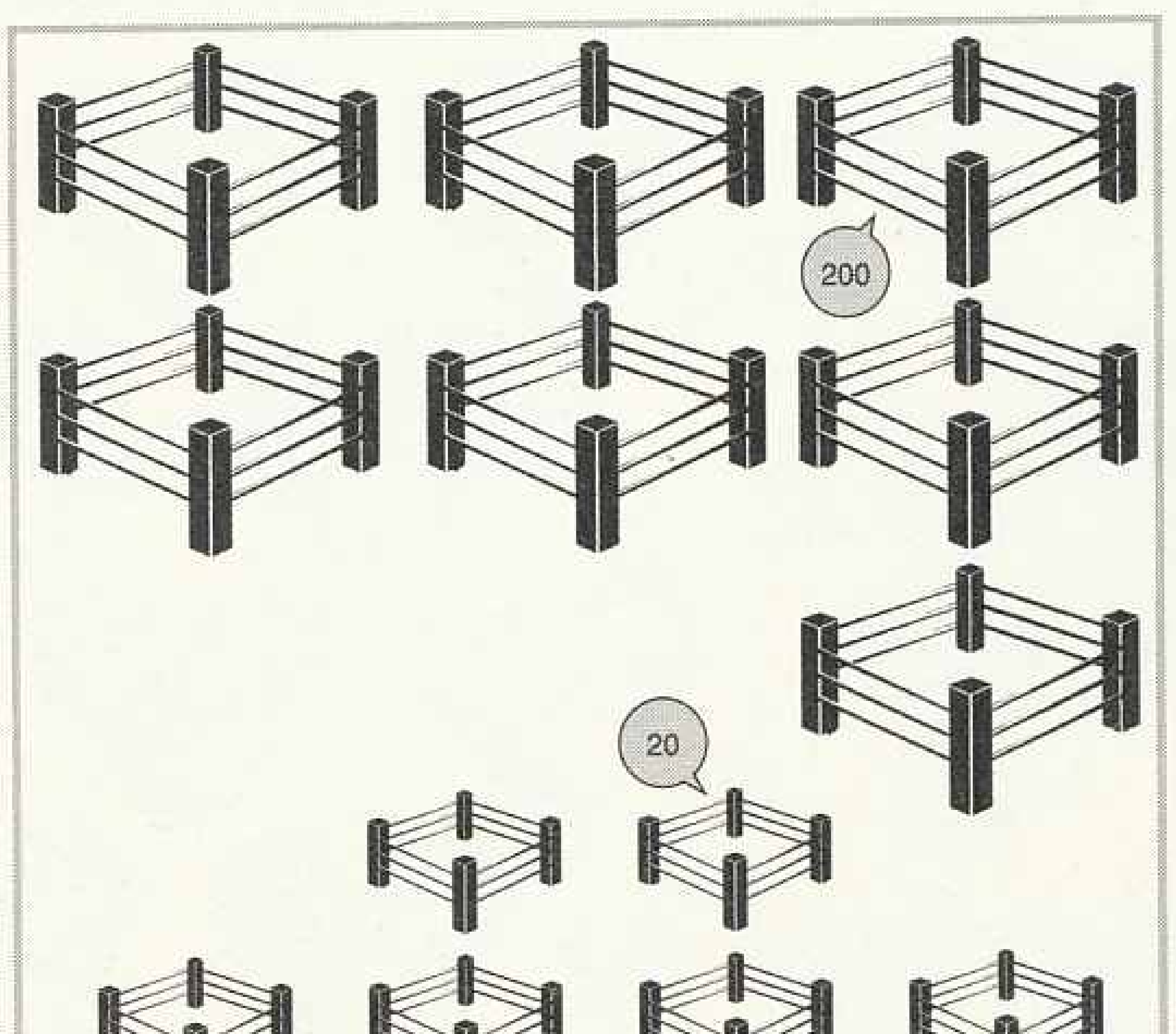
いわゆる"売り興行"の値段を公表しているのは、このプロレス2団体（ちなみに左の値段には、会場費や選手・スタッフの宿泊費などは含まれないので注意）。大日本の金額だと年間150興行としても、10年間は安泰ということになる。まあ、このお金があるならどこでもスポンサーになってもらいたいと思うのは当然のこと。『kamipro』でなくても、「買い取ってほしい！」と思っても不思議ではない。さあ、みんなでボードッグ・オフィスに日参だ！　もっとも、いまは小規模団体のM&Aに関してはプロエリートのほうが熱心なようだが……。

DDT興行パッケージプラン



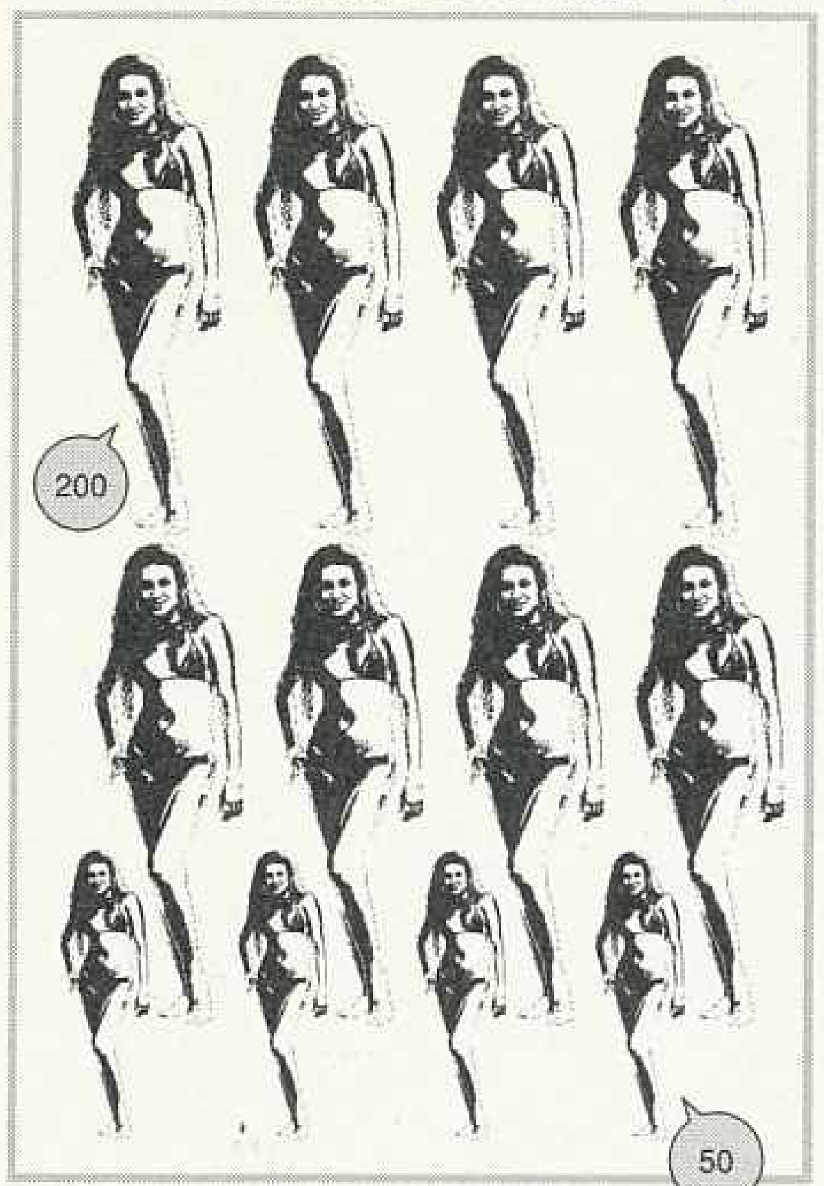
利用料金 94万5000円
=1,911.1回

大日本プロレス



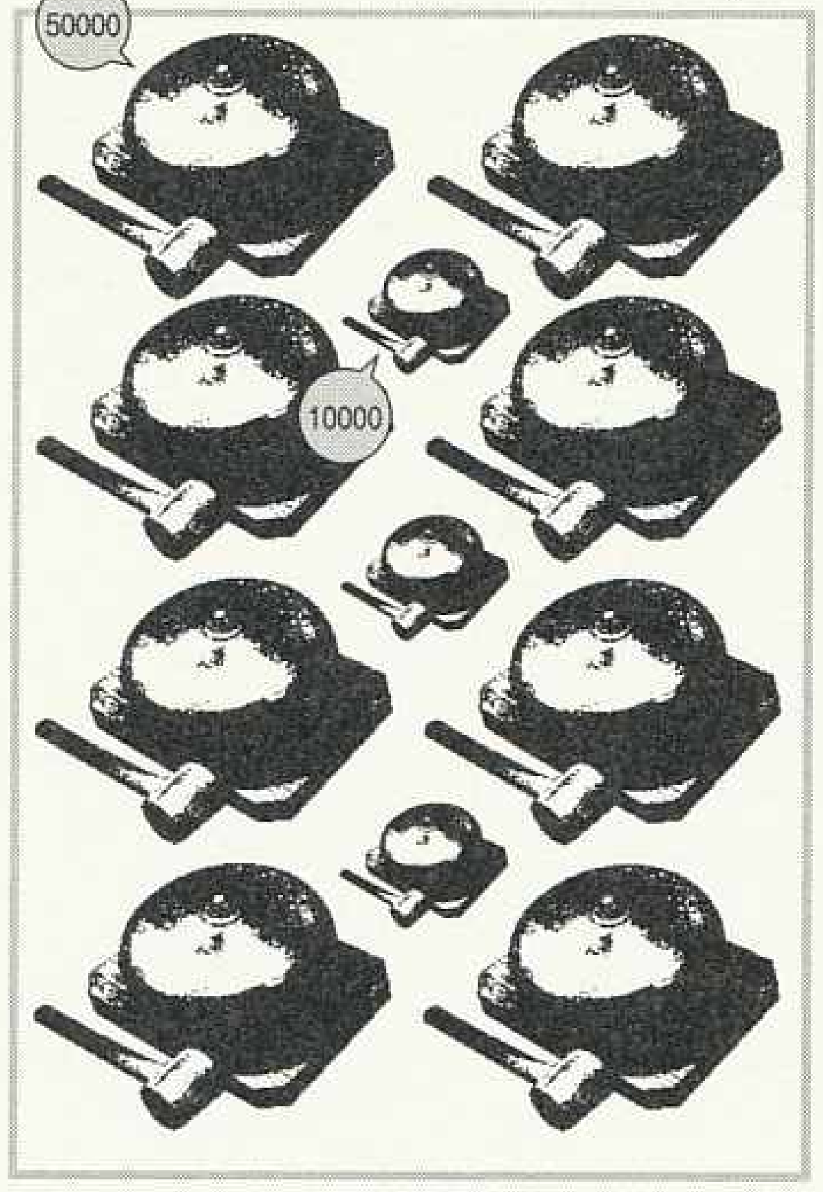
料金 120万円
=1,505回

ラウンドガール
（※『猪木祭り2003』の場合）



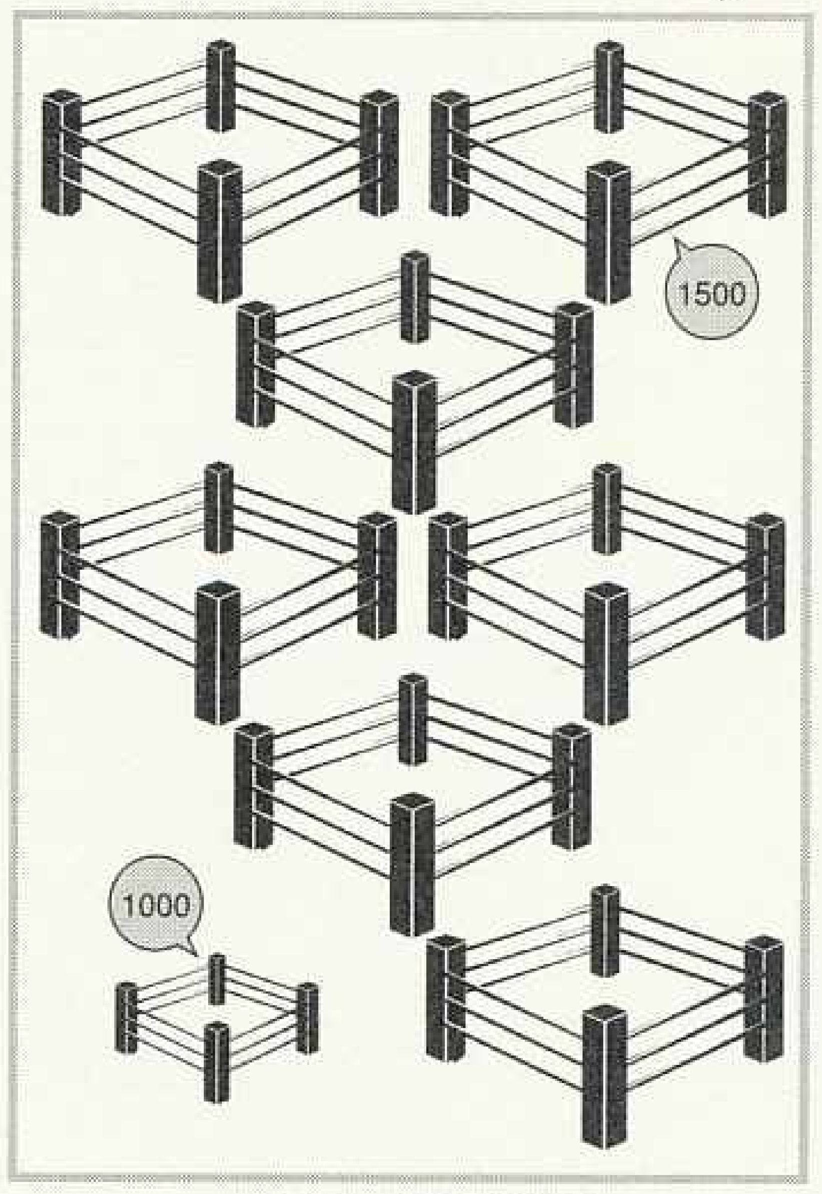
料金 92万4000円
= 1,954.5 回

ゴングのレンタル費



料金 4,200円
= 430,000 個

リング一式のレンタル費

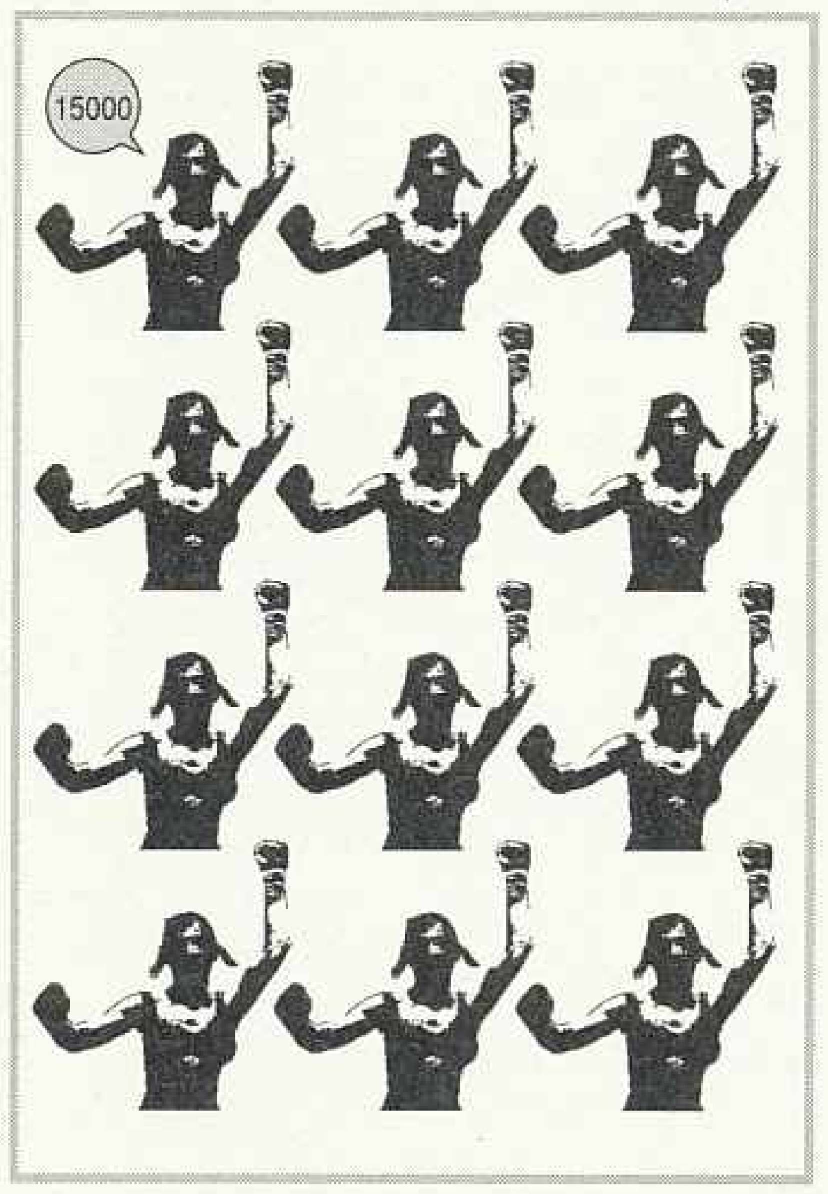


料金 15万7500円
= 11,466.6 回

会場設備 編

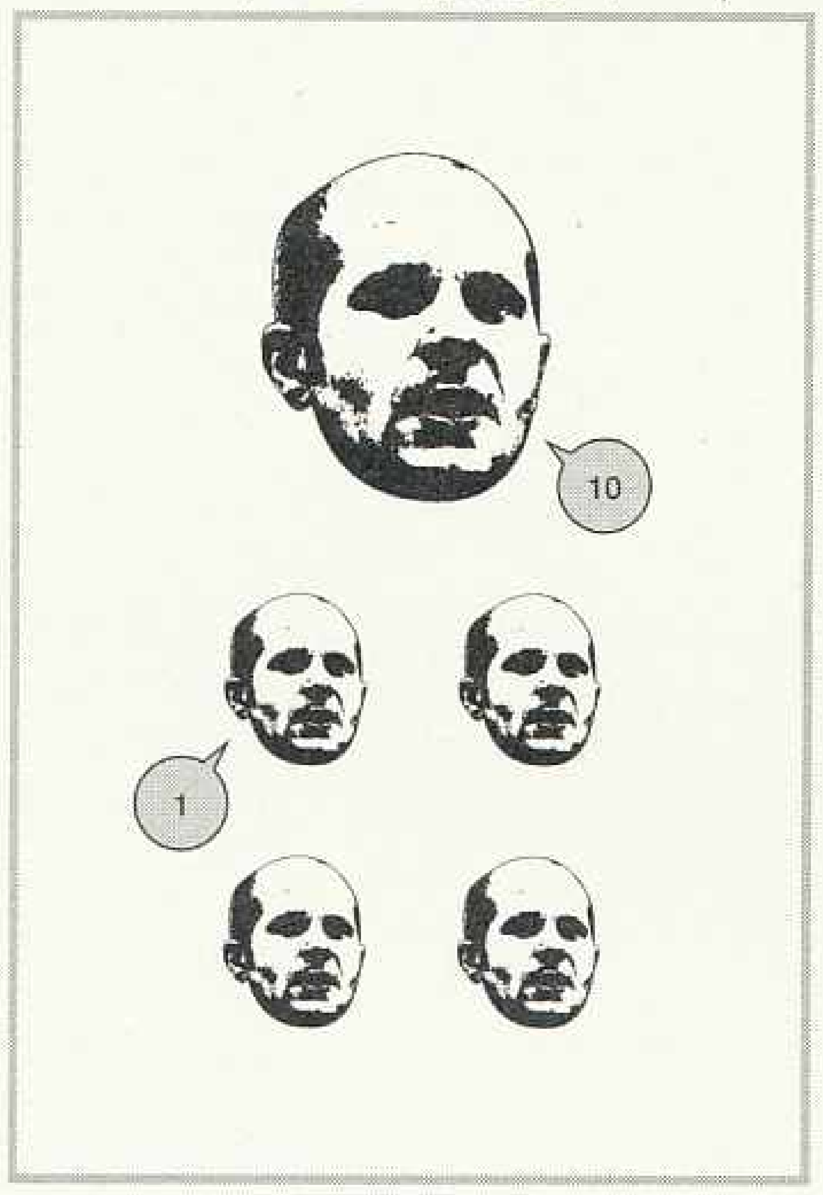
18億円でゴングを43万回借りるぐらいだったら、1個買えばすむ話。でも実際のボードッグも、細かいムダが多かったのも事実。ロシア大会ではスタッフが使うストップウォッチを全部現地調達（といってもたいした数じゃないが）。そのくせ、ゴングはもの凄く貧弱な「チン！」としか鳴らないようなヤツだった。いくらボードッグ・スタッフにとっては勝手の悪い国だからって、ムダなことこの上ない。さらに、それこそリースで済むような宣伝カー用車両なんかはポンと買っちゃう。ま、このへんの感覚が大金持ち、ということなんだろうが。

スマックガール新人選手の場合



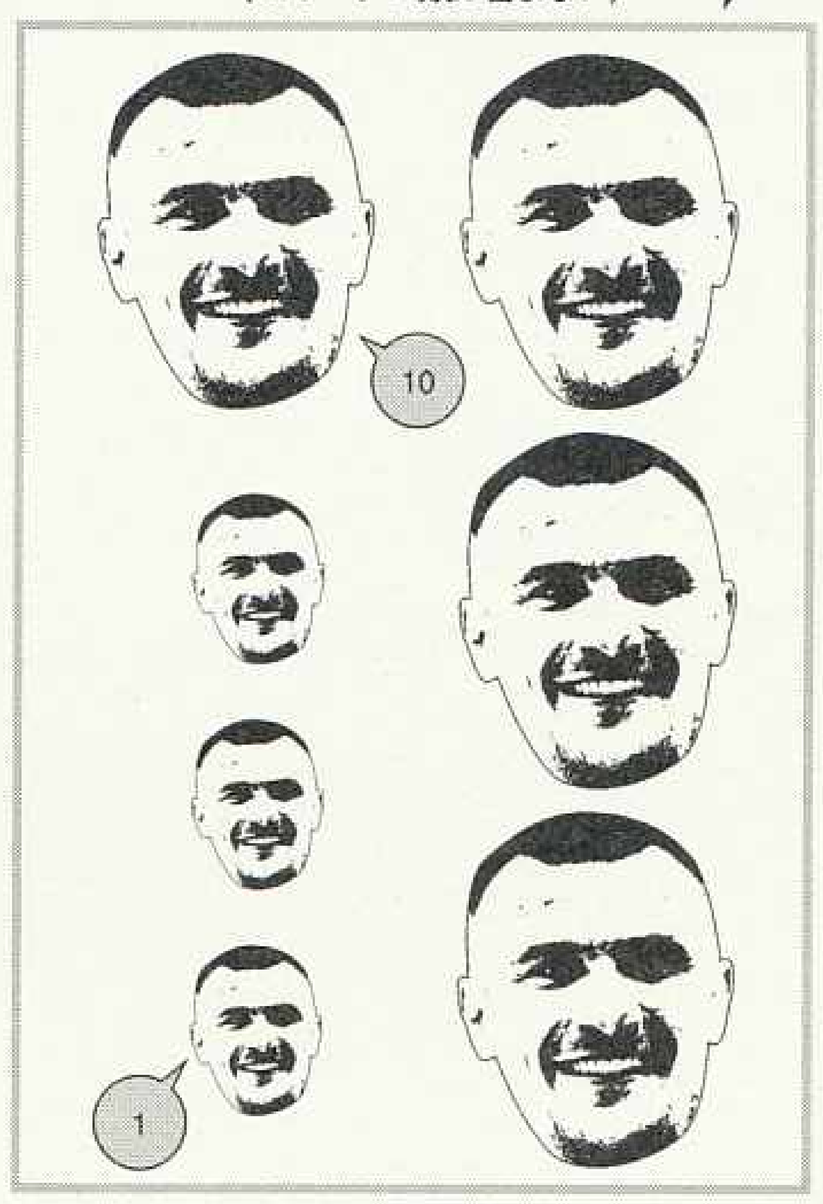
料金 1万円
= 180,600 回分

『PRIDE.32』エメリヤーエンコ・ヒョードルの場合
（※ボーナス類は含まない）



料金 1億2840万円
= 14 回分

『UFC67』ミルコ・クロコップの場合
（※ボーナス類は含まない）



料金 4200万円
= 43 回分

ファイトマネー 編

選手のファイトマネーに関して、アメリカで開催されるイベントはコミッションへの報告が義務づけられているが、日本開催のイベントはほとんどタブー。よって、ミルコもヒョードルも海外マットでの金額となるが（ボーナス類を含めるとあきらかにこれ以上もらっているが）、これによれば18億円で「ヒョードルvsミルコ」が10回は組めることになる。じゃあ、ボードッグの1年間でそれと同等のカードがどれだけあったかというと……（シーン）。いくら「次世代スターの育成のほうが主眼」と主張しても、もうちょっとは金の使い方があるだろ、って話である。

DEEPジムの年間授業料
（※月会費×12ヵ月　入会金は除く）



料金 14万4000円
= 12,541.6 年分

ターザン後藤のプロレス予備校 in インディーズアリーナ
（※月会費×12ヵ月　入会金は除く）

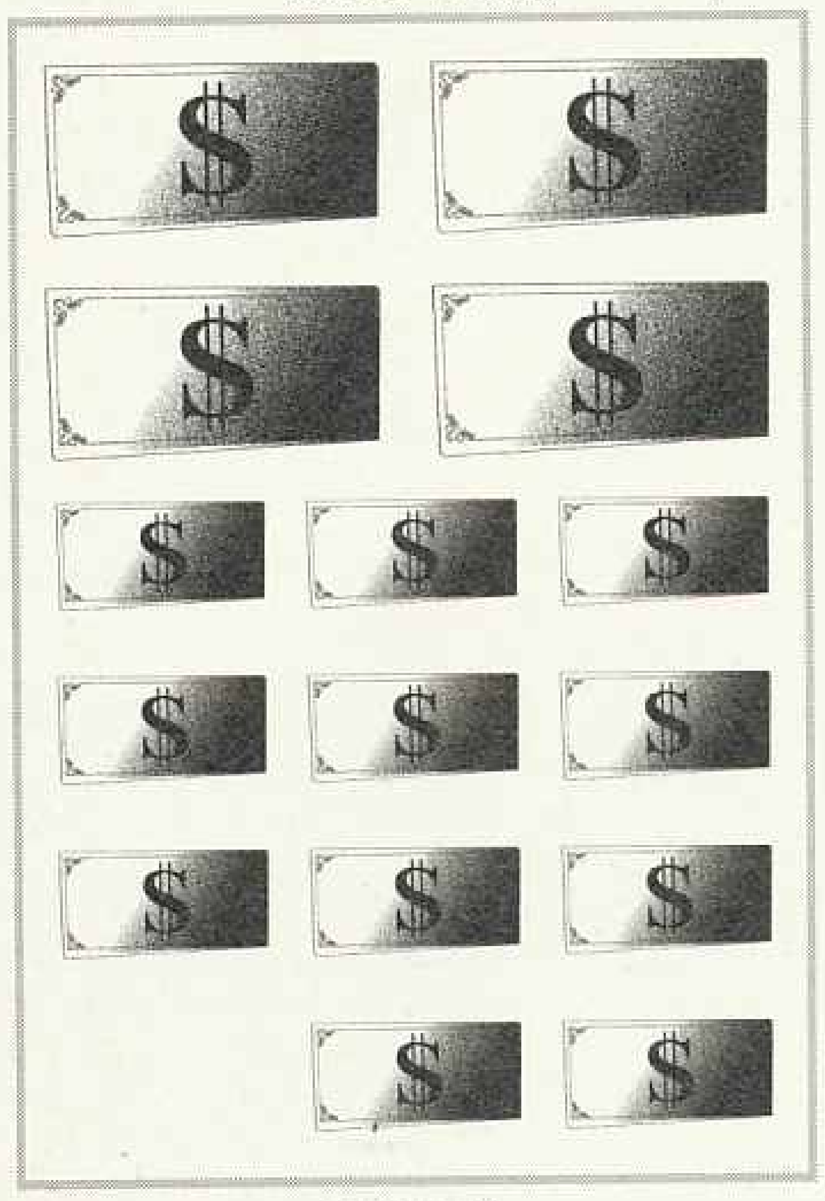


料金 12万円
= 15,050 年分

プロレス&格闘技授業料 編

これはとりも直さず、「どれだけ多くの有望選手を育てられるか」ということに関わる金額。まあ何ヵ月通えば選手になれるか、なんてのは一概には言えないが、「石の上にも3年」ということで3年通えばデビューと仮定（根拠ナシ）すれば、ターザン後藤の弟子もDEEPジムから羽ばたくプロ格闘家も、ともに4000～5000人は輩出できることになる。たとえばこの金額の一部でも、格闘技を学びたい若者への奨学金として提供することができたら……。ちなみに、ターザン山本！氏の「ひとこと塾」にも1万5000年は通えることになる。

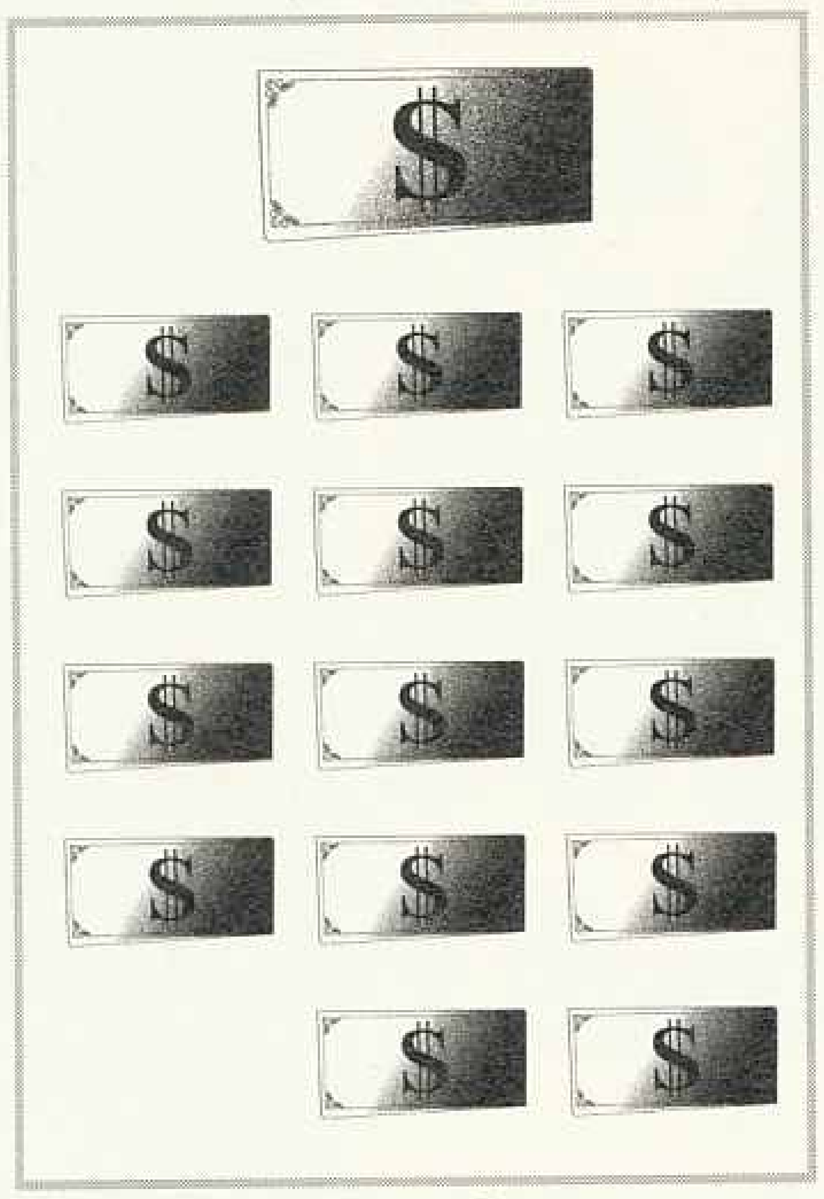
PRIDE無差別級GPの優勝賞金
（※2006年の場合）



料金 2000万円

= 90.3 回分

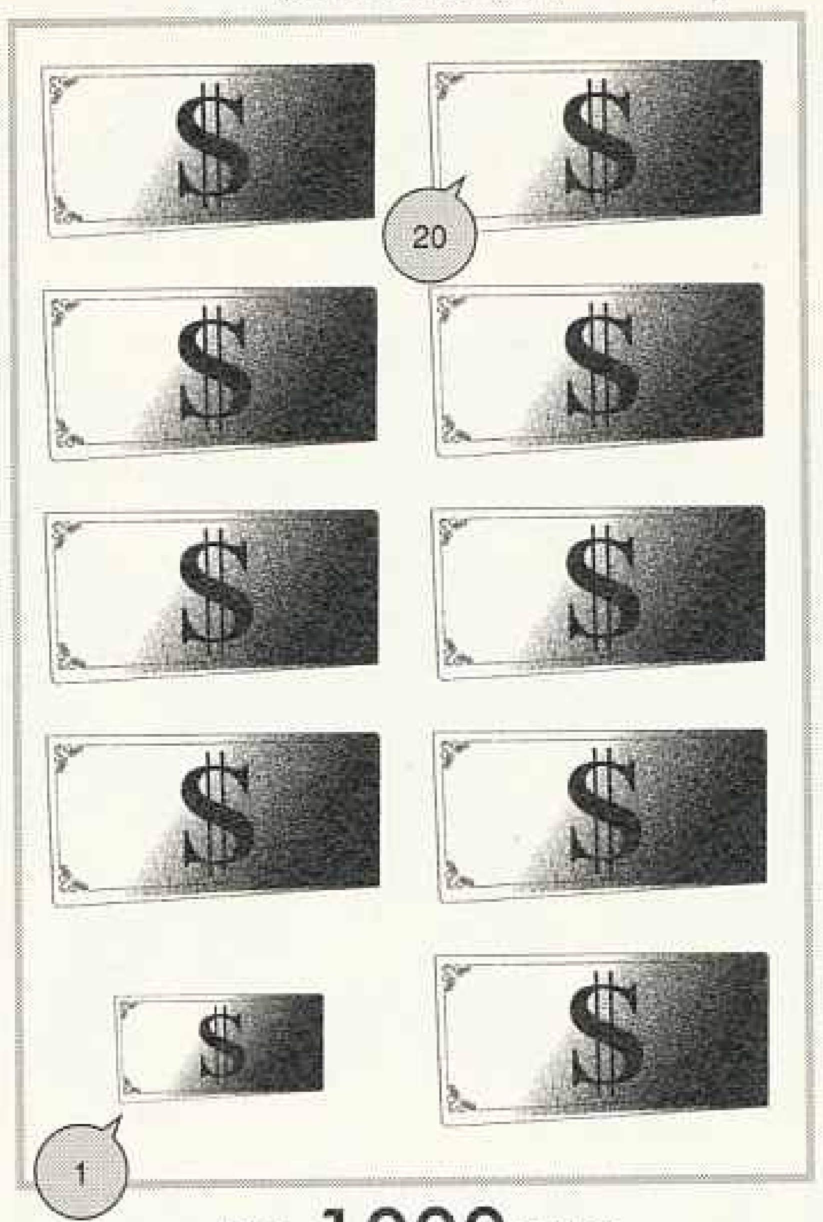
K-1 WGPの優勝賞金
（※2006年の場合）



料金 5400万円

= 33.4 回分

G1クライマックスの優勝賞金
（※2007年の場合）



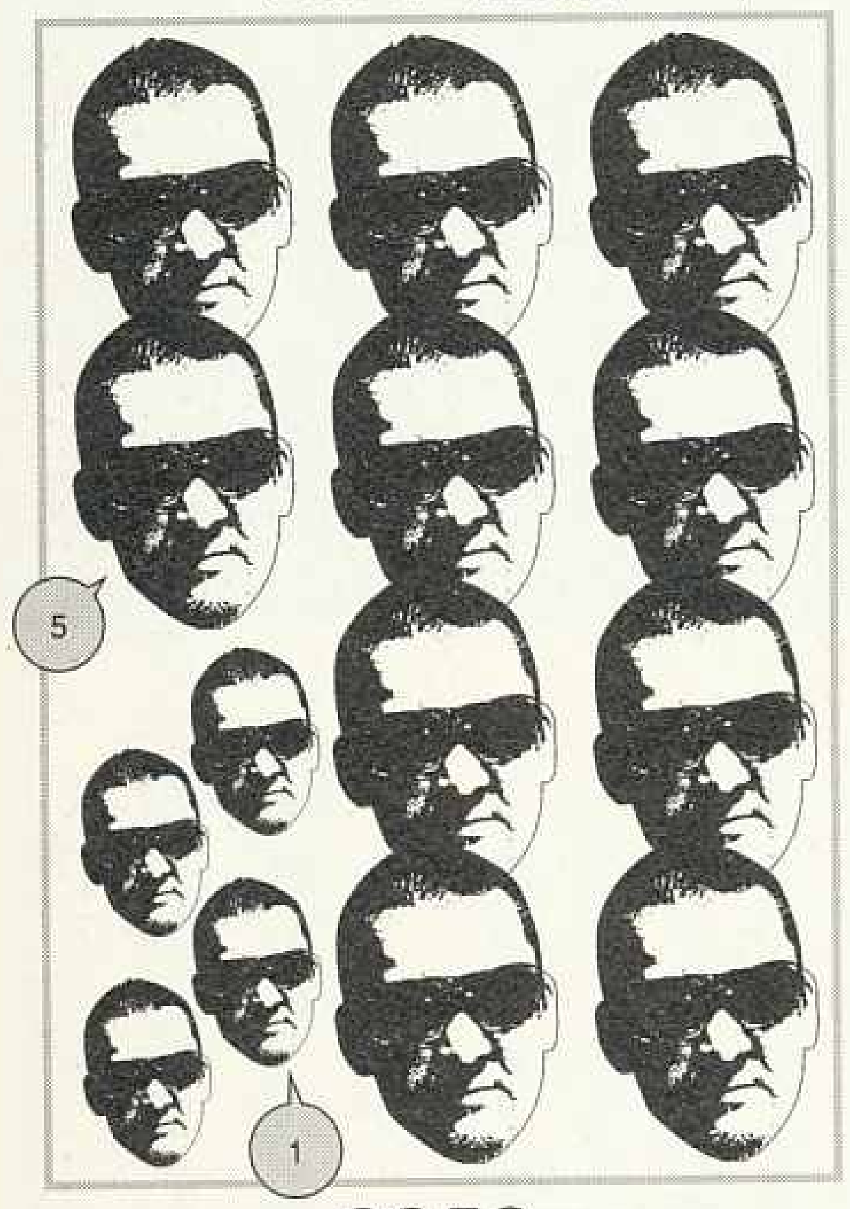
料金 1000万円

= 180.6 回分

賞金編

そういえば今年の秋に、「ボードッグが賞金10万ドルのトーナメントを日本で開催する」という噂が飛び交ったことがあった。もちろん幻に終わったが、その10万ドルトーナメントですら、18億円の予算なら150回も開催できたことになる。毎月やっても12年以上ですよ！　そう考えて左の金額を見ると、K-1の優勝賞金がいかにデカイかという話にもなるわけだが、それでもその33倍という金額なんだから恐れ入る。初期のボードッグではTVシリーズの人気投票優勝者に5万ドルなんていう、まさに法外な金額が贈られていたっけ……。

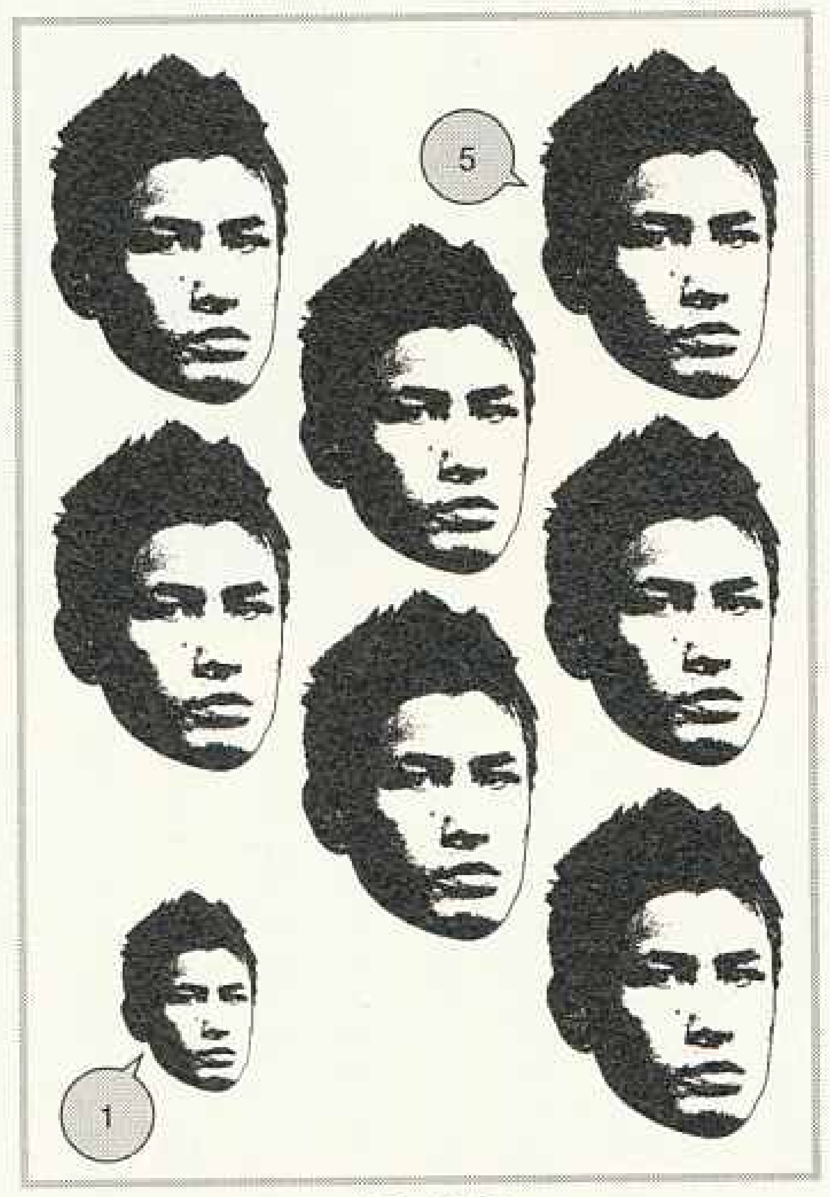
蝶野正洋
（※2004年の推定年収）



料金 3359万円

= 53.7 年分

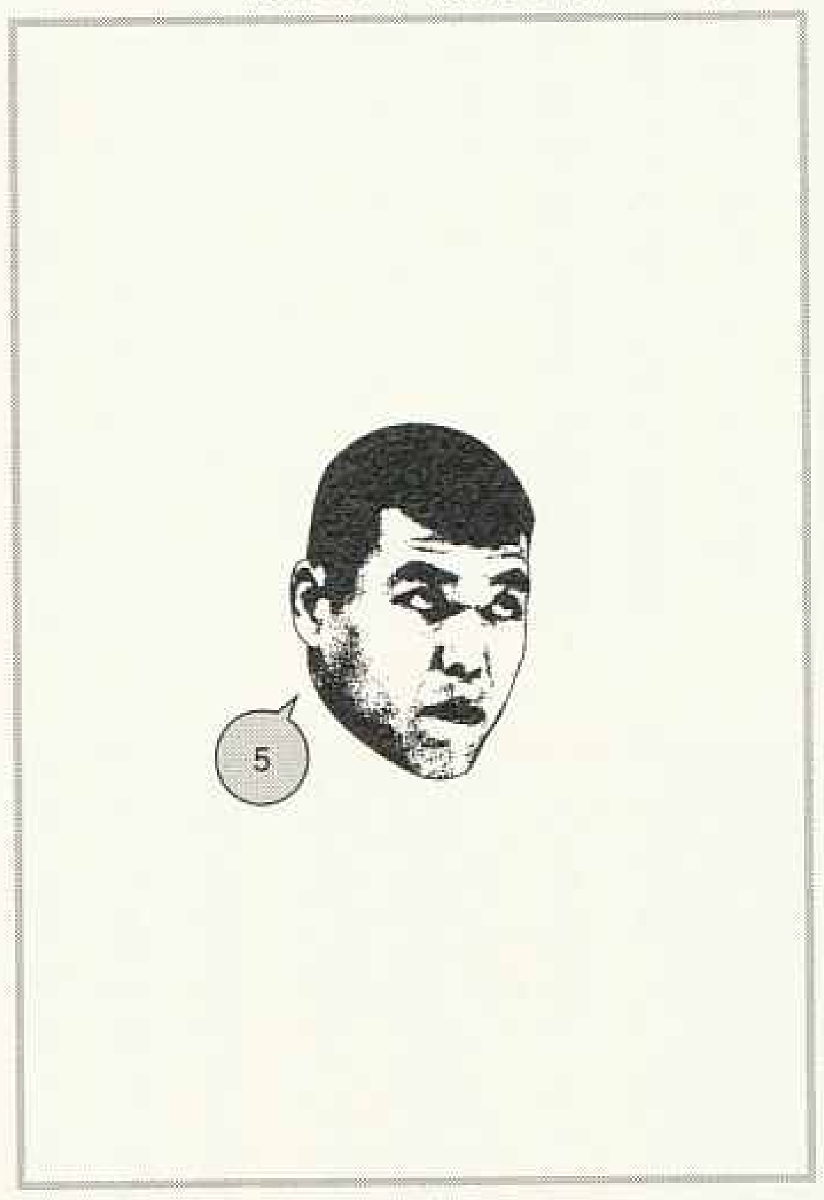
魔裟斗
（※2004年の推定年収）



料金 4860万円

= 37.1 年分

小川直也
（※2004年の推定年収）



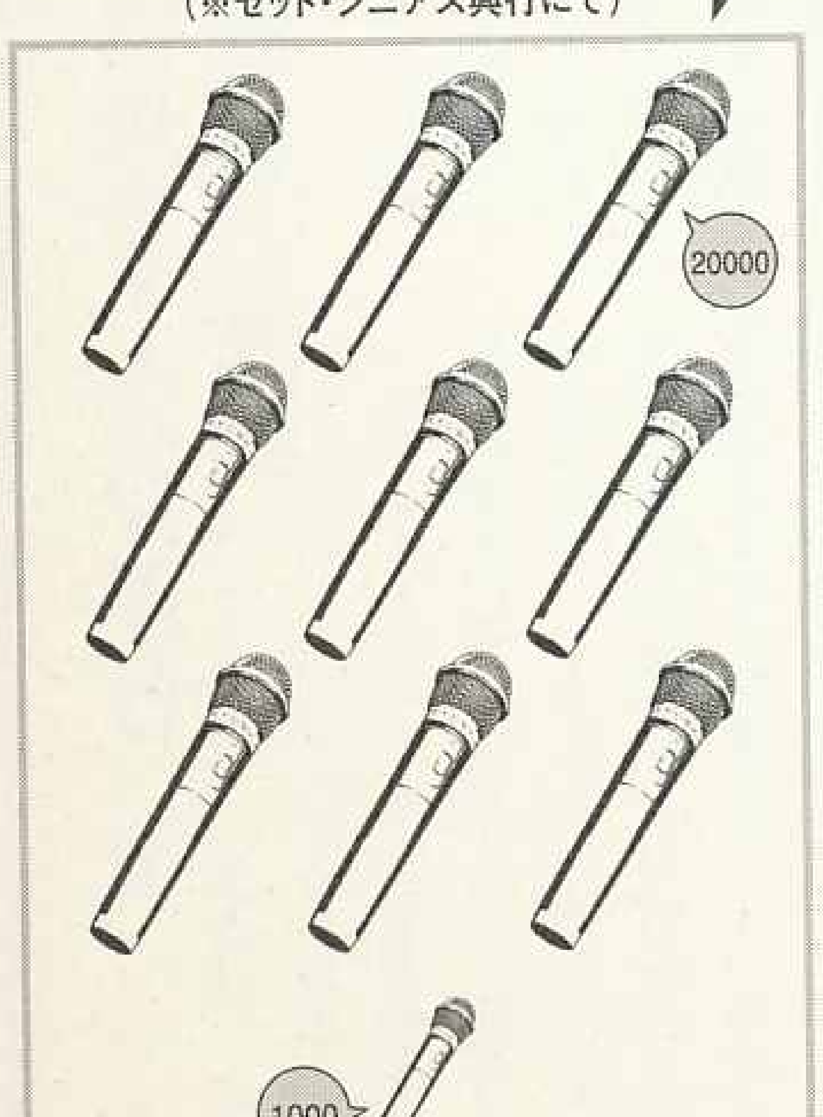
料金 3億7757万円

= 4.7 年分

推定年収編

格差社会問題が叫ばれる日本では、年収200万円以下のサラリーマンが「ワーキングプア」といわれる時代である。ちなみに180億だと、そのサラリーマンを9000万人雇えることになる。つーか、もう国家予算に組み入れて格差社会対策に使えよ！　そしたらネットカフェ難民も減るだろ！　オレの原稿料も上がるだろ！　と、こんなにずっと金のことばかり考えてるとヤケ気味としか言いようのない気分になってくる。しかも自分とはまったく縁のないような非現実的な金額ばっかりだからな。オレが昼に食ったウドン代（430円）に換算すると……。

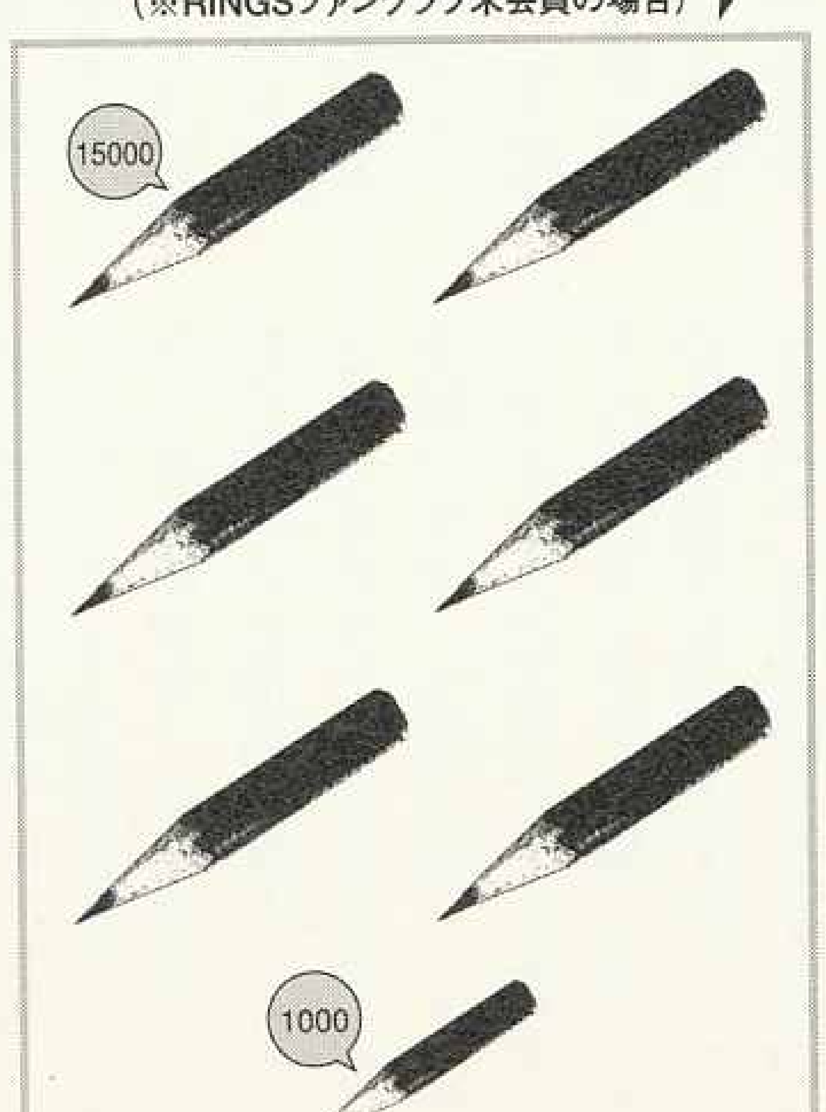
松澤チョロのリングアナウンスのギャラ
（※セット・ジニアス興行にて）



料金 1万円

= 180,600 回分

RINGSファンミーティング参加費
（※RINGSファンクラブ未会員の場合）



料金 2万円

= 90,300 回分

武蔵と行くK-1 WGP韓国大会ツアー参加費
（※FC会員、2名1室利用）



料金 10万3000円

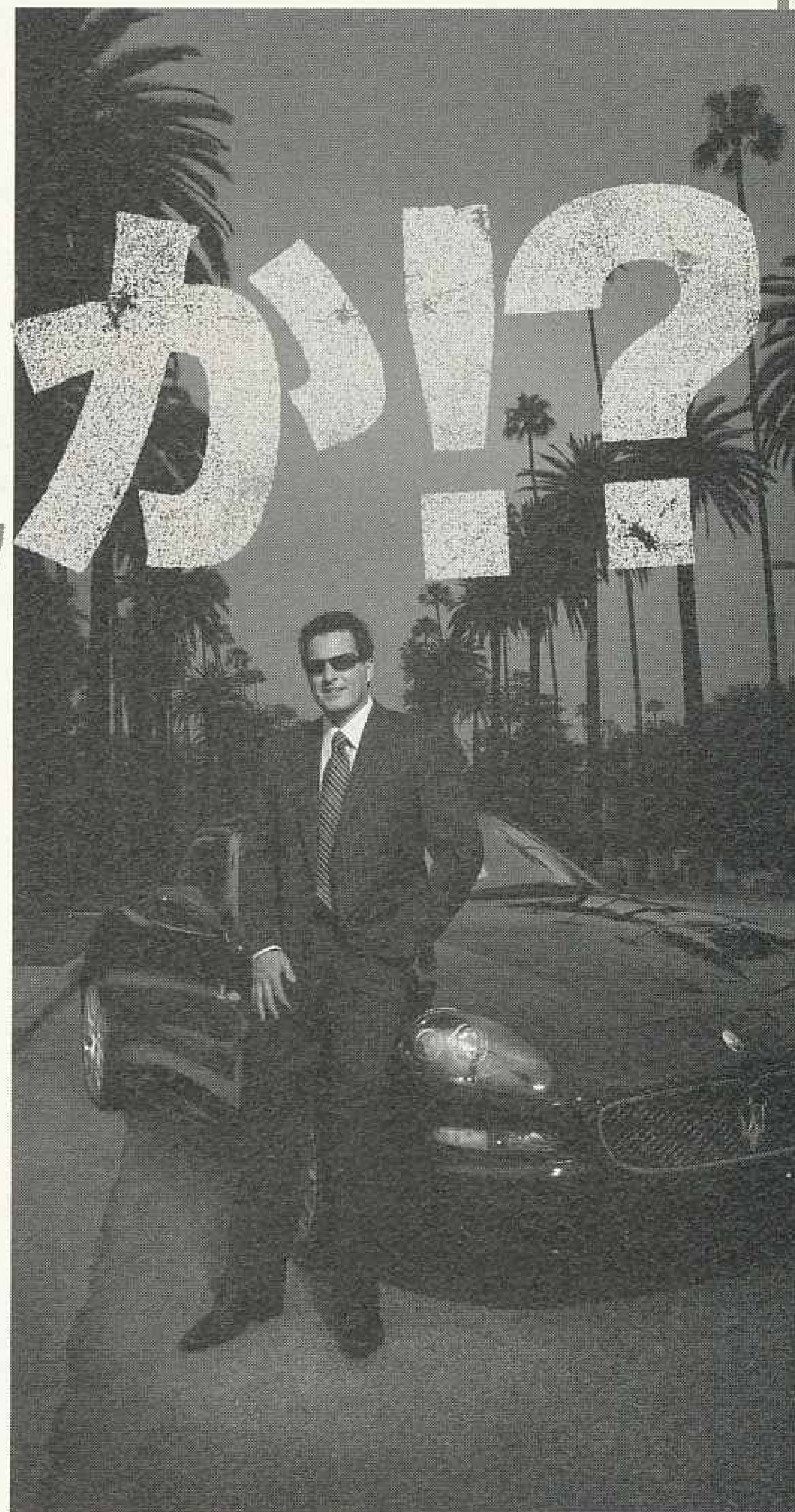
= 17,533.9 回分

その他

そんなわけでもう、韓国に1万7533回行けばいいし、日明兄さんの姿も9万300回拝めばいいし、チョロ氏にも18万600回、声を限りに叫んでもらえばいいじゃないか！（つーか、リングアナで1回1万円だったら、プロレス界では絶対にいいほうだと思うんだが気のせいか？）。もう、この18億は使っちゃったんだよ！　それで、たいした見返りはなかったんだよ！　ボードッグのステータスも、世界的には（日本でも、か）全然上がらなかったんだよ！　うすうすわかっちゃいたが、実際に検証してみたらこんなに空しいものだとは思わなかった……。てなわけで。

～MMAバブルの行く末と、カルビン・エアーをもしのぐ“超大富豪”の驚異の参入～

上の危機か!?



UFCのMMA市場確立とバブルへの発展

「たとえばここに石ころが置いてあって、これは1円の石ころだと思っていたら、ある日みんなが来て、これは世界中どこにもない貴重な石だから100億円だと言われた」

前ページでの「ボードッグ06～07版　あの金で何が買えたか!?」のネタ元となった村上龍の著書「あの金で何が買えたか（文庫改訂版）」収録の対談の中で、〝ミラーマン〟植草一秀氏（対談収録は事件の前）は「バブル」をこう定義している。現在の北米MMAはさすがに1円の石ころではないが、「実態の価格からかけ離れて値段が上がっている」という、同書でのもう一つの定義には見事に当てはまっている。

ほんの少し前まで、UFCが大きく育てたMMA市場に群がる他業種のリッチマンといえば、ボードッグのカルビン・エアーがその代名詞だった。しかし、4月のロシア大会ではPRIDEヘビー級王者エメリヤーエンコ・ヒョードルをも担ぎ出した「闇の帝国」ボードッグは一転して経費削減を開始

IONネットワークは来シーズンからボードッグを放送しないと発表

し、旗揚げから1年で早くも息切れ気味だ。

7月のニュージャージー大会は目玉カードに欠けたこともあって動員も芳しくなく、続く8月のバンクーバー大会は当初全44試合が予定されていたが、24試合に減らされるなどスケールダウンは顕著。12月のバンクーバー、4月のロシアに続くPPVイベントも、現在のところ開催の予定はない。そうこうするうちに、この1年間で費やした金額が約1500万ドル（約18億円）！

北米MMAが冷えているわけではない。次々にニューカマーを迎え入れている（ほとんどがPRIDEファイターだが）UFCは相変わらず堅調……どころか、さらにその勢力を拡大している。いまやUFCにとって思いどおりにいかないのは、ヒョードルの契約と日本のテレビ局だけだ（ダメじゃん！）。

あのカルビン・エアーをもしのぐ世界的大富豪がMMA市場に参入！

ともあれアメリカではMMAの価値はまだまだ高く、第2、第3のカルビン・エアーが現われている。その一人が、いま話題のマーク・キューバンだ。

キューバンは25歳のときに立ち上げたコンサルティング会社やネットラジオ会社の売却益で莫大な富を得たアメリカ人実業家で、NBAのダラス・マーベリックスを所有することでも知られ、アメリカの経済誌『フォーブス』にも資産23億ドル（約2760億円）と紹介されている。その額はカルビン様以上だ！

2001年にはハイビジョンテレビ放送局「HDnet」を立ち上げ、その目玉コンテンツの一つとして「HDnetファイト」旗揚げを計画。ヒョードル獲得を宣言している。ん？　どこかで聞いたような……。もはやある程度以上のお金持ちとなると、発想することは変わらないのだろう。それにしても、ここまで似ていなくても……。

アメリカン・リッチといえばこの人も忘れてはいけない。昨年10月、『PRIDE』がラスベガス進出をはたしたのを機にMMA業界に参入してきたハラーズ・グループ総帥、エド・フィッシュマンだ。一時は『PRIDE』買収に乗り出していると噂されたフィッシュマンは、いまだこの業界での成功の夢を捨てていない。2008年にはマカオなどアジア圏にも広がるカジノ・ネットワークを利用して大規模なイベントを開催するという噂もある。さらに、業界の一部では「日本の某老舗MMA団体をすでに買収した」などというデマも飛び交っ



現時点でボードッグは約1500万ドルの金を費やしたという話だが、そのうち選手のギャランティはなんと10パーセントにも満たないとか。残る経費はテレビ制作費の類いだと考えられるが……、なんともまあバブリーな話である。

ボードッグ、ついに活動"急

次回大会、予定ナシ!?

た。こちらも資金力では申し分ないだけに、本気になって攻めてきたら何が飛び出すかわからない。が、しかし——。

大富豪が資金力にものを言わせて〝大人買い〟をしまくれば成功できるというものではない——。この教訓を、われわれはボードッグのこの1年間でよーく見ている。さらに言うなら、日本のマット界はSWSが選手同士の派閥争いで内部崩壊に至った過程すら、見てしまっているのだ。まさに、「なんとかとお金は使いよう」なのである（いや、いままでに挙げた皆さんが「なんとか」だと言いたいわけではないので、念のため……ゴニョゴニョ）。

崩壊寸前か——!? MMAバブルを助長したボードッグの行く末とは!?

ボードッグの話に戻そう。日本では異常な知名度を誇る（?）ボードッグだが、アメリカでのテレビシリーズは昨年12月に収録されたサンクトペテルブルグでのシーズン2から現在まで、IONネットワークというケーブル局で放送されている。これは、ボードッグが放送枠を買って放映しているものだ。このやり方は何も珍しいものではなく、『TUF』のシーズン1も同様のスタートだったという。そこで視聴率がよければ局の制作となり、放映権料が団体に入ってくるようになる。

だが、ボードッグが放送されているIONは女性向けの再放送ドラマなどが中心で、MMAを放送するにはどう見てもミスマッチ。その中でもある程度の数字は稼いでいたようだが、WECなどのようにスポーツ中心のチャンネルで放送していれば、もっと宣伝効率はよかったはずと言われている。こうした件一つとっても、ボードッグのプランはドンブリ勘定と言わざるを得ない。

しかも、IONは8月になって、来シーズンからボードッグを放送しないと発表。スタッフはいま、後継のチャンネル探しに追われているという。過去2回のPPVも契約数は芳しくなく、テレビビジネスとしてはリターンを得るまでに至っていないのだ。

この状態では、オンエアを待つバンクーバー大会（現在はニュージャージー大会を放送中）に続く開催プランなど、発表できるわけもない。一時期あれだけ話題を振りまいたボードッグの行き先は、1ヵ月先でさえハッキリとはわからない。



MMAバブルの中心にいるのはやはり"60億分の1"ヒョードル。谷川FEG代表も「ヒョードルとか、お金がかかるからなぁ」と思わず漏らしてしまうほど。う〜ん、この男をめぐるリング外での金銭的競争は、まだまだ終わりそうにない。

パンクラスとの提携関係も進展なし これも経費削減の影響なのか!?

パンクラスとの提携関係も同様で、こちらも進展のない状況が続いている。少なくとも10月大会までは選手派遣が決定しているが、今年初めの提携開始の段階では、秋になるまで大きなアクションがないとは思えなかった。この提携も経費削減のアオリを食っているのか?

ただし、ボードッグが堅実な団体運営を続けていればもっと長持ちしたかといえば、これも微妙なところ。カルビン・エアーの資金力で湯水のように経費をかけるやり方だったからこそ注目されたわけで、そうでなければダナ・ホワイトに「ジョーク」と言われることすらなかったはずだ。良くも悪くも、ボードッグが人目を引いてきたのは金の力なのである。

さて、マーク・キューバンは、エド・フィッシュマンは、ボードッグの現状から何かを学ぶのだろうか? ボードッグのこの1年間をリサーチして、何が効果的で何がそうでないか、分析しているだろうか? そうでなければ札束を携えたリッチマンの顔が次々にすげ替わるだけで同じことが繰り返され、あとに残るのは高騰したギャラを誰も払えなくなった選手たちだけ——などという、薄ら寒い事態に陥りかねない。

そして、当のボードッグは……失ないかけている勢いを取り戻すことはできるのだろうか? 驚異のV字回復を可能にするような、ウルトラCはあるのだろうか? それもぶっちゃけ、金次第なわけだが……。

冒頭に引用した植草氏の発言によれば、世界的に大型のバブルは100年に一度くらいのペースで起きているという。言うまでもないことだが、歴史上、はじけることのないバブルなど存在しないのである。日本経済はバブルがはじけたあとの苦しみを味わった記憶がまだ生々しいが、北米MMAバブルはいったいどうなる? そしてボードッグは、バブルのあだ花で終わるのか、それとも?

（文／高崎計三）

…』土コラム大絶賛連載中!!

…ルコになれたのか」

…03』を「興行論」という意外な観点から再分析!!～

タの『PRIDE』買収に伴なう新会社への移行問題が取り沙汰されているが、DSEが『PRIDE』を売却せざるを得なくなった契機は、やはり昨年6月のフジテレビによる地上波放送打ち切りだった。そして、その発端となったのが一般週刊誌誌上での一連のバッシング報道だったと言われている。

2006年4月から一般週刊誌で行なわれた『PRIDE』およびフジテレビと“反社会勢力”の関与についてのネガティブキャンペーンの発端こそが、2003年12月31日に神戸ウィングスタジアム（現・ホームズスタジアム神戸）で行なわれた史上まれに見るドタバタ興行『猪木祭り』だった。誌上にはこのイベントのプロデューサーだった川又誠矢氏（株式会社ケイ・コンフィデンス代表取締役）がインタビューに応え、「格闘技界と闇社会」のつながりについて語っている一節もある。

『猪木祭り』の詳細については回を改めて述べるが、この年、2003年の大晦日はじつに民放3局がそれぞれに格闘技イベントを開催・放送するという異常事態が起こった日として、格闘技史上に残ることだろう。フジテレビの『PRIDE男祭り2003』、TBSの『K-1 PREMIUM Dynamite!! 2003』、そして日本テレビの『猪木祭り』だ。この狭い島国で同日にスタジアム級の格闘技イベントが3つ開催されるというのは明らかに正気の沙汰ではなく、そこにトラブルが起きたのも当然に思える。

現に、『PRIDE』、K-1という既存の2大勢力に割って入るかたちとなった『猪木祭り』は開催前もあとも当日まで全カードが発表されず、決定カードも二転三転するなどトラブルの連続。そしてついにはファイトマネーの支払いなど、金銭的な問題で複数の訴訟にまで発展している。その最も大きなものが、『猪木祭り』の主催者であるケイ・コンフィデンスが共同主催者の日本テレビに対して起こした民事訴訟だ。

「減額された契約金2億円の支払い、イベント収支計算書類の引き渡し、および基本契約（3年間）解除通知の無効確認」

この訴訟内容、そしてそれらの経緯なども追々明らかにしていくが、一般週刊誌誌上や数々の暴露系ムックなどでスキャンダラスに扱われたこの訴訟の資料を調べていくと、いろいろと興味深いテーマが浮かび上がってくる。この問題、単なる「金がらみのスキャンダル」に留めておくことのできない素材なのである。

その最大のテーマこそが、冒頭に掲げた「ヒョードルはミルコになれたのか」なのである。そして裁判自体も、なんと、こんなことが最大の争点として争われているのである。『kamipro』座談会のテーマじゃあるまいし！

『PRIDE』とK-1が成功を収めて格闘技ブームが起こっていた時期の開催で、『猪木祭り』もヒョードルらの人気選手を多数出場させている。「アントニオ猪木」というブランドも有効だったはずだ。それなのに、惨敗を喫したのはなぜなのか。そもそもこのイベントに、日本テレビ側は何を求めていたのか。そして実際に行なわれた内容とは、どんなズレが生じていたのか。

プランニングの段階で看板選手のはずだったミルコは結局欠場し、すったもんだの末に開催直前、ヒョードルの出場が決定した。同日の『PRIDE』に出てしかるべきヒョードルが『猪木祭り』に出場することは実際に話題を呼び、ズタズタのイベントの中でも光明とはなった。だが、結果は動員面でも視聴率でも他の2イベントに惨敗。当初の予定どおりミルコが試合をしていれば、このような事態はもっと好転していたのか？　PRIDEヘビー級王者のヒョードルは、「興行の看板」という役割において無冠のミルコの代わりにはなり得なかったということなのか？　そう、金銭と並んでこの問題の裏に横たわっているのは、とりも直さず「興行論」という大テーマなのである。

今回から12回にわたり、この訴訟について検証していきながら、これらの問いへの答えを考えていきたい。『PRIDE』は「世界最高峰の格闘技イベント」として名を馳せた。その理由も、ここからわかってくるはずである。（文中敬称略、次回に続く）［文／高崎計三］。

第2回『猪木祭り』歴史的混乱の幕開け
第3回『猪木祭り』の知られざる契約書
第4回 日本テレビが訴訟に踏み切った本当の理由

月 インディー界を網羅せよ!
三田佐代子の「あなたの知らない世界」

火 “マット界最後のトンパチ”が繰り広げる世界ームチャな人生相談
金村キンタロー&黒田哲広の「こんな答えで“恐縮です”」

水 PRIDE、K-1、総合、キック……格闘技の真髄を読め!
橋本宗洋の「格闘裏グルメ」

木 アメリカMMA事情を週イチでお届けする
デューク東郷の「Cool宅急便モバイル」

金 “プロレス冒険家”がマット界を斬る!
金沢克彦の「プロレス村から愛を込めて」





日 kamipro日曜劇場
西村修がカール・ゴッチを語る

※9月16日掲載文から抜粋

――今回は晩年のゴッチさんと最も親しかった西村さんにお話をうかがいに来ました。

西村 よろしくお願いします。ゴッチさんとの思い出はたくさんありますから。

――さっそくですが西村さんは亡くなる直前、もしくはその前から、「具合がおかしい」ということは聞いていたんですか？

西村 まったくなかったです。今年の6月にお会いしたときも、いつもと何も変わらなかったんですよ……。

――では、西村さんにとっても突然だったんですね。

西村 本当に突然！ ゴッチさんと僕は1週間に1回くらいの割合で、電話で連絡をとっていたんです。「1週間に1回は『セイ、ハロー』だけでもいいから連絡してこい」という約束をゴッチさんとしてましたから。だけど、その連絡が7月に入ってからとれなくなった。ゴッチさんが外出するのは庭のベンチに葉巻を吸いに行くか、血液検査で病院に行ったり、買い物に行ったり。あとは基本的に家にいる人ですから……。

――連絡がとれずに「おかしいな」とは思っていた？

西村 ええ。でも、「たまたま外に出ているだけだろう」と思っていたから、病気で入院してるなんて思ってもいませんでしたね。

――最後に会ったときもお元気だったわけですもんね。

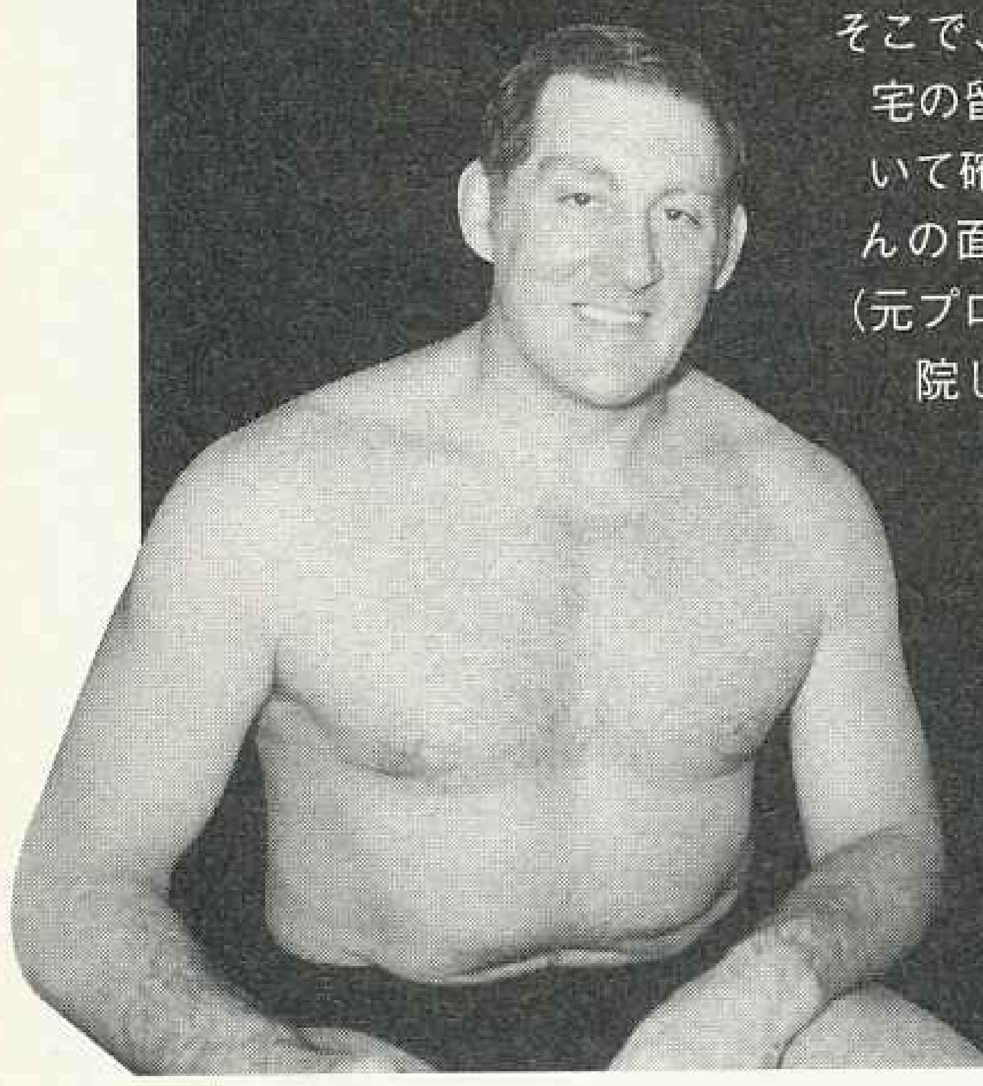
西村 もちろんですよ！ レストランでバカバカ食べて、バカバカ飲んでいましたから。あの歳で私より食べようとしたり飲もうとしたりするんです（苦笑）。

――そんなに負けず嫌いでしたか。

西村 もう、絶対にギブアップしない！

――ネバー・ギブアップ、と（笑）。ネバー・ギブアップといえば、藤波（辰爾）さんは（7月29日、無我ワールド・プロレスリング 大阪大会）の試合直前に、携帯サイトでゴッチさんの逝去を発見した後藤（達俊）さんから伝え聞いたということですが、西村さんはどういうかたちで一報を聞かれましたか？

西村 私の場合、試合前にたまたま携帯を見たら、もの凄い数のマスコミからの着信履歴があったんですよ。で、留守電を聞いたら、どれも「ゴッチさんが亡くなったのは本当ですか!?」という事実確認だったんですね。そこで、たまたま1週間くらいタンパの自宅の留守電を聞いてなかったことに気づいて確認したら、その留守電にゴッチさんの面倒をみていたジョー・マレンコ（元プロレスラー）から「ゴッチさんが入院したから、大至急連絡をくれ！」と入っていて。もっと早く聞いておけばよかったんですけど……（とうつむいて）。



――でもそんな中で、試合にはちゃんと出られてますね。

西村 リングでは集中しないといけないんですけど……（つづきは『kamipro Hand』で！）。

『kamipro Hand』

長期連載！kamipro事件簿
「ヒョードルはミル
～世紀の"ズンドコ興行"『猪木祭り2003』を

第1回『猪木祭り』裁判の真の焦点とは!?（9月1日掲載文を紹介）

「ヒョードルはミルコになれたのか？」

この問いには、一瞬不思議な印象を抱く読者も少なくないだろう。"世界最強"といわれ、いまや1試合のファイトマネーが1億円とも2億円とも言われるPRIDEヘビー級王者、エメリヤーエンコ・ヒョードル。

2006年に『PRIDE無差別級GP』で初のタイトルを獲得したが、それまでは"無冠の帝王"という不名誉な称号がついてまわったミルコ・クロコップ。

実力至上主義のもとでは、上位に来るのは明らかにヒョードルだ。そのヒョードルが、いったいどうして「ミルコになれたのか」という言い方をされなければならないのか。

しかし、このフレーズこそがこの新連載の最も重要なテーマである。

2003年から翌2004年にかけて、この同じテーマが焦点となった裁判が存在するのだ。

それこそが、あの『PRIDE』にも多大な影響を与えた、世紀のズンドコ興行『INOKI BOM-BA-YE 2003』（以下、『猪木祭り』）に関わる裁判なのである。

★ ★ ★

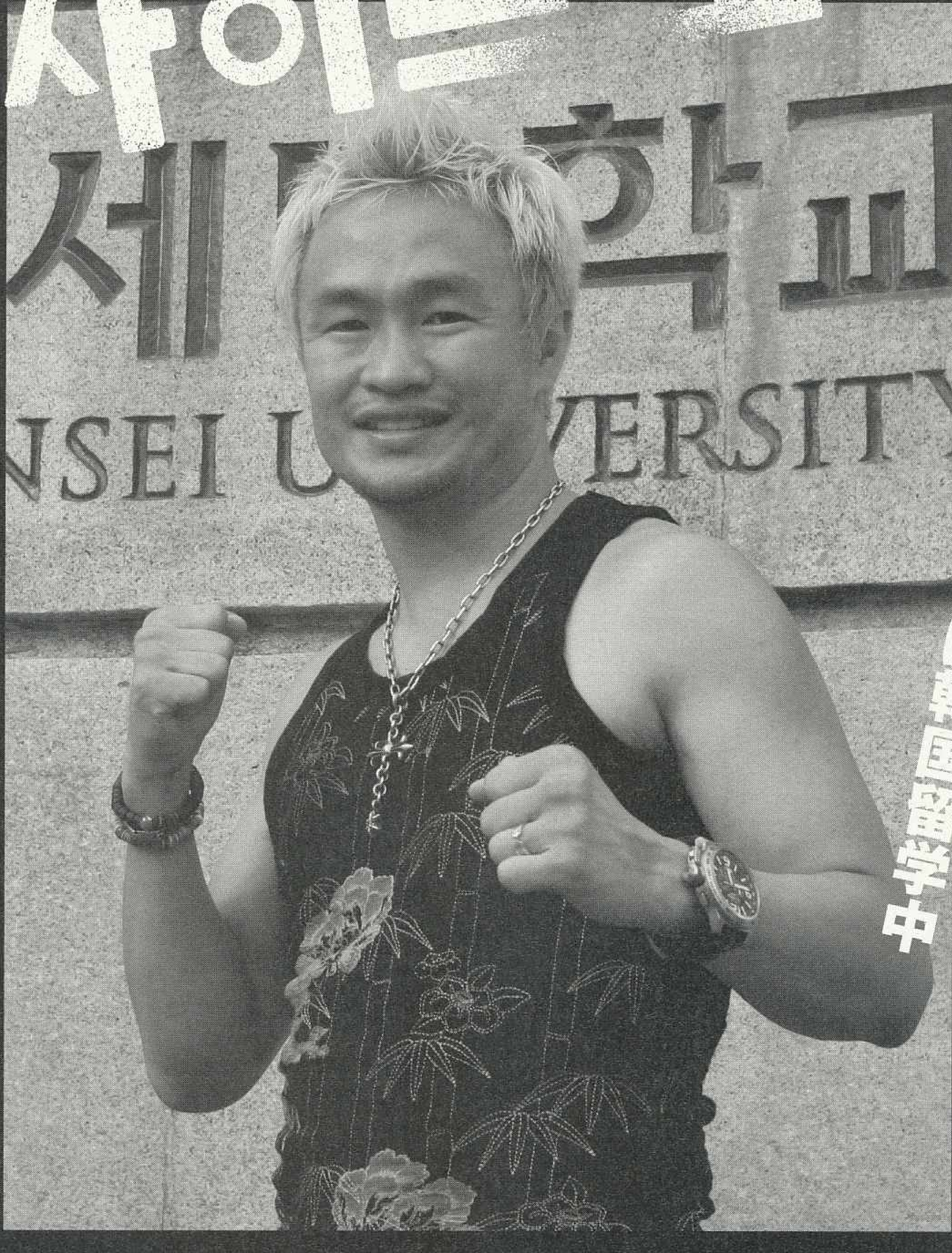
現在、『PRIDE』の沈黙が続いている。今年4月8日に開催された『PRIDE.34』以降、すでに5ヵ月にわたって音沙汰がないばかりか、今後のスケジュールも空白のままだ。無差別級GPに沸いていた昨年を思うと、わずか1年とは思えないほどの変化である。

このような事態となった直接の原因としてはロレンゾ・フェティー

kamipro Hand

インサイドコリア スペシャル

인사이드 코리아



チャンピオンは韓国留学中

元WBC世界スーパーフライ級チャンピオン

徳山昌守

聞き手／大川“隊長”義之　取材協力／長谷川永哲

勝っても勝っても世間からの評価が低かった 将来的には実績が物語ってくれると思う

徳山昌守——ご存知、元WBC世界スーパーフライ級王者である。また世界タイトル通算9度の偉業を成し遂げた近代日本プロボクシングを代表するボクサーだ。彼のボクシング技術の高さはボクシングマニアの絶賛するところだが、残念ながら世間的に高い評価を得ていたとは言えなかった。

そんな過小評価に寂しさを感じ、また闘う相手がいないというモチベーションの維持に苦しんでいた徳山には、何度も引退が噂されていた。そして昨年には本業のボクシングではなく、総合格闘技イベント『PRIDE男祭り』で、五味隆典と対戦するという話まで浮上した。「燃えられる相手と試合がしたい！」と語る徳山は、まるで自分を介錯してくれる相手を探しているかのようであり、死に場を求めているようでもあった。

結局、初めて世間が大きく注目した五味との一戦も、日本ボクシングコミッションやWBCから「待った」がかかり、『PRIDE』への参戦は実現しなかった。その後もWBCバンタム級王者の長谷川穂積とのドリームマッチ、亀田興毅や大毅との対戦が噂されるがこれも実現せず、結局2007年3月に現役引退を表明した。

そんな徳山が引退後に、なぜか韓国に滞在しているという……。徳山は『PRIDE』参戦断念を発表したときも「自分が現役のプロボクサーであるあいだは、ほかの格闘技のリングに上がることはありません」と答えていた。ならば肉体的に限界を感じて引退したわけではない彼が、現役を引退したいま、ほかの格闘技をどう思っているのか？ また流れてしまった五味戦の真実とはなんだったのか？ また同じ在日コリアンの格闘家という立場から、いまの秋山成勲についてどう考えているのか？ 引退したからこそ話せる真実を彼の口から語ってもらった。

チャンピオン！ どうしていま、韓国にいるんですか？ そこから教えてください。

「前からずっと語学留学に来たかったんですけど、現役だったんで無理でした。でも、今年の3月に引退したんで、新たな自分探しという意味で、まずは自分の母国語をあらためて習ってみよう、と。新しい出発には世界チャンピオンという肩書きは使いたくなかったんで、あえて四畳半の貧しい下宿を選んで学生生活をスタートさせました。

しかし、韓国ライフは楽しくてしょうがないですね！ 毎日チャミスル（韓国焼酎）飲んで、学校ではガーガー寝てって感じで。いやいや、ちゃんと勉強もしてますけどね！（笑）」

引退した動機は？ 体力の限界ではないですよね？

「モチベーション問題でしたね。川島（勝重）選手に負けたとき『ああ、これで俺はボクシングをやっとやめられる』と思ったんですよ。でも、リベンジだけは果たして引退しようと思って。あと……、やっぱり勝っても勝っても（世間からの）評価が低かったというのが問題でしたね。元・阪神の吉田義男監督が言った『実績は無言の説得力』という言葉もあるように、将来的には実績がすべてを物語ってくれるんじゃないかと思ってます」

最後の2～3年間は、死に場所を求めているような気もしました。「誰か早く俺を倒して終わらせてくれよ」というような……。

「そうですね、それが長谷川（穂積）選手だったんですよ。これは自惚れでもなんでもなくて、やっぱりボクシングファンが一番観たいカードっていったら、徳山vs長谷川というカードだったと思うんですよ。僕のほうにも長谷川選手に嫉妬みたいな感覚があって。自分は一番強いと思ってるのに『日本最強は長谷川だ』ってずっと言われ続けてて。だったら、どっちが強いかケリをつけてやろうと思ったんですけどね」

では、亀田兄弟についてどう思いますか？ 興毅や大毅と試合をするという話もありましたが。

「そうですね……。一つだけ言えるとしたら、やっぱりスポーツは『礼に始まり礼に終わる』という言葉があるように、礼儀だけはきっちりわきまえてほしいですね。もう世界チャンピオンになったんだから、人々に見られる立場ですよ。地位が人を育てるという言葉があるように、もう少し言動に気をつけて、他人の見本になるような人物になってほしいですね。

彼の実力ついては……、僕が言うことじゃないですよね。彼も世界チャンピオンになったわけですから、それなりにあると思いますし。……大人の発言ですかね？（笑）」

個人的に闘いたいと思ったことは？

「うーん……。まあ、べつにやったらやったで、話題になるかなとは思いましたけどね。でも実績のない次男とやるとしたら、世間が許さなかったと思いますよ。僕も32歳でしたから彼が駆け上がってくるのを待ってられませんでしたから。ボクシングというのは、何年もやってたら、確実に身体のどこかが蝕まれていく競技なんです。だから、引き際だけはちゃんと見極めたいなと思ってましたね」

では、いまだに現役にこだわる辰吉丈一郎選手についてはどう思われますか？

「そこなんですよね。僕は辰吉さんをすごく尊敬してるだけに……。でも、それは彼の生き方であり、彼の考え方だと思いますから、僕は否定しません。人それぞれ考え方が違いますからね。ただ、僕はそういう生き方はしないということです。

辰吉さんも37歳ですが、その人がボクシングを心からやりたいと思ってるんだったら、周りは止めたらいけないと思うんですよ。なんでやりたいことをやらしてあげないんだ、と！」

徳山さんはほかの格闘技に対する興味はあるんですか？

「あります！ 充分にありますね！ 僕は前から柔道とアマレスにはもの凄い興味があるんですよ。いまでも凄くやりたいです。自分自身を鍛えるためにもやりたいですね。打撃しかやってこなかったんで、投げ技や組み技をやってみたいですね」

じゃあ、韓国で知り合いがアマレス系の総合ジムをやっているので、そこを紹介しますよ。

「え、行ってもいいんですか？ 僕、何も知らない超初心者ですよ？」

大丈夫です。彼らも打撃のスペシャリストが来たら喜ぶと思います。

「では、よろしくお願いします。一回行ってみたいですね。どうします？ 次、会ったときにアマレスのオリンピック代表とかになってたら（笑）……ってこんなこと言ったら、日本のメディアに『徳山、ついに転向か？』って書かれるかもしれませんね（笑）」

徳山さんは空手も習ってたんですよね？

「空手は小1から中3までやってました。親父が空手の道場（全空連）やってたので。だから、僕も高1になったとき、空手部に入ろうとしてたんです。でも、空手部の道場の前に、ボクシング道場があって、間違えて

ボクシングライセンスが剥奪されるなら『PRIDE』には上がらないと言いました

入ったんですよ。それがボクシングをやるきっかけでした（笑）。

そしたら先輩たちに期待されて、即戦力だから頑張ってくれと言われたのと、先輩たちが練習している姿がカッコよくて、ここなら充実した青春を過ごせそうだなと思って」

昨年は大晦日に『PRIDE』で五味選手と闘うという話もありましたね。

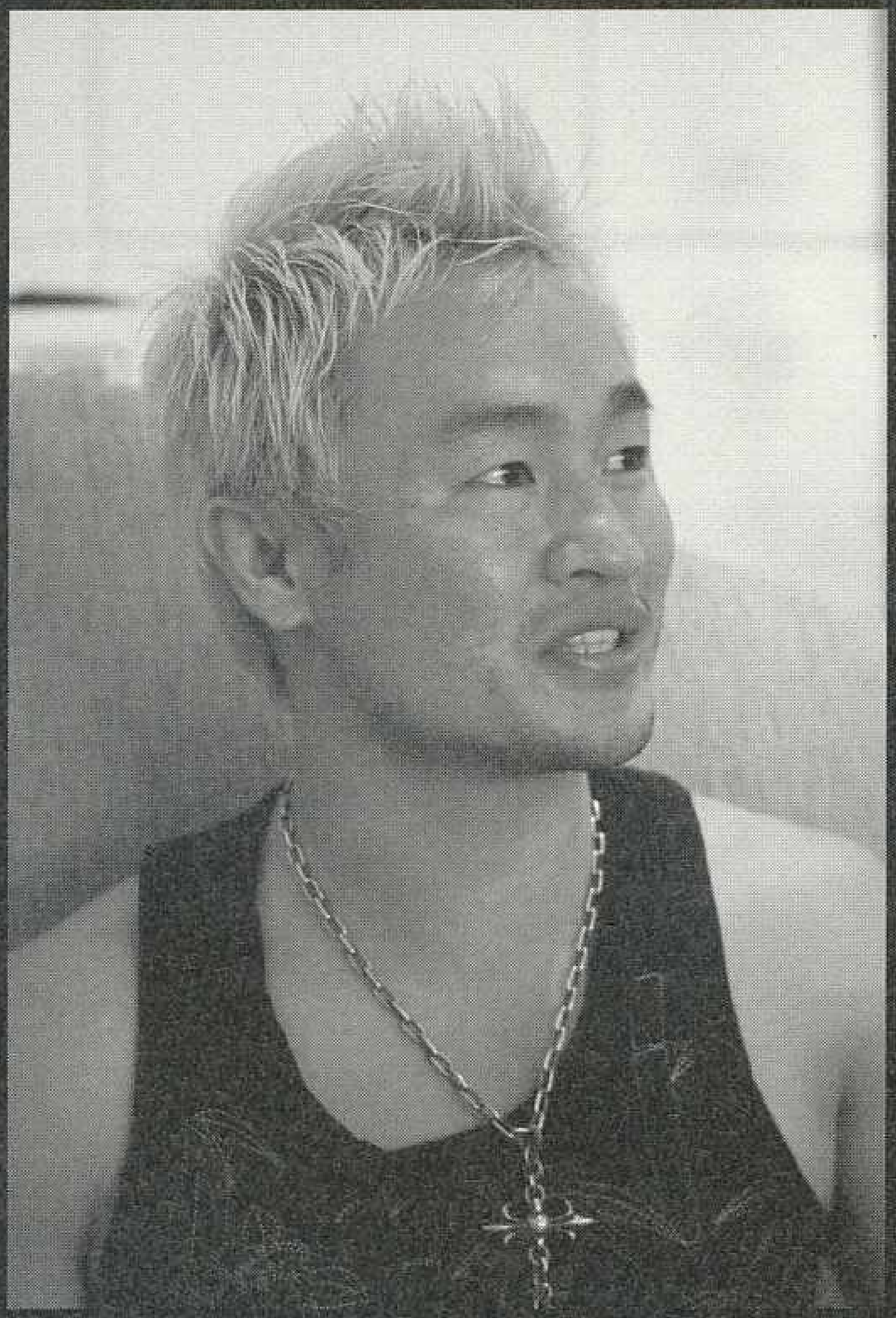
「まず言いたいのは、僕は『PRIDE』のリングでボクシングルールの試合をやるという大前提でOKしたんですよ。僕なんかタックルの切り方も知りませんし、PRIDEルールでやったら秒殺されますからね。でも、ボクシングルールなら、あの五味選手に自分のボクシングがどれだけ通用するかやってみたかったんです。

ただ、こちらから一つだけ条件を出したんです。もし、僕が『PRIDE』のリングに上がることによってWBCとJBCからライセンスを剥奪される、もしくは除名ということがあるなら、僕はリングに上がりません、と。それが99パーセント大丈夫じゃダメです。100パーセント大丈夫だという裏づけが取れたら上がりますよと言ったんですけど、結局WBCからダメって言われて流れてしまいました。

あのとき、僕のほうにも多くのボクシングファンは反対だっていう反応が来てたんですけど、それはたぶん、僕がボクシングルールでやるっていうことを知らなかったんだと思います」

当時の『PRIDE』代表だった榊原氏は「徳山選手のほうからやりたいと言ってきた」と言っていましたが。

「（さえぎって）意味がわからない。そんなの僕が言うわけないじゃないですか！　だいたいファイトマネーだって、そんなに言われるほどよかったわけじゃないんですよ。事情を知らない人は『徳山は金に走ったのか』とか言うけど、普通のボクシングの世界戦と同じか少し多いかぐらいのものでしたし。あと……この試合は、本当は僕の意思じゃなくて横槍が入ってダメになったんですよね。詳しくは言えませんけど……」



五味選手の試合は観たことありますか？

「じつは、僕はK―1とか『PRIDE』って全然観ないんですよ。だから五味って選手も正直、誰のことかわからなかったんです。オファーが入って初めて友だちがDVDを渡してくれて知ったぐらいで。

でも試合を観たら五味くんはボクシングができて、パンチで相手を倒すじゃないですか！　これは強いな、と。でもね、彼はサウスポーなんですよ。悪いけど、僕はめっちゃサウスポー得意なんです（笑）。だ、か、ら、めっちゃやりたくなったんですよ！

自信がありましたからね。20キロも体重差があるけど、やってみたらどうなんだろう？　って。それで一度、さいたまスーパーアリーナに『PRIDE』を観に行ったときに、五味選手に会わせてもらったことがあるんですよ。向こうは試合が組まれるなんて知らなかったみたいですけど。会って握手して『こいつが五味かぁ』と思いながら体型を見たら『このくらいの大きさなら勝てるかな』って思ったんです。体重差はあるけど、そんなに背とかは大きく感じませんでしたね。ごついけれども、これはボクシングではいらない筋肉なんじゃないか、と。こいつなら勝てるな。それで、すっごいやってみたくなったんです」

なめまわすように見たんですね（笑）。彼とやるにはいろいろ障害があったわけですけど、それでもやりたいというのは、自分を熱くさせる何かを感じたということですか？

「そうですね。だって、五味に勝ったら世間的にも凄いことになるじゃないですか。総合ルールだったら、もちろん僕は彼に手も足も出ないですよ。でも、ボクシングルールだったらこっちに分があるんじゃないか、と。五味くんにはえげつないほどのパンチ力があるけど、果たして当たるのかなって（笑）。技術とスピードで20キロの差を埋められると思いましたね」

男のロマンですね！

「いやホンマにね！（嬉しそうに）。ちょっと想像してみてくださいよ！　もう自分で想像しただけでね、興奮して鳥肌が立っちゃいますよ（笑）」

考えただけでコーフンしてしまう夢の試合だったんですね（笑）。徳山さんが総合やK―1を観ていて、一番ボクシング技術がある選手って誰でしょうか？

「うーん、そうですね……。武蔵さんかな。彼はボクシングが大好きなんですよ。よくボクシング研究してるなって気がしますね。個人的にも昔は飲みに行ったりして交流があったんですけど、最近は機会があまりないですね」

山本KID徳郁選手とかはどうですか？　体格は近いですけど。

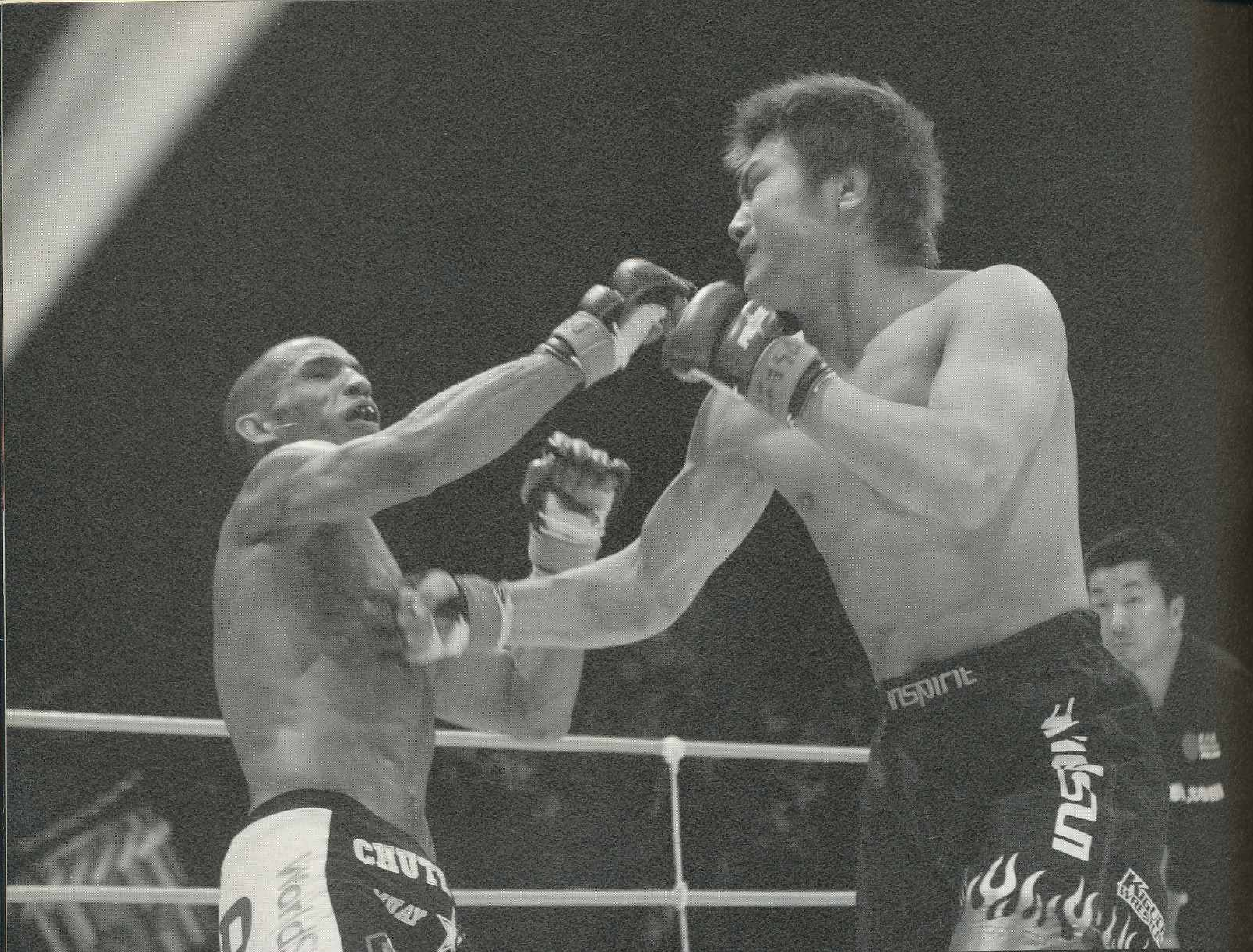
「彼は瞬発力が凄いですね。身体が逆三角形で格好いいですよねぇ……。彼は男としてもカッコイイですわ。男惚れしますね。あと魔裟斗選手もカッコイイですね。ボクシングもめっちゃ上手だなと思いますし」

徳山さんは引退して、今後はどういうことをする予定ですか？

「そうですね、タレント事務所にも所属しましたから、芸能活動もしたいですし、ダイエットサプリを扱う会社を自分でも設立しましたので、そっちでも頑張っていきたいですね。あとはいずれジムを作って子どもにボクシングを教えたいです」

徳山さんはまだ32歳ですよね。ボクシング以外のリングでの復帰という話はありませんか？

「まぁ……、可能性はゼロじゃないんですが、限りなく少ないんじゃないかな……。『PRIDE』は総合格闘技



06年大晦日『PRIDE男祭り』で対戦がウワサされた五味隆典vs徳山昌守戦。11月上旬、『PRIDE』と敵対するスポーツ新聞が徳山本人へ電話取材。「オファーを受ける」というコメントをスクープ掲載したが、その直後に徳山本人は参戦を否定。裏側でなにやらいろいろなものがうごめいていたようである。世の中ってなんだか難しい!?

五味くんとは20キロも差があったけど技術とスピードで埋められると思った

인 사이드 코리아
インサイドコリア スペシャル

徳山昌守

ですから難しいと思うんですけど、K—1にしても、こんな小さい身体ですからね。軽量級があったらべつですけども、創設されると言っても60キロか65キロですよね(徳山選手のボクシング時代のウエートは52・163キロ)。

もし、やるとしても越えなきゃいけないハードルが多すぎる、と。

「うん……。やる気になったら、本気でいきますけどね」

秋山選手とはお知り合いと聞いています。その彼が大変なことになってますね。

「ヌルヌルってやつですね。でも、大丈夫でしょ? 一応、K—1も世間体を考えてああいう厳しい処分を下したんじゃないですか? だってあんなに脂の乗っている選手ですよ? 手放すわけないじゃないですか。今年の大晦日にも出さないとなったら、厳しい処分だなとは思いますけど、K—1側も使いたいはずですよ。いまの秋山くんが出たら視聴率を獲るのは間違いないでしょうし」

桜庭vs秋山戦は観ましたか?

「観ましたよ。ヌルヌル事件のことはあとで知ったんですけど、いやあ……、つえぇな、と。まあ、あとであんなことになったんで、残念だなとは思いましたけど。彼は柔道家出身とは思えないぐらい打撃が強いですよね! パンチはまだアレですけど、打撃とかで倒すじゃないですか。後ろ回し蹴りでKOとか。すっげえなって。どこまで伸びるのか楽しみですね! (あっけらかんと)」

在日四世の秋山選手は今回のことで、民族的な差別とも言えるような批判も受けています。徳山さんも韓国名を明かして初めて世界チャンピオンになった選手ですが、秋山選手のような経験はありましたか?

「それを言ってしまったら、ただの負け惜しみになっちゃいますからね。それは言いたくないです。僕は自分にウソをついてリングに上がりたくなかったんで、ホン・チャンス(洪昌守)と名乗っただけで。でも、自分を在日のボクサーとして見るんじゃなく、一ボクサーとしての自分を見てほしい。色眼鏡をかけて見ないでボクシングを見てほしいですね。それは秋山くんも同じだと思います」

世界王者になった徳山さんが、トレーニングをするときに何が一番大事だと思いますか?

徳山は同じ在日コリアンの秋山成勲の現況に対して屈託のない口調で語った。現役時代の徳山本人が浴びていた世間からの逆風とは性質は違うものではあるし、秋山にとってまずクリアするのは差別ではなく、事件で失なった信頼である。



自分にウソをついてリングに上がりたくなかった だから本名のホン・チャンスを名乗ったんです

인사이드 코리아
インサイドコリア スペシャル
徳山昌守

「これは何よりも『自分に負けない』ということですね。並の選手は限界までしか自分を追い込めないんですよ。人間って自分の限界なんて知らないんです。だから限界だと思ったところから、もうちょっと頑張ることが大事なんです。そうすると自分の限界がもうちょっとだけ伸びるんですよ。で、次の日にまたその伸ばした限界からまた、もうちょっとだけ頑張ると。そしたら、また限界が伸びるんですよ。その繰り返しが、自分のレベルアップにつながっていくんですよ」

トレーナーの存在も大事ですか？

「そうですね。でもね、結局自分に勝たないとだめなんですよ。ただ他人にやらされてるだけだと、それは身につかないと思うんです。苦しいときだからこそ踏ん張るのが大事ですね。だから僕はロードワークしていて坂道に来たら、絶対にスピードを上げるんですよ。他人が苦しいと思うところで頑張るんです。僕と一緒に練習してる選手の中でも、これについてこれる選手は絶対に強くなりますね」

それがギリギリの試合の中でも生きてくる、と。

「そうです。絶対に生きてきますね。これは僕の座右の銘ですが、『かいた汗のぶんだけ成功は近づく』んです。絶対に努力は裏切りませんから」

最後に、何か韓国で体験したおもしろいエピソードはありますか？

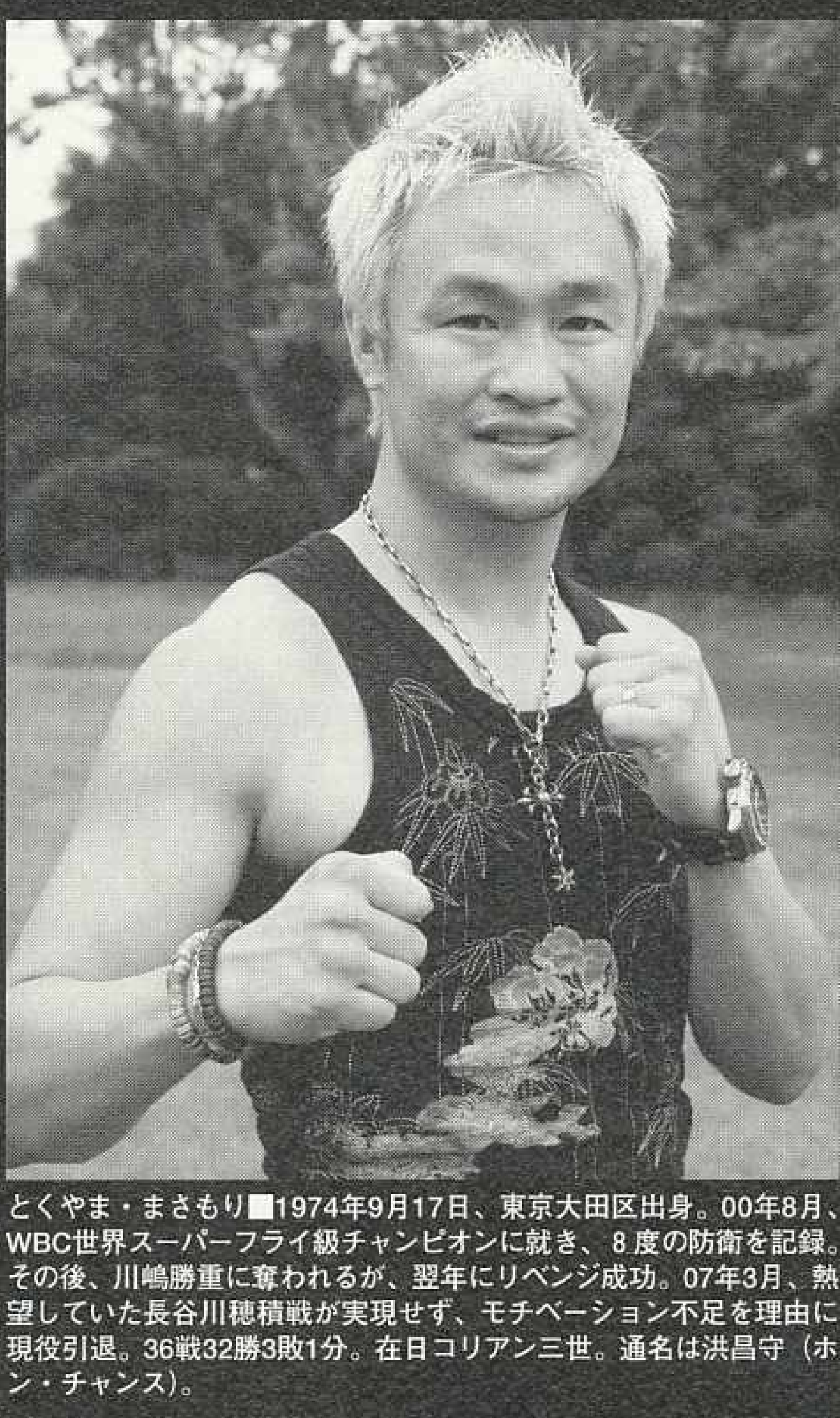
「そうそう！最近このあたりで飲んでて、いつも最後に行く屋台ででっかい男に絡まれたんですよ。向こうが僕の足踏んだから、『いてぇな』って言ったのがきっかけなんですけど。こっちがずっとシカトしてたらガバッと腕をつかまれて。それも振り払って無視してたら、向こうはブチ切れていきなり服脱ぎだしたんですよ。そしたら身体に全身に入れ墨が入ってるんですよ。『うわぁ、こいつ絶対モノホンや！』って思って。そしたら、向こうが口に含んでいた海苔巻を僕の顔にぶちまけてきたんです」

世界チャンピオンにいい度胸ですね（笑）。

「でも、ああいうときって、ケンカするとき用の韓国語が思い浮かばないんですよ。韓国語は丁寧語しか知らないから正当防衛にしてまず殴らせるにしても『まず殴ってください！』って、そんな言葉しか思いつかない（笑）。それじゃあ、ただのS男ですよね（笑）。『なんだ、おまえ、韓国語もしゃべれねぇのか！』って言われても、『はい。韓国語、話せないんですよ』って全部敬語になっちゃう。それじゃケンカになりませんよね（笑）」

相手も気が抜けちゃいましたか（笑）。おもしろいエピソードをありがとうございます！徳山さんのこれからのご活躍を期待してます！

【07年7月23日／ソウル市新村にて収録】



とくやま・まさもり■1974年9月17日、東京大田区出身。00年8月、WBC世界スーパーフライ級チャンピオンに就き、8度の防衛を記録。その後、川嶋勝重に奪われるが、翌年にリベンジ成功。07年3月、熱望していた長谷川穂積戦が実現せず、モチベーション不足を理由に現役引退。36戦32勝3敗1分。在日コリアン三世。通名は洪昌守（ホン・チャンス）。

秋山成勲復帰は韓国!?

うわ〜ん、うわ〜ん! ついに、ついに、あの男が帰ってきちゃうよ〜!! (みのもけんじワールドのちびっ子調)。

昨年の大晦日『Dynamite!!』桜庭和志戦において、身体に〝無クリーム〟を塗布したことにより〝無期限出場停止処分中〟の秋山成勲。世間を巻き込む一大騒動に発展したことから、悪鬼……いや、アッキー(吉田秀彦調)の今後が注目されていたが、10月28日に韓国で行なわれる『OLYMPIA HERO'S KOREA2007』での復帰が濃厚となってきた! これは驚きだぁ!!

秋山の最新情報といえば、谷川貞治FEG代表兼CMタレントや、『HERO'S』ズンドコ審判団に手紙を送りつける〝IGFっぽい〟行動をとっていた。それはもう、そのうちカート・アングルに「おまえにイノキゲノムの何がわかる!!」と筆を振るいかねない勢いだったのだ!! (かなり脚色)。

そのうえ、なんと! FEGによれば、今大会の主催となる韓国現地のFEG KOREA Incから、「秋山成勲の復活の舞台として、今大会に出場することは可能か?」という打診が到着しているとのこと——。秋山にとっては第二の祖国での復帰は願ったりかなったりだろう。

『kamipro』本誌の愛読者ならご存知だろうが、秋山はこのヌルヌル事件で不当な扱いを受ける〝被害者〟という風潮が韓国国内にある。「強すぎるから日本人がやっかんでいる」「あの処分は重すぎる!!」というのだ。はあ。さいですか。

そのため韓国内では強い復帰待望論が持ち上がっている。問題の鍵を握る谷川FEG代表は、謝罪文を発表した段階でも「慎重に検討を重ねる」姿勢を表明していたが、今回の韓国側の要望に関してFEGサイドも関係各所と協議を重ねるとのこと。ズバリ、復帰は確実ですよ!!

秋山の対戦相手には、いろいろな憶測が流れている。〝韓国の英雄〟ユン・ドンシクとの対戦は韓国ではスーパーカードになるが、スター同士の潰し合いは今後の韓国戦略を考慮すると得策ではないだろう。日本市場を視野に入れれば、秋山はもう大ヒールなので、絶対的なベビーフェイスをぶつけるのはおもしろい。韓国現地は〝韓日戦〟として、日本とは逆転構造になる旨みもある。

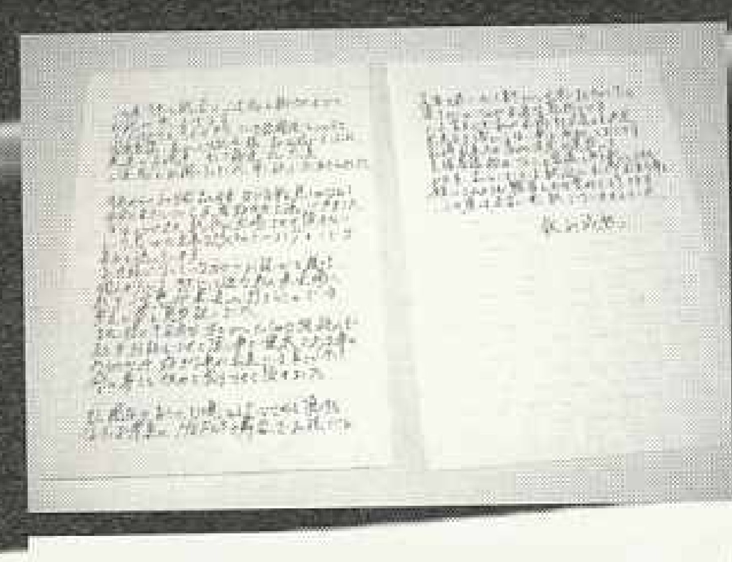
いずれにしても、誰が対戦相手になろうが、視線を浴びるのは秋山成勲の一挙手一投足。

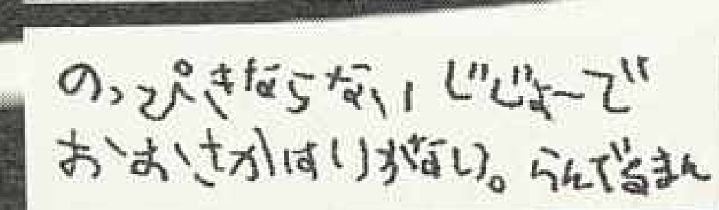
いったい韓国で何が起ころうとしているのか? 異国の地といえども、我々は確認する義務がある!



10.28 HERO'S KOREA
英雄として凱旋か!?

アッキー、そしてランデルマンからも!
IGFに負けるな!
マット界に空前の手紙ブーム!!





上の写真が谷川FEG代表兼CMタレントに送られてきた秋山成勲からの手紙だ。なかなかの達筆である。下の写真が9.22『ハッスル』大阪大会を欠場する旨を伝えてきたランデルマンの手紙。「のっぴきならない」を使い回すなんて、なかなか日本語が達者ですな。

kamipro books

驚ガク! 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ!
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



吉田豪セメント
インタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の
最濃傑作!

★ストロング小林★田代まさし★猪木快守★イーデス・ハンソン★阿修羅原★鶴見五郎★サムソン・クツワダ★康芳夫★倉持隆夫★田中健一★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー——数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは“下調べの鬼”が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!

B6変型判　344ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)



夕焼けがよく似合う
人生のガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる
凄玉たちの
壮絶インタビュー集!

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる——!! プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、『kamipro』誌上にて掲載されてきた、濃厚インタビューから特別厳選収録!

B6変型判　304ページ
定価=1,890円(本体1,800+税)



〝殺し〟文句が
プロレス心を熱く打つ!
〝活字プロレスの哲人〟
井上義啓　追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★殺しのI語録★アントニオ猪木★水道橋博士★金沢克彦★井上義啓・姪★モンターニャ・シウバ


多くの“プロレス者”に影響を与えた“I編集長”こと井上義啓氏の追悼本!! 幻の喫茶店トークから、涙なくしては読めない病床のエピソードまで……。プロレスという“底が丸見えの底なし沼”に浸かり続けた男の凄味を感じろ!!


B6変型判　304ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

enterbrain 株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表) [通信販売のお問い合わせ先] http://www.enterbrain.co.jp/

PRIDEがまた負けた!!

ショーグンよ おまえもか……





の口実力でふさいでくれ!!

の屈辱

[9.22 UFC76 KNOCK OUT]
米国カリフォルニア州アナハイム／ホンダセンター

○フォレスト・グリフィン vs マウリシオ・ショーグン×

（3R 4分45秒 チョークスリーパー）

UFCと『PRIDE』のトップクラスの選手による夢のカードに、煽り映像の段階から観客のボルテージは急上昇！　ショーグンは熱狂的な声援で迎えられたが、グリフィンに対しても同じように熱狂的な声援がアナハイムの観客から送られた。

1ラウンドはグリフィンのローとパンチに合わせて、ショーグンが大振りのフックで突っ込んでいく。グリフィンはバックに回るが、ショーグンも回転しながら立ち上がる。再びショーグンはパンチから組みついてテイクダウン。しかしグリフィンはクロスガードで身体を密着させながら脱出。再びスタンドで向き合うと、激しい打撃戦へ。パンチ、キック、ヒザ蹴りを繰り出す両者はスタンドで互角にやり合う。今度はグリフィンがテイクダウンを奪い、上からガムシャラにパンチを放っていく。ショーグンは立ち上がってスタンドで向き合うが、グリフィンの左ミドルや左フックが鋭くヒット。ショーグンは片脚に組みついてテイクダウンを狙うが身体が離れた瞬間に、今度はグリフィンが上に乗ってパンチを連打！　ここで1ラウンドが終了する。

2ラウンドはショーグンがまずテイクダウンに成功して、ヒジでグリフィンの額を引き裂いて流血させる。立ち上がったグリフィンは、逆にショーグンのタックルをことごとくカットしてバックに回ってパンチを落とし続けていく。スタミナをロスしたショーグンは次第に守勢に回っていく。そして終盤にはグラウンドで両腕をロックされた状態でパンチの連打されてしまう。

そして運命の3ラウンド。上になったショーグンは有効打を出せず、逆にグリフィンは下からのオモプラッタで脱出に成功。腕を固めたまま、2ラウンド終盤と同じように攻め続ける。さらにポジションを変えながら攻め続け、ショーグンのハーフガードをパスしてマウントに移ろうとしたところショーグンが背を向ける。この瞬間を見逃さず裸絞め。ショーグンは力なくタップ。グリフィンは喜びを爆発させ、観客もスタンディング・オベーションで勝利をたたえた。

「どうだ、見たか。UFCがナンバーワンだ!!」……誰かダナ・ホワイトの口を実

アナハイムの屈

文／坂井ノブ　試合撮影／黒田史夫

ショーグン、まさかの一本負け!!





た、おまえもか……

誇りを取り戻すのはヒョードルか、ノゲイラか？ それとも参戦が噂される日本人選手なのか？

『PRIDE』がまた負けた！

「世界最高峰のステージ」と自他ともに認めていた世界最強MMAプロモーション『PRIDE』の休止から約半年。『PRIDE無差別級GP2006』を制したミルコ・クロコップが『UFC70』でガブリエル・ゴンザガに、そして『UFC76』ではチーク・コンゴに敗れ、そして9月22日の『UFC75』では『PRIDEミドル級GP2005』を制したマウリシオ・ショーグンまでもが敗れてしまったのだ。

『PRIDE』再開のメドはいっこうに立たず、"PRIDEの強さ"を象徴していた選手がオクタゴンで次々と敗れ去る。これを屈辱と言わずしてなんと言おう！

さらにダナ・ホワイトUFC代表は大会後の記者会見でとても気持ちよさそうにこんな発言をしているのだ！

「ここにいる（記者の）皆さんは、ここ数年、私がどんな思いをしていたか知っているだろう？　PRIDEファイターのほうがUFCファイターよりも強いなんてことを言う、バカなインターネットサイトにね。ファ●ク・イット！　そういう媒体に対して言いたいことは、山ほどあるが、時間を無駄にしたくない。ランキングでも、リポートでも、それはいつも偏見に満ちていたよ。でも、闘うまで結果はわからないだろう？　言わせてもらおう。どうだ、見たか。俺たちがこのビジネスでナンバーワンだ、とね。UFCには最も強いファイターたちが揃っていて、最もいい試合を提供してきた。（ネットの）ランキングはブル●ットだ。日本から来たファイター（ショーグン）は、ナンバーワンで私のファイター（グリフィン）はランキング外だった。シ●トだ！」

ボロクソである。フ●ックだの●ットだのと卑猥な言葉を並べ立てながら、要するにダナは「俺たちが名実ともにナンバーワンだぜ！」と言っているのだ。確かにダナは常に『PRIDE』をリスペクトする発言を繰り返してきた。これほどまでに口の悪い男が、しっかりとリスペクトを示すというのはめったにあることではない。それほどまでに『PRIDE』は強大で、そこで闘うファイターたちは強さを示してきた。

だからファンは『PRIDE』という舞台は失なっても、誇りだけは失なっていなかったのだ。それなのに、立て続けに『PRIDE』の強さを象徴する選手が敗れる結果になった。『PRIDE』を愛してきたファンはこれから何に誇りを持てばいいのだろうか？　いまだに去就のはっきりしないヒョードルか？　UFC移籍第一戦をクリアしているノゲイラなのか？　それとも参戦が噂される日本人選手なのか？

でも、ふと冷静に振り返ってみると、この試合におけるフォレスト・グリフィンの闘いはハイレベルでショーグンにも劣らないフィジカルと、決して折れない精神力に裏打ちされていた。現在、全米のみならずイギリスをも席巻するUFCの起爆剤となったリアリティショー『TUF1』の決勝戦でも、グリフィンはステフ











ショーグンよ、

アン・ボナーという選手と非常にハイレベルな攻防をノンストップで繰り広げ、その名を広く知らしめたという実績もある。グリフィンは日本のファンにはほとんどなじみはないが、『UFC』が取り組んできた選手の発掘・育成によって生み出された新世代の代表選手なのだ。

『TUF』によって選手のレベルは底上げされ、『PRIDE』の選手たちが参戦してきたことによって、そのレベルはさらに高くなっている。いまのアメリカMMA界はマーケットの規模だけでなく、競技レベルの高さも急成長しているのだ。チャック・リデルの連敗も決して偶然ではないはずだ。とはいえ、ネットカジノのオッズでは圧倒的に「ショーグンが有利」という予想が立てられていた。アメリカ人でさえも自国のMMAの急成長を実感できていなかったのだ。ダナ・ホワイトにしてみれば、これほど痛快なことはないだろう。そりゃ「ファッ●」だの「シッ●」だのと言いたくなる気持ちもよくわかる。かつて桜庭和志が『UFC―J』で勝った試合後に「プロレスラーは、本当は強いんです！」と言い放ったのとまったく同じメンタリティで、ずっと「UFCは、本当は強いんです！」と言いたかったに違いないのだから。


もちろん、ショーグンが敗れたからといって、すべてが終わってしまったわけではない。シュートボクセの日本におけるマネージメントを担当する〝ブッカーK〟こと川崎浩市氏は、今回の試合をこう分析してくれた。

「ショーグンは先週、兄貴のムリーロ・ニンジャがエリートXCで負けてしまったことなどもあり、勝ち急いでしまったかもしれません。まずローを使って相手の動きを止めるような闘い方と、クリンチしてのヒザを使ってほしかったですね。そのうえでグラウンドで一本を極めにいくか、パウンドで仕留めるというのがよかったと思います。テイクダウンやグラウンドにも自信があるので今回のような闘い方になったと思うのですが、何度もやるとスタミナを消耗します。『UFC』で活躍していくには戦略性が問われることになると思います。5分3ラウンドに適した闘い方、得意のヒザ蹴り、抑え込んだときの有効な攻撃。今回の試合で負けたことは逆に今後に向けてのいい勉強になったと思います。ショーグンはこれからもタイトルに絡んでいく選手になることは間違いないと思います」

UFCでは踏みつけも4点ポジションでの頭部へのヒザ蹴りも禁止されている。『PRIDE』のようにブレイクもなかなかかからない。リングと違ってケージを利用できる。「ストップ、ドント・ムーブ！」もない。『PRIDE』とはあらゆる面で違うのだ。

ミルコが敗れ、ショーグンが敗れてしまった以上は「UFCこそが世界最高峰の舞台である」と言って差し支えはないだろう。日本でテレビ放送がない段階で、そう言い切らなければならないのは胸が痛むのだが、観客の熱狂ぶりとハイレベルな闘いを目撃してしまうと、ほかの言葉が見つからない。いま、アメリカで起こっている地殻変動は、『PRIDE』が好きで総合格闘技を観てきた者なら絶対に目を背けることはできないはずだ。

願わくば、一刻も早いテレビ放送の開始を！ そして、PRIDEファイターたちよ、このままでいいのか？ 彼らには〝誇り〟を取り戻す義務がある！



12・29『UFC79』チャック・リデル戦消滅！
UFCデビュー戦の相手にフォレスト・グリフィンを指名!!

ショーグンの仇は俺が討つ！

rlei Silva

聞き手／坂井ノブ　撮影／黒田史夫

ヴァンダレイにとっては、「まさか!!」の連続だったに違いない。

9・22『UFC76』アナハイム大会。かつての弟分であるマウリシオ・ショーグンが、フォレスト・グリフィンに一本負け。さらにメインイベントでは、UFCでのライバルと目されていたチャック・リデルも伏兵キース・ジャーディンに判定で敗れてしまった。

これによって、12・29『UFC79』ラスベガス大会で予定されていた"ミスターUFC" vs "ミスターPRIDE"の夢の対決は事実上消滅。ヴァンダレイ・シウバUFCデビュー戦の相手は白紙に戻された。

今大会をオクタゴンサイドで観戦。衝撃的な2試合を目の前で見せられたシウバは、いま何を思うのか？　大会終了後にシウバを直撃した。

——ショーグン選手がフォレスト・グリフィンに敗れてしまいましたが、感想を聞かせてください。

シウバ　いい試合だったと思う。次はやってくれるんじゃないかと信じてるよ。

——でも、まさか負けるとは思わなかったんじゃないですか？

シウバ　俺もショーグンが勝つと思ってたからね。何が問題だったのかはわからないけど、UFC用に作り変えた、新しい練習方法がうまくいかなかったのかな……。

——今回のショーグン選手の闘いぶりを観て、5分3ラウンドを動き続けるということが、予想以上にスタミナをロスするんだな、と感じたんですけど。

シウバ　ラウンドの時間が『PRIDE』と違うのは、もちろん影響があるだろうね。だから俺はいま、5分3ラウンドを休まず動き続けられるような練習をしているところなんだ。とにかくUFCで勝つには、『PRIDE』と同じ練習をしていたらダメだ。UFCで勝つための練習が必要だということをあらためて感じたね。

——チャック・リデルが負けたことについてはどうですか？

シウバ　この試合に勝てば、12月に俺と闘うはずだったから、勝ってほしかったけど、しょうがないね。多くのファンが望んでいた、俺とチャックの試合はこれでなくなっただろう。12月に誰と闘うのか、これでまたわからなくなったね。

——対戦相手が最大のライバルと目されていたリデルではなくなると、モチベーションも変わってくるんじゃないですか？

シウバ　いや、それは問題ないよ。俺の相手はチャックだけじゃない。俺は"UFC"に勝負を挑みに来たんだから。

——となると、12月の相手はリデルを破ったキース・ジャーディンになりそうですか？

シウバ　それはわからない。ただ、俺はキースよりもむしろ、フォレスト・グリフィンと闘いたいよ。

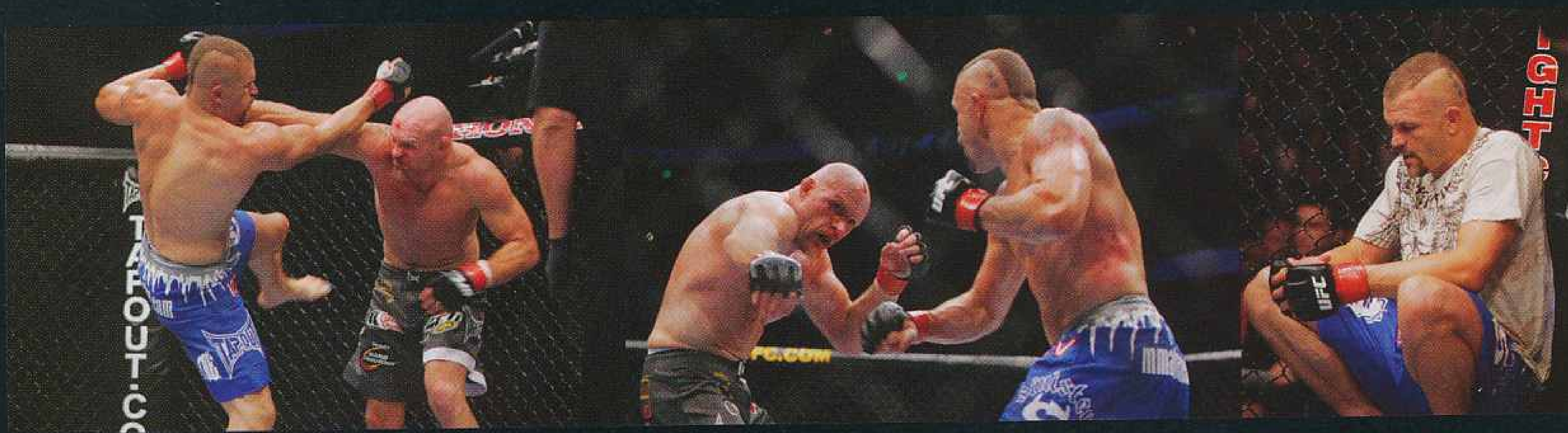
——グリフィンですか！

シウバ　ああ。俺の目の前でショーグンがやられたんだ。それを黙って見ているわけにいかないだろう。ショーグンのリベンジのために闘いたいね。

——それはじつに観たいですねぇ。今日、ご覧になったグリフィンの印象は？

シウバ　良かったと思うよ。テクニックもあるし、アグレッシブだ。俺と闘ったらいい試合になるだろう。さっき言ったように、俺はUFCに勝負を挑みに来たんだ。やられたままでいるわけにいかないね。俺が『PRIDE』、そしてシュートボクセで培った強さを見せてやるよ！

【07年9月22日／米国カリフォルニア州アナハイム・ホンダセンターにて収録】



[9.22 UFC76 KNOCK OUT]
米国カリフォルニア州アナハイム／ホンダセンター

○キース・ジャーディン vs チャック・リデル×
(3R 判定2-1)


5月にランペイジに敗れ、ライトヘビー級王座から陥落したリデルの復帰戦。リデルは、これに勝てば12月にシウバとの夢の対決が内定していたが、『TUF』出身のストライカー、ジャーディンのフックで2Rにダウンを奪われ、3Rも挽回できず、まさかの判定負け。初の二連敗を喫してしまった。

ショーグンとリデルの敗戦、そして自らのUFCデビュー戦のカードが宙に浮いたのを受けて、すぐさまショーグンのリベンジ、フォレスト・グリフィン戦をぶち上げたシウバ。さすがは幾多のライバルたちと"大河ドラマ"を作ってきた"ミスターPRIDE"だ。プロとしての嗅覚が研ぎ澄まされている。

3月に『PRIDE』の経営権がロレンゾ・フェティータに委譲されて以来、PRIDEトップファイターであるミルコ、ダンヘン、そしてショーグンまでもがオクタゴンで一敗地にまみれ、もはや『PRIDE』は名実ともに風前の灯火だ。

しかし、誰よりも『PRIDE』とシュートボクセという、自らのバックボーンに誇りを持つ男は、いま自分の拳一つで"UFC"という巨大な敵に挑もうとしている。『PRIDE』という名前にもう一度、命を吹き込むことができるのは、やはり"ミスターPRIDE"と呼ばれた男、ヴァンダレイ・シウバしかいない！

ヴァンダレイ・シウバ
Wander



mpage" Jackson

チャンピオンになっても人生は変わらないが銀行口座の残高は変わったぜ!!



PRIDE王者ダンヘンとの“王座統一戦”を制覇!! 貪欲な狂犬が突き進む成り上がりストーリー!

狂犬、またまた吠える!!　“世界ライトヘビー級統一戦”とすら報道された、『PRIDE』ミドル級王者、ダン・ヘンダーソンとの試合を制し、正真正銘“93kg級世界最強”の称号を手に入れたランペイジ。その快進撃に伴なって、別れた奥さんともヨリを戻し、“世界の歌姫”ビヨンセと面会するなど、公私にわたって絶好調!　そんな成り上がりの狂犬を『UFC76』アナハイム大会直前にキャッチ!　人生を謳歌する狂犬の遠吠えを聞け!!

聞き手／坂井ノブ　撮影／黒田史夫　試合写真／Josh Hedges（UFC）

――9・8ロンドン大会でのダン・ヘンダーソン戦は壮絶な試合でしたが、まずは王座防衛、おめでとうございます!

ジャクソン　（日本語で）アリガトウゴザイマス。

――PRIDEミドル級王者に勝ったことで、UFCと『PRIDE』の頂点に立ったわけですが、振り返ってみてどうですか?

ジャクソン　ハードな試合だったから、勝ててハッピーだな。正直、逆にKOされてもおかしくなかった。最初のラウンドでヒジを伸ばしちまってね。それに2ラウンドでもヘンダーソンの石頭をブン殴って拳を傷めたからな。

――一進一退のスリリングな試合でしたよね。

ジャクソン　ヘンダーソンはタフなファイターさ。あの小さな身体で、ライトヘビー級で闘うことにはリスペクトせざるを得ないよ。パンチは重いし、レスリングも強い。それに、ズルいしな（ニヤリ）。

――ズルい?

ジャクソン　ダーティボクシングってやつだな。クリンチワークからのパンチがうまくて、アタマを下げて突っ込んでくるんだ。

――ダンヘンのヘッドバットにクレームをつける選手は多いですよね（笑）。これまでのランペイジさんの試合の中でベストファイトだった、という声もあります。

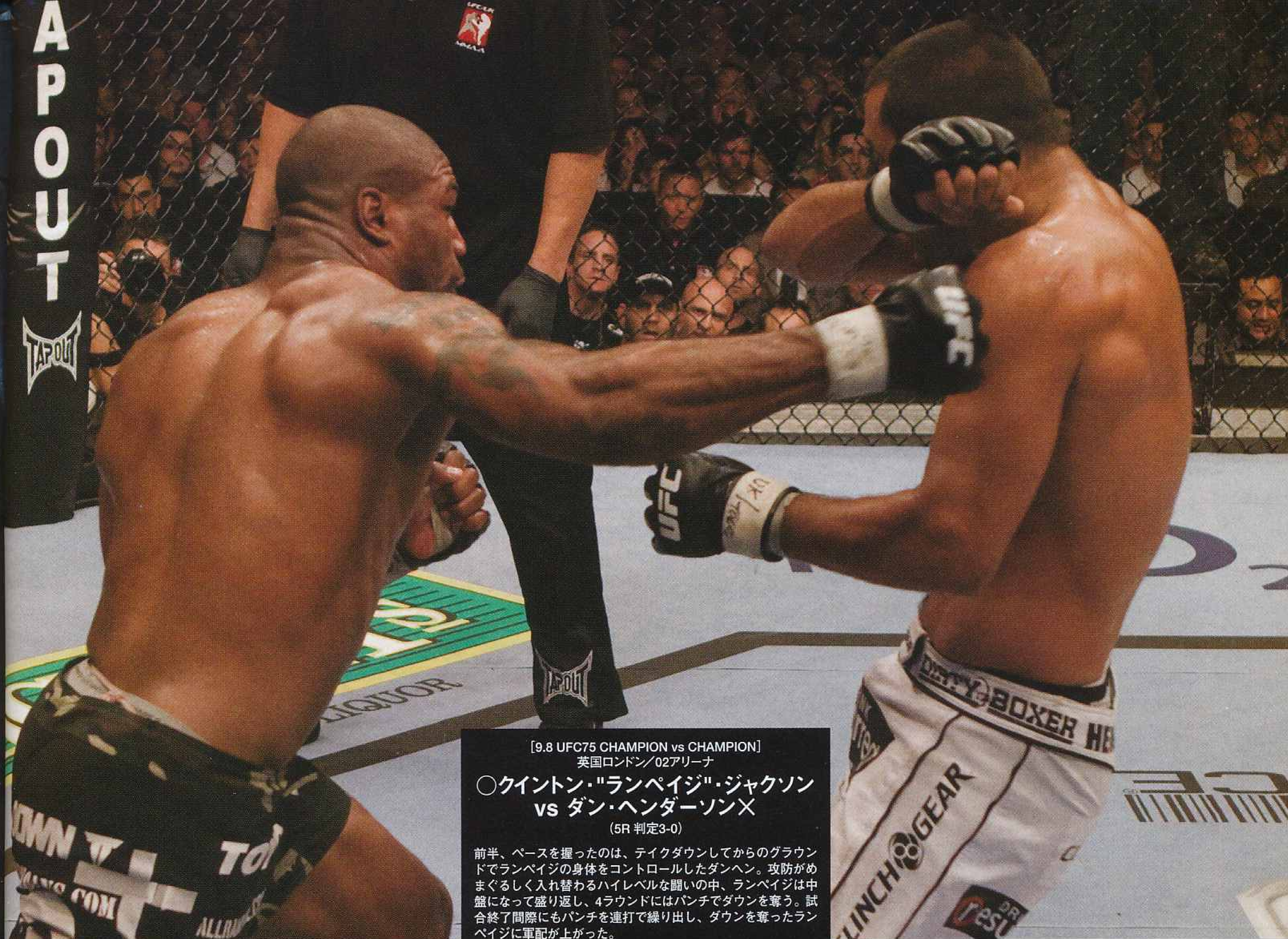
ジャクソン　そうか?　オレ様のこれまでのキャリアの中ではもっとも長いファイトだったが、オレ様はもっといい試合をやってきたと思うけどなぁ……。2004年のヴァンダレイ・シウバとのタイトルマッチとか。

――ああ!　凄い試合でしたよね〜、って負けた試合じゃないですか!

Quinton Ram

クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン





［9.8 UFC75 CHAMPION vs CHAMPION］
英国ロンドン／02アリーナ

○クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン vs ダン・ヘンダーソン×

（5R 判定3-0）

前半、ペースを握ったのは、テイクダウンしてからのグラウンドでランペイジの身体をコントロールしたダンヘン。攻防がめまぐるしく入れ替わるハイレベルな闘いの中、ランペイジは中盤になって盛り返し、4ラウンドにはパンチでダウンを奪う。試合終了間際にもパンチを連打で繰り出し、ダウンを奪ったランペイジに軍配が上がった。

ジャクソン　まあ、聞けよ！　確かにあの試合でオレ様は負けたんだが、「あんなに興奮した試合はなかった」「あの試合こそ、オレたちが求めていた『PRIDE』だ！」って声をたくさんのファンからもらったんだ。そして、あの闘いがあったからこそいまのオレ様のキャリアがあると言ってもいいだろう？

――なるほど。ところで、そのヴァンダレイ・シウバやマウリシオ・ショーグンといった、ランペイジさんがかつて『PRIDE』で負けたファイターがUFCに参戦していますよね。

ジャクソン　『PRIDE』がなくなった以上、彼らがUFCに来るのは当然だろうな。ファイターには何よりも闘う場所が必要なんだ。

――ヴァンダレイは12月のラスベガス大会の出場が確定的ですが、彼のスタイルはオクタゴンでも通用すると思いますか？

ジャクソン　ヴァンダレイは、オクタゴンだろうが、リングだろうが観客を興奮させる試合ができるよ。それに、以前UFCでも闘っていたし、ルール面でも問題はないだろう。ただ、ヴァンダレイは、ミルコ・クロコップとヘンダーソンに連続してKOされている。最後の試合から半年以上経っているから、ダメージの蓄積の心配はないだろうが、精神的にはつらいはずだな。それにアメリカに移っての最初の試合でプレッシャーもあるだろう。でもオレ様はアイツの成功を祈っている。ただ、オレ様よりかは成功させないけどよ（笑）。

――リベンジしたいという気持ちがあるわけですね。

ジャクソン　（日本語で）モチロン！　借りは返さなきゃな。そしてせっかく、借りを返すのなら、アイツには勝ち上がってきてもらわないと、うまみがないってわけだ。ガッハッハッハ。

――2連敗しているわりには、ずいぶんと自信があるようですね。

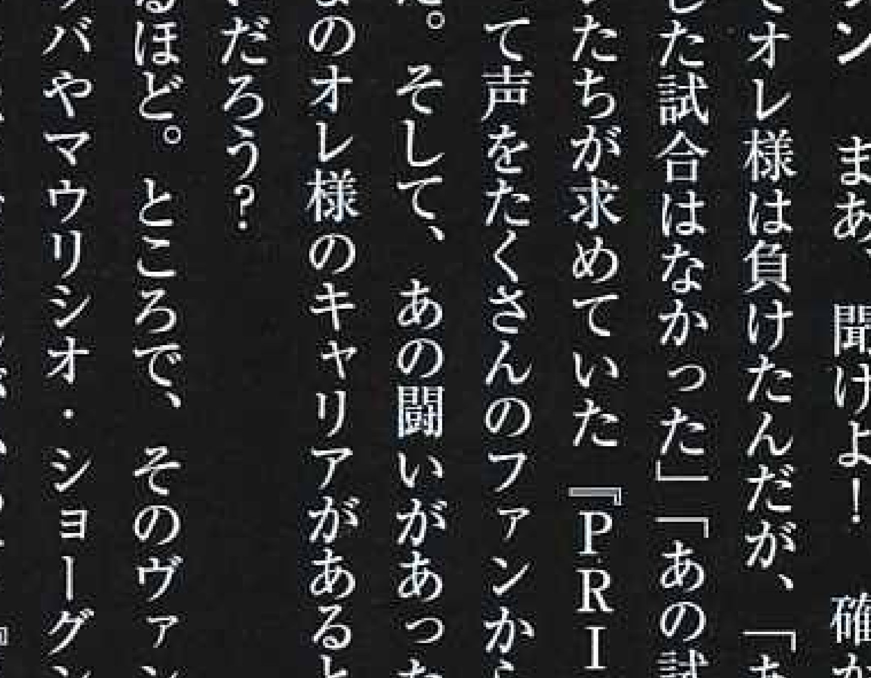
ジャクソン　あぁ？　何を言っているんだ？　ぶっ飛ばすぞ、オマエ！　チャンピオンはオレ様なんだ!!

――ス、スミマセン。ではショーグンとの再戦にも自信はある、と？

ジャクソン　確かにショーグンはヴァンダレイよりもタフな相手だと思うが、オレ様はもう、アイツらに負けたときのオレ様じゃない。スパーリングパートナーも変わったし、トレーナーも変わった。昔は、試合前にも関わらず、アマチュアの柔術ファイターと練習していたが、いまでは全然違う。トップファイターとスパーリングしているんだ。

――そういえば、ロンドン大会でミルコに勝ったチーク・コンゴとも練習をしていたとのことですが。

ジャクソン　コンゴとはよく練習しているよ。いいスピリットを持ったヤツだ。じつを言うと、コンゴは試合の直前に背中をケガして、あまりトレーニングができなかった。それでもミルコに勝つことができたのさ。

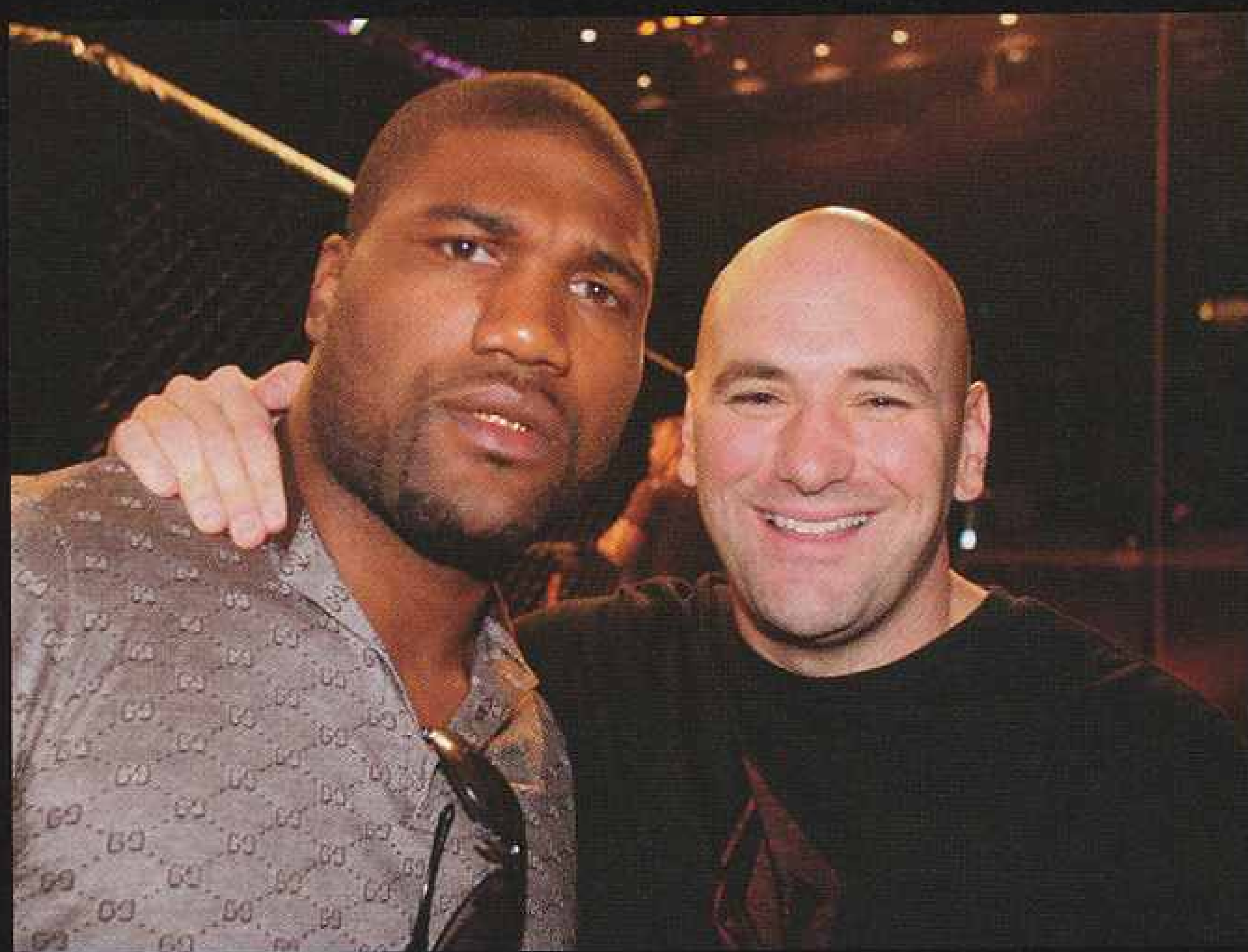


5月、UFC2戦目でタイトルマッチのチャンスをつかんだランペイジ。狙いすましたカウンターのフックであっさりとベルトを奪取。この試合は当時のPPV記録を更新したとのウワサもあり、ランペイジの懐にはインセンティブ契約に応じて相当の金額が入ったに違いない。

――そんな状態のコンゴに負けたミルコは復活できると思いますか？
ジャクソン　ミルコはコンゴとの闘う前のガブリエル・ゴンザガ戦でKOされている。焦らずに、ちゃんと休養を取るべきだったのかもしれないな。でもゴンザガ戦に比べて、コンゴ戦は接戦だっただろう。少しずつ調子は戻ってきていると思うな。ミルコはオレ様のグッドフレンドだし、復活を期待しているよ。ダメージを回復させて、新しい環境に慣れれば、さらに強くなって戻ってくるさ。
――で、ランペイジさんの話に戻りますが、次の試合はいつになりますか？
ジャクソン　（日本語で）ゼンゼン、ワッカラナイヨ！
――わかりませんか（笑）。しかし、チャンピオンになると、モチベーションを維持し続けるのは難しくないですか？
ジャクソン　そんなことはないな。いまはアメリカ、そして世界中の人びとがUFCを観ているから、チャンピオンとして、トレーニングを続けないといけないだろ。
――珍しく殊勝な発言ですね（笑）。しかし日本にいたときとは、ちょっと雰囲気が違うというか、『PRIDE』で闘っていたときは〝暴走ホームレス〟とすら言われていましたが……。
ジャクソン　それは、『PRIDE』が、オレ様をそういうふうに売り出しただけだろ！　そのせいで、ずいぶん迷惑を被っているんだからな！　オレ様がジャパニーズ・ガールに話しかけたら、『アンタ、ホームレスでしょ！』って言われたんだ。

『PRIDE』がホームレスとして売り出したせいで日本にいたときは、全然モテなかったんだ


おかげで全然、モテなかった……。
――そんなことがありましたか（笑）。じゃ、チャンピオンになったいま、こっちではモテるんですか？
ジャクソン　そんなことはないな。オレ様はブサイクだからな……。
――でも6月の『Dynamite!! USA』で、アリーナに来場したときの盛り上がりぶりは、デニス・ロッドマン以上でしたよ。
ジャクソン　（嬉しそうに）リアリィー？　でもオレ様を見て喜ぶのは、オレ様のことを『PRIDE』時代から知っているハードコアなファンぐらいだろう。オレ様はチャンピオンになったけど、UFCでもっとも有名なのは、いまだにチャックだ。テレビドラマにも出ているし。みんな、チャックを観に会場に来ているんだ。



QUINTON "RAMPAGE" JACKSON■1978年6月20日、米国テネシー州出身。01年より『PRIDE』を中心に日本で活躍。その後、WFAを経てUFCへ転戦。今年5月、チャック・リデルを下し、UFCライトヘビー級王座を獲得。さらに9月のUFCロンドン大会でPRIDEミドル級王者、ダン・ヘンダーソンを破り、"93kg級世界最強"の称号を手にした。185cm、92.9kg

Quinton "Rampage" Jackson

――しかし、そのリデルに（5月のラスベガス大会で）勝ったことは、大きいですよね。
ジャクソン　あれはパーフェクトなタイミングだった。チャックが長期政権を築いたところへ、UFCにやってきたオレ様が颯爽とベルトをかっさらったんだからな。
――その勝利で、人生が大きく変わったんじゃないですか？
ジャクソン　う〜ん、ライフはそんなに変わらないけど、銀行口座の残高はおおいに変わったぜ（ニヤリ）。
――ダハハハハ！　一儲けできましたか。実際、その試合のPPV件数は凄かったらしいですからね。今日もずいぶんリッチな格好をされてますし、金を歯に埋め込んでいますよね？
ジャクソン　ノー、これはゴールドじゃない！　歯を磨かなかったら、色が変わったんだ。
――ウソ言わないでください。そんな話、聞いたことないですよ！
ジャクソン　で、あとどれだけ質問があるんだ？　オレ様は腹が減っているんだ！　早く終わらせろよ!!
――わ、わかりました。もうちょっと待ってくださいよ。で、今日もベルトを持ってきていますが、いつも持ち歩いているんですか？
ジャクソン　あ？　何か文句あるか？　オレ様はチャンピオンなんだよ！　クラブに遊びに行くのにも持っていくんだ。でも、そういえば、それと同じ質問をビヨンセにもされたな。
――え？　ビヨンセに会ったんですか！
ジャクソン　オレ様の地元で彼女のコンサートがあって、そのプロモーターに招待されて、会場に行ったときに紹介されたんだよ。
――さすがUFC王者！　すっかりセレブの仲間入りですね。
ジャクソン　（嬉しそうに日本語で）カワイカッタネ〜。
――あ、そういうこと言っていると、日本人の奥さんに言いつけますよ（笑）。
ジャクソン　それはヤメてくれ！　アメリカのオンナと違って、日本人は優しいから結婚したんだけど、ワイフになったらアメリカ人よりも怖い！　オレ様よりもファイトが好きなんだからな。というか、そんな話はどうでもいいだろう！　もうインタビューは、これでジ・エンド！（と言って、去ろうとする）
――あ、ちょっと、ランペイジさ〜ん！
ジャクソン　（突然、振り向いて）あ、そうだ！　オレ様の友だちに、ゲンキ・スドー（須藤元気）とコンタクトをとりたがってる映画監督がいるんだ。ゲンキ・スドー、これを読んだら俺に連絡をくれ!!
――え、どうやってランペイジさんに連絡すればいいんですか？
ジャクソン　う〜ん……。おまえにオレ様の携帯番号を渡しておく。ただし、マガジンに載せたら殺すぞ！
――載せないですよ！（笑）。
ジャクソン　ペンとノートをよこせ！（さらさらと書く）。
――うわ、汚い字！　読めませんよ！
ジャクソン　（日本語で）ジャ、ヨロシクオネガイシマース！
【07年9月21日／米国カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンターにて収録】



“陰の実力者”カズ、UFCで敗戦……

PRIDEファイターがまたもハマった

金網の“落とし穴”

UFCデビュー戦に挑んだカズが、LYOTOに敗北！　またもやPRIDEファイターがオクタゴンに散ってしまった格好だ。いったい金網の中に潜む“落とし穴”とはなんなのか？　UFCの試合経験の豊富な髙阪剛と、今回カズのセコンドについた長南亮に敗戦の謎を直撃！

構成／真下義之　撮影／黒田史夫

世界のTK 髙阪剛

「二人の“オクタゴン慣れ”の差が出てしまった」

カズとは1カ月間ぐらいLYOTO戦を想定して練習していたんだけど、今回はオクタゴン慣れしているLYOTOにやられたなって。LYOTOはUFC3戦目ですけど、オクタゴンでの試合のやり方が肌感覚で身についてきてる。

実際、あの中に入ってみないとわからない部分ってあるんです。自分も経験があるけどオクタゴンでの一試合って、半年分ぐらいの練習量の情報をもらえますから。

『PRIDE』で闘っていた選手が、あの直径9メートルのオクタゴンに入ると、はてしなく試合場があるような感覚になるんです。そのときにどれだけ頭を切り替えられるかがキーになる。

あとLYOTOのマウントの打撃をカズが返そうとした場面で、LYOTOはマウントを捨ててすぐバックに回ったけど、ポジションを簡単に捨てる勇気もオクタゴンでの闘いでは必要なんです。マウントに固執すると、逆にひっくり返されたりしますから。抑え込むんじゃなく、相手の動きに合わせて、有利なポジションを変えていくのがLYOTOはうまかった。カズがやりたかったことを全部やられちゃった感じ。

オクタゴンの試合は難しい、っていうのはファンレベルでも知ってると思うんですけど、実際ホントに難しいんです（笑）。ミルコやダンヘン、今回のカズやショーグンの結果で「『PRIDE』がまた負けた」ってとらえる人も多いでしょうけど、ある意味しょうがない部分もある。

一回試合をやることで、やっと感じがつかめるんで。その悔しさを忘れないように頭にイメージしながらオクタゴン用の練習をしていくのが大事。カズも相当悔しいと思うんですけど、この一試合でスタートラインに立てたぐらいの気持ちのほうがいいでしょう。

えっ、カズの髪型？　あの髪型は一緒に練習していると口の中に入ったりしてうっとうしかった（笑）。まぁ、前日会見の“土俵入り”も含めて、そういう部分もカズらしいんだけどね。

長南亮
「アメリカのレベルは急激に上がっている」セコンドが激白!!

試合の結果は残念でしたね。でも、これが現状のレベルということなんでしょう。セコンドについた自分も選手として危機感を感じました。

（カズの）打撃は一発狙いが多かったですね。もうちょっと自分のバックボーンに根ざした柔道技とかを活かせればよかったんですけど。それにUFCではセコンドで声を出しても、歓声が大きすぎて選手に届かない。インターバルでは「とにかく下にならないように」と助言しました。

『PRIDE』とUFCとの違いはレフェリングの部分で凄く感じましたね。レフェリーのブレイクの間だったり、動かないと「イエローカード出すぞ」って注意を与えたり。『PRIDE』がそういったルールでやっていたというだけで、レフェリングが試合を左右していた部分は大きいと思います。

UFCではちょっとした間も違うし、タイソン・グリフィンの試合なんかを観ていると、試合が膠着しないような動きを自分から心がけていた。スタミナや身体の入れ替え方も全然違うし、これからUFCに出る選手は根本的にルールが違うんだって認識をしないといけない。

それとアメリカの総合のレベルは急激に上がってますね。アメリカはブラジルから比較的近いので、いろんな選手が進出している影響もあるんでしょう。選手層が凄く厚いから練習の質も高いし、そこから飛び出してくる選手は本当にレベルが高い。

それを感じるから、自分もアメリカで頻繁に練習しているんですけどね。『PRIDE』の休止で日本の総合格闘技が停滞しているあいだに、日本とアメリカの練習環境と意識の部分に大きな差ができたことを感じますね。

これからはアメリカで試合をするときには、「レベルが低いんだろう」とタカをくくって試合をするのはもうやめたほうがいいでしょう。どこにでも落とし穴はありますから。



ドンペン君は登場しなかったが、オカッパ頭で番傘を持ち、"天下泰平"と書かれたハチマキで入場とイメージ一新! ゴキゲンなスタイルを披露したカズにいったい何があったんだ?



ムフ! "アントン最後の愛弟子"なGENOMEを受け継ぐLYOTOだが強烈なチョークでカズを絞め上げるなど、いまや立派なUFCファイターに変身。IGFなんて関係ねぇ!?



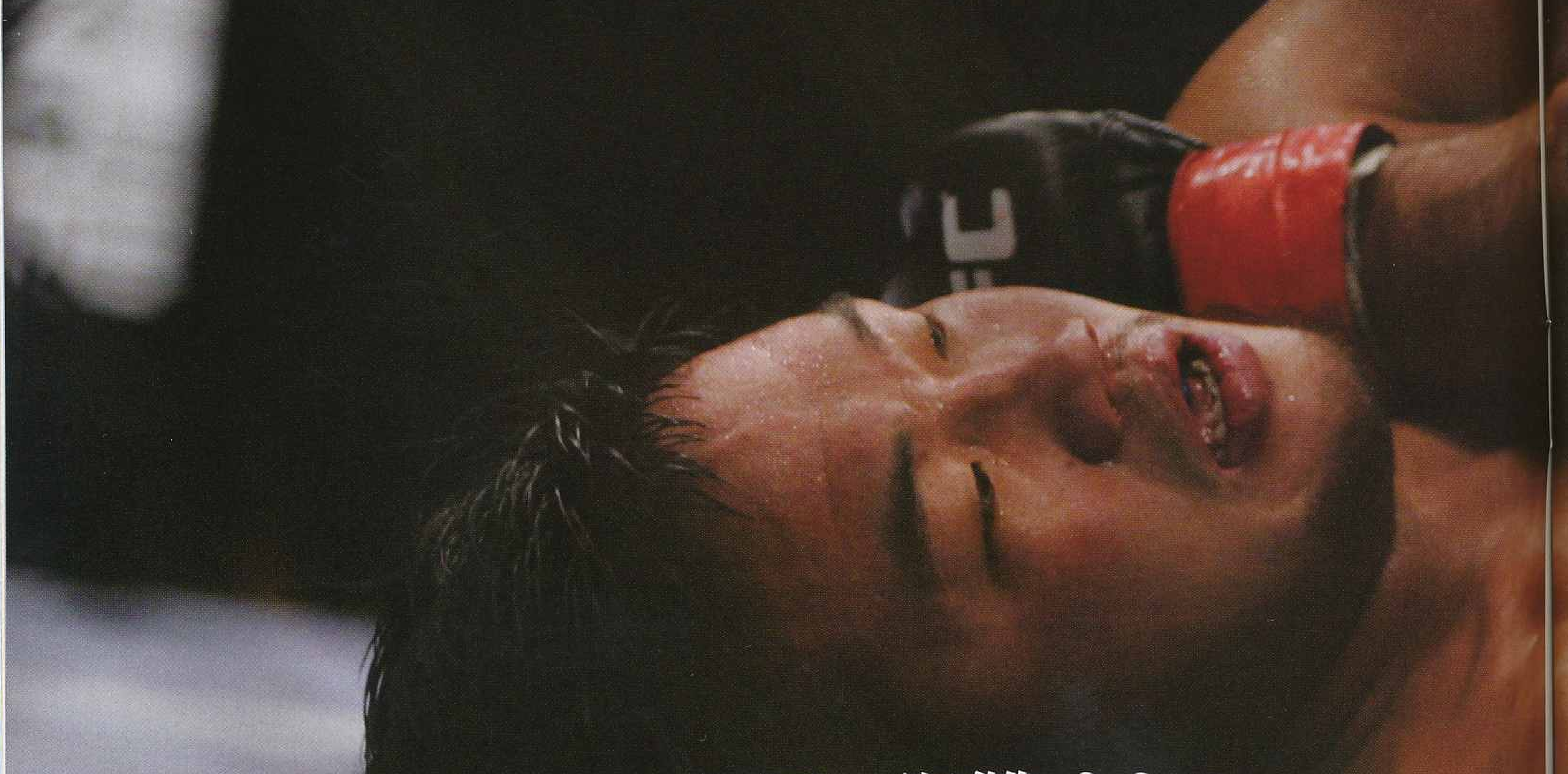
弱肉強食のUFCでは、勝敗はあまりにも重要な意味を持つ。勝利したLYOTOは一気にライトヘビー級タイトル戦線に浮上。一方のカズはしばらくはネクストチャンス待ちの状態か?

[9.22 UFC76 KNOCKOUT]
米国カリフォルニア州アナハイム／ホンダセンター

○LYOTO vs 中村和裕×

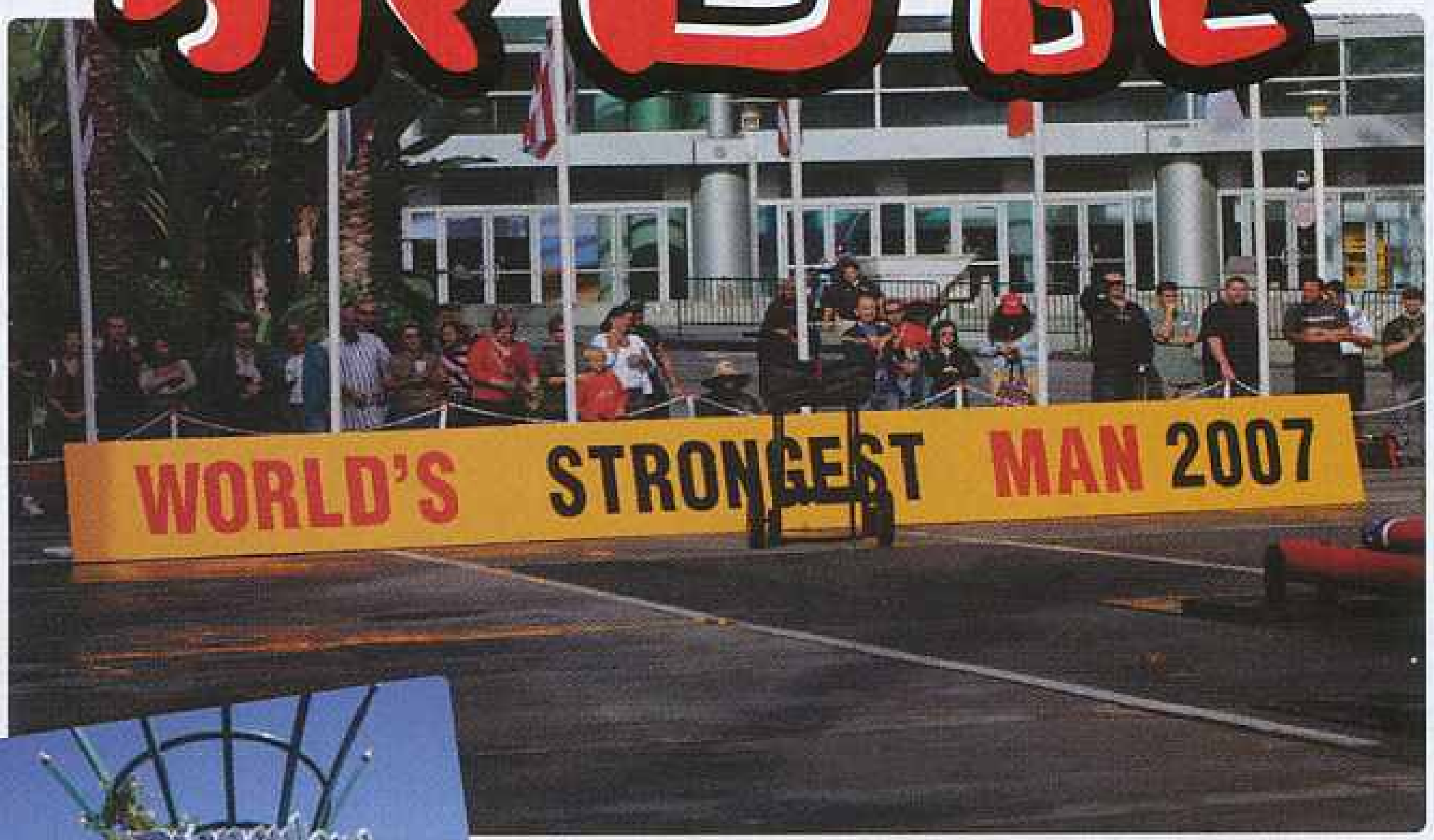
（3R 判定3-0）

1RからLYOTOが左ミドルにパンチなど打撃でリード。カズも打撃で対抗するが手数は少なめ。2RはLYOTOがパンチ連打、マウントからチョークと攻勢に。3R、カズもテイクダウンに成功するが、LYOTOはすぐにスタンドへ。だが次第にスタンドの膠着時間が長くなり、客席からはブーイングが発生！ 最後はLYOTOが判定勝利を飾った。



PRIDEファイターよ、金網に復讐せよ!!

坂井ノブのUSAズンドコ旅日記





過去にWWEで一回、『PRIDE』で二回、『Dynamite!! USA』で一回と海外出張の経験はあるものの、じつはアメリカでの『UFC』は初めての取材だった私、坂井ノブの『USAズンドコ旅日記』をこちらでご開帳！ UFCの取材でアナハイムに行ったはずなのに、なぜかアナハイム最大の観光地・ディズニーランドへ!? 時差ボケによる睡眠不足のヘンなテンションでお届けする現地でしか得られない生情報、たっぷりとお楽しみください！

文／坂井ノブ　撮影／黒田史夫

★9月20日（木）14時30分 ロサンゼルス到着

※日時はすべて現地時間

「ヘッロウ、アッメ～リカ！」と榊原信行DSE前代表がラスベガスで高らかに宣言してから約11ヵ月。この約1年のあいだに4度目の渡米である。いくらなんでも多すぎだろうと思うのだが、いかんせんアメリカで注目の大会とカードが目白押しなので仕方がない。もはや総合格闘技の世界の中心はアメリカに移ってしまったのだなぁとあらためて思う。

そんな日本の『PRIDE』ファンと関係者の心象風景を現実に重ね合わせて撮影すべく、着いた早々に我々はアナハイムから約10マイル（約16キロ）のところにあるニューポートに繰り出した。アメリカ大陸の西の端、ちょうど太平洋を挟んだ向かい側が日本になる。太陽が沈むと海の中にいたサーファーたちは陸へと引き上げてくる。『PRIDE』という太陽は再び昇るのだろうか？

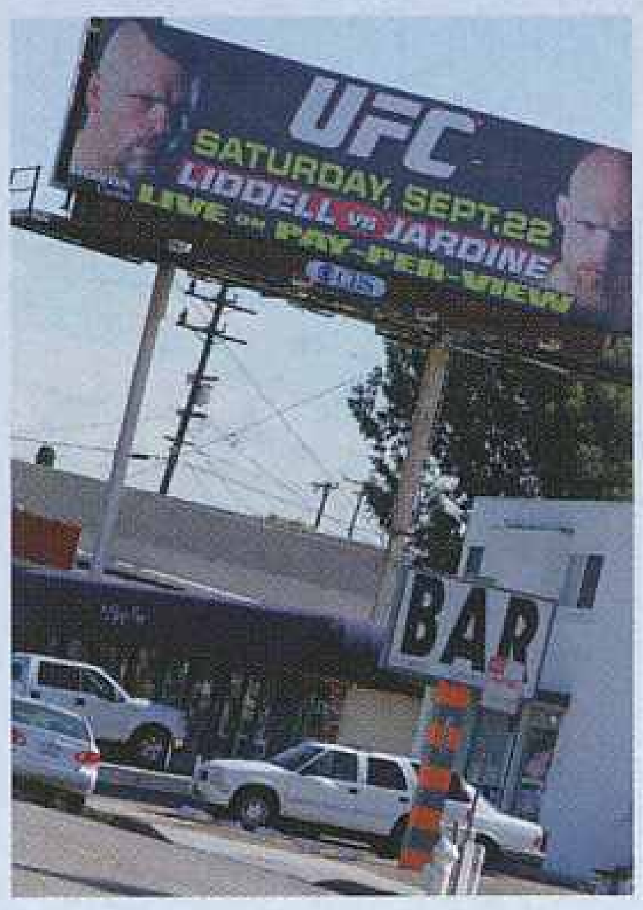


★9月20日（木）21時30分 アイスマンのクールな食事

この日の夕食はホテルの近くのステーキハウスでとっていたのだが、いきなり翌日に公開計量を控えたチャック・リデルが来店。「減量で一番きつい時期なんじゃないか？」と思うのだが、さすがは〝アイスマン〟と呼ばれるほどクールな男である。他のチームのメンバーを大勢引き連れて、他のメンバーが食事を楽しんでいる横で、チャックはわずかな量だけを食べながら黙々と携帯電話をいじっていた。

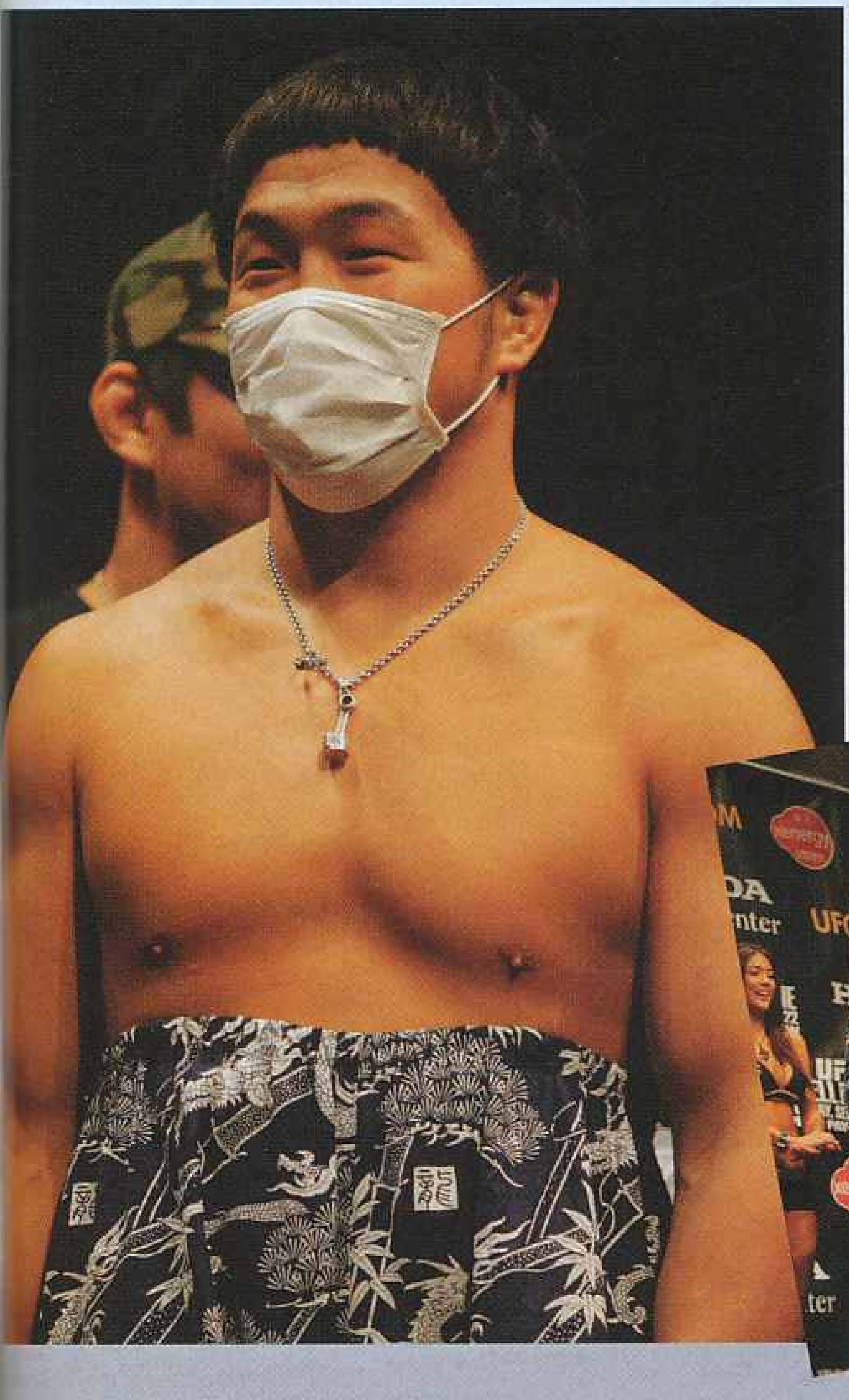
★9月21日（金）11時00分

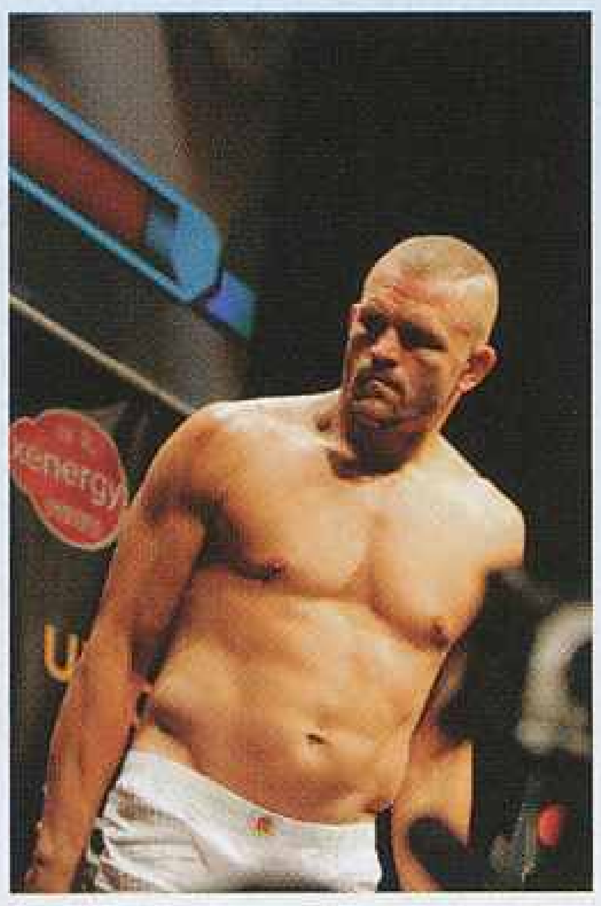
この日の午前中はアナハイムで素材用の撮影を行ない観光名所を次々と巡ってきたのだが、やはり異彩を放っていたのがこのビルボードだ。幹線道路の非常に目立つポイントでドライバーに対して睨みを効かすモヒカン頭のチャック。そして〝黒天使〟沼澤邪鬼のような立派なヒゲのジャーディン。アメリカのMMAブームを象徴する絵であろう。日本人にとっては単なる「チャック・リデルの復帰戦」というイメージかもしれないが、アメリカ人にとってはとてつもなく大きな出来事のようだ。



★9月21日（金）16：00 公開計量の主役はチャック！

『UFC76』を翌日に控えて爆発的に盛り上がるファンの期待感を感じさせてくれたのが、この日の公開計量だった。とにかく一番人気で凄まじい声援を集めていたのはチャック・リデルである。登場しただけでスタンディング・オベーションである。人気はもちろん、リスペクトがなければこういった状態にはならない。ちなみにこの日、コンビニでビールを物色していたら、チャック・リデルがプリントされているビール缶を発見！ こんなところにまでUFC、というかチャック人気は浸透しているのだ。さすがにチャックには劣るものの、ショーグンの人気も非常に高く、アメリカのMMAファンの期待がヒシヒシと伝わってきた。現UFCライトヘビー級王者のクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンにも『PRIDE』で完勝しているのだから当然といえば当然なのだが。そう考えると、いまのUFCファンの熱狂ぶりは、リングス解散後にエメリヤーエンコ・ヒョードルがやってきたり、K―1からミルコ・クロコップが参戦してきた頃の『PRIDE』REBORN」時代の日本のファンの感覚に近いのかもしれない。まだ見ぬ強豪がやってくるときの興奮は世界中どこでも同じなのだ。同じくUFC初参戦の中村和裕は、UFCで連勝中のLYOTOが相手。計量では浴衣のような着物で相撲の土俵入りパフォーマンスを繰り広げた。日本における〝吉田道場の柔くん〟としてのカズからは解放された、非常にのびのびとした姿だった。この大会には『TUF』出身者が多く出場するのだが、やはり『TUF1』の優勝者であるディエゴ・サンチェスとフォレスト・グリフィンも非常に人気が高かった。









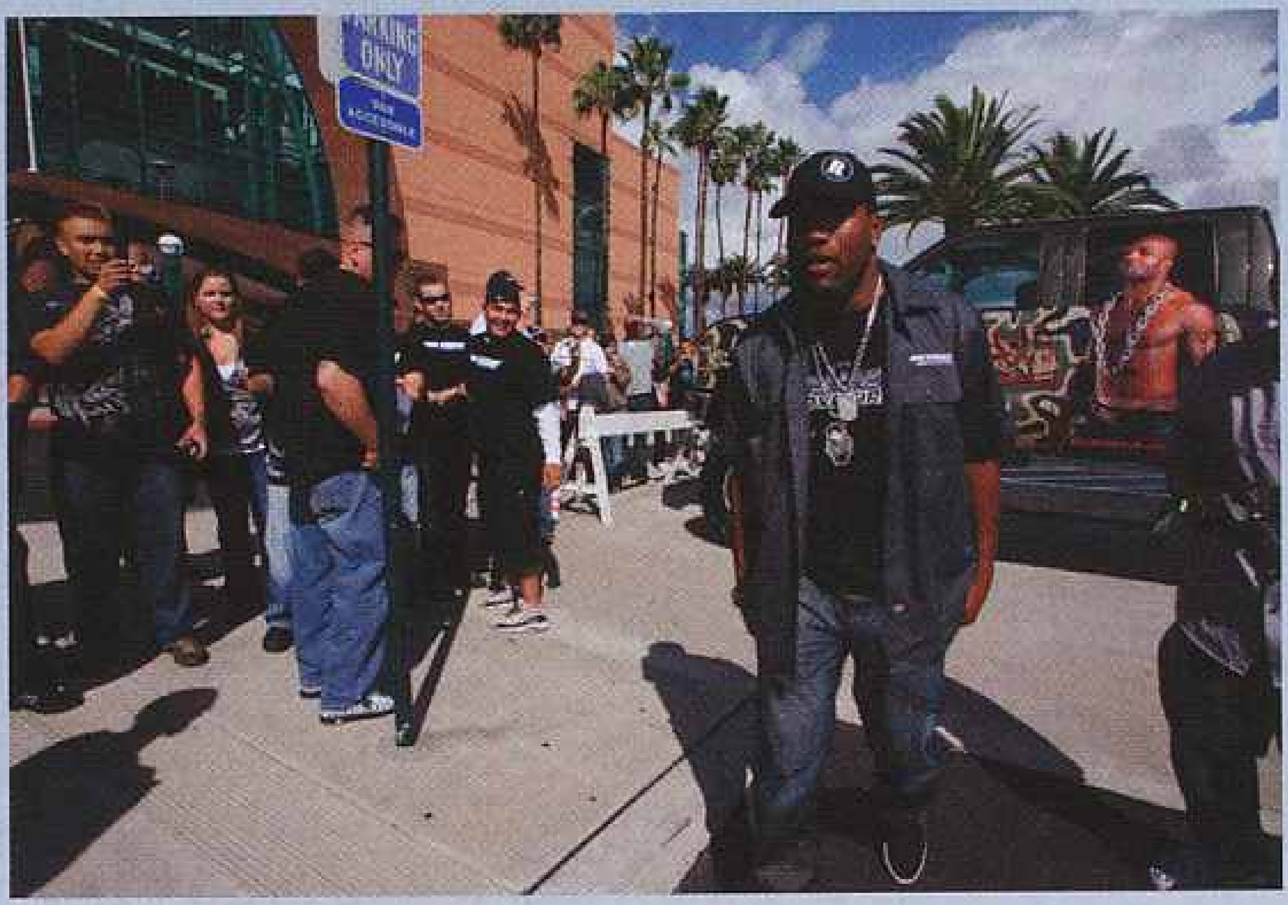
9月22日(土)9時00分 世界最強の朝 ★

時差ボケでよく眠れなかったのだが、ホテルの外ではガッチャンガッチャンと凄まじい金属音がする。外に出てみると、道路を封鎖して「WORLD STRONGEST MAN 2007 ANAHEIM」というコンテストが大々的に開催されていた。道路に並べられた巨大な5本の鉄柱を持ち上げて倒すタイムを競うという、きわめて原始的で頭の悪そうな競技なのだが熱心なファンと見物客で朝9時から大盛り上がり。ルーマニアの国旗を振ってるファンなんかもいて、それなりに国際色は豊かな大会のようだ。ヴァンダレイ・シウバも沿道で見物していた。テレビ収録もしていたので、かなりの人気なのだろう。それにしても世界最強のMMA団体の選手が宿泊するホテルの前で堂々と「WORLD STRONGEST」な番組が収録されているとは、さすがアメリカ！

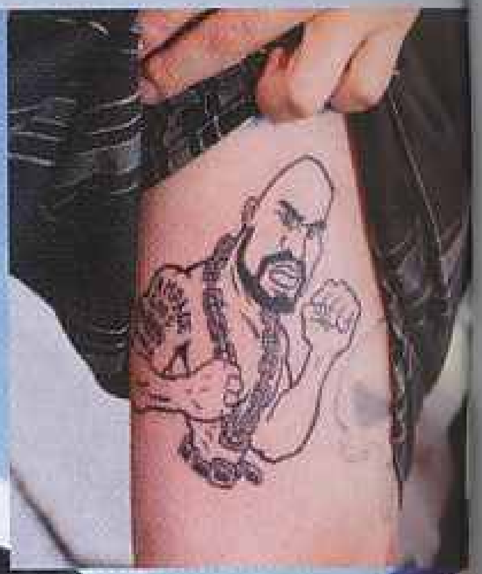
9月22日(土)15時00分 内股にランペイジ ★

会場入りするとき、ちょうどクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンのサイン会が会場前で始まろうとしていた。自分の姿がデカデカとプリントされたいかついピックアップトラックで乗りつけたランペイジ（写真右下）はゴキゲンでファンとの交流を楽しんでいたのだが、ランペイジ人気を支えるファンもまた非常に強烈なのだった。このモヒカン頭の白人青年は行列の先頭に並んでいたのだが、なんとズボンをまくり上げて内股にあるタトゥーをアピールしていた。よく見てみると、そのタトゥーはランペイジの似顔絵！（写真右）。しかも、このイラスト！

しかし、誇らしげにタトゥーを見せてくれた彼には一点の曇りもない。それほどまでにアメリカでのランペイジは強烈な存在なのだ。内股に一生消えないランペイジを彫る覚悟とは、どれほどのものなのか？ 日本人にはなかなか想像しえない感情だけにあらためてアメリカの凄さを思い知らされた次第である。





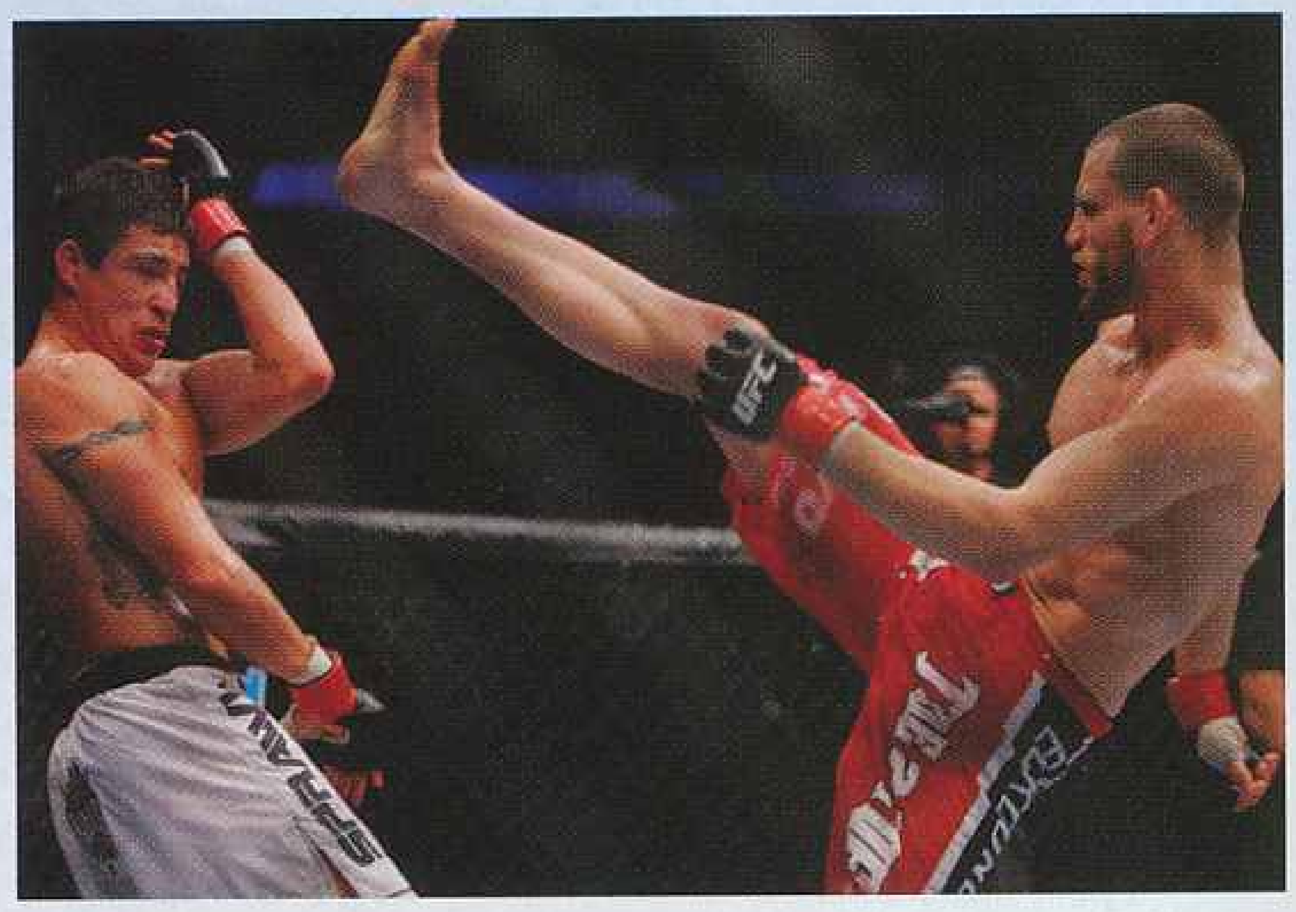


9月22日(土)17時30分 X—1最強伝説再び…… ★

この日の第2試合に登場したクリスチャン・"ザ・ハンガリアン・ナイトメア"・ウェリッシュ。この名前を聞いただけでピンとくる人は相当なWJマニアだ。03年に行なわれた伝説的な金網VT大会『X—1』に出場したウェリッシュは、現・三冠ヘビー級王者である佐々木健介と激闘を繰り広げている。このイベントの選手ブッキングをブライアン・ジョンストンが担当していた関係で、サンノゼのAKAから送り込まれたのだ。この試合でウェリッシュは凄まじいタックルで突っ込み健介をテイクダウンしようとしたのだが、健介もパンチで応戦！ 拳を折るという重傷を負いながらも最後はフロントネックロックで激勝している。

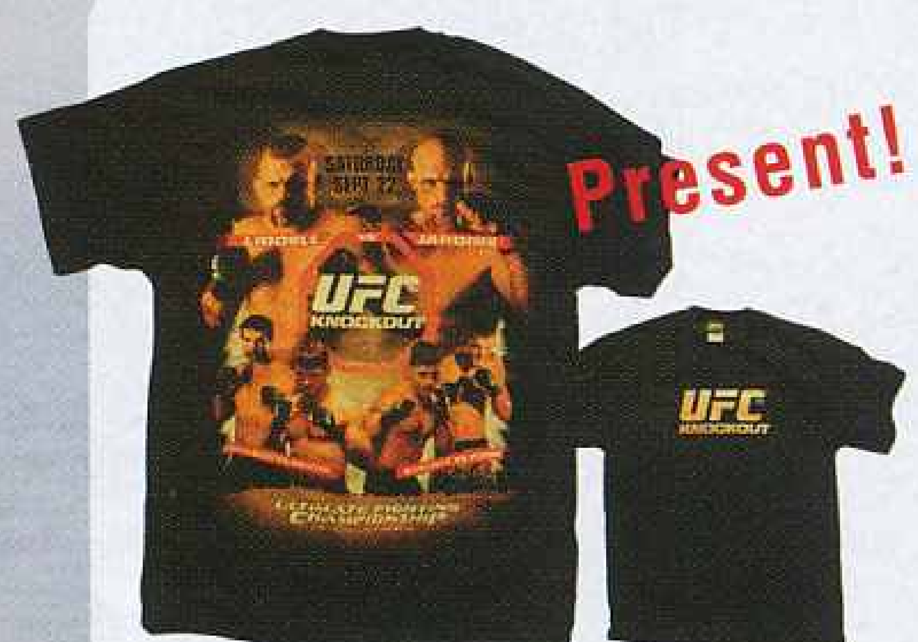
あれから丸4年の歳月を経て、ウェリッシュは立派な強豪になっていた。対戦相手のスコット・ジャンクの剛速球のようなフックを食らいながらも、まるで健介戦のときのように必死に組みついてヒザを叩き込み、足を取ると電光石火のヒールホールド！（写真上）。見事にタップを奪ったのだった。総合格闘技の世界ではなかなか三段論法は通用しないが、つまりは「健介もUFCヘビー級で通用する可能性は充分にある！」ということだろう。アメリカで総合格闘技が台頭するいまこそ、健介はUFCに出るべきではないのか？ ちなみに、この日『TUF1』優勝者のディエゴ・サンチェスにほとんど何もさせずに完勝したジョン・フィッチ（写真右）もX—1に出場したファイターだ。かつては「日本帰りのプロレスラーは出世する」と言われた時代があったが、いまは「X—1ファイターは出世する」といったジンクスが形成されつつあるようだ。いよいよタイトル挑戦も目前と言われているフィッチからも、日本のWJファンは目が離せないはずだ！





9月23日(日)1時00分 闘い終わってパーティタイム！ ★

全試合終了に会見などがあり、選手もマスコミ関係者も続々と撤収していく。試合のあった選手も、試合のなかった選手も、セコンドも、関係者も、選手目当てで声をかけまくるアリーナラットちゃんのような女の子も、皆が続々とホテルのバーに集まってくる。エントランスまで人が溢れ出したため、警備員が配置されてごつい男たちをバーの中に押し込めたようだ。きれいなおネエさんがいっぱいいるゴージャスな光景に背を向けて、部屋に戻っていまはこの原稿を黙々と書いている。あ〜っ、ビール飲みたい！ ……と思って部屋の中を物色してたら、昨夜買ったチャックの印のビールが一本出てきた。一人寂しく乾杯するには最高のビールじゃないか！ ありがとう、チャック！



激レア！ アメリカMMA台頭の波に乗り遅れるな！『UFC76』大会記念Tシャツ(Lサイズ)を1名様にプレゼント！ 応募方法は110ページを参照!!

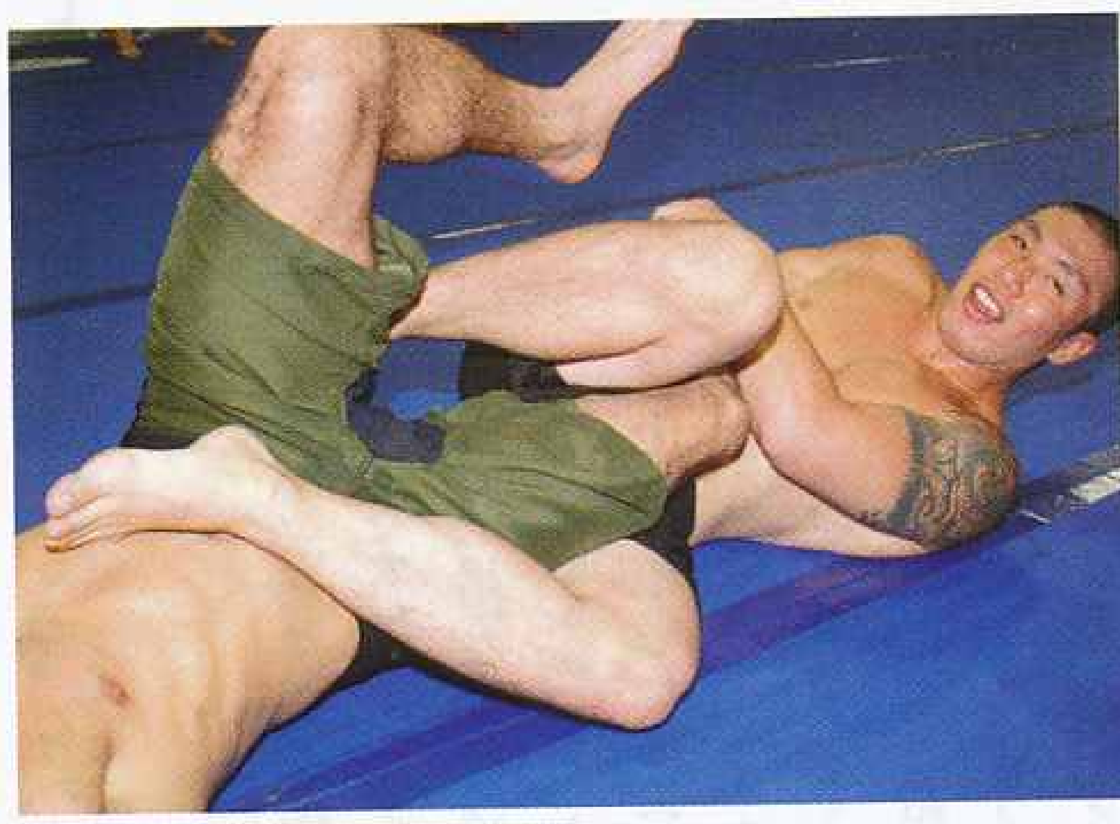




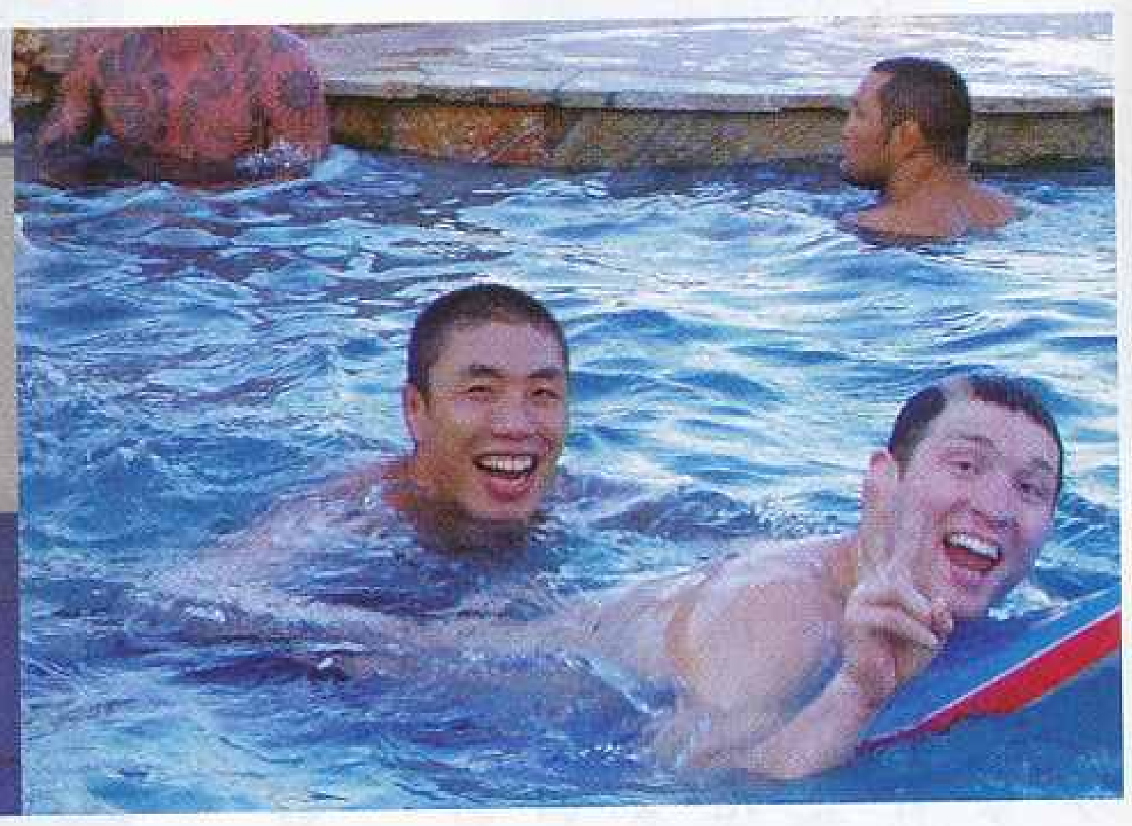
公式発表はまだです!!

UFC参戦間近のピラニアがアメリカの魅力を語る!

「なぜUFC?だって世界一のイベントですよ!!」







ピラニアのアメリカ大好きインタビュー!

長南亮

聞き手/ジャン斉藤　撮影/菊池茂夫　写真協力/チーム・クエスト

以前のダンたちは近くの体育館を間借りして練習していましたけど、いまは……

すでに海外メディアでは報じられており、本誌携帯サイト『kamipro Hand』でも取り扱っているが、"殺戮ピラニア" 長南亮のUFC参戦が秒読みに入っている。『PRIDE』ウェルター級（83キロ以下）戦線では苦杯をなめたが、UFCではベスト体重である77キロ以下での挑戦になる。

長南といえば、2年前から頻繁にチーム・クエストへ "海外出稽古" を続けており、海外のMMA熱を肌で感じている選手である。「日本のMMAを守れ!!」というムードが高まる昨今だが、一歩外に出ればアメリカンドリームが転がっているのも一つの現実だ。クエスト帰りの長南からアメリカの空気を感じてもらいたい！

——今回もダン・ヘンダーソンの家に居候していたんですか？

長南　いや、今回は初めてライアン（チーム・クエストのマネージャー）のところに泊まりました。ダンの家には先客が二人もいたので。前にK−1に出ていたヨルゲン・クルトと、ダンのムービーを撮る人間が泊まっていたんですよ。

——ダンヘンのムービーですか？

長南　どうやらダンのプライベート映像を撮って、You Tubeで流してるみたいなんですけど。

——へえ～。それはYou Tubeに流すためだけに撮っているんですか？

長南　なんなんですかね。自分もその映像に少し出てるんですけど、よくわからないです（笑）。たぶん宣伝のためだと思いますけど、You Tubeで「QUEST FOR THE BELT」とか「QUEST MMA」で検索すればヒットしますよ。たしか4つぐらいエピソードがあって、スポンサーに車をプレゼントされたとか、子どもが生まれたエピソードとかがあって。

——いろいろやってるんですね、ダンのところは（笑）。

長南　いまはかなりにぎやかになってますね。ライアンのところにも、前に『PRIDE武士道』にも出たことがあるソア・パラレイとか選手が3～4人泊まってましたし。あとライアンには奥さんや娘もいるから。

——あ、家族がいるんですか。それはけっこう大変ですね、ライアンも（笑）。やっぱり宿泊費やトレーニング費用とかのお金は払うんですよね。

長南　どうなんですかね～？

——長南さんは払ってない（笑）。

長南　ほかの選手は払っているかもしれないですね。自分は払ってないです（笑）。自分の場合はダンが『PRIDE』のチャンピオンになったり、ソクジュが有名になる前から一緒に練習してるんで。「チョーナンはファミリーだからお金はいらない!!」って言ってくれるんですよね。

——そこには一緒に苦労を分かち合ってきた仲間だという意識が強いんでしょうね。長南さんがクエストで練習されたのって、近くの体育館を間借りしていた時代からですよね。

長南　そうです、そうです。あのレスリング場でやっている頃からだから。管理人に「今日はおまえたちの番じゃない！」って追い出されたり（笑）。

——ダハハ！『PRIDE』ファイターが体育館を借りて練習しているのも、なんだか凄い話なんですけど（笑）。

長南　いまや（クエストは）ちゃんとした立派なジムがありますけど。一般会員も300人以上もいるし。

——300人も！　けっこう開けた町なんですか？

長南　いや、全然。ただ、わりと通いやすいらしいですよ。あと日本と違うのは、アメリカの人間は「まずはやってみよう！」ってなるんですよね。

——身体で体感しないとピンとこないところはありますよね。ところで、ソクジュっていま何をやってるんですか？

長南　9月中旬に日本で試合をする予定があったみたいで、ダンと一緒にハードな練習してましたね。結局、試合があったのはダンだけでしたけど。

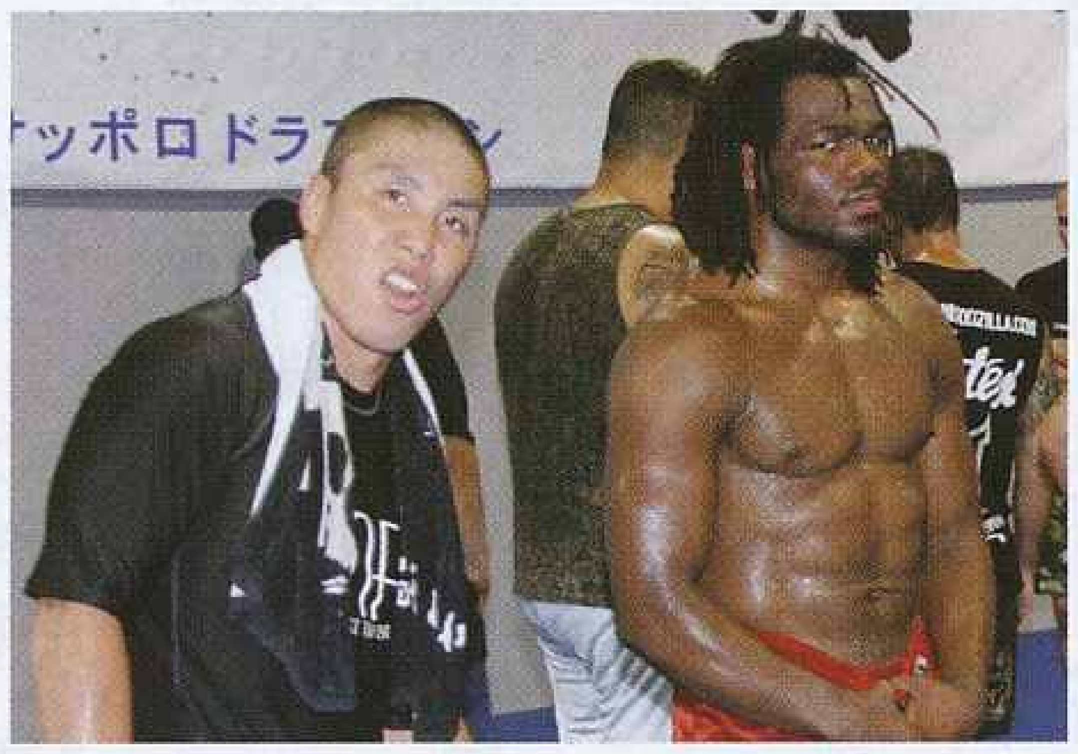
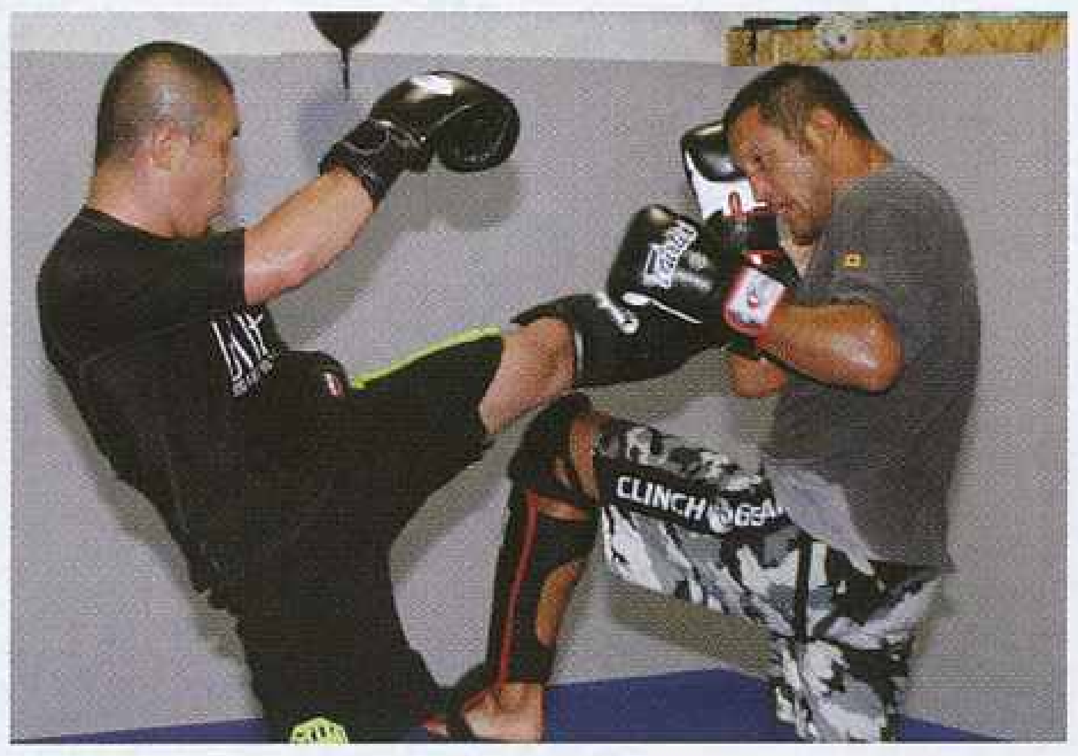
——先日のUFCロンドン大会。ダンは負けましたけど、ランペイジをかなり追い詰めましたね。

長南　そうですね。勝てると思ったんですけど、まあ、ランペイジも強いですし、またチャンスはあるでしょうから。（UFCのライトヘビー級には）ほかにもヴァンダレイやチャック・リデルとかも絡んで、これからさらにおもしろくなるし、そういう意味では次につながる結果だと思いますけどね。

——ビックリしたのは、ダンのオクタゴンへの対応力の高さなんですよ。まるでUFCのすべてを熟知したベテランファイターのような闘いぶりで。

長南　まあ、もともとダンのMMAデビュー戦はブラジルのケージ大会ということもありますし、それにダンは自宅のオクタゴンで充分に練習してきたんで。

——え？　ダンの家にはオクタゴンがあ


ランペイジ戦を控えたダンヘンと打撃スパーに励む長南。ソクジュも9.17『HERO'S』に照準を合わせて練習していたようだが、どういうわけか出場は立ち消えに。やはりファイトマネーで折り合いがつかず？　ジャングル大帝はまださまようのだろうか……!?

南亮

ダンの家にはUFCと同じサイズのオクタゴンがあるし、ジムもある

るんですか？

長南　UFCと同じサイズのオクタゴンが家にあるんですよ。最近、置かれたばっかで自分も（設置を）手伝ったんですけど。

――ミルコには、UFCのオクタゴンを作っているメーカーが宣伝も兼ねてプレゼントしたらしいですけど……。

長南　それって、「スローダウン」というメーカーですかね？

――なんかそんなような名前でしたかね。

長南　たぶん、ダンもそこからプレゼントされたみたいですね。

――しかし、いくら家が広いからってオクタゴンがあるのは凄いですよね。一家に一台じゃないんですから（笑）。

長南　しかもフルサイズですからね（笑）。庭では馬を飼っているし、プールもあるし、おまけにジムを作っちゃったんですよ、家の敷地内に。

――もうまったく意味がわかりません！（笑）。で、どうですか？　実際にオクタゴンで練習してみた感想は。

長南　わりとイメージどおりでしたね。吉田道場の壁を使って練習してきたとおりだなって。むしろ、リングよりやりやすい部分が多かったです。

――どんなところがやりやすいんですか？

長南　まずコーナーに追い詰められない。だから身体の入れ替え方次第では、常に動いていられるんです。それと逃げ方ですね。レスリング系に上になられてもケージを使ってなんとか逃げられる。あとは実際に試合してみたらどんな感じかなあっていう。

――でも、長南さん。ツイているという言い方はへんかもしれないですけど、体育館を間借りして練習していたチームが、いまではちゃんとしたジムもあって、オクタゴンまである（笑）。ファイターからすれば、かなり理想的な環境ですよ。

長南　日本より断然、環境はいいですよ。メシを食っているか、練習してるか、寝てるかですからね。本当に集中してでトレーニングができますね。

――で、いまの目標はUFCになるんですよね。あたりまえですけど。

長南　そうですね。まだ詳しくは言えないですけど、前向きに交渉中です。まあ、『PRIDE』がこうなる前から、自分のベスト体重である77キロでやりたい気持ちは強かったんで。

――昨年の『PRIDEウェルター級GP』終了直後に階級転向を表明されてましたよね。

長南　どうしても83キロでは難しいなって。ほとんどの外国人は90キロから落としてきますから。そうなるとどうしてもパワー負けしちゃうから、こっちはかわしてかわしての攻撃になっちゃうんですよ。でも、自分は真正面から闘いたいんです。

――その攻撃精神を保つためにもベスト体重でやろう！　と。

長南　その階級の強い選手はやっぱりUFCにたくさんいますから。だから舞台云々じゃなくて、誰と闘いたいという気持ちもあって。マット・ヒューズとかジョルジュ・サンピエールとやってみたいとずっと思っていたんで。

――日本のプロモーションには目が行かないんですか？

長南　DEEPの76キロ級はやってもいいかなとは思ってたんですけどね。そこはもっと直感的な感じというか……、チャンスがあるなら普通にやってみたくなるじゃないですか、UFCなら（笑）。

――まあ、そうですよね（笑）。長南さんは昔からUFCのことを口に出されてましたけど、ボクはあの六本木会見のUFCエピソードが大好きなんですよ。

長南　『PRIDE』がロレンゾ・フェティータに売られることになったとき。

――会見場のバックステージで『PRIDE』の選手たちと、ロレンゾ・フェティータやダナが初対面して。そこでダナが『誰かUFCに出たいヤツいないのか？』って挑発気味に聞いてきたけど、その前に榊原代表の神妙な挨拶があったばかりだから……。

長南　相当、空気が重かったんですよね。さすがに「はい！」って手を挙げられる雰囲気じゃない。でも、自分は思わず名乗りを挙げちゃったんですよ！（笑）。

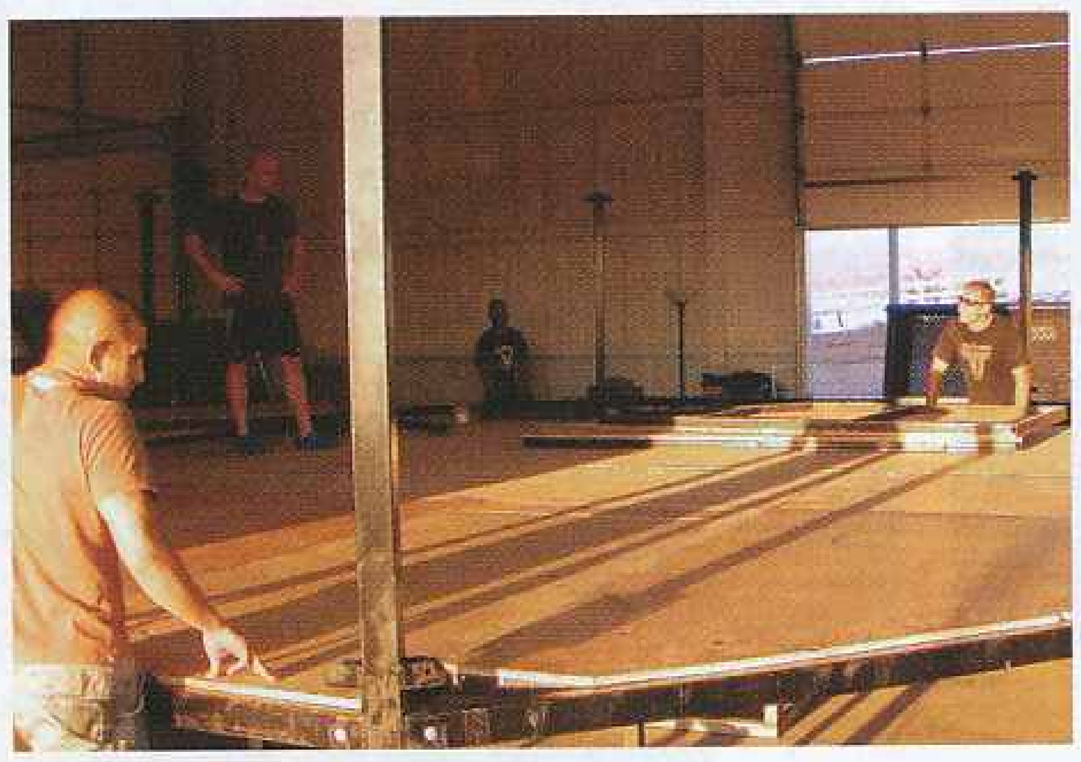
――ダハハハハ！　しかも一人だけ（笑）。

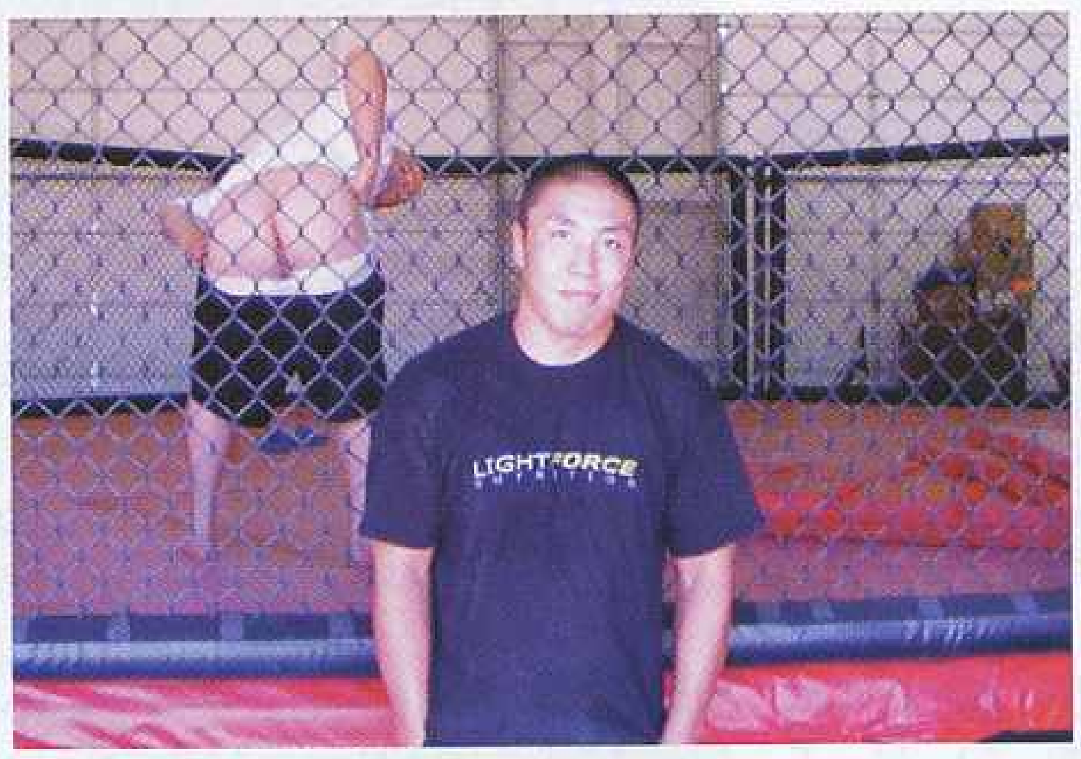
長南　周りもビックリして、ダナは苦笑いしてましたけどね（笑）。でも！　自分は前からUFCには出たいと言ってきたわけだから、そこで手を挙げなきゃ自分にウソをつくことになると思って。

――それにしても正直すぎますよ！（笑）。で、UFCサイドの反応はどんな感じなんですか？

長南　けっこういいオファーを受けてます。ライアンにも話を聞いてみたら、「それはいい話だよ！」って。最初はちょっとケチなんじゃねえかと思ったところはあったんですけど（笑）。

――まあ、景気のいい話が飛び交ってますからね（笑）。







ダンの家にフルサイズのオクタゴンが届けられたが、業者の到着が遅れたため、クエスト勢がさっそく組み立て！　大工のバックボーンを活かして長南も活躍!?　うしろでケツを出しているのはクエストのマネジャー、ライアンだ。

長南　そう。『PRIDE』の外国人選手に対する接し方と比較すると、「アレ？」って感じで。

――思ったよりUFCの条件が良くないから、参戦に二の足を踏んでいる日本人選手も多いとか。

長南　周りの日本人選手も同じことを言ってるんですよね。「あの条件はないよな」って。自分も最初はそう思ったんです。けど、これは試されているんだと考え直したんですよ。結局、いい条件だろうが負けたら終わりですし。

――連敗すると、UFCは契約を残っていても打ち切ることはしょっちゅうあるそうですね。

長南　そこはちょっとリスキーではあるんですけれども、結果を出せば必ず評価してくれるというか、そこは試されてるんだと思います。それに最初から条件を求めてもしょうがないし。

――プロだから待遇にこだわるとはいえ、そこに全力を傾けてもしょうがないという。

長南　そうですね。最終的には勝てばいいんですよ。UFCは勝つのと負けるのでは差が凄いですから。そういう部分での緊張感も楽しめるかなって思います。

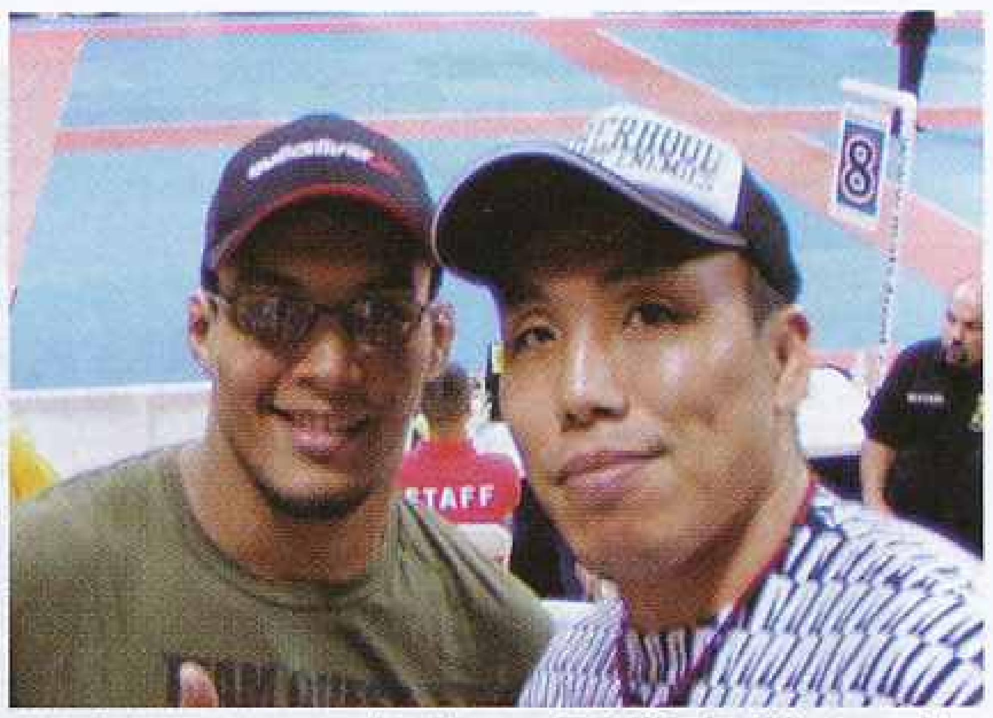
――なるほど。頭は完全にUFCモード。日本のことを考える余裕はなさそうですよね（笑）。

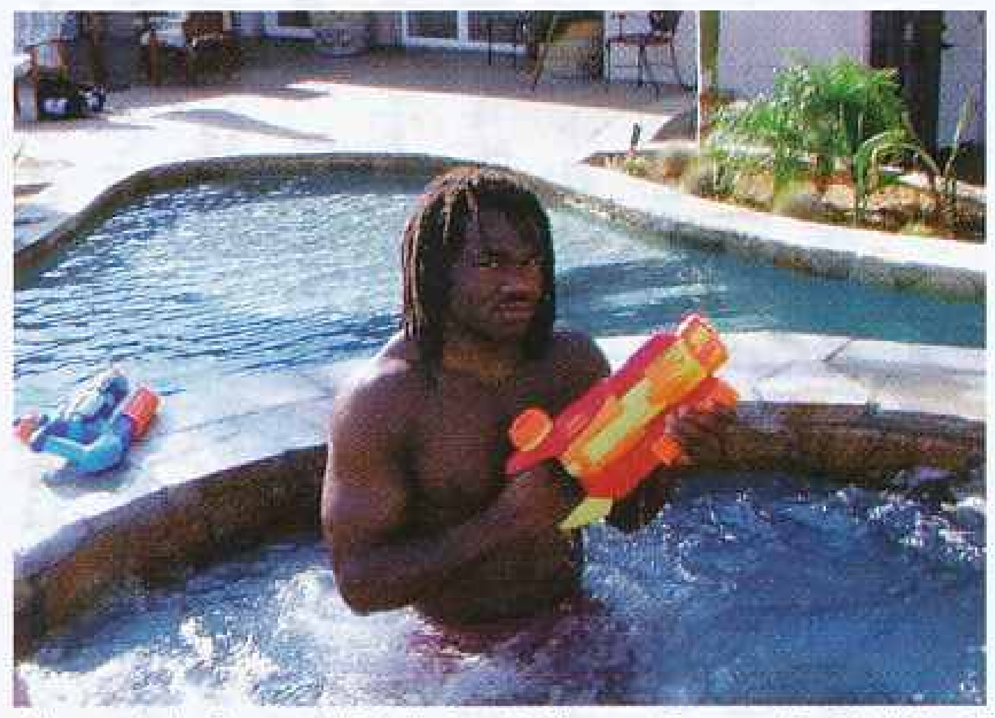
長南　あぁ……。日本は『HERO'S』に頑張ってほしいですよね、いまとなっては。『HERO'S』の権威が凄く上がってくれればいいですよね～。

――なんか、もの凄く他人事ですね（笑）。誌面だとわかりづらいかもしれないですけど。

長南　そんなことはないですよ！（笑）。


ライアンの家でダンヘンが保持するPRIDEのベルトを発見!! 腰に巻いてリングに上がる日は来るのか……!?


LAで行なわれた8.28ブラジリアン柔術世界選手権（ムンジアル）へ。クエストの柔術コーチのベニーは3位。


ダンの自宅プールで休憩中のソクジュ！『PRIDE』のキリンブームが遠い昔のことのようだ……。

長南亮

PRIDEはいつやるのかわからないから、ほかで闘うしかない

最近の『HERO'S』はおもしろそうですし、前より全然、格闘技っぽいですし。でも、自分が出るわけじゃないですからね。自分はアメリカで頑張ればなって思います！（笑）。

――心は完全にアメリカですねぇ（笑）。

長南　それにUFCはいったん契約しちゃうと、ほかのイベントには出られないんですよ。やりたくても日本で試合ができなくなっちゃうんで。

――でも、そういった独占契約があるからアメリカにしか目が向いていないわけじゃないんですよね。

長南　そうですね。だって世界一のイベントに出られるチャンスなんですよ!! 挑戦したい気持ちは当然ありますし、そこで躊躇はしませんよ。

――そこはファイターのやりがいというか達成感を求めているわけですよね。

長南　そうですね。自分は強くなりたいから練習をしているし、闘ってるんですよ。結局、別のイベントに出てもそこがナンバーワンじゃないんなら、全然燃えませんよね。なんのためにやっているのかわからない。自分からすればそのイベントが儲かってるか、儲かってないかとかはどうでもよくて、あくまで競技レベルで判断したいんです。で、間違いなくいまのナンバーワンはUFCなんですよ。そのステージに挑戦したい気持ちはやっぱりあるし、挑戦できる立場にあるなら、そこはビッグチャンスですよね。それに年齢的にももう何回もチャンスはないと思うんですよ。だからいまが勝負のときかなって。

――そういえば、ちょっと前にイギリスのケージレージが「長南亮が出場する」と発表しましたけど、あれはなんだったんですかね。

長南　ああ、そんなガセネタが流れてましたね（笑）。そのときダンのところにいたんです。そうしたら仲間から「おまえ、ケージレージに出るのか？」みたいなことを聞かれて、対戦相手の名前も知らされました。

――外国のファイターってウェブ系の情報を簡単に信じちゃうんですね。

長南　たまたま本人がいたんでよかったですけど（笑）。まあ、ケージレージはともかく、実際にいろいろオファーはありますけどね。

――いまだ再開の音沙汰がない新生『PRIDE』から何か話はないんですか？

長南　とくにはないですよね。まあ、いつやるのかわからないのにじっと待っててもしょうがないですから。生きていくためにもほかで闘うしかないですから。

――長南さんは『PRIDE』との契約は残ってなかったんですよね。

長南　そもそも自分は常に単発契約だったんです。それは次の保証がないけど、自由にいろいろできるよさがありますよね。あと、自分の場合はいつも筋を通してやってきたところはあると思うんですよ。だからいま自由にやることにうしろめたいことは何もないです。まあ、各方面から「ウチに出てほしい」とかオファーをもらえるのは本当にありがたいことです。でも、いまはUFCを目指したいですね。

――ただ、残念なことにいまの日本だとUFCが観られないんですよね。

長南　なんかネットで観られるみたいですね。5000円ぐらいで。

――UFC.comですよね。でも、UFCの熱気がダイレクトには伝わってこない現状があるんですが、アメリカにいるとMMAブームの熱は感じます？

アメリカでのMMAファイターの権威の高さをメチャクチャ感じます

長南　それはもの凄く感じますよ！

——そんなに感じますか！

長南　MMAファイターの権威が凄く高くなってて、たとえばソア・パラレイが一般人に「このチョーナンは今度UFCに出るんだよ」って紹介すると、もの凄く驚かれるんですよ。「ええ？　あのUFCに⁉」って。

長南　そんな感じです（笑）。おまけにアンデウソン（・シウバ）に勝っているとかつけ加えられると、さらにビックリされちゃって。「おまえ、なんなんだ⁉」「フライング・ヒールフックで勝った？　なんだ、そりゃ⁉」みたいな感じで大騒ぎになって。

——アンデウソンですらそこまで有名なんですか！（笑）。

長南　みんなアンデウソンとまたやってくれって言いますね。こっちは階級を落とすんだけど（笑）。

——それはMMAというよりUFCの権威が凄いんですか？

長南　UFCが凄いんでしょうね。でも、ストライクフォースだのエリートXCだの、ほかのイベントもテレビでやってますから。だからみんな頻繁に目にすることが多いんじゃないですか。

——じゃあ、MMAは文化として根づきつつあるんですね。

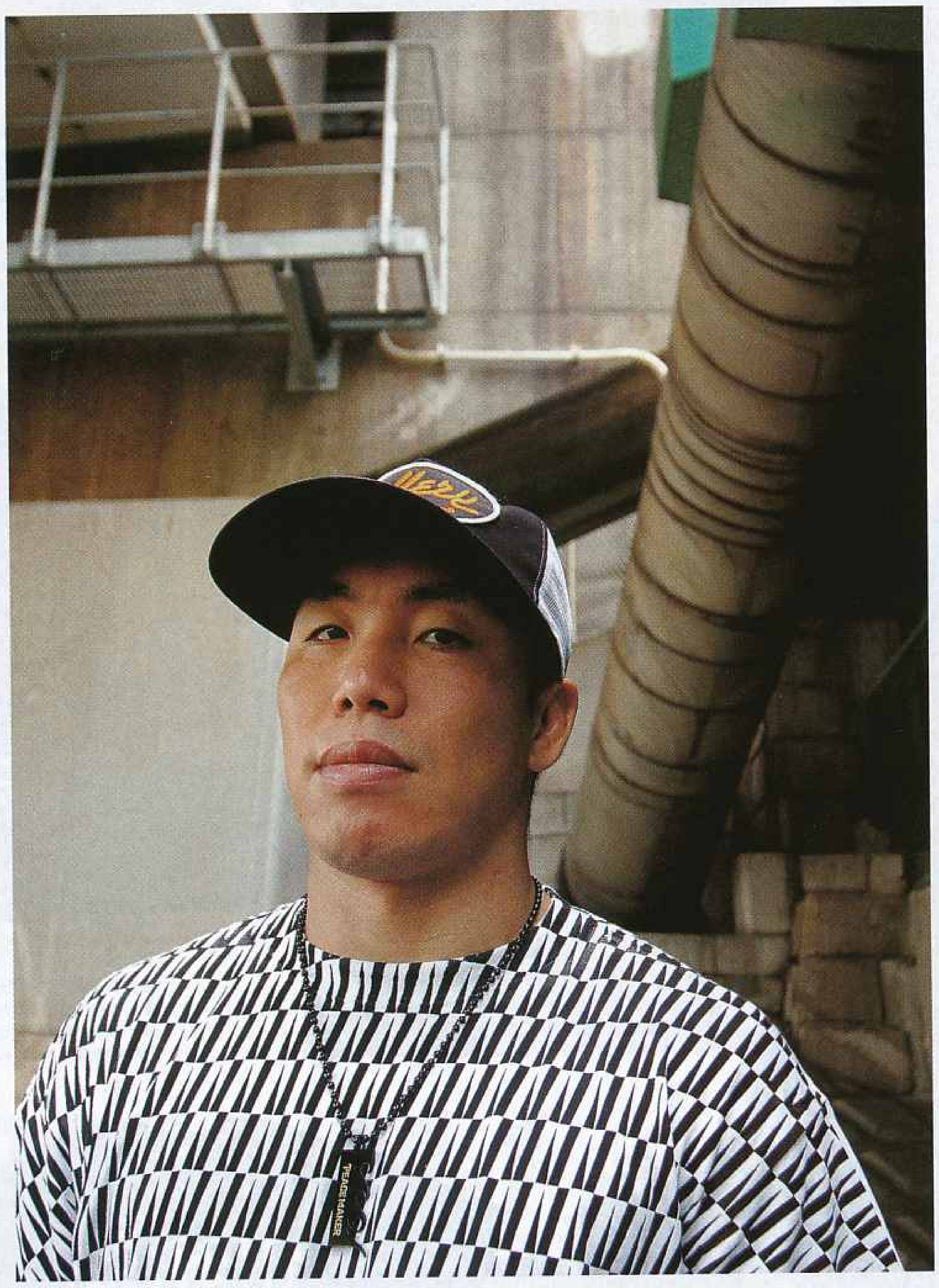
長南　一番凄かったのは、ソア・パラレイが運転する車でダンの家に練習に行ったときのことですね。その車がテールランプのライトが切れててパトカーに停められてたんですよ。で、ソアは国際免許を持ってないからナーバスになってビクビクして慌てちゃって。近づいてきた警官への第一声が「俺たちはダンのところで練習してたんだよ！」ですからね（笑）。

——ダハハハ！　何を言いだしてるんだ（笑）。

長南　あいつはどこでもファイターをアピールしようとするんですよ。メシを食ってる隣のおばちゃんにも「俺はファイターだ！」とか話をしたり。で、その警官にもとにかくファイターであることをアピールしたら、警官も警官で「あのダン・ヘンダーソンのところで練習？　そいつはクールだ！」って驚いて。

——それで通用するんですか？

長南　それが通用するんですよ！（笑）。



ちょうなん・りょう■1976年10月8日、山形県出身。DEEPでプロデビュー。桜井“マッハ”速人を破り一躍有名に。その後、『PRIDE武士道』のリングで活躍。アンデウソン・シウバを飛びつきヒールホールドで極めてみせたのは、ウェルター級でも屈指の名シーンだ。175cm、77kg。

——ダハハハ！　いいのか、そんなことで（笑）。

長南　警官は「ダンはクイントンと今度試合だな」とか食いついてきて。結局、15分も格闘技の話をして「気をつけろよ！」みたいな感じでそのまま帰してもらったんですけどね。

——凄いですね。そりゃあ実感しますよね（笑）。でも、ダンってUFCに出るのはひさしぶりでしたよね。そんなに知名度はあるんですか？

長南　UFCはプロモーションも早い段階でいろいろやってるんじゃないですかね。

——事前でもそこまで知れ渡るものなのかあ。長南さんもUFCとの交渉がまとまれば、アンデウソンを極めた映像がバンバン流れるんでしょうね。

長南　そうなんですかね。

——UFCにはあんなミラクルなフィニッシュシーンはないですし。UFCのロンドン大会でも、ダンヘン、ランペイジ、ミルコ、ノゲイラの『PRIDE』名シーンがメチャメチャ流れてたみたいで。

長南　切れ味の鋭い倒し方はやっぱり『PRIDE』のほうが多いですからね。UFCはヒジで残虐にガンガンガンやったり、ストライキングが多いですから。

——これからアメリカで声をかけられるケースが増えそうですね。

長南　いまでもありますね。アメリカで声かけられたりするとちょっと嬉しいです。異国の地でも観てくれてるんだって。あと、もうアメリカに住もうかなって考えてるんですよ。

——そうか。そっちのほうがいろいろと面倒はなくなりますね。

長南　そうなんですよ。練習や試合のたびにいちいち日本とアメリカを行ったりきたりする必要もないですし。さっきも言いましたけど、練習環境はアメリカのほうが全然いいですし。

——じゃあ、奥さん（長南彩子）も一緒に移住ですか？

長南　いや、置いていきます！

——ダハハハ！　とことんアメリカに夢中な長南さんでした（笑）。

【07年9月6日／都内某所にて収録】

Special PRESENTS

読プレ……ヤバイ!

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(賞品は10月21日以降発送予定です)。

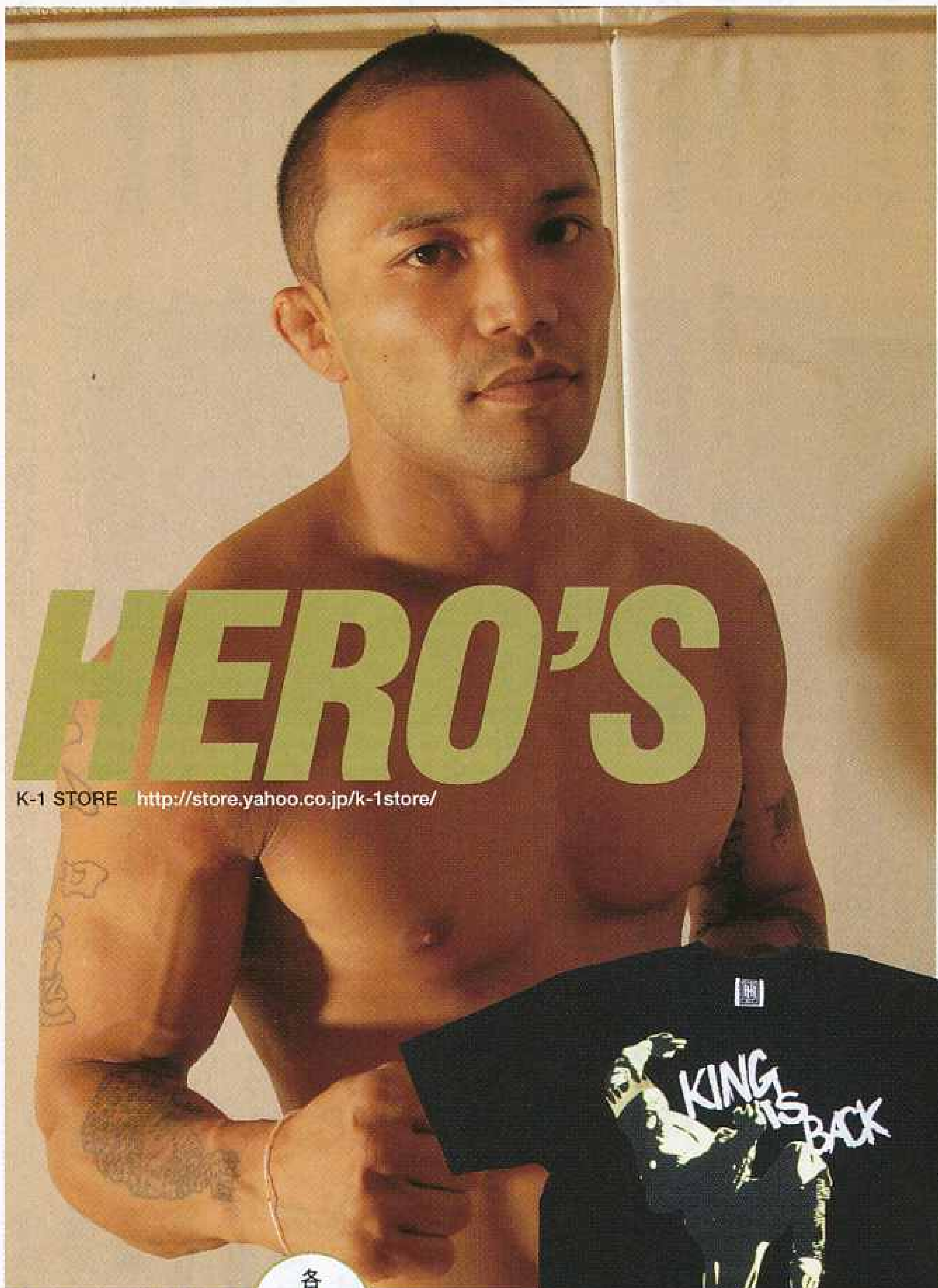
【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦今後の『HERO'S』に望むことは?⑧こんな夢の対談が読みたい!

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「シャワーを浴びて～♪」係まで

※締切は2007年10月20日(土)当日消印有効

kamipro Special 応募券 入浴! 入浴!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!



HERO'S

K-1 STORE http://store.yahoo.co.jp/k-1store/



1名様

J.Z.カルバン "家族愛 55" Tシャツ

[ブラック／¥5,040(税込)]

合い言葉は"家族愛"! ミドル級トーナメント2連覇のJ.Z.カルバンのTシャツは自身がデザイン監修したもので、"55"はブラジルの国番号。この男、"郷土愛"も忘れていない。



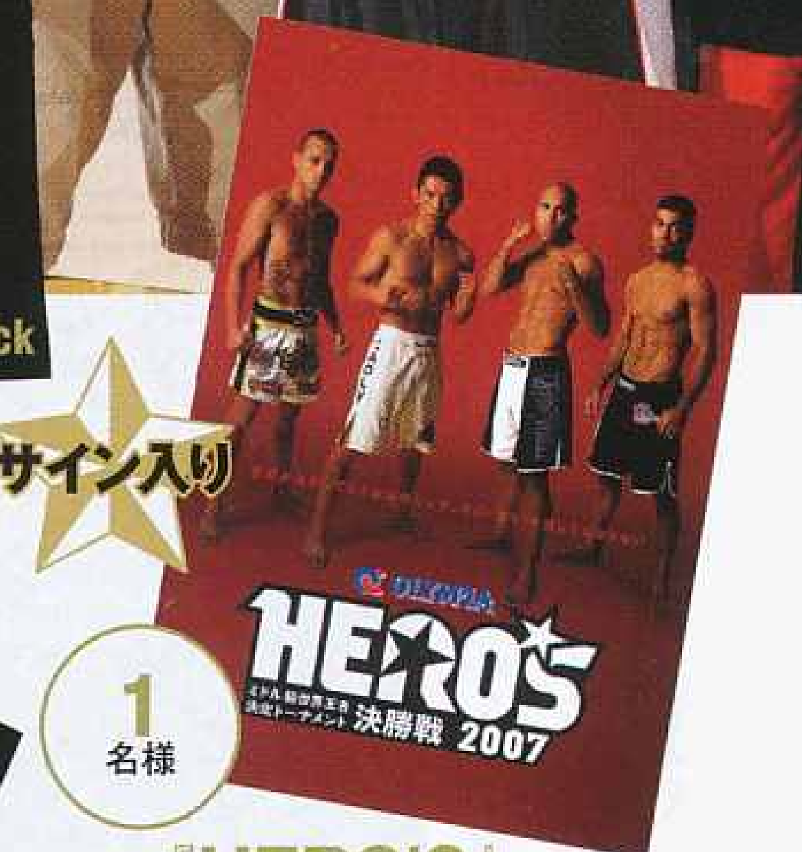


各1名様

山本KID徳郁 HARD HIT "KING IS BACK" Tシャツ

[ブラック、ホワイト／¥6,000(税込)]

「なぜなら、俺だから!」とあのKID節がついに帰ってきた。約9ヵ月ぶりに総合マットへと復帰した"神の子"を祝して、新作となる"KING IS BACK"Tシャツが堂々の登場だ。



1名様

『HERO'S』大会パンフレット

[¥2,100(税込)]

表紙にトーナメント出場選手がズラリ! 9.17『HERO'S』のパンフを"王者"カルバンのサイン入りで。谷川代表の"PRIDEっぽい"(?)インタビューも掲載。

DVD

1名様

クエスト http://www.queststation.com/



『ビビアーノ・フェルナンデス ブラジリアン柔術スーパーテクニック』

[74分／¥5,880(税込)]

KIDを苦しめた"柔術戦士"ビビアーノ・フェルナンデスの柔術テクニックが満載。「自分のすべてを見せた」と豪語する、初の教則DVDがコレ。

セットで1名様



Tシャツ
[レモンイエロー／¥4,095(税込)]

フェイスタオル
[レモンイエロー／¥1,890(税込)]

メッシュキャップ
[グリーン／¥2,625(税込)]

桜庭和志 "Laughter39"

「入浴! 入浴!」と入場前のミュージックビデオ効果か? 9.17『HERO'S』の柴田戦で快勝した桜庭の新作シャツ&キャップ&タオルが到着。"Laughter"なグッズで、君も笑いながら歩こうぜ!

各1名様



HERO'S "ICON" Tシャツ

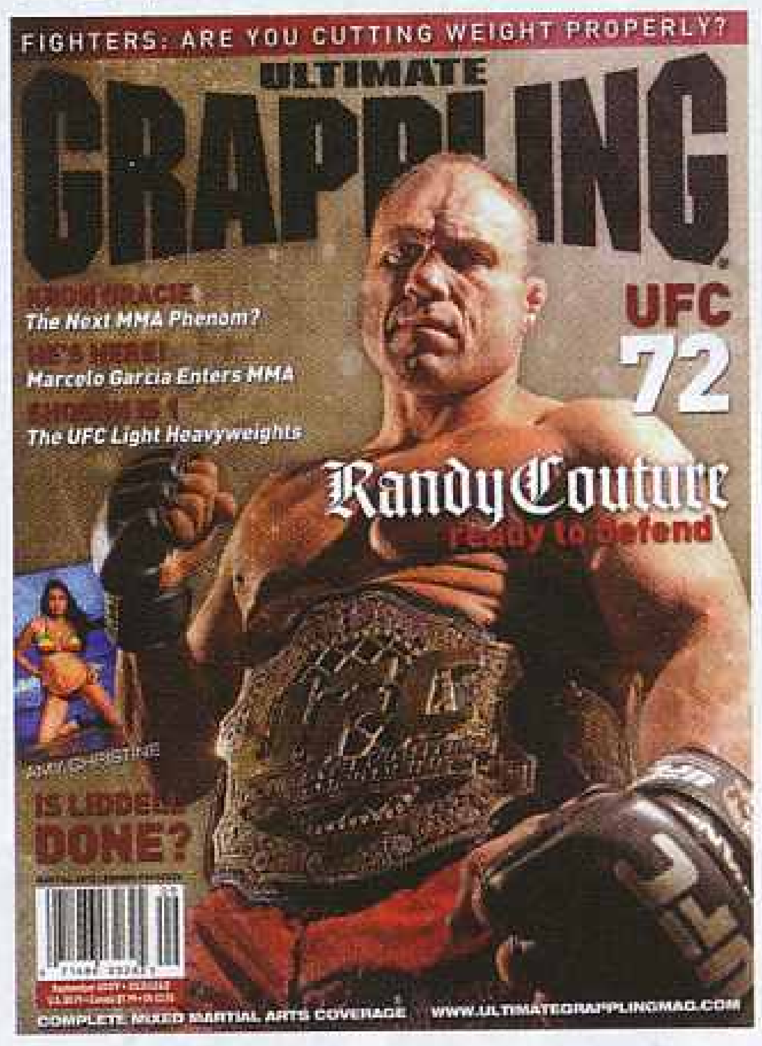
[ブラック、ホワイト／¥4,410(税込)]

谷川代表が言うところの"PRIDEっぽさ"が加わった『HERO'S』の新作Tシャツは「MMA ICON(偶像)」とズバリと言いきり、「HERO'S NEVER DIE」と宣言する思いきったデザインだ。

UFC

各1名様

UFC■http://www.ufc.com/



『ULTIMATE GRAPPLING』

空前のMMAブームでアメリカのMMA雑誌も絶好調! 『ULTIMATE GRAPPLING』は"鉄人"クートゥアー特集にショーグンインタビューと充実の一冊だ。



UFC75大会パンフレット

うわ〜ん! ミルコが負けちゃったよ〜! と衝撃の内容だった『UFC75』の大会パンフレット。ファイター紹介だけでなく、キュートなオクタゴンギャルズの写真も満載。



Back

©Josh Hedges (UFC)

UFC75大会記念Tシャツ

ワォオ〜ン! ランペイジ vs ダンヘンの写真がデザインされた『UFC75』ロンドン大会のTシャツを本誌特派員・堀江ガンツがゲット! このレアな逸品を提供だ。

REVERSAL

各1名様

REVERSAL■http://www.rvddw.com/

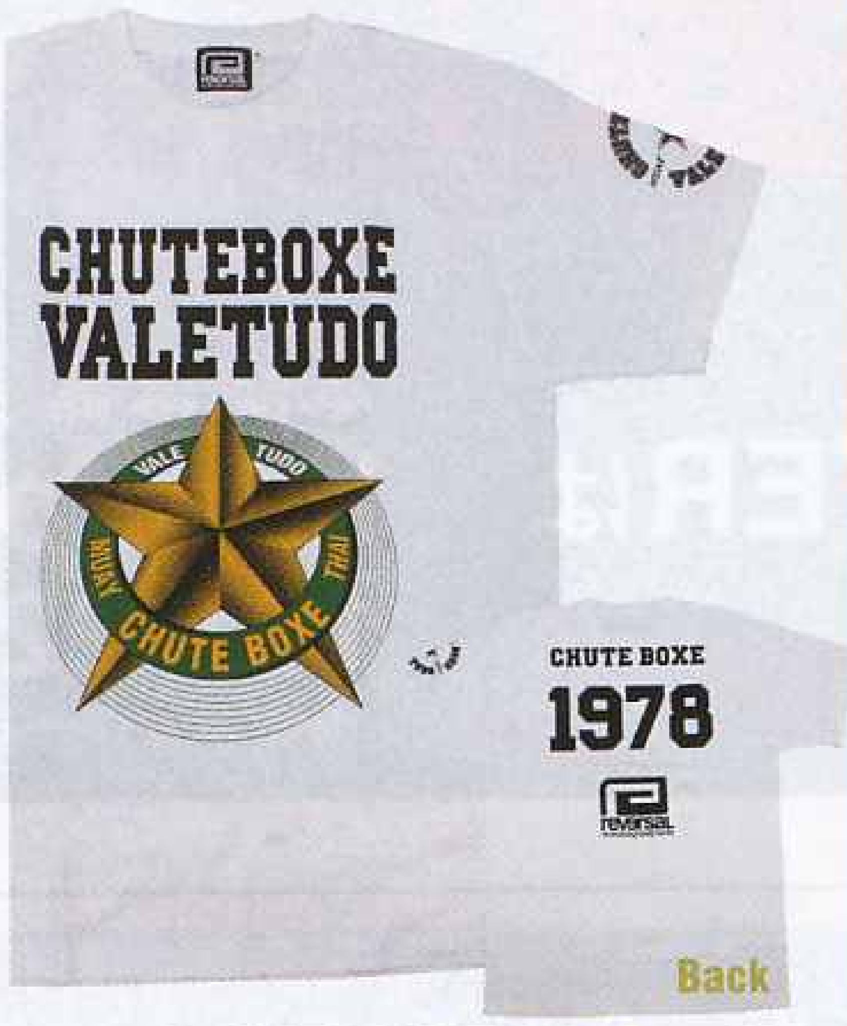


Back

ショーグン ロングTシャツ

[ブラック／¥6,090(税込)]

"踏みつけ大将軍"こと、ショーグンがUFC初上陸! これを記念してREVERSAL制作のロングTシャツを放出。このシャツを着てショーグンの"新章"を見守ろう!



Back

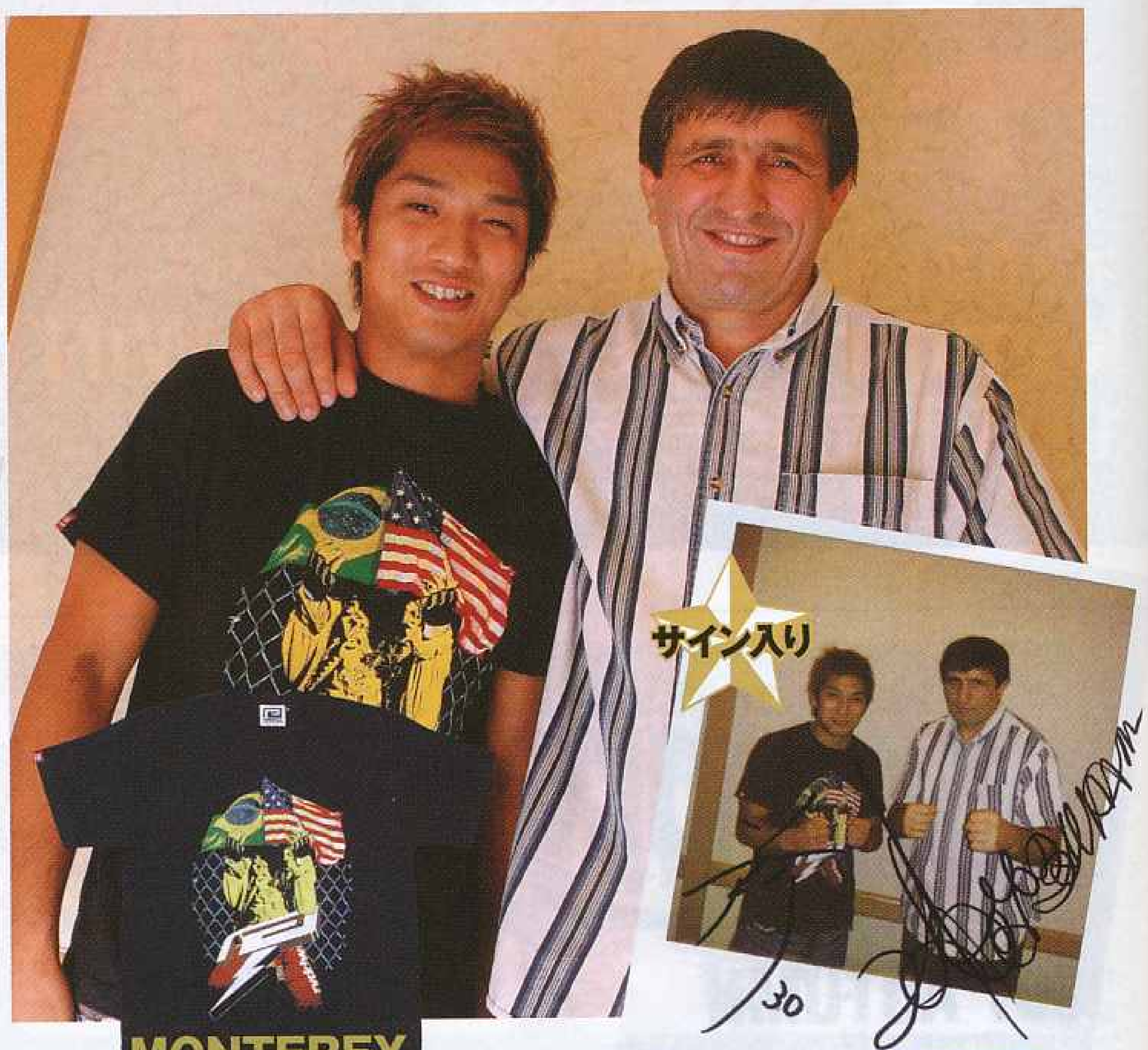
シュートボクセ1978 Tシャツ

[ホワイト／¥5,040(税込)]

アンドレ・ジダがミドル級トーナメント準優勝など、変わらぬ猛威を振るったシュートボクセの新作シャツは、ジムを立ち上げた1978年をイメージしたクールな出来映え。

HAN&TOKORO

各1名様



MONTEREY CAGE FES Tシャツ

[ブラック／¥6,090(税込)]

所がハンとの対談でも着用したお気に入りシャツ。格闘ブランドREVERSALの新作は"アメリカ"&"ロック"をイメージしたド迫力。これを着れば気分はトコロ天国?

ヴォルク・ハン&所英男 サイン入りポラロイド

"小さなヴォルク・ハン"こと所英男が、本物のハンと遭遇。ハンから関節技を伝授? というシーンまで飛び出した対談の貴重なポラロイド写真をサイン入りで!

BOOK

集英社■http://www.shueisha.co.jp/

『グレイシーを創った男 vol.2 実録・前田光世決闘伝 —ヨーロッパ・中南米激闘編』

[みのもけんじ(絵)、はらやすし(原作) (集英社)／¥600(税込)]

1名様



憎々しいダナのイラストなど、本誌でも大活躍中のみのもけんじ先生の新作マンガ『グレイシーを創った男』の完結編が到着。グレイシー一族と遭遇した前田光世の物語が展開される!

M-1

1名様

M-1■http://www.mixfight.ru/



M-1大会パンフレット

今号の現地取材で登場。レッドデビルのワジムさん主宰のMMAイベント『M-1』の大会パンフはアレクサンダーばりのビッグサイズ! "ロシアより愛をこめて"提供です。

HUSTLE

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/



1名様

インリン様 ご懐卵T-shirt

[ブラック／¥3,990(税込)]

マザ〜! モンスタ〜! グレート・ムタの毒霧による"ご懐卵"から、"モンスター・ボノ"を産み落としたインリン様。このご懐卵を記念したインリン様の新作Tシャツが『ハッスル』から登場。出産祝いにも最適!?



ネタもないし、PRIDE再開より難しい!?
kamipro Specal 2007 WINTERは
11月下旬発売予定!?
※ホントに出るかどうかはこっちだって知りませんよ

本誌は確実に出ます!
kamipro No.116は
10月22日(月)発売予定!!
※地域によって発売日は多少遅れます

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2007 AUTUMN
2007年10月15日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
松澤チョロ
堀江ガンツ
松下ミワ
真下義之
八木賢太郎（慶祝イベント準備のため非番）

目線なし
上杉ちゃん

見習いの見習い
すがさわくん

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん

編集次長（「ハッスル」の受付で足止め!?）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
ヤモリ殺し・野口
白木しらき
（以上、TwoThree）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

焼いてください
入江サンマ（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
樽本義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport



本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）　メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。


結婚情報サービス
サンマリエ
30歳からの
出会い
幸せな
結婚へ
20代・40代・50代のプランもご用意しております。
お相手情報をたくさんもらっても、それがあなたの
ご希望に合う人じゃなければ意味がありません。
また、忙しいあなたは出会いを作る時間すらないかもしれません。
サンマリエでは会員専任カウンセラーが
あなたとお相手との出会いまでをサポートいたします。
サンマリエならあなたに合った理想の出会いが見つかるはず!
「自分で探す!」というあなたは自宅で気軽にお相手探し
「会員検索システム」※
「条件重視!」のあなたはより多くの出会いのチャンス
「定期紹介状」
「相性一致!」であなたの理想の結婚までサポート
「特別紹介状」
「条件よりもフィーリング」なら多彩なパーティーが最適!
「イベント」
※オプションサービスです。
今、無料であなたの理想のお相手プロフィール進呈中!
pr@4330.jp
携帯から空メールを送信、または右のQRコードを読み取ると、あなたの
理想のお相手が無料で診断できる入力フォームのURLが届きます。
0120-86-4330
土日・祝日も24時間、お申し込みを受付中。
URL www.sunmarie.com
または「サンマリエ」で検索して下さい。
MISC 結婚情報サービス協議会正会員
MISCとは業界の信頼性の向上と健全化に努める業界団体です。
私たちも応援しています。
高橋英樹・美恵子
大切な個人情報をお守りします。
経済産業省の外郭団体JIPDECが認定した事業者だけが使用できるマーク。個人情報を適切に管理・保管している証です。
A740014(01)
○ご応募いただく個人情報はサンマリエに関する情報提供に利用し安全に管理します。また、いかなる第三者にも提供しません。 ○会員資格：男性20歳以上定職のある方、女性20歳以上、男女とも独身の方。 サンマリエ株式会社 本社：〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-4-11 全研プラザ6F TEL：03-5324-6301

kamipro Special 2007 AUTUMN
五味隆典、年内大勝負出陣へ——!!
俺の祭りはこれからだ!!
2007年10月15日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤伸一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／大日本印刷株式会社

9784757738027
定価：本体743円＋税
雑誌 61955-41 Ⓗ2008.10
Printed in Japan 大日本印刷
ISBN978-4-7577-3802-7
C9476 ¥743E
1929476007438
enterbrain